

DENSO

CSR Report 2013

社会から信頼・共感される企業をめざして



社会から信頼・共感される企業をめざして

人々が幸福であるために、社会が持続的に発展するために、そして、先進的なクルマ社会を創造するために。社員一人ひとりが、ステークホルダーの信頼と期待に応えるべく、基本理念と企業行動宣言の実践に取り組んでいます。

デンソー基本理念

デンソーが何のために存在し、どのような使命を持ち、どのような方針で使命を果たしていくのかを示す基本的な考え方は、以下の通りです。

会社の使命

- 世界と未来をみつめ
- 新しい価値の創造を通じて
- 人々の幸福に貢献する

経営の方針

- 魅力ある製品でお客様に満足を提供する
- 変化を先取りし世界の市場で発展する
- 自然を大切にし社会と共生する
- 個性を尊重し活力ある企業をつくる

社員の行動

- 大きく発想し 着実に実行する
- 互いに協力し 明日に挑戦する
- 自己を磨き 信頼に応える

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

- 社長メッセージ
- デンソーのCSR
- 企業行動宣言と行動指針
- 2012年度の実績と今後の課題
- コーポレートガバナンス
- 2012年度ハイライト&ローライト
- コンプライアンス
- リスク管理
- 情報セキュリティ
- デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

- お客様への責任
- 社員への責任
- 株主・投資家様への責任
- 取引先様への責任
- 地域社会・国際社会への責任

環境報告

- 環境経営
- 地球温暖化防止
- 資源循環
- 化学物質への対応
- 社会との連携

CSRヒストリー

- CSRの源流
- CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

デンソーグループ企業行動宣言

「社会の持続的発展への貢献」という観点からデンソー基本理念を解説し、会社実践すべき行動を明示したCSR方針です。

宣言文

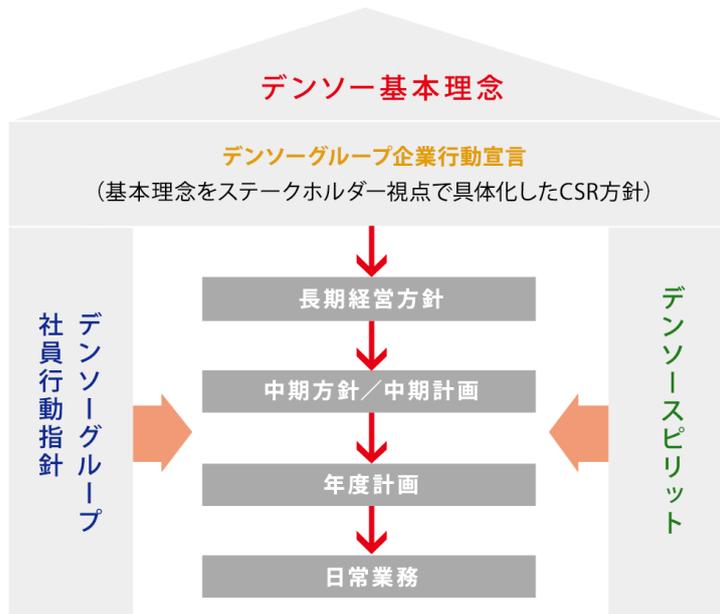
私たち、株式会社デンソー及びそのグループ会社〔注1〕は、各国・地域での誠実な企業行動を通じて、社会の持続的な発展に率先して貢献します。

私たちは、この方針の趣旨が取引先様に支持され、行動に繋がることを期待します。

〔注1〕グループ会社

連結マネジメント対象会社、及びデンソーが筆頭株主の会社

※ デンソーグループ企業行動宣言全文(<http://www.denso.co.jp/ja/csr/denso/csrcharter/index.html>)



CSR経営を実践する仕組み

デンソーは、基本理念の実現に向け、今後5～10年の目指す方向を示す経営の羅針盤である「長期経営方針」、3～5年先の目標・活動を具体化した戦略である「中期方針／中期計画」を策定しています。そして、これを年度計画、さらに社員一人ひとりの日常業務の実践に結び付けています。

これらの過程で社員が常に心がけ、実践すべきことが二つあります。一つは、デンソー社員として共有すべき価値観「デンソースピリット」、二つ目がデンソーに対する社会の期待に応え、信頼されるための行動規範である「デンソーグループ社員行動指針」です。

長期経営方針（デンソグループ2020年長期方針）

2020年に向け、ありたい社会像を描き、その実現にむけて、私たちが果たすべき役割と変革の道筋を明示しています。

スローガン

いのち
「地球と生命を守り、次世代に明るい未来を届けたい。」
クルマが世界の人々に愛され続けるために、クルマの利便性・喜びを世界中の人々に届けるとともに、「地球環境の維持」、「安心・安全」にこだわり、私たちの使命として取り組みます。

※ デンソーグループ2020年長期方針(<http://www.denso.co.jp/ja/aboutdenso/corporate/vision/index.html>)

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

社長メッセージ
デンソーのCSR
企業行動宣言と行動指針
2012年度の実績と今後の課題
コーポレートガバナンス
2012年度ハイライト&ローライト
コンプライアンス
リスク管理
情報セキュリティ
デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

お客様への責任
社員への責任
株主・投資家様への責任
取引先様への責任
地域社会・国際社会への責任

環境報告

環境経営
地球温暖化防止
資源循環
化学物質への対応
社会との連携

CSRヒストリー

CSRの源流
CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

デンソーグループ社員行動指針

「デンソーグループ企業行動宣言」を実践するため、社員一人ひとりがデンソーグループの一員として、各ステークホルダーにどのような心構えで、どのような行動をとるべきか、その望ましい姿を示したガイドラインです。

目次

- I. デンソーグループの一員として
- II. 生き生きとした職場をめざして
- III. あらゆるお客様の信頼と期待に応えるために
- IV. 仕入先様との共存共栄をめざして
- V. 株主様の信頼と期待に応えるために
- VI. 社会と共生するために



全社員に配布し社会の変化に応じて適宜改訂

社員行動指針の適用範囲は、(株)デンソーと国内連結マネジメント対象会社およびデンソーが筆頭株主の会社に属する全役員・社員(期間社員、嘱託社員、パート・アルバイトなど会社と雇用関係にある者を含む)を対象としています。内容については、(株)デンソーのCSR推進会議が社会の変化に応じて適宜見直し、1998年に初版を発行以来、2009年・2010年に改定しています。

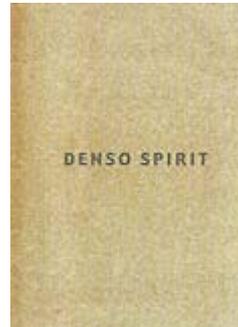
▶ デンソーグループ社員行動指針(PDF:1.9MB <http://www.denso.co.jp/ja/csr/denso/csrcharter/files/shishin.pdf>) 

デンソースピリット

真のグローバル企業として成長・発展するため、グループ全体で共有すべき価値観・信念を明示したものです。

企業成長の原動力は「先進」「信頼」「総智・総力」

デンソースピリットは、創業以来、暗黙知として連綿と継承されてきた「先進」「信頼」「総智・総力」の考え方を2004年に明文化し、あらゆる分野で取り組みを推進する原動力として機能するため、17カ国語に翻訳し、グローバルな共有に注力しています。



◎デンソースピリット

先 進	信 頼	総 智 ・ 総 力
デンソーにしかできない 驚きや感動を提供する 〔先 取〕 変化を先取りしたい 〔創 造〕 新しい価値を生み出したい 〔挑 戦〕 難しい壁を乗り越えたい	お客様の期待を超える 安心や喜びを届ける 〔品質第一〕 お客様に最高の品質を届けたい 〔現地現物〕 事実を正しく把握したい 〔カイゼン〕 現状より少しでも上を目指したい	チームの力で最大の成果を発揮する 〔コミュニケーション〕 互いに深く理解し合いたい 〔チームワーク〕 チームのために全力をつくしたい 〔人材育成〕 自ら成長したい、そして後進に伝承したい

社会から信頼・共感される企業をめざして

■ デンソーの事業概要

■ CSRマネジメント

社長メッセージ
デンソーのCSR
企業行動宣言と行動指針
2012年度の実績と今後の課題
コーポレートガバナンス
2012年度ハイライト&ローライト
コンプライアンス
リスク管理
情報セキュリティ
デンソーグループ 情報開示方針

■ 社会性報告

お客様への責任
社員への責任
株主・投資家様への責任
取引先様への責任
地域社会・国際社会への責任

■ 環境報告

環境経営
地球温暖化防止
資源循環
化学物質への対応
社会との連携

■ CSRヒストリー

CSRの源流
CSR年表

■ CSR情報の編集方針

■ 経済性報告

■ グループ会社/CSRに関する外部評価

■ 用語集

■ 第三者意見

世界の全社員のデンソースピリット体现化をめざして

海外展開の加速で組織が急拡大していた2003年、デンソーには一つの危機感がありました。外国人社員も急増する中で、デンソーのモノづくりや仕事の進め方などのDNAがきちんと継承されているか。それが不十分なら先人が営々と築いてきた信用を揺るがす事態もおこりかねません。

(株)デンソーはプロジェクトチームを結成し、世界の全社員が拠りどころとすべきスピリットを明文化し、日々の行動に反映するための取り組みを開始しました。

しかし、多様な文化・社会的背景を持つ社員が、日本で育まれたデンソースピリットを深く理解するのは容易ではありません。選択したのは、従来のトップダウンの浸透活動ではなく、継続的な「語り・体験の共有・対話」を通じて、互いに学び合いながら理解を深める方法でした。

初めに、「先進」「信頼」「総智・総力」にまつわる歴代経営陣の「語り継がれる名言」、過去の成功・失敗事例を集めた冊子を配布し、若手社員を主人公に事例をまとめたビデオも作成しました。

そして、これらを素材に各国・地域の職場で体験を語り合うなど、対話を重ねました。また、デンソースピリットの理解度・実践度を確かめる調査を行い、教育ツールの改善・見直しなども実施しました。

2010年には、社員のデンソースピリットの実践についてまとめた「デンソースピリット実践集」を全社員に配布し、共有を図りました。こうした活動を続ける中で、多くの社員が自らの経験や価値観とデンソースピリットの「つながり」を見出し、行動につなげています。

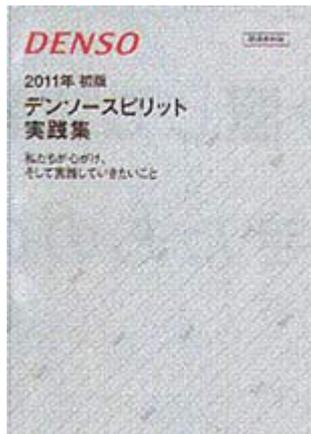
◎デンソースピリット



品質第一：

お客様は1台のクルマしか買わないのだから、その1台が何十台のうちの1台であろうと、良品でなくてはならない。(語り継がれる名言)

◎実践集



現地現物：

出向くと時間はかかるが、結果的に仕事が早く進む。(社員の声)

カイゼン：

改善は日々の仕事のしにくさ、違和感など健全な不満から生まれる。(社員の声)

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

社長メッセージ
デンソーのCSR
企業行動宣言と行動指針
2012年度の実績と今後の課題
コーポレートガバナンス
2012年度ハイライト&ローライト
コンプライアンス
リスク管理
情報セキュリティ
デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

お客様への責任
社員への責任
株主・投資家様への責任
取引先様への責任
地域社会・国際社会への責任

環境報告

環境経営
地球温暖化防止
資源循環
化学物質への対応
社会との連携

CSRヒストリー

CSRの源流
CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

デンソーの事業概要

デンソーグループは、持続可能なクルマ社会の実現と、環境に優しく、安心・安全に暮らせる社会づくりに貢献します

温暖化ガスの排出などによる地球環境への負荷、痛ましい交通死亡事故の増大は、グローバル社会が共通して抱える課題です。とりわけ自動車産業の一員であるデンソーグループにとって、クルマによる環境負荷を最小限にすること、悲惨な交通事故を起こさないようにすることを私たちの使命として、社会全体の視点で取り組んでいます。また、クルマの持つ喜びや楽しさをさらに充実できると考え、広く世界中のお客様にクルマの快適性・利便性をお届けする努力も続けています。

関連情報

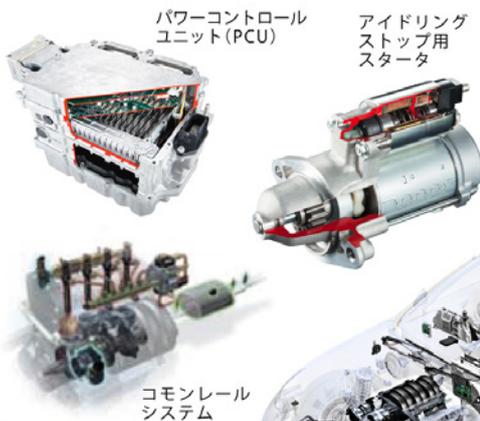
▶ 「環境」「安心・安全」の目指す姿
(http://www.denso.co.jp/ja/investors/annual_report/2013/feature/sustainable.html)

製品概要

デンソーは、クルマによる環境負荷と交通事故を最小化に注力するとともに、クルマの持つ魅力を広く世界中のお客様にお届けするため、環境、安心・安全、快適・利便の分野で、パワトレイン、熱、情報安全、電子の4つの事業グループが連携して製品開発に取り組んでいます。

環境

ハイブリッド車の電圧を制御するPCU、クリーンディーゼル車の心臓部であるコモンレールシステムをはじめ多様な動力源の燃費向上や排出ガス浄化などに貢献しています。



安心安全

車間制御や歩行者検知に欠かせないミリ波レーダ、フロントガラスに情報を表示するディスプレイをはじめ、独自の技術で予防安全・衝突安全システムを支えています。



快適利便

電力消費が少ないカーエアコン、スマートフォンと連動したカーナビ、交通の円滑化に寄与するETCをはじめ、便利で快適な移動空間としての進化を支えています。



関連情報

▶ 自動車製品 (<http://www.denso.co.jp/ja/products/oem/index.html>)

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

社長メッセージ
デンソーのCSR
企業行動宣言と行動指針
2012年度の実績と今後の課題
コーポレートガバナンス
2012年度ハイライト&ローライト
コンプライアンス
リスク管理
情報セキュリティ
デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

お客様への責任
社員への責任
株主・投資家様への責任
取引先様への責任
地域社会・国際社会への責任

環境報告

環境経営
地球温暖化防止
資源循環
化学物質への対応
社会との連携

CSRヒストリー

CSRの源流
CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

自動車以外の分野への貢献

デンソーグループは、これまで培ってきた技術やノウハウを生活関連機器や産業機器の分野に応用し、幅広く事業を展開しています。

今後も、技術やノウハウの応用にとどまらず、新しいパートナーとの協業なども積極的に進め、マイクログリッドやヘルスケアなど、デンソーが社会に貢献できる新しい技術や分野に取り組んでいきます。

関連情報

- ▶ 自動車製品以外の分野の製品
(<http://www.denso.co.jp/ja/products/consumer/index.html>)
- ▶ 新事業への取り組み
(<http://www.denso.co.jp/ja/aboutdenso/corporate/business/newbusiness/index.html>)

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

社長メッセージ
デンソーのCSR
企業行動宣言と行動指針
2012年度の実績と今後の課題
コーポレートガバナンス
2012年度ハイライト&ローライト
コンプライアンス
リスク管理
情報セキュリティ
デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

お客様への責任
社員への責任
株主・投資家様への責任
取引先様への責任
地域社会・国際社会への責任

環境報告

環境経営
地球温暖化防止
資源循環
化学物質への対応
社会との連携

CSRヒストリー

CSRの源流
CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

デンソーグループは、デンソー基本理念を基にデンソーらしさを発揮した企業行動を推進していきます。



社長メッセージ

当サイトにお越しいただいたみなさまへ、社長からのメッセージをご覧ください。

企業行動宣言と行動指針

「デンソーグループ企業行動宣言」、「デンソーグループ社員行動指針」をご紹介します。

コーポレートガバナンス

デンソーグループにおけるコーポレートガバナンスの基本方針・推進体制・主な機関・監査機能などを紹介します。

コンプライアンス

コンプライアンスの基本方針や推進体制、教育・啓発、内部通報制度などをご紹介します。

情報セキュリティ

「デンソーグループ情報セキュリティ基本指針」に基づく推進体制や監査などの取り組みをご紹介します。

デンソーのCSR

デンソーグループのCSR(企業の社会的責任)の考え方・推進体制・長期活動計画などをご紹介します。

2012年度の実績と今後の課題

CSRマネジメント・社会性報告・CSRコミュニケーションの取り組み実績と今後の課題についてご紹介します。

2012年度ハイライト&ローライト

取り組みの透明性を高め、CSR経営の向上を図るため、成果報告（ハイライト）とともに、ネガティブ情報（ローライト）もご紹介します。

リスク管理

デンソーグループにおけるリスク管理の基本的な考え方・推進体制・災害リスク対応などをご紹介します。

デンソーグループ 情報開示方針

「デンソーグループ 情報開示方針」をご紹介します。

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

社長メッセージ
デンソーのCSR
企業行動宣言と行動指針
2012年度の実績と今後の課題
コーポレートガバナンス
2012年度ハイライト&ローライト
コンプライアンス
リスク管理
情報セキュリティ
デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

お客様への責任
社員への責任
株主・投資家様への責任
取引先様への責任
地域社会・国際社会への責任

環境報告

環境経営
地球温暖化防止
資源循環
化学物質への対応
社会との連携

CSRヒストリー

CSRの源流
CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

社長メッセージ



2012年度のデンソーの取り組み

昨年度の自動車市場は、新興国の経済成長が緩やかになる中で、米国およびアジアなどを中心に堅調に推移しました。また、自動車メーカーは世界の多様な市場のニーズに合ったクルマの開発を行うとともに、環境・安全性能の向上にさらに力を注いでいます。

デンソーはこれらのニーズを先取りした、ハイブリッド車の電力制御システムやガソリン車のエンジンマネジメントシステム、あるいはアイドルストップシステムや衝突回避システム用センサなど、環境・安全に寄与する製品を幅広く開発しました。

また一方で、デンソーグループは29の国と地域において、「デンソーハートフルデー」を展開し、会社・社員・地域が一緒になって、環境共生、障がい者福祉、青少年育成の分野を中心に様々な社会貢献活動を行いました。国内では、東日本大震災の復興に向け、支援団体などと連携し、被災された方々の雇用や災害孤児への生活・就学支援、あるいは募金活動や社員の現地ボランティア派遣など、継続して実施しました。

もっと社会に貢献できる会社になるために

デンソーグループは、経営の節目ごとに要綱・ビジョンを策定し、事業環境の変化に対応しながら成長を続けてきました。2004年以降は「DENSO VISION 2015」を指針として、様々な事業課題やCSR課題に取り組んできましたが、次第に私の中で大きな比重を占めるようになったのが、「デンソーが将来に亘り社会から必要とされる企業であり続けるために、私たちはどんなことに取り組むべきか」というテーマでした。

私も含めてデンソー社員の一人ひとりには、社会の課題解決に貢献できる企業でありたい、様々な地域の人々から共感や信頼をいただける企業になりたいという想いがあります。

それを実現するには、長期的な社会の変化を見据え、あるべき社会や企業像を描き、克服すべき課題を明らかにし、目標に向かって果敢にチャレンジしていかなければなりません。

そこで、私は世界各地域の社員に呼びかけ、将来社会で予測される変化を基に、2020年のデンソーグループのあるべき姿や課題について検討してもらいました。

地球環境の維持と成長の両立を 一人ひとりが幸せで、安心・安全に暮らせる社会を

近い将来、世界人口は80億人に達し、その営みによってCO₂排出量が地球の吸収能力の3.5倍（2011年時点で2.5倍）に増加することが予測されます。また、クルマ社会は、自動車保有台数が15億台（2010年の1.5倍）に達し、これに伴い2020年頃には交通事故が増加して成り行きでは毎年200万人の命が失われることが予測されます。

このような課題を克服して実現すべき持続可能な社会とは、地球を危機に追い込むことなく、人々が豊かに暮らせる社会です。その実現に向けて、私たちが導き出した2020年にめざすべき社会像は「地球環境の維持と成長の両立」であり、「一人ひとりが幸せで、安心・安全に暮らせる社会」です。

デンソーグループは、これをグローバル共通のキーワードと位置付け、環境分野では省燃費やCO₂排出量削減、省・創・蓄エネルギー技術を通じて社会全体の環境負荷低減に全力で取り組むこと。また、安全分野では、人々の命を守る走行安全技術とともに、クルマ周辺領域での「安心・安全」な社会づくりを追求することを宣言しました。

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

- 社長メッセージ
- デンソーのCSR
- 企業行動宣言と行動指針
- 2012年度の実績と今後の課題
- コーポレートガバナンス
- 2012年度ハイライト&ローライト
- コンプライアンス
- リスク管理
- 情報セキュリティ
- デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

- お客様への責任
- 社員への責任
- 株主・投資家様への責任
- 取引先様への責任
- 地域社会・国際社会への責任

環境報告

- 環境経営
- 地球温暖化防止
- 資源循環
- 化学物質への対応
- 社会との連携

CSRヒストリー

- CSRの源流
- CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

ステークホルダーとの関わりを大切に 社会とともに成長・発展するデンソーグループへ

そして、2020年にありたい企業像として打ち出したのは、すべてのステークホルダーとの関わりを大切にしながら、社会とともに成長・発展するデンソーグループになることです。大きな課題を克服しながら新たな価値を創出していくには、自ら社会的責任を担い、世の中に積極的に働きかけ、これまで以上に多くのステークホルダーと志を共にするという価値感を常に持ち続けることが大切です。

私は、デンソーグループが新しいクルマ社会や社会システムを創る企業、地域社会や国際社会から共感・信頼されるグローバル企業となるには、自らが積極的に社会を良くするという高い志を持ち、実践することが何より重要だと考えています。

2013年1月、私たちが考えたありたい企業像とその実現に向けた変革のポイントを「デンソーグループ2020年 長期方針」としてまとめ、世界35カ国219拠点で従事する13万人余の社員に向けて、長期方針に込めた想いを伝え、グループ全体の取り組みを呼びかけました。

今後のデンソーグループは、社員一人ひとりが「地球と生命を守り、次世代に明るい未来を届けたい。」というスローガンを胸に、社会の様々な課題と真正面から向き合い、その解決に向けて積極的に働きかけてまいります。どうぞこれまで以上のご支援・ご指導をお願い申し上げます。

2013年8月
株式会社デンソー
取締役社長

加藤 宣明

関連情報

- ▶ 企業理念
(<http://www.denso.co.jp/ja/aboutdenso/corporate/philosophy/index.html>)
- ▶ ビジョン
(<http://www.denso.co.jp/ja/aboutdenso/corporate/vision/index.html>)

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

社長メッセージ

デンソーのCSR
企業行動宣言と行動指針
2012年度の実績と今後の課題
コーポレートガバナンス
2012年度ハイライト&ローライト
コンプライアンス
リスク管理
情報セキュリティ
デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

お客様への責任
社員への責任
株主・投資家様への責任
取引先様への責任
地域社会・国際社会への責任

環境報告

環境経営
地球温暖化防止
資源循環
化学物質への対応
社会との連携

CSRヒストリー

CSRの源流
CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

基本的な考え方

デンソーグループは、基本理念の中で「世界と未来をみつめ新しい価値の創造を通じて人々の幸福に貢献する」ことを使命として掲げています。これを実現するには、多くのステークホルダーと価値観を共有しながら連携・協力していくことが不可欠であり、その基盤となるのが「社会から信頼・共感される企業行動」です。これを世界中で事業活動を行うグループ会社実践していくため、2006年4月、「デンソーグループ企業行動宣言」を策定し、ステークホルダーへの責任を明らかにしました。以来、CSR（企業の社会的責任：Corporate Social Responsibility）を経営の中核に据え、事業活動を通じた持続可能な社会づくりへの貢献に取り組んでいます。

そして、2013年に策定したデンソーグループの長期経営方針「デンソーグループ2020年長期方針」では、企業活動の規模や範囲の拡大に伴い、デンソーグループに対する社会からの期待がますます高まっていることから、CSR経営の実践をさらに加速することを掲げました。

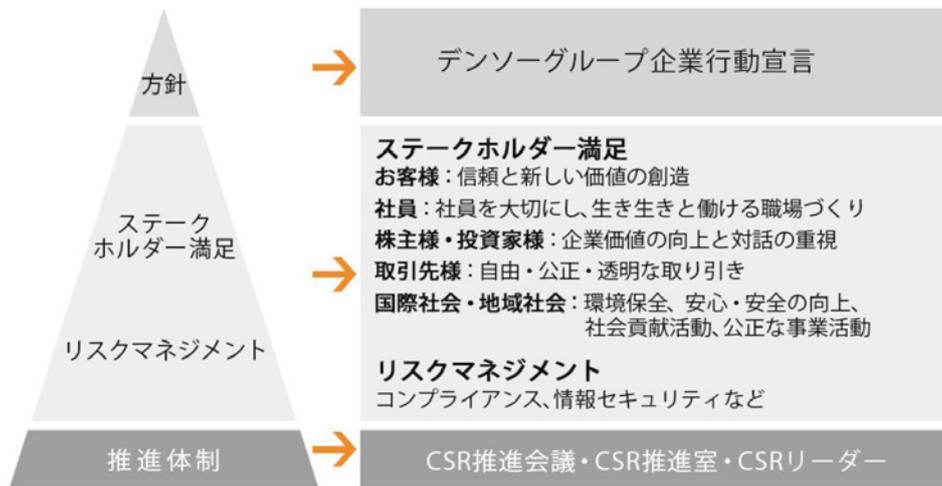
▶ デンソーグループ2020年長期方針(<http://www.denso.co.jp/ja/aboutdenso/corporate/vision/index.html>)

推進体制

2006年に社長を議長とする「CSR推進会議」（事務局：CSR推進室）を設置し、活動の基本方針を審議・検討しています。CSR推進会議は、年2回開催し、CSRマネジメントの方向付け・意思決定および活動の進捗状況の確認を行っています。

また、職場・グループ会社のCSR牽引役として、各部・各社に1名ずつCSRリーダーを選任し、CSRの浸透・定着を図っています。

◎CSRのフレームワーク



浸透・啓発活動の推進

社員一人ひとりが「デンソーグループ企業行動宣言」を受けて望ましい行動を実践するには、どのような行動をとるべきか、そのガイドラインを明確にする必要があります。

デンソーグループでは、日本・北米・欧州・中国、豪亜(策定中)で各地域の文化や歴史などに配慮した「社員行動指針」を策定・展開し、機会あるごとに自身の行動を点検するツールとして活用しています。2010年10月には、独占禁止法や生物多様性保全の項目を追加した「改訂版」（日本版）を約7万部（国内グループ会社を含む）配布し、デンソーグループ社員としてとるべき行動の再確認を図りました。

また、（株）デンソーでは、社員のCSR意識啓発を目的に、社員教育・情報発信など様々な啓発活動を行っています。



グループ会社対象CSR研修会

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

- 社長メッセージ
- デンソーのCSR
- 企業行動宣言と行動指針
- 2012年度の実績と今後の課題
- コーポレートガバナンス
- 2012年度ハイライト&ローライト
- コンプライアンス
- リスク管理
- 情報セキュリティ
- デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

- お客様への責任
- 社員への責任
- 株主・投資家様への責任
- 取引先様への責任
- 地域社会・国際社会への責任

環境報告

- 環境経営
- 地球温暖化防止
- 資源循環
- 化学物質への対応
- 社会との連携

CSRヒストリー

- CSRの源流
- CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

◎主な啓発活動

啓発活動	開始時期	概要
階層別教育	2006年度	・新入社員、新任役職者を対象とした研修の実施
CSRリーダーに対する研修会	2011年度	・CSRの職場展開の核となる各部および国内グループ会社のCSRリーダーを対象に、「ワールド・カフェ」形式の研修会を開催。
社員へのCSR情報の発信	2010年度	・トップメッセージを含む身近なCSR情報を掲載した「CSR便り」（日本語・英語版）を毎月発行。当ツールを活用した職場での話し合いを実践。
その他	2010年度	・CSR意識啓発活動の一環として、デンソーの知恵や技術を活用して、社員の夢や心意気を表現できるような活動・イベントを企画・推進。 (例) ・各職場参加による「グリーンカーテンコンテスト」 ・当社製オルタネータ(自動車用発電機)を活用した水力発電活用アイデアコンテスト(http://www.denso.co.jp/ja/csr/social/social/eco/m-hydro-contest/index.html)

進捗状況の点検・改善

社員の理解・実践度合いを把握・点検するため、2006年度から毎年（株）デンソー社員を対象に「CSRサーベイ」を実施しています。

2012年度の調査では目立った悪化項目はなく、社員一人ひとりがCSRをしっかり意識していることが確認できました。

ただし、各部のCSRリーダーからのヒアリングやアンケート結果から、社員一人ひとりが意識はしているものの、日常的にCSR活動を実践するための課題がいくつか確認できました。

今後は社会の課題に対して、より積極的に目を向け、CSRを自分の事と捉えて実践する企業風土の醸成に注力していきます。また、海外でも課題の情報共有化を進め、活動の改善をサポートする体制づくりを整えていく予定です。

◎CSRサーベイの推移（抜粋）

項目	質問内容	09年	10年	11年	12年
指針	行動指針の実践を心がけている	68%	81%	80%	81%
職場浸透	職場内でCSRへの意識が高まっている	52%	76%	71%	72%
環境保全	CO ₂ 削減を会社生活で実践している	73%	83%	82%	82%

社会との対話（ダイアログ）

（株）デンソーでは、自社の論理や思い込みにとらわれて独善的な活動とならないように、ステークホルダーの皆様との対話を重視し、2003年から国内・海外で様々なステークホルダーとの対話（ダイアログ）を実施しています。ダイアログでの議論やご意見・ご提言は、デンソーグループに対する社会の期待と受け止め、活動のレベルアップにつなげていきます。

▶ 有識者とのダイアログ (<http://www.denso.co.jp/ja/csr/stakeholder/dialog2012/index.html>)

関連情報

- ▶ 企業理念 (<http://www.denso.co.jp/ja/aboutdenso/corporate/philosophy/index.html>)
- ▶ デンとソーのしあわせづくり (<http://www.denso.co.jp/ja/csr/report/index.html#ehon>)

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

社長メッセージ
 デンソーのCSR
 企業行動宣言と行動指針
 2012年度の実績と今後の課題
 コーポレートガバナンス
 2012年度ハイライト&ローライト
 コンプライアンス
 リスク管理
 情報セキュリティ
 デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

お客様への責任
 社員への責任
 株主・投資家様への責任
 取引先様への責任
 地域社会・国際社会への責任

環境報告

環境経営
 地球温暖化防止
 資源循環
 化学物質への対応
 社会との連携

CSRヒストリー

CSRの源流
 CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

企業行動宣言と行動指針

主なステークホルダーとデンソーの責任

デンソーグループ企業行動宣言

【宣言文】

私たち、株式会社デンソー及びそのグループ会社〔注1〕は、各国・地域での誠実な企業行動を通じて、社会の持続的な発展に率先して貢献します。

私たちは、この方針の趣旨が取引先様に支持され、行動に繋がることを期待します。

【注1】グループ会社

連結マネジメント対象会社、及びデンソーが筆頭株主の会社

- ・ 各国・地域の文化・歴史を尊重して、経営トップのリーダーシップのもと、人を大切にす誠実な経営に努め、ステークホルダーに信頼される企業行動を実践します。
- ・ 法令とその精神を順守して倫理的行動に努めるとともに、オープンでフェアな情報開示と対話に努めます。
- ・ 変化を先取りして、新しい価値の創造にチャレンジします。そして、現地現物を重視しカイゼンに努めて最高の品質を実現します。
- ・ コミュニケーション、チームワークを大切にす、人材の育成に努めます。

お客様への責任

私たちは、お客様に信頼され満足していただけるよう、新しい価値の創造に努めます。

- ・ お客様第一の精神のもと、お客様の期待に応えるよう、優れた技術を追求して、魅力に溢れかつ安全・高品質の商品とサービスを開発し提供します。
- ・ 知的財産を適正に取り扱うとともに、お客様をはじめ事業活動にかかわる人々の個人情報保護に努めます。

社員への責任

私たちは、社員を大切にす、個々人が生き生きとして働けるよう努めます。

- ・ 安全で働きやすい職場環境の維持・向上に取り組みます。
- ・ 社員との誠実な対話と協議を通じて、「相互信頼・相互責任」の価値観を構築し、ともに分かち合います。
- ・ 多様な人材が活躍できるよう、差別のない公正な労働条件と機会を提供します。また、人権を尊重し、強制労働・児童労働のない事業活動に努めます。

株主様への責任

私たちは、企業価値の向上に努めるとともに、対話を大切にします。

- ・ 長期安定的な成長を通じ企業価値の向上をめざします。
- ・ 事業・財務情報の適時かつ適正な開示と対話を通じて、経営の透明性を高めます。

取引先様への責任

私たちは、自由・公正・透明な取引に努めます。

- ・ 国内外に広く門戸を開き、取引のあらゆるプロセスにおいてフェアであることを徹底します。
- ・ 仕入先様をはじめとする取引先様を対等のパートナーとして尊重し、信頼関係を築き上げて、相互発展をめざします。

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

社長メッセージ

デンソーのCSR

企業行動宣言と行動指針

2012年度の実績と今後の課題

コーポレートガバナンス

2012年度ハイライト&ローライト

コンプライアンス

リスク管理

情報セキュリティ

デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

お客様への責任

社員への責任

株主・投資家様への責任

取引先様への責任

地域社会・国際社会への責任

環境報告

環境経営

地球温暖化防止

資源循環

化学物質への対応

社会との連携

CSRヒストリー

CSRの源流

CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

国際社会・地域社会への責任

私たちは、社会との調和ある成長を目指して、企業行動全般にわたり、環境保全、安心・安全の向上に率先して努めます。

- ・ 地球温暖化防止、生物多様性の保全および交通安全など社会と経済の両立に貢献するよう、技術開発、工場運営、並びに社員一人ひとりの行動にわたり取り組みます。

私たちは、社会との共生を目指して、事業活動を行うあらゆる地域で社会貢献活動に努めます。

- ・ 地域のより良い未来づくりのため、社会の共感を得られる活動を独自に又はパートナーと協力して取り組みます。

私たちは、各国の競争法を順守し、健全かつ公正な事業活動に努めます。

- ・ カルテルなどの競争法違反行為に関与せず、自由かつ公正な競争に努めます。
- ・ 癒着や贈収賄をおこなわず、行政府諸機関と公正な関係を維持するよう努めます。

デンソーグループ社員行動指針



すべてのステークホルダーに信頼され、その期待に応える企業行動の主役は社員一人ひとりです。そこで、「デンソーグループ企業行動宣言」を社員の行動として具体化した「デンソーグループ社員行動指針」を制定しました。そして社員一人ひとりが社会に果たす役割を常に意識し行動するよう、指針の浸透を図っています。

- ▶ デンソーグループ社員行動指針(PDF:1.9MB <http://www.denso.co.jp/ja/csr/denso/csrcharter/files/shishin.pdf>) 

関連情報

- ▶ 企業理念 (<http://www.denso.co.jp/ja/aboutdenso/corporate/philosophy/index.html>)

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

社長メッセージ

デンソーのCSR

企業行動宣言と行動指針

2012年度の実績と今後の課題

コーポレートガバナンス

2012年度ハイライト&ローライト

コンプライアンス

リスク管理

情報セキュリティ

デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

お客様への責任

社員への責任

株主・投資家様への責任

取引先様への責任

地域社会・国際社会への責任

環境報告

環境経営

地球温暖化防止

資源循環

化学物質への対応

社会との連携

CSRヒストリー

CSRの源流

CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

2012年度の実績と今後の課題

CSRマネジメント

◎すべての目標達成 ○目標を概ね達成 △成果より課題が残る ×進捗なし

サステナビリティテーマ	2012年度の活動項目	2012年度成果・残された課題 (●成果 ▲課題)	総合評価
コンプライアンス	<ul style="list-style-type: none"> 社員一人ひとりのコンプライアンス意識の徹底 海外拠点におけるコンプライアンスプログラムの拡充 世界各地域での独占禁止法順守体制の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ●コンプライアンステスト実施（10年度からパソコン非保有者も対象） ●全社員を対象とした職場での対話型教育の実施[(株)デンソー] ▲海外拠点におけるコンプライアンスプログラムの拡充 ●世界各地域での独占禁止法順守プログラムの強化、再徹底 	○
リスク管理	危機発生時の対応力強化	<ul style="list-style-type: none"> ●事業継続計画（BCP）の整備・充実 ●東海大地震を想定した事業継続計画の策定 	○
	職場リーダーのリスク管理の啓発・浸透	<ul style="list-style-type: none"> ●新任の部門責任者に対するリスク管理研修の継続 ●「クライシス・コミュニケーション・マニュアル」の浸透と実践力の向上 ●新任の部長・工場管理者、および海外拠点の経営幹部として赴任する予定者への研修を通じて、リスク管理とルールの体系的な理解と実践力を養成 	
	グループ会社のリスク管理レベル向上	<ul style="list-style-type: none"> ●グローバルグループ経営視点からのリスク管理項目の層別、対応強化 ▲デンソーグループ全体の震災リスク対応策の強化（事業継続計画の策定） 	
情報セキュリティ	<ul style="list-style-type: none"> 情報セキュリティ強化と社員一人ひとりの意識改革 グループ会社および国内仕入先様のセキュリティレベル向上活動の強化 (株)デンソー社員の機密管理意識のさらなる向上 	<ul style="list-style-type: none"> ●国内外グループ会社を対象に「デンソーグループセキュリティガイドライン」に基づく自主点検と改善活動を継続実施 ▲国内外仕入先様のセキュリティレベル向上活動の強化 	○

社会性報告

◎すべての目標達成 ○目標を概ね達成 △成果より課題が残る ×進捗なし

サステナビリティテーマ	2012年度の活動項目	2012年度成果・残された課題 (●成果 ▲課題)	総合評価
お客様への責任	グループ全体での品質に対する教育・訓練・啓発活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●品質向上活動の事例展開のため、グループ会社・仕入先様向けに展示会を開催 <ul style="list-style-type: none"> ・品質向上活動展示会（11/12）6,000名 ●QCサークル活動の活性化 <ul style="list-style-type: none"> ・国内外で約7,000チーム（日本3,450、海外3,300）活動 ・日本科学技術連盟QCサークル 本部長賞金賞 2件受賞 ●海外拠点での品質人材育成 	○
	製品不具合への迅速な対応	<ul style="list-style-type: none"> ▲「遠赤外線ヒーター」の回収率向上のための継続的な活動実施 	○
	アフターサービス体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ●ダイアグステーションの設置 28拠点（08年度末）から70拠点（12年度末）と計画通り拡大、中古車やリースなどの協業推進 	◎
	エンドユーザー向け相談窓口の充実	<ul style="list-style-type: none"> ●お客様からのお問い合わせへの迅速な対応の維持・継続 	◎

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

社長メッセージ
デンソーのCSR
企業行動宣言と行動指針
2012年度の実績と今後の課題
コーポレートガバナンス
2012年度ハイライト&ローライト
コンプライアンス
リスク管理
情報セキュリティ
デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

お客様への責任
社員への責任
株主・投資家様への責任
取引先様への責任
地域社会・国際社会への責任

環境報告

環境経営
地球温暖化防止
資源循環
化学物質への対応
社会との連携

CSRヒストリー

CSRの源流
CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

社員への責任	長期安定的な雇用の継続	<ul style="list-style-type: none"> 職場の魅力向上による定着率のさらなる向上 	<ul style="list-style-type: none"> 国内では、エコカー補助金（2012年度上期）により、生産量が回復し非正規社員の採用数増 	○
	安定した労使関係の維持	<ul style="list-style-type: none"> 労務問題の未然防止に向けた取り組み継続 	<ul style="list-style-type: none"> 高年齢者雇用安定法改正（13年4月）対応、就業規則に定める解雇・退職理由相当以外は、希望者全員雇用 	
	人権尊重の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ハラスメント防止の啓発・教育の継続 	<ul style="list-style-type: none"> 採用活動では、今後のさらなるグローバル展開を睨み、多様な人材を獲得するための活動を強化 	
	人材育成の推進	<ul style="list-style-type: none"> 職能資格基準の見直しに対応した教育体系の再構築 	<ul style="list-style-type: none"> 2012年度キャリア支援企業表彰、中央職業能力開発協会会長表彰受賞 ▲自主性を尊重したキャリア形成の定着化 	○
	多様な人材活躍の推進	<ul style="list-style-type: none"> ダイバーシティ推進の制度・仕組みの充実、社員の意識改革による風土づくり 高年者の活躍促進支援策の展開 障がい者雇用率の着実な上昇、支援策強化 	<ul style="list-style-type: none"> 事業所内託児施設「たっちっちハウス」では、会社カレンダーに合わせた祝日のほか、早朝・夜間も預入れ実施（個人の状況に合わせた利用が可能） 早いタイミングで将来の生き方・働き方を考える機会の提供と、希望進路に向けて計画的に準備を進める仕組みを導入 手話を学べる動画ディクショナリー「しゅわっくん」をイントラで公開 	◎
	職場安全	<ul style="list-style-type: none"> 自発的に安全行動ができる職場づくり 	<ul style="list-style-type: none"> “安全感覚”向上のため、全員参加・一人ひとりが主役で「考え行動」する活動や作業危険を押えた基本行動の教え込み等を推進 	○
社員の健康づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> メンタルヘルス施策の強化・充実 	<ul style="list-style-type: none"> メンタルヘルス研修実施（26回、1,014名）、心の健康診断実施（1,200名） 新入社員に対するセルフケア教育実施（対象拡大） ▲「心の健康診断」実施継続（毎年実施） 	○	
株主・投資家様への責任	企業価値の向上と情報開示の充実	<ul style="list-style-type: none"> 積極的なIR活動の継続 	<ul style="list-style-type: none"> 国内投資家様向け：四半期ごとの決算説明会・個別取材対応 海外投資家様向け：モーターショー併催カンファレンス参加、個別取材対応 個人株主様向け：株主通信（事業報告書）の発行 	◎
取引先様への責任	自由・公正・透明な取引の実践	<ul style="list-style-type: none"> コンプライアンス順守事項の明確化と徹底 	<ul style="list-style-type: none"> 取引における順守事項を明確化した「コンプライアンスカード」を仕入先様と社内調達部門に配布し、社内外へコンプライアンスを再徹底 ▲仕入先様での自己診断結果を踏まえた改善活動の促進支援 	○
	サプライチェーンでのCSR活動の実践	<ul style="list-style-type: none"> (株)デンソーおよび国内グループ会社の仕入先様での自己診断結果に基づく改善活動の実践 		
地域社会・国際社会への責任	デンソーらしい独自性のある活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> 青少年育成プログラム「DENSO YOUTH for EARTH Action」(DYEA)の着実な実施 	<ul style="list-style-type: none"> 計画通り着実に実施 2011年度は震災影響で中止したローカルプログラム(LP)とアクションプラン発表会(AP発表会)を、日本で初開催。これにより、LP・グローバルプログラム・AP発表会の全工程を全7カ国で実施 	○
		<ul style="list-style-type: none"> DYEAプログラムの改善の方向性を社内合意および2012年度の立案完了 	<ul style="list-style-type: none"> ▲プログラム改善の方向性を社内合意および2012年度の立案完了 プログラム5年目が経過するも、社内ステークホルダーの認知度が低い 	
		<ul style="list-style-type: none"> 環境・地域社会への関心を高め、参加促進を図る機会「DECOスクール」の継続（集約・内製化） 	<ul style="list-style-type: none"> 「デンソーグループ ハートフルまつり」へ名称変更して継続実施 2,574名来場、アンケートでは参加者満足度：80% 	

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

社長メッセージ
デンソーのCSR
企業行動宣言と行動指針
2012年度の実績と今後の課題
コーポレートガバナンス
2012年度ハイライト&ローライト
コンプライアンス
リスク管理
情報セキュリティ
デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

お客様への責任
社員への責任
株主・投資家様への責任
取引先様への責任
地域社会・国際社会への責任

環境報告

環境経営
地球温暖化防止
資源循環
化学物質への対応
社会との連携

CSRヒストリー

CSRの源流
CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

環境報告

- ▶ 実績一覧表(http://denso.co.jp/ja/csr/environment_report/management/plan/index.html)
- ▶ 全体報告(http://denso.co.jp/ja/csr/environment_report/index.html)

CSRコミュニケーション

サステナビリティテーマ	2012年度の活動項目	2012年度成果・残された課題 (● 成果 ▲ 課題)	総合 評価
■ ステークホルダーへの情報開示と双方向コミュニケーションの充実	<ul style="list-style-type: none">■ ステークホルダーとのコミュニケーションツールの活用■ 社内コミュニケーションの強化	<ul style="list-style-type: none">● CSRレポート(日・英)の発行● CSR絵本を活用した小学生見学会の開催(約500名 5校)● 社内啓発ツール「CSR便り」(日・英)を毎月発行し、CSR実践度の維持(81%)● 有識者とのダイアログ開催	◎

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

社長メッセージ
デンソーのCSR
企業行動宣言と行動指針
2012年度の実績と今後の課題
コーポレートガバナンス
2012年度ハイライト&ローライト
コンプライアンス
リスク管理
情報セキュリティ
デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

お客様への責任
社員への責任
株主・投資家様への責任
取引先様への責任
地域社会・国際社会への責任

環境報告

環境経営
地球温暖化防止
資源循環
化学物質への対応
社会との連携

CSRヒストリー

CSRの源流
CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

コーポレートガバナンス

基本的な考え方

デンソーグループは、変化の速いグローバル市場での長期的な企業業績の維持向上を図るため、また持続可能な成長に不可欠なCSR経営の継続的な推進を図るため、グループ競争力強化に向けたコーポレートガバナンスの確立を重要課題と認識し、その強化に取り組んでいます。

推進体制

(株)デンソーでは監査役制度を採用し、会社の機関として株主総会・取締役会・監査役会・会計監査人などの法律上の機能に加え、様々な内部統制の仕組みを整備しています。また、迅速な意思決定とオペレーション遂行のため、少人数による取締役会および業務執行を担う常務役員（30名）制度を採用しています。（取締役任期：1年）

主な機関の役割と実績

取締役会

決議機関として、経営方針ならびに業務運営上の重要事項について会社としての可否を決定しています。決議は議長が各構成員の意見を集約して行います。決議事項のうち法定事項やグループ全体に係わる重要事項は、経営会議を通じて指示徹底を図り、各取締役は所管事項を常務役員または部長に指示し必要な処置を実施します。なお、2012年度は取締役会を16回開催し、出席率は取締役が92%、監査役が95%でした。

経営役員会

審議機関として、取締役会決議事項をはじめとする経営全般に係わる重要事項（全社の事業計画・投資案件・重要な取引形態や協業案件・その他経営に係わる重要事項）を審議し、会社としての方向付けを行います。審議結果は取締役会に報告して最終決議を実施します。なお、2012年度は経営役員会を37回開催しました。

役員・取締役・監査役の報酬・賞与

役員報酬等の月額報酬については、株主総会の決議によって定められた報酬総額の上限額（取締役：月額8,000万円、監査役700万円）の範囲内において決定します。各取締役の月額報酬は、取締役会の授権を受けた代表取締役が当社の定める基準に基づき決定し、各監査役の報酬額は監査役の協議により決定します。また、賞与については、定時株主総会の決議により取締役および監査役それぞれの支払い総額について承認を受けた上で決定します。各取締役の賞与額は個人の貢献度を斟酌して取締役会の授権を受けた代表取締役が決定し、監査役の賞与額は監査役の協議により決定します。

経営の監査機能

常勤監査役（2名）・社外監査役（3名）が専任スタッフも機能させ、取締役などの職務執行と(株)デンソーおよび国内外子会社の業務・財政状況を監査しています。

監査体制は、法律上の機能である監査役に加え、内部監査の専門部署を国内外主要会社にも設置し、法令順守だけでなく管理や業務手続の妥当性まで含め、継続的な実地監査を行っています。監査役は、取締役会をはじめとする重要な会議に出席するほか、内部監査部門・内部統制の関連部署および会計監査人との情報交換などにより、取締役の執行状況を監査し、経営監視機能を果たしています。

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

社長メッセージ
デンソーのCSR
企業行動宣言と行動指針
2012年度の実績と今後の課題
コーポレートガバナンス
2012年度ハイライト&ローライト
コンプライアンス
リスク管理
情報セキュリティ
デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

お客様への責任
社員への責任
株主・投資家様への責任
取引先様への責任
地域社会・国際社会への責任

環境報告

環境経営
地球温暖化防止
資源循環
化学物質への対応
社会との連携

CSRヒストリー

CSRの源流
CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

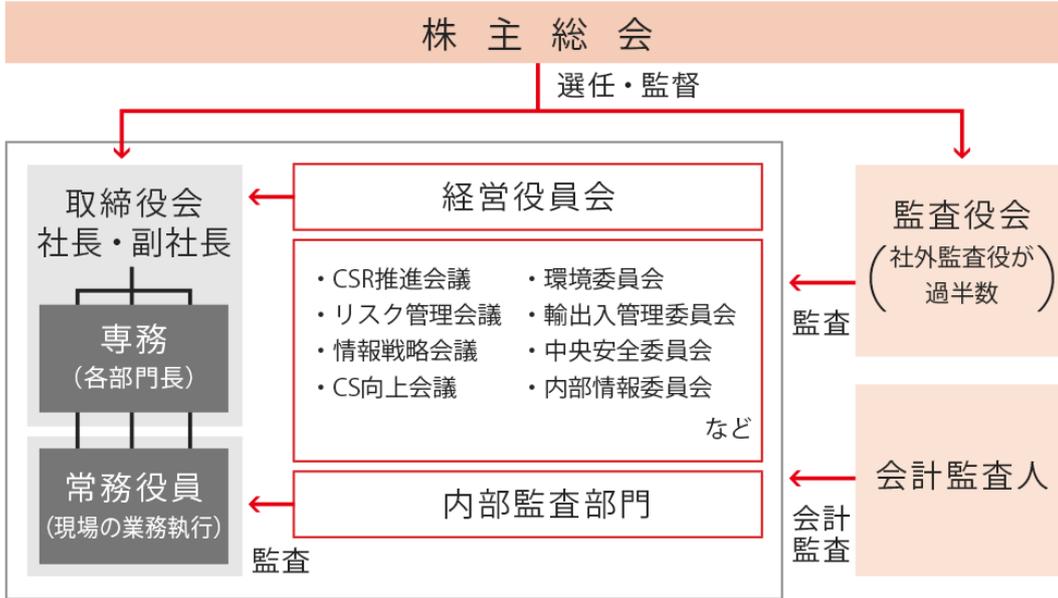
用語集

第三者意見

内部統制の整備・強化

金融商品取引法に基づき、財務報告の信頼性確保のため、2008年度より「財務報告に係る内部統制報告制度（内部統制有効性評価および監査法人による監査報告）」が義務付けられました。2008年度以降、法律上の手順に基づき監査法人の適正評価を得て「グループの内部統制は有効である」とする内部統制報告書を金融庁に提出しています。

◎コーポレートガバナンス体制



関連情報

▶ 役員 (<http://www.denso.co.jp/ja/aboutdenso/corporate/directors/index.html>)

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

社長メッセージ
デンソーのCSR
企業行動宣言と行動指針
2012年度の実績と今後の課題
コーポレートガバナンス
2012年度ハイライト&ローライト
コンプライアンス
リスク管理
情報セキュリティ
デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

お客様への責任
社員への責任
株主・投資家様への責任
取引先様への責任
地域社会・国際社会への責任

環境報告

環境経営
地球温暖化防止
資源循環
化学物質への対応
社会との連携

CSRヒストリー

CSRの源流
CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

2012年度ハイライト&ローライト

デンソーはCSR経営のレベル向上を図るには、成果報告と同時にネガティブ情報の積極的な公開により経営の透明性を高め、新たな課題を抽出して継続的な改善を図ることが重要と考えています。そこで2008年度より、CSRに関わるハイライトとローライト事項を客観的な一覧表によって“見える化”し、ステークホルダーの皆様にご報告しています。

Highlights	2012年	Lowlights
<p>第1回「デンソーハートフルまつり」開催 (2012年7月)</p> <p>社員や地域の方々が「気軽な社会貢献の発見、行動のきっかけ、仲間とつながる機会」となることを目的に、デンソー本社で開催。東日本大震災の復興支援に焦点を当て、社員・学生ボランティア、NPO約40団体などが、パネルディスカッション、モノづくり講座、雑貨の販売、フラダンスの披露などを企画・運営し、約2,500人の参加者を集めました。</p>  <p>デンソーハートフルまつり</p>	4月	
<p>「キャリア支援企業表彰」 「中央職業能力開発協会会長表彰」を受賞 (2012年11月)</p> <p>「人を大切にする経営」方針に基づく社員への幅広いキャリア支援の取り組みが評価され、(株)デンソーが「キャリア支援企業表彰2012」(厚生労働省)の厚生労働大臣表彰を受賞しました。また、アジア地域の技能者養成に関する国際協力事業への貢献が評価され、(株)デンソー技研センターが「平成24年度中央職業能力開発協会会長表彰」(中央職業能力開発協会)を受賞しました。</p>	5月	
<p>「デンソーグループ2020年長期方針」を 策定・発表 (2013年1月)</p> <p>「社会に貢献する高い志を持ち、自ら積極的に働きかけ、世界の人々から共感いただけるグローバル企業」をめざして世界各地で議論を重ね、2020年におけるべき社会像・企業像、変革への道筋を策定。「地球環境の維持」「安心・安全な社会づくり」への貢献を軸とする長期方針として「グローバルカンファレンス2013」で発表し、世界中の社員と共有しました(4月に公表)。</p>  <p>グローバルカンファレンス2013</p>	6月	
	7月	
	8月	
	9月	
	10月	<p>自動車部品の取引に関する事案について (2012年11月)</p> <p>公正取引委員会から自動車用オルタネータとスタータ等の取引に関して、複数の事業者に排除措置命令・課徴金納付命令が出されました。その発表の中で、デンソーも独占禁止法に違反する行為があったとの言及がありましたが、当社は本件に関する立入検査より前に違反の疑いがある行為を取り止めていたこと、公正取引委員会に対して課徴金減免制度の適用を申請して認められたこと等から上記命令のいずれも受けていません。デンソーグループでは、これまで取り組んできた独占禁止法コンプライアンス体制を一層強化し、再発防止策の徹底を図っています。</p>
	11月	
	12月	
	2013年	
	1月	
<p>第5次環境行動計画の年次目標をすべて達成 (2013年3月)</p> <p>「デンソーエコビジョン2015」の実現に向け、「第5次環境行動計画」(2011年度～15年度)を設定し、グループ全165社が取り組みました。京都議定書による目標期間(5カ年)の最終年度でもある2012年度は、全社横断的な組織「CO₂特別プロジェクト」による5年間の特別活動の集大成として、工場CO₂削減目標を達成した他、生産量が増加する中で、環境調和型製品の開発、生産・物流での効率化を推進し環境負荷低減など、全25項目の目標を達成。また、「地球環境に貢献する製品の開発強化」「企業行動全般にわたるCO₂の把握と削減」「グループ連結での環境負荷の着実な削減」「連結環境マネジメントの強化」を重点とする全活動目標を達成しました。</p>	2月	
	3月	
<p>クリーンディーゼル車の進歩・普及の功績に 相次ぐ表彰(2012年度) (2013年5月)</p> <p>デンソーは世界で初めてトラック用コモンレールシステムを量産化し、以降、乗用車向けシステムも開発して、クリーンディーゼルエンジン(高出力・低燃費と排出ガス浄化の両立)の進歩に注力してきました。その功績が認められ、開発を牽引した技術者に「2012年度自動車技術会賞(技術貢献)」「2012年度日本機械学会賞(技術功績)」が授与されました。</p>  <p>自動車技術会「技術貢献賞」</p>	4月	
	5月	

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

- 社長メッセージ
- デンソーのCSR
- 企業行動宣言と行動指針
- 2012年度の実績と今後の課題
- コーポレートガバナンス
- 2012年度ハイライト&ローライト
- コンプライアンス
- リスク管理
- 情報セキュリティ
- デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

- お客様への責任
- 社員への責任
- 株主・投資家様への責任
- 取引先様への責任
- 地域社会・国際社会への責任

環境報告

- 環境経営
- 地球温暖化防止
- 資源循環
- 化学物質への対応
- 社会との連携

CSRヒストリー

- CSRの源流
- CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

基本的な考え方

デンソーグループは、社会から信頼・共感されるための基盤は、各国・地域の法令順守はもちろん、グループ社員一人ひとりが高い倫理観を持って公正・誠実に行動することと考えています。そして、コンプライアンスとは、法令順守に留まらず「ステークホルダーの期待に応えること」と捉え、すべての行動の礎に位置づけています。

この認識のもと、2006年に社員一人ひとりの行動規範を明示した「デンソーグループ社員行動指針」を制定しました。策定にあたっては、国連の「世界人権宣言」や「国連グローバルコンパクト」、「OECD多国籍企業ガイドライン」および日本の経済団体連合会が定めた「企業行動憲章」などを参考にしています。制定以降、研修や職場での活動の中で行動指針を確認し、社員のCSR意識啓発に活用しています。

なお、海外グループでは、地域本社が各国・地域の法令・慣習を反映した「地域版 社員行動指針」を作成し、コンプライアンスの徹底に努めています。

「デンソーグループ社員行動指針」の主要項目

I.デンソーグループの一員として

社会に果たすべき役割／誠実さを信頼の礎に／法令・倫理の順守

II.生き生きとした職場をめざして

理念・価値観の理解・自己成長／人権尊重・コミュニケーション・プライバシー／心身の健康維持・安全衛生／職場の秩序・風紀の維持／公私のけじめ

III.あらゆるお客様の信頼と期待に応えるために

感謝の気持ち・うれしさやさしさ・迅速・誠実な対応／法令順守・グローバルマインド／自由・公正な競争に基づく取引

IV.仕入先様との共存共栄をめざして

独禁法・下請法などの競争関係法および仕入先様や系列サービス店との契約条件の順守／知的財産の相互尊重

V.株主様の信頼と期待に応えるために

会社資産の適正運用・リスクの未然防止／適正な会計処理／インサイダー情報の管理

VI.社会と共生するために

地球環境保護・保全の行動／社会貢献活動への参加／反社会的勢力への対応・官公庁との対応／自動車産業の一員として

【注】適用範囲：(株)デンソーと国内連結マネジメント対象会社および(株)デンソーが筆頭株主の会社に属するすべての役員、社員（期間社員、嘱託社員、パート・アルバイトなど会社と雇用関係にある者を含む）

推進体制

1997年に担当取締役を委員長とする「企業倫理委員会」を設置し（現在はCSR推進会議に統合）、各国・地域ごとに体制を整えています。また、(株)デンソーでは、2003年に社外弁護士・法務部を窓口とする内部通報制度「企業倫理ホットライン」を開設し、2006年度には職場単位の推進役としてCSRリーダーを任命し、教育・啓発活動を行っています。国内グループは、(株)デンソーに準じた推進体制を敷いています。

海外グループは、地域本社が各国・地域の特性を勘案し、組織体制の整備、通報制度の導入・運営、啓発活動を推進しています。北米では各拠点にコンプライアンス・オフィサーを配置し、24時間対応のヘルプライン（通報制度）や監査制度の運用により不正行為の未然防止に努めています。また、中国・欧州・インド・豪亜でも各国固有の事情にあわせたコンプライアンスの重点活動を設定し、意見箱・ヘルプラインの制度を運用しています。これらの活動状況は定期的に拠点長に報告され、再発防止や活動改善に役立てています。

さらに、定期的に日本・北米・欧州・中国・東南アジア・インド各地域の法務担当者間で、情報・課題を共有化してコンプライアンス確立と維持に努めています。

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

社長メッセージ
デンソーのCSR
企業行動宣言と行動指針
2012年度の実績と今後の課題
コーポレートガバナンス
2012年度ハイライト&ローライト
コンプライアンス
リスク管理
情報セキュリティ
デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

お客様への責任
社員への責任
株主・投資家様への責任
取引先様への責任
地域社会・国際社会への責任

環境報告

環境経営
地球温暖化防止
資源循環
化学物質への対応
社会との連携

CSRヒストリー

CSRの源流
CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

教育・啓発

(株)デンソーでは、社員一人ひとりの意識向上を目的に、社員に対する各種教育・啓発活動を継続的に実施しています。一部の教育・啓発活動については、国内グループも各社における社員教育・啓発ツールとして活用されています。

◎主な社員啓発活動 [(株)デンソー]

階層別教育 <2002年度～>

CSRリーダーによる職場単位の教育・啓発活動 (期間社員・派遣社員なども含む)

<2006年度～>

例：オリジナル映像教材を活用した、ケーススタディに基づくディスカッション形式の職場単位でのコンプライアンス教育 など

パソコン保有者を対象としたe-ラーニング教育 <2008年度～>

※パソコン非保有者にもペーパーでの同様のテストを実施。 <2010年度～>

その他

「企業倫理ニュース」発行、イントラネットでの情報提供による啓発 など

【参考】社員啓発活動実績 [(株)デンソー]

	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
階層別教育 (全階層延べ人数)	約3,400名	約2,600名	約2,500名	約2,400名
e-ラーニング教育 (総受講者数) ※ペーパーでのテストを含む	約2万3,000名	約3万2,000名	約3万7,000名	約3万8,000名

内部通報制度

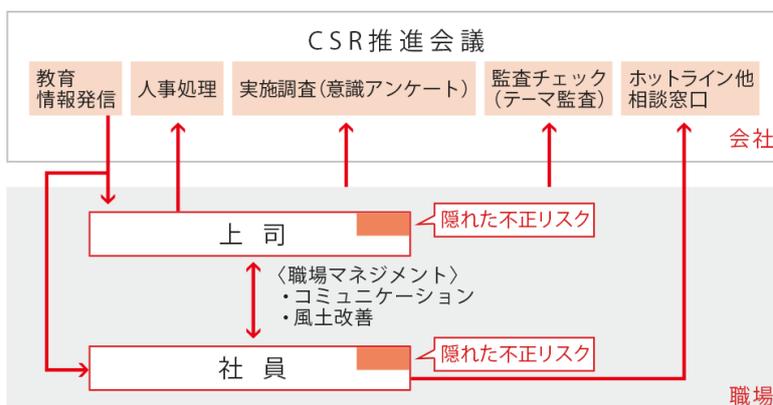
(株)デンソーの内部通報制度(企業倫理ホットライン)は、「公益通報者保護法」に則り、社外弁護士・法務部を窓口に通常の指揮系統から独立し、匿名通報も可能な体制で運用しています。本制度は、社員・派遣社員・常駐外注者など(株)デンソーに勤める全ての人が利用できるようになっています。また、2006年からは利用対象を主要仕入先様(300社)にも拡大しています。

2012年度は、雇用・労働・職場環境・情報管理・取引・経理関係など193件の相談・通報が寄せられ、調査・事実確認の上、適宜対処しました。

◎ホットラインへの相談件数の推移

	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
社外窓口	65	61	49	58	58
社内窓口	123	107	120	197	135
合計	188	168	169	255	193

◎企業倫理活動の仕組み



社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

社長メッセージ
デンソーのCSR
企業行動宣言と行動指針
2012年度の実績と今後の課題
コーポレートガバナンス
2012年度ハイライト&ローライト
コンプライアンス
リスク管理
情報セキュリティ
デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

お客様への責任
社員への責任
株主・投資家様への責任
取引先様への責任
地域社会・国際社会への責任

環境報告

環境経営
地球温暖化防止
資源循環
化学物質への対応
社会との連携

CSRヒストリー

CSRの源流
CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

活動の点検・改善

2003年から10月を「デンソーグループ企業倫理月間」と定め、職場での話し合いなどの啓発活動のほか、施策の浸透度や潜在リスクの把握を目的に「CSRサーベイ」を行っています。このうち職場の風通しの良さを表す「上司に相談しやすい職場か？」の問いに対して「そう思う」との回答は概ね前年度と同レベルで、今後もさらに職場の風通しが良くなるよう改善に努めていきます。

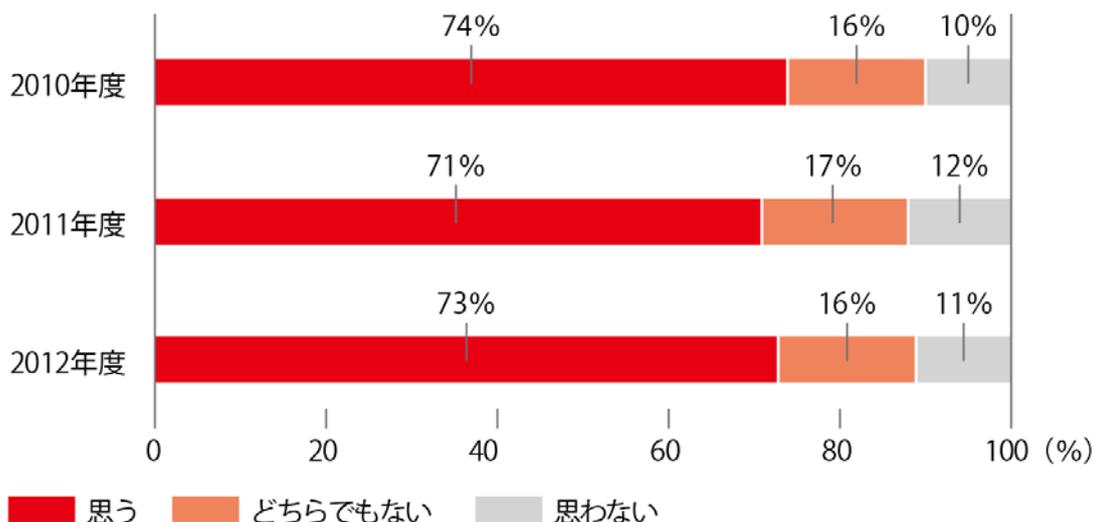
また、全社員を対象にしたコンプライアンス教育後のアンケートでは、下記のような意見が数多くあったことから、2013年度は教育・啓発活動をさらに改善・強化していきます。

研修アンケート

- 映像を活用した教育は分かりやすく、話し合いも活発に行われた
- 身近でリアルな事例を取り上げているので、自分の問題として理解できた
- 今回のような教育は定期的に実施してほしい

◎企業倫理アンケート結果（2011年1月、CSRサーベイに統合）

Q: 上司に相談しやすい職場か？



独占禁止法への対応

2010年2月の米国司法省による米国子会社（デンソー・インターナショナル・アメリカ）への立入調査以降、デンソーグループはこれを重く受け止め、従来から取り組んできた独禁法順守をさらに徹底するため、代表取締役を委員長とする「独禁法コンプライアンス委員会」を発足させました。そして、この委員会の指揮・監督のもと独禁法順守ルールをさらに厳格化して順法教育を強化し、より精緻な順法監査を実施するなど、デンソーグループ全体で独禁法順守の再徹底を図っています。

デンソーグループでは、今後も独禁法コンプライアンス体制をより一層強化し、再発防止の徹底を図るとともに信頼回復に努めてまいります。

関連情報

- ▶ [デンソーグループ社員行動指針](http://www.denso.co.jp/ja/csr/denso/csrcharter/files/shishin.pdf)
(PDF: 1.9MB <http://www.denso.co.jp/ja/csr/denso/csrcharter/files/shishin.pdf>)

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

社長メッセージ
デンソーのCSR
企業行動宣言と行動指針
2012年度の実績と今後の課題
コーポレートガバナンス
2012年度ハイライト&ローライト
コンプライアンス
リスク管理
情報セキュリティ
デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

お客様への責任
社員への責任
株主・投資家様への責任
取引先様への責任
地域社会・国際社会への責任

環境報告

環境経営
地球温暖化防止
資源循環
化学物質への対応
社会との連携

CSRヒストリー

CSRの源流
CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

リスク管理

基本的な考え方

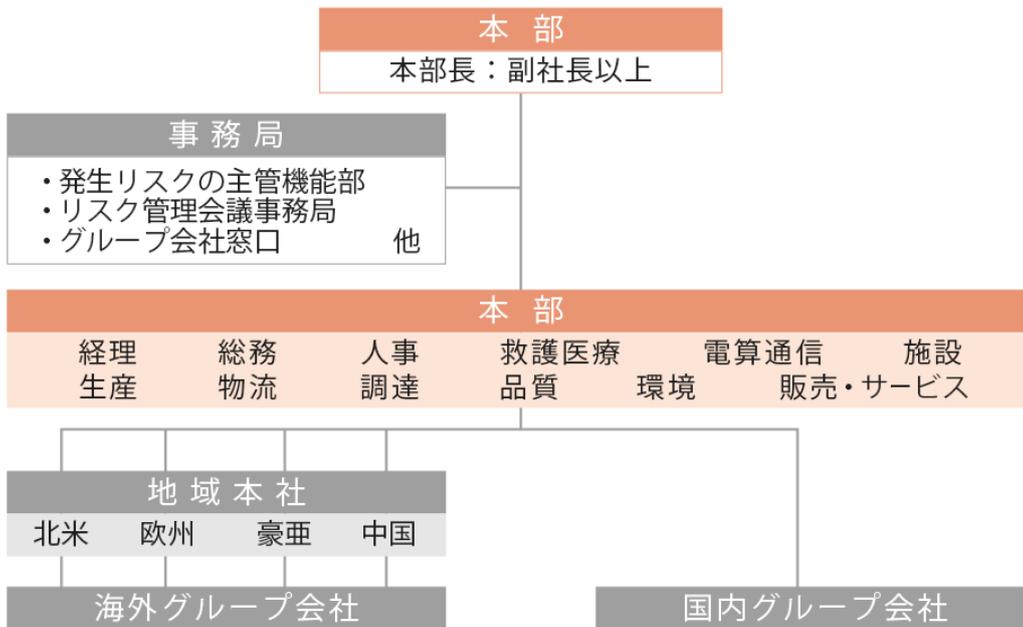
デンソーグループはグローバルな事業展開に伴い、多様化するリスクを最小化すべく、内部統制の一環としてリスク管理の充実・強化に取り組んでいます。具体的には、経営被害をもたらす恐れのある事柄を「リスク（まだ現実化していない状況）」と「クライシス（現実化した緊急事態）」に区分し、事前にリスクの芽を摘む未然防止、クライシスが発生した場合に被害を最小化する迅速・的確な初動・復旧対応に注力しています。

推進体制

生命・信用・事業活動・財産に影響を及ぼす恐れのある55のリスク項目を選定して各項目ごとに主管部署を設置。平時におけるリスク管理体制・仕組みの継続改善と浸透活動を「CSR推進会議」で、クライシス発生時（有事）の初動対応については「リスク管理会議」で推進する体制を敷いています。さらに、事態の大きさや緊急度によって専門の「対策組織」を編成し、被害の最小化に向けた機動的な対応を可能としています。

また、国内外の連結マネジメント会社および当社が筆頭株主であるグループ会社でも、従来のリスク統括責任者の役割をCSRリーダーに一元化し、その傘下にリスク項目ごとの責任者を配置。（株）デンソーの主管部署や海外の地域本社のサポートのもと継続的なレベルアップを図っています。

◎クライシス発生時の対策組織



クライシス発生時（有事）の中でも「地震・台風・大雨」については、あらかじめ災害対策会議の開設基準を設け、速やかに対応できる体制を敷いています。

◎開設基準

地震	台風	大雨
当社の生産拠点が所在する市町村で震度5強以上が発生した場合	圏内に入ることが確実視され、事務局が協議し本部長に進言した場合	警報が発令され雨量が50mm/時以上が予想され、事務局が協議し本部長に進言した場合

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

- 社長メッセージ
- デンソーのCSR
- 企業行動宣言と行動指針
- 2012年度の実績と今後の課題
- コーポレートガバナンス
- 2012年度ハイライト&ローライト
- コンプライアンス
- リスク管理**
- 情報セキュリティ
- デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

- お客様への責任
- 社員への責任
- 株主・投資家様への責任
- 取引先様への責任
- 地域社会・国際社会への責任

環境報告

- 環境経営
- 地球温暖化防止
- 資源循環
- 化学物質への対応
- 社会との連携

CSRヒストリー

- CSRの源流
- CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

浸透・啓発活動の拡充

(株)デンソーでは、職場リーダーである管理職の意識・行動が重要であると考え、2012年度も新任の部長・工場長・製造部室長を対象にリスク管理研修を実施し、55名が受講しました。また、海外拠点のリスク管理を強化するため、現地法人の経営幹部として出向予定の社員向けにリスク管理教育を実施し、11名が受講しました。

一般社員には、常時携帯を義務付けている「リスク対応ハンドブック」（2004年初版策定）の常時携帯を義務付け、地震・火災・交通事故発生時での的確な対応を促しています。

グローバルな事業展開に伴い増大するリスクへの対応

サプライチェーンのグローバル化に伴い、2011年の東日本大震災やタイ洪水発生時のように、ある地域で発生したリスクの影響が他地域に波及して重大リスク化したことを教訓に、グローバルグループ経営の視点からリスク管理項目を次のように層別して対応強化を図っています。

(1)グローバルに共通する重点リスク

- ・リスク発生時の影響が全地域に波及するため、全社横断機能によるグループをあげた対応が必要な項目
- ・本社主導によりグローバルに一律管理

(2)地域固有の重点リスク

- ・地域における発生頻度と事業継続への影響度から地域本社にて域内の重点リスクを特定
- ・2015年目標をかかげて活動

震災リスク対応の強化（事業継続計画の策定）

事業継続マネジメントの観点から、デンソーグループ全体の震災リスク対応策の強化（事業継続計画「BCP【注1】」の策定）に着手。BCPの対象を次のように捉え、有事行動マニュアルの策定や減災対応のやりきりに取り組んでいます。

(1)有事の「初動から復旧」に至るまでの行動の見える化

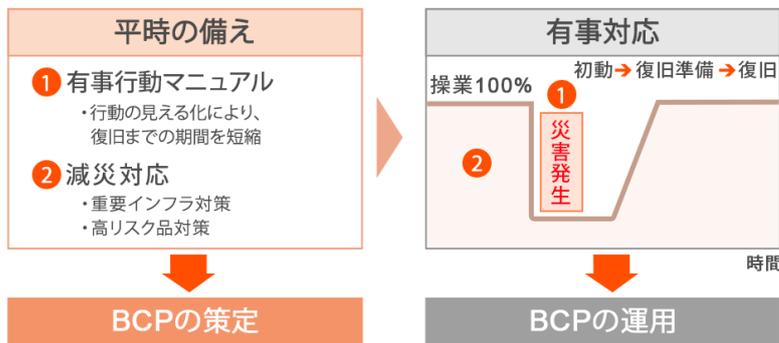
(2)減災対応

（重要インフラ対策、代替性や工場立地などの観点から調達上のリスクが高い部品への対策）

【注1】BCP：Business Continuity Plan

地震等の大規模災害により事業が中断した場合に、目標とする時間内に事業復旧を図り、経営被害を最小化するための計画。

◎BCPの策定・運用



◎2012年度の活動状況

東海大地震への対応力強化

	初動	復旧準備・復旧	減災
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・避難誘導 ・安否確認 ・本部機能の強化 ・地域支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・高リスク品の特定、リスク低減策 ・重要業務の特定、継続のための方策 	<ul style="list-style-type: none"> ・建物・設備の耐震補強 ・爆発・危険有害物の漏洩防止 ・情報システムデータのバックアップ
有事行動マニュアルの策定			

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

社長メッセージ
デンソーのCSR
企業行動宣言と行動指針
2012年度の実績と今後の課題
コーポレートガバナンス
2012年度ハイライト&ローライト
コンプライアンス
リスク管理
情報セキュリティ
デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

お客様への責任
社員への責任
株主・投資家様への責任
取引先様への責任
地域社会・国際社会への責任

環境報告

環境経営
地球温暖化防止
資源循環
化学物質への対応
社会との連携

CSRヒストリー

CSRの源流
CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

基本的な考え方

デンソーグループでは、2003年に「デンソーグループ情報セキュリティ基本指針」を策定し、情報保護・管理強化に取り組んでいます。2005年には世界的に普及しつつあるISMS【注1】を参考に153の管理項目を定めた「デンソーグループセキュリティガイドライン」を設け、国内グループ45社、海外グループ62拠点にも適用しています。また、2007年度からは、情報資産を保護しつつ正確・迅速に業務を遂行するため、機密性だけでなく完全性や可用性（システムの壊れにくさや障害の発生しにくさ）も考慮したセキュリティ対策の確立を新たな方針として打ち出し、その整備に注力しています。

【注1】 ISMS

Information Security Management System：情報セキュリティマネジメントシステム

デンソーグループ情報セキュリティ基本指針（概略）

目指すべき姿

デンソーグループ各社は、各社が保有する貴重な経営資源である情報資産を適切に保護した上で、情報資産を積極的に活用するため、グローバル水準の情報セキュリティを構築すると共に、絶えずその向上に努めなければならない。

各社の取り組み

デンソーグループ各社は、目指すべき姿の到達に向けて、以下の事項を実施しなければならない。

1. 情報資産が抱えるリスクの把握（リスクの種類、低減レベルの把握）
2. 情報セキュリティ対策の実施（方法の策定、文書化、周知）
3. 管理体制の構築（各部門の責任と役割、監査部門の設置、権限の分離）
4. マネジメントプロセスの明確化（リスクの評価、対策の立案、教育、監査、例外事項の把握、継続的な改善）

体制と監査

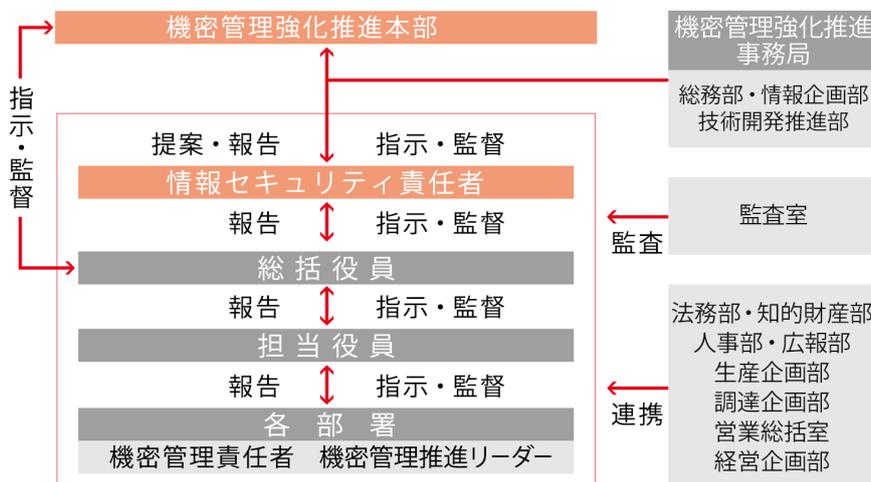
（株）デンソーでは、「機密管理強化推進本部」のもと、専任部署として機密管理強化推進本部事務局を設置し、各部に機密管理責任者およびリーダーを配置しています。

活動の推進にあたっては、情報セキュリティマネジメントシステムの国際規格（ISO/IEC27001など）に基づく管理体制を構築し、毎年、（株）デンソー社内での機密管理監査と自主点検を実施するなど、継続的なレベルアップを図っています。

また、一部の国内グループ（以下、機能分担会社）では、（株）デンソーと同等の管理体制を導入しており、これらの国内グループについては、毎年、実情を把握するモニタリング調査を行っています。

さらに、機能分担会社を除く国内外グループについては、共通ガイドラインを展開し、定期的なフォロー活動を実施しています。特に共通ガイドラインに関しては、業種・業態や所持している情報に応じたきめ細かな評価ができるよう見直しました。

◎情報セキュリティ管理体制



社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

- 社長メッセージ
- デンソーのCSR
- 企業行動宣言と行動指針
- 2012年度の実績と今後の課題
- コーポレートガバナンス
- 2012年度ハイライト&ローライト
- コンプライアンス
- リスク管理
- 情報セキュリティ
- デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

- お客様への責任
- 社員への責任
- 株主・投資家様への責任
- 取引先様への責任
- 地域社会・国際社会への責任

環境報告

- 環境経営
- 地球温暖化防止
- 資源循環
- 化学物質への対応
- 社会との連携

CSRヒストリー

- CSRの源流
- CSR年表

CSR情報の編集方針

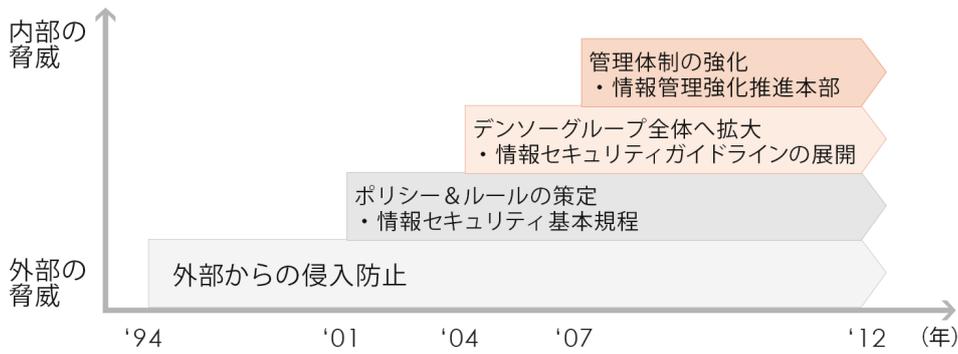
経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

◎情報セキュリティ取り組み推移



具体的な取り組み

情報セキュリティの基盤は、社員一人ひとりの高い管理意識が不可欠です。

(株)デンソーでは、持ち出しパソコンの専用機化、共有サーバーへのアクセス権の厳格化、記憶媒体の使用制限などのセキュリティ対策の実施とともに、社員への啓発活動を推進しています。

また、2007年2月に発生した当社技術者による設計図面データが入ったパソコン横領事件を契機に、毎年3月を「機密管理強調月間」として集中的な啓発活動を行っています。

取り組み	実施事項
社員教育	管理者研修・新入社員研修・階層別研修など
機密管理強調月間	機密管理教育、パソコン・記憶媒体の持ち出し検査、機密管理監査、パソコン保有者を対象とした情報セキュリティに関するeラーニング（2009年～）など

2012年度の活動

(株)デンソーでは、これまでの取り組みのほか、社員の啓発活動において、通常の管理者研修・新入社員研修・階層別研修に加え、2013年3月に各部の機密管理責任者を対象とする研修を開催し、特別対策の再徹底と定着度の確認を行いました。また、外注スタッフ（派遣社員・請負社員）・仕入先様の情報管理に関するモニタリングを開始しました。なお、2012年度に情報漏えいに関する事件・事故の発生はありませんでした。

会社を取りまく情報セキュリティに関わる状況は今後も変化していくと予測され、引き続き、環境変化に対応した管理体制の見直しおよび強化を図っていきます。

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

- 社長メッセージ
- デンソーのCSR
- 企業行動宣言と行動指針
- 2012年度の実績と今後の課題
- コーポレートガバナンス
- 2012年度ハイライト&ローライト
- コンプライアンス
- リスク管理
- 情報セキュリティ
- デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

- お客様への責任
- 社員への責任
- 株主・投資家様への責任
- 取引先様への責任
- 地域社会・国際社会への責任

環境報告

- 環境経営
- 地球温暖化防止
- 資源循環
- 化学物質への対応
- 社会との連携

CSRヒストリー

- CSRの源流
- CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

デンソーグループ 情報開示方針

基本姿勢

デンソーグループは、社会的責任(CSR)の実践にあたり策定した「デンソーグループ企業行動宣言(<http://denso.co.jp/ja/csr/denso/csrcharter/index.html>)」の中で「オープンでフェアな情報開示と対話に努めます」と宣言しています。この宣言に基づき、デンソーグループは、経営戦略や事業活動などの企業情報を、適時かつ公正、適正に開示します。これにより経営の透明性を向上させ、また、すべてのステークホルダーの皆様へデンソーグループへの理解を深めていただき、皆様との信頼関係の構築と維持に努めます。また、ステークホルダーの皆様と積極的に対話することにより、デンソーグループにいただいた評価を適切に企業活動に反映するよう努めます。

基本方針

デンソーグループは、情報開示の基本姿勢に基づき、開示内容、方法、体制について、次のとおり基本方針を定めます。

1.開示内容

会社法や金融商品取引法をはじめとする各種法令・規則が求める適時開示に該当する情報については、当該規則に従い速やかに開示します。

また、適時開示に該当しない情報についても、事業や環境、社会の観点から重要と思われる情報や、ステークホルダーの皆様へ影響を与える可能性のある情報、デンソーグループへの理解を深めていただくために有効と考えられる情報を積極的に開示します。

2.開示方法

適時開示規則に定められた情報開示については、同規則に従い、当該証券取引所の提供する適時情報開示のシステムを通じて行うとともに、報道機関にニュースリリースを配信し、デンソーグループもしくは当社のホームページにも掲載します。

また、適時開示に該当しない情報を開示する場合にも、開示の適時性、公正性、適正性を配慮しながら、報道機関へのニュースリリースの配信、記者会見や説明会での開示、ホームページへの掲載など、適切な方法を選択し、開示します。

3.開示体制

適時かつ公正、適正に情報開示を行うために、情報の収集および管理、開示を統括する企業情報責任者およびそれらを執行する企業情報担当者を設置します。

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

社長メッセージ
デンソーのCSR
企業行動宣言と行動指針
2012年度の実績と今後の課題
コーポレートガバナンス
2012年度ハイライト&ローライト
コンプライアンス
リスク管理
情報セキュリティ
[デンソーグループ 情報開示方針](#)

社会性報告

お客様への責任
社員への責任
株主・投資家様への責任
取引先様への責任
地域社会・国際社会への責任

環境報告

環境経営
地球温暖化防止
資源循環
化学物質への対応
社会との連携

CSRヒストリー

CSRの源流
CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

社会性報告

持続可能な社会を実現するには、多くのステークホルダーと価値観を共有しながら連携・協力していくことが不可欠です。デンソーグループは、「企業行動宣言」の中でステークホルダーごとに果たすべき社会的責任を明らかにして取り組みを進めています。



CSR絵本
「デンとソーのしあわせづくり」

お客様への責任

信頼され、ご満足いただける安心・安全で高品質な製品を提供するため、お客様第一の製品づくり、アフターサービスの充実にも努めています。

株主・投資家様への責任

長期安定的な成長を通じて企業価値の向上をめざすとともに、事業・財務情報の適時・適切な開示と対話を通じて経営の透明性を高めています。

地域社会・国際社会への責任

良き企業市民をめざし、「環境との共生」「交通安全」「人づくり」を重点分野に、自らが主体的に推進する「オリジナルプログラムの充実」と「社員参加の風土づくり」に取り組んでいます。

社員への責任

社員一人ひとりが能力を最大限に発揮し、生き生きと人生をおくることで企業も成長するという考え方をもとに、「人づくり・組織づくり・環境づくり」を推進しています。

取引先様への責任

自由・公正・透明な取引を基本に、オープン・ドア・ポリシー、相互信頼に基づく相互発展、法規順守と機密保持の徹底などに努めています。

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

- 社長メッセージ
- デンソーのCSR
- 企業行動宣言と行動指針
- 2012年度の実績と今後の課題
- コーポレートガバナンス
- 2012年度ハイライト&ローライト
- コンプライアンス
- リスク管理
- 情報セキュリティ
- デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

- お客様への責任
- 社員への責任
- 株主・投資家様への責任
- 取引先様への責任
- 地域社会・国際社会への責任

環境報告

- 環境経営
- 地球温暖化防止
- 資源循環
- 化学物質への対応
- 社会との連携

CSRヒストリー

- CSRの源流
- CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

お客様への責任

基本的な考え方

デンソーグループは創業以来、お客様に信頼され、ご満足いただける安全・高品質な商品を提供することを『デンソーグループ企業行動宣言』で約束しています。そして、品質保証の基本方針として「品質第一主義の徹底、源流段階での品質保証、全員参加による品質管理の推進」を掲げ、お客様第一の製品づくりを進めています。

また、営業・技術の各部署がお客様から収集した情報をもとに、品質・コスト・納期ともにお客様満足度を高める継続的改善に努めています。

推進体制

新製品の品質保証では、「初期流動管理」を徹底し、品質管理や生産技術などの専門部署も一体となって合計9フェーズで製品完成度や品質リスクを見える化して、品質を厳しくチェックしています。特に設計段階では、製品単体の保証に加え、車両システムの中で高い信頼性・耐久性を確保するため、自社テストコースでの高速周回・悪路・低温・着氷などの実車試験、環境試験室での各種テストを繰り返し、厳密な品質確認を行っています。

また、地域特性に応じた評価試験や製品開発を行うテクニカルセンターを米国・ドイツ・タイ・中国に加え、新たにインド・ブラジルに設置し、グローバルに品質評価ができる体制を拡充しています。

なお、デンソーグループは、全体で品質マネジメントシステムの国際規格ISO/TS16949の認証取得を完了しています。



環境試験室での品質確認

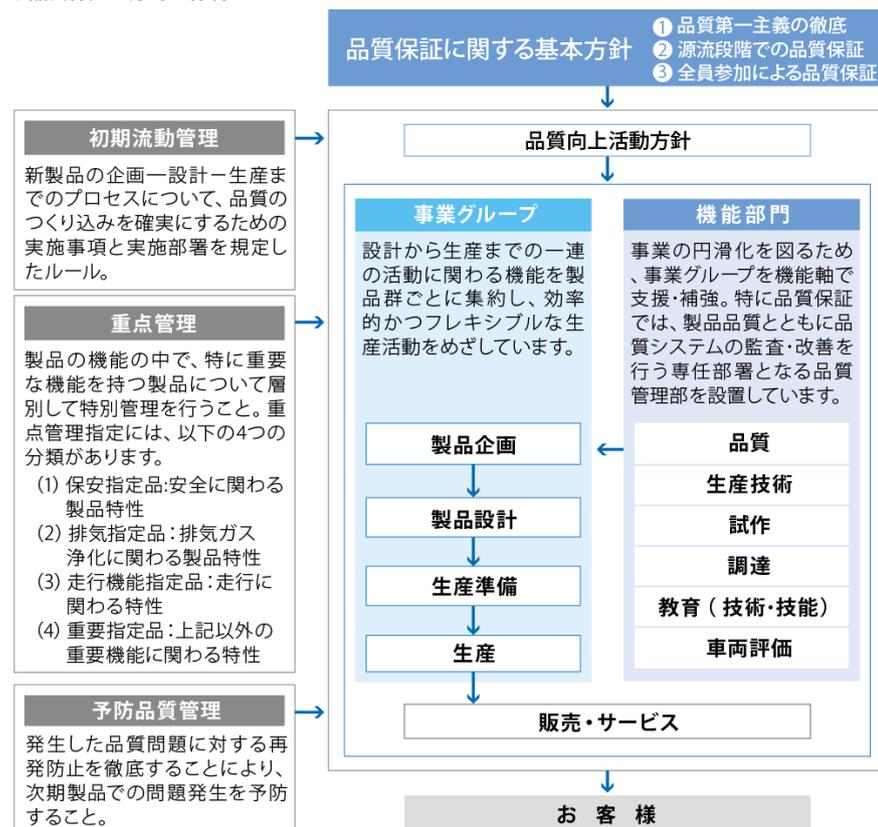


自社テストコースでの実車試験



テクニカルセンター(インド)

◎品質保証の方針・体制



社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

社長メッセージ
デンソーのCSR
企業行動宣言と行動指針
2012年度の実績と今後の課題
コーポレートガバナンス
2012年度ハイライト&ローライト
コンプライアンス
リスク管理
情報セキュリティ
デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

お客様への責任
社員への責任
株主・投資家様への責任
取引先様への責任
地域社会・国際社会への責任

環境報告

環境経営
地球温暖化防止
資源循環
化学物質への対応
社会との連携

CSRヒストリー

CSRの源流
CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRIに関する外部評価

用語集

第三者意見

お客様の満足度向上のために

製品安全の確保

お客様の安全性確保のため、設計部門では、不具合事象に対するフェールセーフ【注1】設計や安全設計評価を徹底しています。また現在、機能安全の国際規格ISO26262（2011年11月制定）に準拠したシステム／製品開発を進めています。さらに技術管理部門では、製品企画から生産・出荷までの実施要領と責任部署を明確化して法令順守の徹底を図るとともに、新製品の立ち上げ時には責任部署に対して規程に基づく安全性評価や法規制に対する確認結果の報告を義務付けています。

また、自動車産業に携わる企業の使命として交通事故を減らすために、事故回避を支援する予防安全システムの開発に力を入れています。その実現に向け世界の交通事故や道路環境などの交通事情を分析し、交通事故シーンをテストコースで再現・評価して予防安全システムの安全性確保を推進しています。

このほかにも、お客様の顔に化されていないニーズまでの確に抽出し、製品に反映するため、社内ユーザーや販売店での聞き取り調査を実施し、情報を技術者へフィードバックして、お客様視点での製品改善に繋げています。

【注1】フェールセーフ 故障や操作ミスが発生しても安全側に制御されること。

教育・訓練・啓発活動

デンソーグループは、「人づくり」こそ事業の基盤と位置付け、体系的・継続的に技術者・技能者を育成するとともに、触れて体得する実践教育・訓練などを通じて、デンソー流モノづくりの伝承を図っています。

また製造現場では、1964年からQCサークル活動が品質向上を推進する原動力となり、2012年度末で約7,000チーム（日本：3,450/海外：3,300/技術・事務部門を含む）が年度目標を設定し、全社QCサークル発表会・海外地域別選抜交流大会を通じて相互啓発に努めています。

◎教育・訓練・啓発活動

研修活動	「階層別教育」、専門分野別「スキルアップ研修」、「技術/技能検定」遠隔地の国内外グループ会社でも受講できるe-ラーニングやサテライト研修 など
実践教育サークル活動	<ul style="list-style-type: none"> 「技術道場」（本社）、「モノづくり道場」（国内外の生産拠点） 五感を活かして製品の不具合を発見する「品質技能競技会」 QCサークル活動（技能系）、Active Meeting（事技系）など
情報共有・相互研鑽	<ul style="list-style-type: none"> 関係会社も招いた「品質向上展示会」、「デンソーTQM大会」（国内外で開催） 過去のトラブル事例の教訓を学ぶ「過去トラ展示館」国内外、仕入先が参加する「全社QCサークル大会」など

製品不具合への対応

デンソーグループでは、製品に不具合が発生した場合、様々な媒体を通じて速やかにお客様・関係機関にお知らせするとともに、回収する体制を整えています。2007年～2011年に判明した発煙・発火の恐れがある「遠赤外線ヒーター」については、新聞社やホームページなどで直ちに公表し、専用ダイヤルを設けて回収に全力を挙げています。

◎遠赤外線ヒーターの回収状況（2013年4月時点）

- | | |
|--|---|
| ■ 「エンセキ」7FX、12F、12FD
対象4万3,325台 / 回収率：40.2% | ■ 「エンセキ」DZR-08FR、10FR
対象4,696台 / 回収率：11.9% |
| ■ 「エンセキ」10FA、10FC
対象8万146台 / 回収率：28.7% | ■ 「エンセキ」ND-08FR、10FR
対象15台 / 回収率：20.0% |



画像認識技術による眠気の検出



画像センシング技術による歩行者の検出

全社QCサークル大会 (2012年11月)



国内サークル発表会場



海外サークル発表会場



ND-08FRおよびND-10FRの外観



「スキニーセラミックヒーター」の外観

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

社長メッセージ
デンソーのCSR
企業行動宣言と行動指針
2012年度の実績と今後の課題
コーポレートガバナンス
2012年度ハイライト&ローライト
コンプライアンス
リスク管理
情報セキュリティ
デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

お客様への責任
社員への責任
株主・投資家様への責任
取引先様への責任
地域社会・国際社会への責任

環境報告

環境経営
地球温暖化防止
資源循環
化学物質への対応
社会との連携

CSRヒストリー

CSRの源流
CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

アフターサービスの充実

基本的な考え方

デンソーグループは創業以来「製品とサービスは一体」というポリシーのもと、製品品質の追求だけでなく、ご愛用いただくお客様視点での最善のサービスを念頭に、下記3つを基本に、グローバルサービスを展開しています。

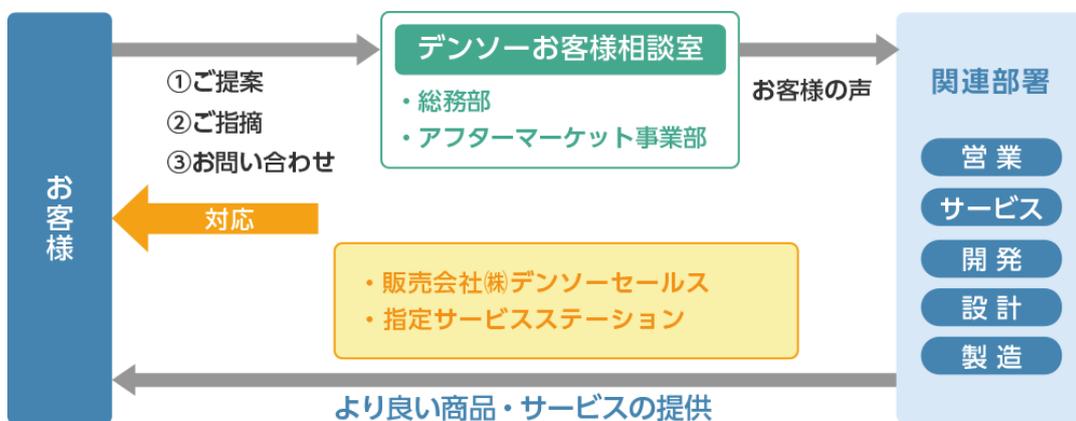
- (1) お客様に満足いただき、正しく安全に使用できる
- (2) 万一故障が発生しても、正確で速やかに、適正価格で修理できる
- (3) お客様の声を製品の開発・改良に反映させ、ご迷惑を最小限に抑える

お客様（エンドユーザー）対応窓口

（株）デンソーでは、お客様からのご意見・ご要望に迅速・適切に対応するため「お客様相談センター」を設置。厳密な個人情報管理のもと、内容を速やかに関係部署にフィードバックし、対応・改善措置を図っています。

なお、自動車メーカーに納入しているカーエアコンやエンジン関連部品などOEM（相手先ブランド）製品の品質・保証に関わる案件については、自動車メーカーの販売店やお客様相談窓口などでのご相談・お問い合わせをお願いしています。

◎お客様相談 内容の流れ



お問い合わせ状況

2011年度後半から製品に関するお問い合わせ件数が増加しました。要因は、エコカー減税に加えて補助金復活に伴い、車両の代替が増加したものとされます。

◎製品に関するお問い合わせ

内容	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
ETC	56%	38%	39%	39%
プラグ	13%	18%	19%	17%
カーナビゲーション	6%	5%	5%	4%
環境機器	2%	1%	1%	1%
クリーンエアフィルタ	2%	2%	3%	3%
通信機器	1%	1%	0%	0%
除菌イオン・プラズマクラスター	3%	11%	11%	11%
その他	17%	24%	22%	25%
計	100%	100%	100%	100%
件数	1万1,495件	7,210件	7,055件	7,808件

お客様のプライバシー保護

個人情報を提供されるすべての方々のプライバシー保護を個人情報取扱事業者の重要な責務と認識し、プライバシーポリシーを策定。個人情報の取得・使用目的と利用制限・第三者への非開示の原則などを定め、厳正な管理・運用を図っています。

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

社長メッセージ
デンソーのCSR
企業行動宣言と行動指針
2012年度の実績と今後の課題
コーポレートガバナンス
2012年度ハイライト&ローライト
コンプライアンス
リスク管理
情報セキュリティ
デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

お客様への責任
社員への責任
株主・投資家様への責任
取引先様への責任
地域社会・国際社会への責任

環境報告

環境経営
地球温暖化防止
資源循環
化学物質への対応
社会との連携

CSR歴史

CSRの源流
CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

アフターサービスの強化

高度な電子制御技術によって、サービス拠点でのメンテナンス（診断・対応技術）には高度なレベルが要求されています。

（株）デンソーは2006年度に地域販売会社と連携し、先進技術搭載車両の故障診断に即応する設備・人材・情報を備えた「デンソーダイアグステーション」を設置。デンソーが開発した故障診断テスターやデータレコーダなどの解析機器を配備し、独自の研修教育・資格テストに合格した「ダイアグマイスター」を配置しています。

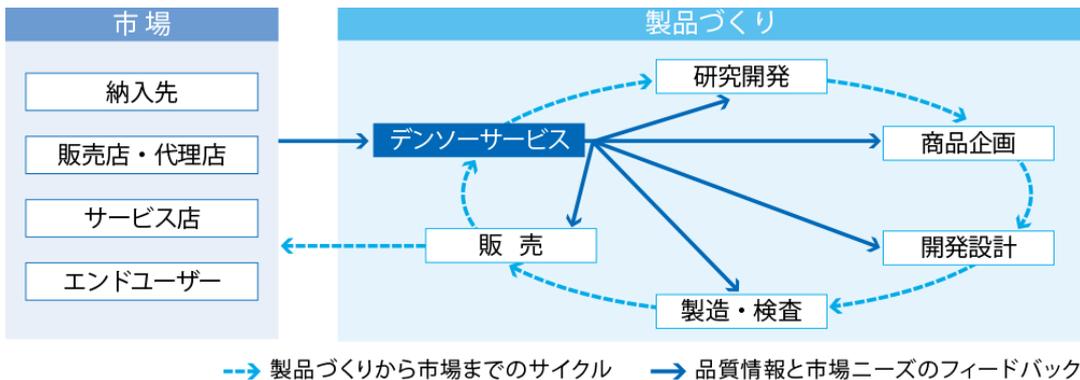
2012年4月、自動車アフターマーケット事業および非自動車分野の事業拡大を図るため、国内の販売会社9社を統合し、「株式会社デンソーセールス」を設立。地域ごとの販売会社の統合により、それまでの地域密着型体制を維持しつつ全国規模で販売・サービス体制を提供し、顧客対応力をさらに強化しています。また、マーケティング機能を拡充し、顧客ニーズに対応した新たな製品・サービスの提供に努めています。



◎ダイアグステーション設定拠点数（日本）

2011年度	2012年度	2013年度（計画）
61拠点 （ダイアグマイスター：105名）	70拠点 （ダイアグマイスター：110名）	80拠点以上

◎デンソーのサービス活動



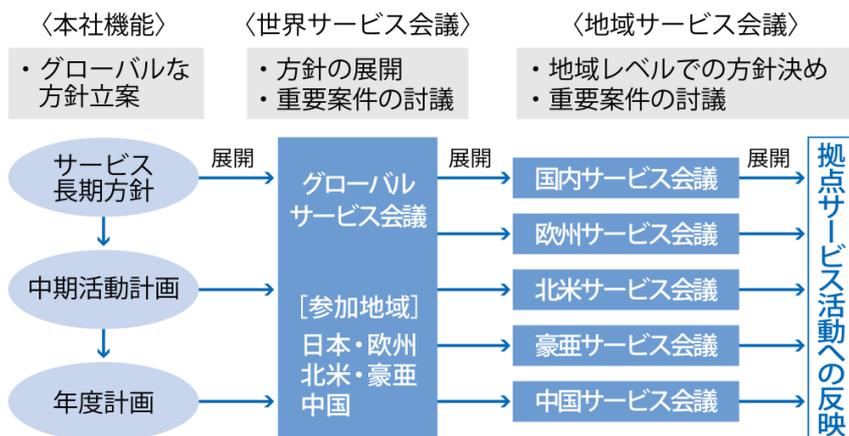
アフターサービスのグローバル展開

お客様に円滑なサービスを提供するため、世界各国・地域に当社販売会社によるサービス・ネットワークを形成しています。同時に、市場での品質を常に監視・評価し、ニーズや情報をスピーディに関連部署へフィードバックして製品開発や改良に反映しています。

国内では1954年に指定サービスステーション制度を発足し、現在、販売会社「デンソーセールス」のもとで749のサービス店（指定サービス店、特約店）がネットワークを形成しています。

海外では、欧州・北米・豪亜・中国の各地域ごとに中核拠点を設け、海外販社25拠点のもとで3,888のサービス店がネットワークを形成しています。

◎グローバルサービスの推進体制



社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

- 社長メッセージ
- デンソーのCSR
- 企業行動宣言と行動指針
- 2012年度の実績と今後の課題
- コーポレートガバナンス
- 2012年度ハイライト&ローライト
- コンプライアンス
- リスク管理
- 情報セキュリティ
- デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

- お客様への責任
- 社員への責任
- 株主・投資家様への責任
- 取引先様への責任
- 地域社会・国際社会への責任

環境報告

- 環境経営
- 地球温暖化防止
- 資源循環
- 化学物質への対応
- 社会との連携

CSRヒストリー

- CSRの源流
- CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

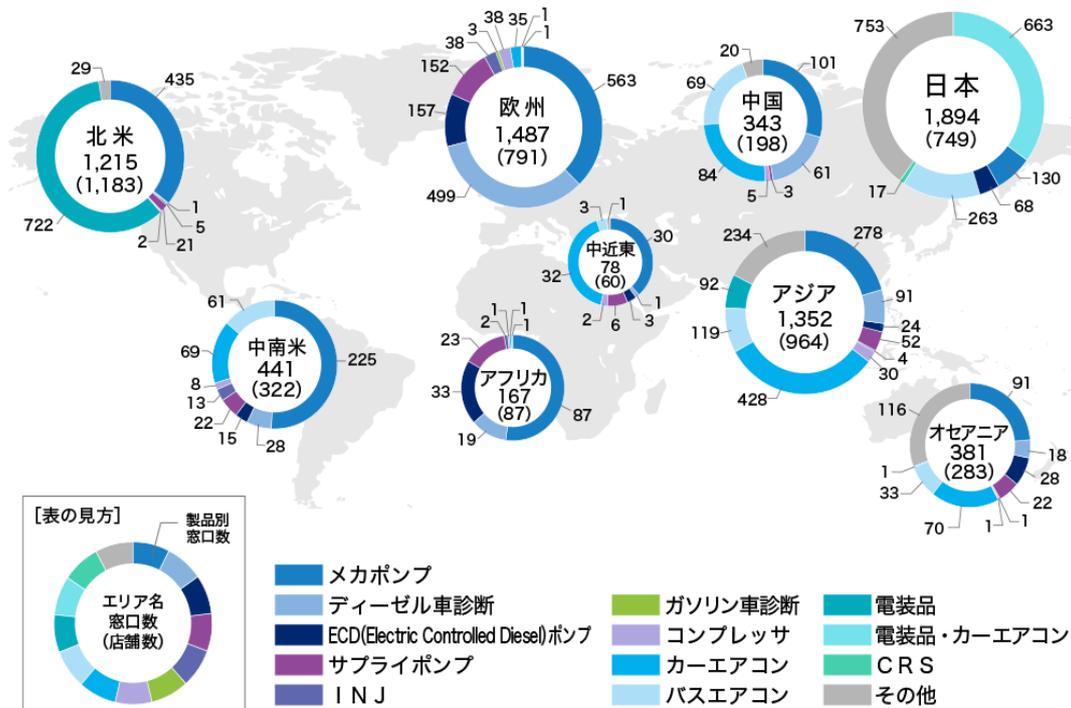
用語集

第三者意見

◎各地域のサービス拠点分布

地域	窓口数				
	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	
日本	1,789	1,958	1,978	1,894	
北中南米	北米	1,137	1,160	1,188	1,214
	中南米	360	383	397	441
欧州	1,101	1,260	1,395	1,482	
豪亜・その他	中国	292	326	335	343
	アジア	1,271	1,252	1,321	1,350
	オセアニア	345	381	382	382
	中近東	57	61	74	78
	アフリカ	141	148	160	167
計	6,493	6,929	7,230	7,351	

◎デンソーグローバルサービスネットワーク（数値は2012年度実績）



◎サービス店舗数

国内	海外
749店	3,888店（115カ国）
<ul style="list-style-type: none"> 指定サービス店:148店 特約店:490店 指定サービス店・特約店以外:111店 	<ul style="list-style-type: none"> セントラルディストリビューター:173店 セントラルディストリビューター&サービスディーラー:53店 サービスディーラー:3,662店



タイ



中国



ブラジル



ウラジオストク

関連情報

▶ 製品・サービス情報 (<http://www.denso.co.jp/ja/products/index.html>)

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

- 社長メッセージ
- デンソーのCSR
- 企業行動宣言と行動指針
- 2012年度の実績と今後の課題
- コーポレートガバナンス
- 2012年度ハイライト&ローライト
- コンプライアンス
- リスク管理
- 情報セキュリティ
- デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

- お客様への責任
- 社員への責任
- 株主・投資家様への責任
- 取引先様への責任
- 地域社会・国際社会への責任

環境報告

- 環境経営
- 地球温暖化防止
- 資源循環
- 化学物質への対応
- 社会との連携

CSRヒストリー

- CSRの源流
- CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

社員への責任

人事理念に「人を大切にする経営の実践」を掲げ、社員一人ひとりが能力を最大限に発揮して生き生きと人生をおくれるよう「人づくり・組織づくり・環境づくり」に努めています。

長期安定的な雇用

デンソーグループは安定的な雇用・長期的な人材育成を大切にします。この考え方に基づき、社員の雇用確保のため、会社と社員双方が最大限の努力を払っています。

安定した労使関係

「会社の発展と社員の生活向上は、めざすところは究極的に一致する」との考え方をグループ全体で共有し、労使の相互信頼・相互責任の絆を深めています。

人権尊重の徹底

「企業行動宣言」「社員行動指針」の中で、人種・性別・年齢・国籍・宗教・障がい・傷病などによる差別や嫌がらせ、児童労働や強制労働の禁止を明文化し、グループで共有するとともに徹底を図っています。

人材育成の推進

多様な個性を持つグループ社員一人ひとりが、成長感・達成感を得ながら活躍するため、能力開発を推進するとともに、公平・公正に評価される制度づくりに取り組んでいます。

多様性の促進

性別・年齢・国籍などの属性を超えて「知」を活かす風土の中で、多様な人材が生き生きと活躍できる真のグローバル企業をめざし、様々な取り組みを進めています。

「社員満足」向上への取り組み

(株)デンソーでは、社員の仕事への意欲や職場に対する満足度などを調査し、管理者が把握して職場の自律的改善を促すとともに、人事施策の参考にもしています。

安全衛生の推進

1969年に「安全基本理念」を制定以来、「安全で働きやすい職場づくりこそ、人間尊重と高生産性を両立させる最善策」という方針のもと、施策の向上に取り組んでいます。

社員の健康づくり

「企業行動宣言」の中で「個々人が生き生きと働けるよう努める」と明文化し、事業活動を展開する各国・地域の法律や文化・歴史を尊重した適切な健康管理に注力しています。

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

社長メッセージ
 デンソーのCSR
 企業行動宣言と行動指針
 2012年度の実績と今後の課題
 コーポレートガバナンス
 2012年度ハイライト&ローライト
 コンプライアンス
 リスク管理
 情報セキュリティ
 デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

お客様への責任
 社員への責任
 株主・投資家様への責任
 取引先様への責任
 地域社会・国際社会への責任

環境報告

環境経営
 地球温暖化防止
 資源循環
 化学物質への対応
 社会との連携

CSRヒストリー

CSRの源流
 CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

長期安定的な雇用

基本的な考え方

社員一人ひとりが能力を最大限に発揮し、生き生きと人生をおくることで企業も自ずと成長します。(株)デンソーは、この考え方をデンソー基本理念・人事理念・企業行動宣言などに織り込み、グループにおける人事施策の基盤としています。

人事理念として「人を大切にする経営の実践」を掲げ、

- (1) 人づくり「一人ひとりのやる気を高め成長できる機会の提供」
- (2) 組織づくり「対話と全員参加により自由闊達で一体感ある職場風土の醸成」
- (3) 環境づくり「安心・安全・健康に働ける環境の整備」

を社員への責任とするとともに、人事の使命・方針をグローバルに明示・共有しています。

人事の使命・方針

人事の使命

デンソーと従業員の成長と繁栄を実現するために、すべての従業員が自己を高め、デンソーの経営目標に向かってその能力を最大限に発揮できるカルチャーを醸成する

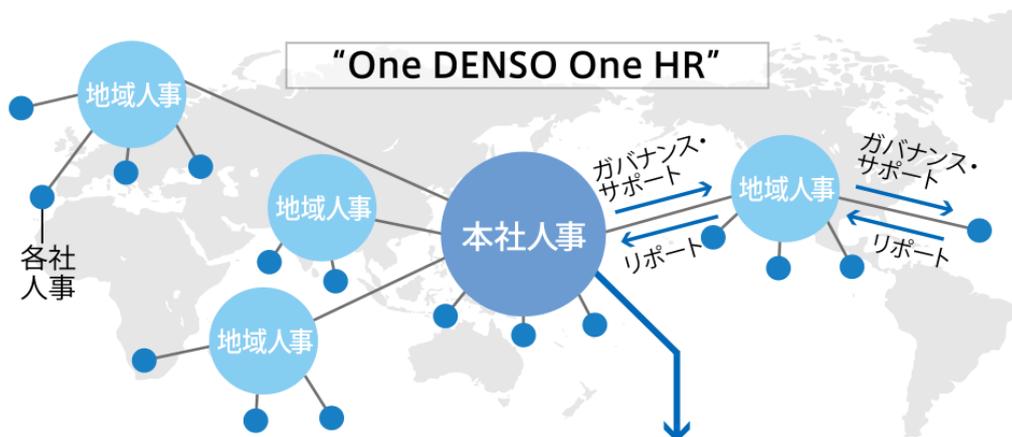
人事の方針

1. 従業員の事業活動への積極的な参画を促進するよう、組織の一体感と個々人のモラルを向上させる
2. 継続的な事業成長に貢献できる意欲・能力を持った、創造性豊かな人材を確保・育成する
3. 社会と従業員の双方から高く評価される、公正な人事施策・制度を構築・実践する

推進体制

人事の使命に基づきその方針を具現化していくために、「One DENSO One HR (ひとつのデンソー、ひとつの人事)」をスローガンとするグローバルな推進体制を整え、諸活動を推進しています。

◎グローバルな人事機能と推進体制



役割	考え方	基本フレーム	具体的制度設計・適用		
本社人事		〈コア〉 グローバル スタンダード	ローカル アダプテーション	← 本社人事の責任範囲	
地域人事					
各社人事					← 遂行範囲

各地域・各社人事とともに、
グローバルな人事共通基盤を構築

(デンソー人事理念、デンソースピリット
デンソー流仕事のやり方の浸透
幹部人材の育成・登用施策の推進 等)

各地域・各社にて、各々の実情を
踏まえて諸制度を整備

(技能資格制度、役職制度、賃金制度
各種教育、採用施策 等)

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

- 社長メッセージ
- デンソーのCSR
- 企業行動宣言と行動指針
- 2012年度の実績と今後の課題
- コーポレートガバナンス
- 2012年度ハイライト&ローライト
- コンプライアンス
- リスク管理
- 情報セキュリティ
- デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

- お客様への責任
- 社員への責任
- 株主・投資家様への責任
- 取引先様への責任
- 地域社会・国際社会への責任

環境報告

- 環境経営
- 地球温暖化防止
- 資源循環
- 化学物質への対応
- 社会との連携

CSRヒストリー

- CSRの源流
- CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

長期安定的な雇用

基本的な考え方

デンソーグループは、「安定的な雇用・長期的な人材育成を大切にすること」を基本方針とし、社員の雇用確保のため、会社と社員双方が最大限の努力を払っています。また、雇用の安定に向けた取り組みは、各地域内や本社と情報交換を図り、各国・地域の適用法令や慣行に則って対応しています。

雇用の状況

国内では、2012年度上期からエコカー補助金の好影響により、歴史的な円高状況が続くなかでも生産量が回復し、非正規社員の採用数を増やしました。

また、昨年度は高年齢者雇用安定法改正（2013年4月施行）を見据えた社内制度の改定を行い、就業規則に定める解雇・退職理由相当以外は、希望者全員を雇用しています。

採用活動においては、今後のさらなるグローバル展開に向けて、多様な人材を獲得する活動を強化しています。具体的には、在日外国人留学生に対して大学に出向いて積極的にPRしたり、在外日本人学生の獲得のため海外で企業セミナーを実施するなどの活動を行っています。

◎地域別社員数

(単位：名)

	2010年度	2011年度	2012年度
日本	63,616	63,936	64,751
豪亜	29,985	31,316	34,779
北米	13,124	14,205	15,420
欧州	13,034	13,152	13,157
その他	3,406	3,427	4,169
計	123,165	126,036	132,276

◎社員の構成〔株〕デンソー

(単位：名)

		2010年度		2011年度		2012年度		
		男性	女性	男性	女性	男性	女性	
常勤 ※4	社員	一般	19,676	4,443	19,218	4,523	18,717	4,549
		管理職	17,071	137	17,515	156	17,843	179
		役員	15	0	16	0	16	0
	平均年齢	41.9歳	33.2歳	42.2歳	33.7歳	42.6歳	34.3歳	
	平均勤続年数	21.71年	13.54年	21.98年	13.94年	22.26年	14.46年	
	離職率【注1】	0.28%	2.18%	0.26%	1.87%	0.30%	2.14%	
	定着率【注2】	97.79%	95.61%	98.23%	91.97%	97.5%	95.58%	
労働組合加入率【注3】	100%		100%		100%			
有休消化率【注4】	81.4%		84.4%		83.5%			
非常勤	社員	64	28	78	33	96	36	

【注1】離職率：自己都合退社

【注2】定着率：入社3年目の社員の離職率を引いた数字（上場企業の平均定着率82%）

【注3】労働組合加入率：分母は一般社員（組合員）

【注4】有休消化率：期間社員を含む

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

社長メッセージ

デンソーのCSR

企業行動宣言と行動指針

2012年度の実績と今後の課題

コーポレートガバナンス

2012年度ハイライト&ローライト

コンプライアンス

リスク管理

情報セキュリティ

デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

お客様への責任

社員への責任

株主・投資家様への責任

取引先様への責任

地域社会・国際社会への責任

環境報告

環境経営

地球温暖化防止

資源循環

化学物質への対応

社会との連携

CSRヒストリー

CSRの源流

CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

安定した労使関係

基本的な考え方

デンソーグループでは「会社の発展と社員の生活向上は、めざすところは究極的に一致する」との認識のもと、労使の相互信頼・相互責任の絆を深めてきました。この考え方は、創業間もない1950年の労働争議における試練克服の過程で醸成されたもので、グループ全体で共有しています。

労使の話し合いの場

デンソーグループでは、あらゆる課題に対して労使で徹底的に話し合い、解決を図ることを基本にしています。

(株)デンソーでは定期的に労使協議会を開催し、経営方針や経営に関する諸問題について労使双方が理解した上で、労働条件の適切な改定を行っています。さらに全社、グループ・センター別、職場単位の労使懇談会で経営状況を共有し、社員の経営への参画意識を高めています。こうした労使の話し合いの場だけでなく、社長メッセージや昼礼など様々なコミュニケーションチャンネルを活用し、タイムリーな情報共有に努めています。



労使懇談会

国内外グループへの取り組み

(株)デンソーは、国内外グループに対し、デンソーのめざす人事・労務管理の考え方を共有するとともに、労務問題の未然防止に向けた施策の展開や情報共有を図っています。

国内グループに対しては、「日本地域人事会議」や「テーマ別勉強会」を開催し、デンソーグループ共通の労務課題への対応について議論を重ねています。

また、海外グループに対しては、現地人事スタッフ向けの研修会を開催し、人事労務の基本的な考え方や具体的な労務課題への対応ノウハウを共有しています。同時に、2006年から人事指標によるモニタリング（社員数・勤務状況・離職率など）や社員へのインタビュー・アンケートなど、労務面での課題を早期に把握する活動を継続しています。

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

社長メッセージ
 デンソーのCSR
 企業行動宣言と行動指針
 2012年度の実績と今後の課題
 コーポレートガバナンス
 2012年度ハイライト&ローライト
 コンプライアンス
 リスク管理
 情報セキュリティ
 デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

お客様への責任
 社員への責任
 株主・投資家様への責任
 取引先様への責任
 地域社会・国際社会への責任

環境報告

環境経営
 地球温暖化防止
 資源循環
 化学物質への対応
 社会との連携

CSRヒストリー

CSRの源流
 CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

基本的な考え方

デンソーグループは、「企業行動宣言」「社員行動指針」の中で、人種・性別・年齢・国籍・宗教・障がい・傷病などによる差別や嫌がらせ、および児童労働や強制労働の禁止を明文化し、グループで共有するとともに徹底を図っています。これらは国連の「世界人権宣言」をはじめ、複数の国際基準を参考に策定したもので、2007年度に「CSR調達基準」として仕入先様にも実践を要請しました。また「雇用における機会均等」についても、求人・雇用・処遇などあらゆる面で応募者や社員を差別しないことをグローバルな基本方針としています。

啓発・浸透

(株)デンソーでは、人権教育を階層別教育(新入社員・期間社員)に組み入れ、人権週間・憲法週間には啓発強化活動を実施し、ハラスメント防止教育にも注力しています。また、社外研修にも国内グループとともに積極的に参加しています。そして、方針が正しく履行されているかを全社共通自主点検で確認するとともに、内部通報制度(国内グループも含む)を設けて未然防止に努めています。

海外グループでも様々な取り組みを行っています。とりわけ北米では、ハラスメント禁止を各拠点で社内ポリシー化し、経営層から新入社員に至るまでコンプライアンスおよびリスク管理強化の一環として、相互尊重やセクハラ予防に関する教育を行っています。

◎人権に関わる研修受講者〔(株)デンソー〕

	2010年度	2011年度	2012年度
新任役職者	799名(100%)	—【注】	—【注】
新入社員	781名(100%)	719名(100%)	693名(100%)
期間社員登用者	49名(100%)	67名(100%)	83名(100%)

【注】2011年度より、新任役職者研修内容より除外

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

社長メッセージ
 デンソーのCSR
 企業行動宣言と行動指針
 2012年度の実績と今後の課題
 コーポレートガバナンス
 2012年度ハイライト&ローライト
 コンプライアンス
 リスク管理
 情報セキュリティ
 デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

お客様への責任
 社員への責任
 株主・投資家様への責任
 取引先様への責任
 地域社会・国際社会への責任

環境報告

環境経営
 地球温暖化防止
 資源循環
 化学物質への対応
 社会との連携

CSRストーリー

CSRの源流
 CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRIに関する外部評価

用語集

第三者意見

人材育成の推進

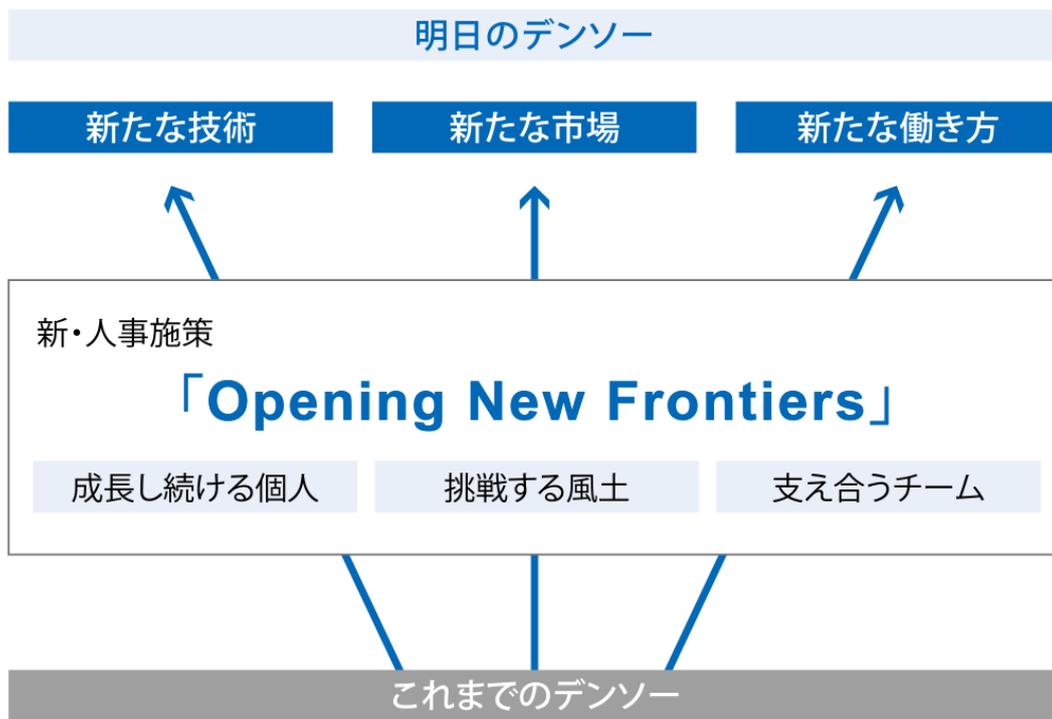
基本的な考え方

多様な個性を持つ世界中のグループ社員一人ひとりが、共通の価値観を持ち、成長感と達成感を得ながら活躍するため、様々な能力開発の機会提供に努めるとともに、公平・公正に評価される制度づくりに取り組んでいます。

新・人事施策の導入

デンソーグループは持続的な企業成長ビジョンの実現に向け、自動車産業の新たな領域開拓を支える人材の育成方針として、2010年度に「Opening New Frontiers」をキーワードとする新・人事施策を策定・導入しました。そのめざす姿は、挑戦する風土のさらなる醸成により個人とチームの成長を促し、新たな技術・新たな市場・新たな働き方を開拓・確立することにあります。そのために、「成長し続ける個人づくり」「支え合うチームづくり」「挑戦する風土づくり」の3施策を柱に、仕組みや制度の整備を進めています。

◎新・人事施策がめざす姿



世界共通の教育体系・人材管理プロセス整備

デンソーグループの海外現地社員は約半数を占め、真のグローバル企業として各国・地域で密着したマネジメントを推進するには、現地人材の積極的な育成・登用が不可欠です。そこで最も重視しているのが、デンソー流の考え方を理解し、仕事の進め方、課題解決法、管理手法を習得することです。そのために、デンソースピリットの共有活動とともに、グローバル共通教育の開発に取り組み、順次、世界中のグループ会社に展開しています。

また、現地人材の経営幹部登用を加速するため、幹部候補育成プログラムを開発・導入するとともに、人材管理プロセス（目標管理・評価・異動・昇進など）の共通化を図っています。2010年度には、新・人事制度の導入に合わせて、海外子会社の課長級以上の社員については、日本と同じシステムで評価する体制を構築しました。こうしたグローバル施策に加え、各地域でも実情を踏まえた取り組みを進め、北米・欧州・豪亜では将来の幹部候補向け育成プログラムを開発・展開し、中国などでは製造部門を中心にコア人材育成に注力しています。

◎海外グループ会社の拠点長ポストに占める現地社員の割合

2011年度 実績	2012年度 実績	2015年度 目標
26% (19人/73ポスト)	30% (22人/73ポスト)	33%

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

- 社長メッセージ
- デンソーのCSR
- 企業行動宣言と行動指針
- 2012年度の実績と今後の課題
- コーポレートガバナンス
- 2012年度ハイライト&ローライト
- コンプライアンス
- リスク管理
- 情報セキュリティ
- デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

- お客様への責任
- 社員への責任
- 株主・投資家様への責任
- 取引先様への責任
- 地域社会・国際社会への責任

環境報告

- 環境経営
- 地球温暖化防止
- 資源循環
- 化学物質への対応
- 社会との連携

CSRヒストリー

- CSRの源流
- CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

自主性を尊重したキャリア形成と研修の充実

デンソーグループでは、全社員が毎年、自主目標を設定し、上司との定期面接を通じて能力伸展と取り組みプロセスを重視した評価を行っています。目標設定では、管理者だけでなく、全員が後進育成に関わる目標を盛り込むこととし、人材育成を重視する風土を醸成しています。また、幅広い実践経験を積むため、毎年、キャリア希望（短期・長期）を自己申告し、上司・部下の合意のもとで育成ローテーションを実施しています。

（株）デンソーでは、2010年度に新・人事施策の一環として個人の専門性向上に向けた育成指針「スキル育成ガイド」を導入し、従来のキャリアデザイン面談と合わせて運用しています。全社研修（OFF-JT）では、2010年度の新・人事施策導入を踏まえて「自ら学び、自ら考え、挑戦し続ける人材の輩出」のため研修内容を見直し、海外トレーニー派遣の促進や産学連携プログラムなど育成施策の充実にも努めています。

また、技術・技能系社員には「デンソー技研センター」や各職場において高度な育成プログラムを整備しています。

◎全社研修受講者〔（株）デンソー〕

	2010年度	2011年度	2012年度
全社研修受講者数	7万2,000名	7万1,000名	7万6,000名
総時間	90万時間	89万時間	90万時間
社員一人当たりの年間平均研修時間	24時間	24時間	24時間

【注】2010年度の数値に一部誤りがあったため修正しています。

◎デンソーからの海外トレーニー派遣人数〔（株）デンソー〕

	2010年度	2011年度	2012年度
海外トレーニー派遣人数	35人	65人	90人

◎主な受賞・認定実績

2012年 11月	厚生労働省が2012年より創設した表彰制度「キャリア支援企業表彰2012～人を育て・人が育つ企業表彰～」で厚生労働大臣表彰を受賞。（受賞会社：（株）デンソー） ◎「キャリア支援企業表彰」： http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r9852000002nomw.html
2012年 11月	中央職業能力開発協会より「平成24年度中央職業能力開発協会会長表彰」を受賞。（受賞会社：（株）デンソー技研センター） ◎中央職業能力開発協会会長表彰： 中央職業能力開発協会が、職業能力開発関係、技能検定・技能振興関係および国際協力関係に係る事業等の業績が顕著で、他の模範と認められる事業所等を表彰。

若年技能者の育成

デンソーグループは、独創的な製品開発・生産を可能とする高度な技術者・技能者の育成を企業成長の生命線と考え、1954年開設の「技能者養成所」の伝統を受け継ぐ「デンソー工業学園【注1】」（工業高校・高等専門・短大課程）を運営しています。ここで育った若手技能者の中から世界最高レベルの技を競う「技能五輪国際大会」のメダリストを多数輩出しています。

2011年10月には「第41回 技能五輪国際大会」（ロンドン）において、日本代表とタイ代表が2種目で金メダルを獲得しました。これまでの通算成績は、金メダル26個、銀メダル16個、銅メダル12個となりました。

【注1】デンソー工業学園

2011年4月、デンソー工業技術短期大学校を名称変更

◎技能五輪選手の声（抜き型職種：岡田裕哉選手）

技能五輪の訓練を通じ成長を実感できた事は、失敗やトラブルに対応する能力がついた事です。様々なミスについて問題の真因も解らないまま同じ失敗を繰り返すこともありましたが訓練を通じて原因を正しく把握し、それらに対処する方法、手順を自分で考え、実行できるようになりました。職場配属後にも活かしていきたいと思えます。



期間社員の正社員登用

（株）デンソーでは、多様な人材のキャリアアップを図るため、2005年度より期間社員から正社員への登用制度を設けています。2012年度は83名（2011年度：67名）を正社員に登用しました。なお、2012年度末時点の期間社員在籍数は4,350名です。

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

社長メッセージ
デンソーのCSR
企業行動宣言と行動指針
2012年度の実績と今後の課題
コーポレートガバナンス
2012年度ハイライト&ローライト
コンプライアンス
リスク管理
情報セキュリティ
デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

お客様への責任
社員への責任
株主・投資家様への責任
取引先様への責任
地域社会・国際社会への責任

環境報告

環境経営
地球温暖化防止
資源循環
化学物質への対応
社会との連携

CSRヒストリー

CSRの源流
CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

多様性の促進

基本的な考え方

デンソーグループは、性別・年齢・国籍などの属性を超えて「知」を活かす風土の中で多様な人材が生き生きと活躍できる環境の実現が、真のグローバル企業として成長を続けるための重要課題と考え、取り組みを進めています。

取り組み概況

事業環境の変化への柔軟性を高め、組織を持続的に成長させるためには、社員が相互の「違い」を尊重し、一人ひとりが能力を最大限に発揮して働くことが重要と考えています。(株)デンソーでは人事部内にダイバーシティ推進の専任組織を設置し、制度の拡充や社内の意識改革の推進などを通じて、「女性・高齢者・障がい者・外国人の活躍促進」に取り組んでいます。

また、グループ全体のダイバーシティ促進と企業競争力強化の観点から、海外グループ会社で現地人材の育成・登用の促進策を展開しています。

※ ダイバーシティ紹介

◎多様性の促進 [(株)デンソー] 【注1】

		2010年度	2011年度	2012年度
女性		4,580名	4,679名	4,728名
高齢者 (定年後再雇用者)		996名	1,087名	1,200名
障がい者	(株)デンソー【注2】	543名 <1.98%>	554名 <2.06%>	551名 <2.00%>
	国内グループ会社	293名 <1.78%>	307名 <1.78%>	319名 <1.76%>
外国人【注3】		74名	96名	136名

【注1】多様性の促進 [(株)デンソー] : 2011年度および2012年度の数値に一部誤りがあったため修正しています。

【注2】(株)デンソー : (株)デンソーとデンソー太陽(株)の合計

【注3】外国人 : (株)デンソー採用と海外グループ会社からの出向の合計

女性の活躍推進

(株)デンソーでは、「キャリア形成」と「仕事と生活の両立」の2つの視点から様々な施策を導入し、継続的に女性の活躍推進を図っています。

キャリア形成

女性総合職と上司を対象に、女性のキャリアや働き方を考える研修を実施しています。第一線で活躍する社外の女性の講演や、社内で管理職として働く女性のインタビューを通じて女性のキャリアへの理解を深めるとともに、女性同士が自身のキャリアについて本音で語り合うことで、社内のネットワークづくりにも繋がっています。

また、女性社員がキャリアプランや出産・復職などの悩みを気軽に相談できる窓口を設け、人事部の担当者や同じ経験を持つ女性社員が対面形式で助言を行っています。

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

社長メッセージ
デンソーのCSR
企業行動宣言と行動指針
2012年度の実績と今後の課題
コーポレートガバナンス
2012年度ハイライト&ローライト
コンプライアンス
リスク管理
情報セキュリティ
デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

お客様への責任
社員への責任
株主・投資家様への責任
取引先様への責任
地域社会・国際社会への責任

環境報告

環境経営
地球温暖化防止
資源循環
化学物質への対応
社会との連携

CSRストーリー

CSRの源流
CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRIに関する外部評価

用語集

第三者意見

仕事と生活の両立支援

育児支援を中心に柔軟な制度を整えています。

育児休職は最大で通算3年間、短時間勤務は最大で通算4年間、子が小学校を卒業するまでに分割して取得することができます。

また、育児休職中には復職後の働き方をイメージするための復職支援交流会を開催し、円滑な復職を支援しています。

そして、トヨタグループ5社共同で運営する事業所内託児施設「たっちっちハウス」では、会社カレンダーに合わせた祝日の運営だけでなく、早朝や夜間も預入れが可能のため、個人の状況に応じた多様な働き方に対応しています。

今後も女性社員の活躍の場を広げるため積極的な支援を続けていきます。

◎主な女性活躍促進策〔株〕デンソー

2006年度	<ul style="list-style-type: none"> ・育児のための短時間勤務制度の導入 ・配偶者転勤に伴う再雇用制度の拡充 ・女性フォーラムを立ち上げ ・女性配属先の拡大
2007年度	<ul style="list-style-type: none"> ・新任管理職向けダイバーシティ研修の導入 ・事業所内託児施設「たっちっちハウス」5カ所開設 ・育児休職中の社員向けネットワーク交流会を立ち上げ
2008年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ダイバーシティフォーラムの開催
2009年度	<ul style="list-style-type: none"> ・実務職の活躍促進策の展開
2010年度	<ul style="list-style-type: none"> ・育児休暇制度、短時間勤務制度の拡充 ・女性相談窓口の開設
2011年度	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所内託児所「たっちっちハウス」6カ所目を開設
2012年度	<ul style="list-style-type: none"> ・女性総合職を対象としたキャリア研修を実施

◎主な受賞・認定実績

2008年10月	厚生労働省が推進する表彰制度「均等推進企業部門」で「愛知県労働局長賞」受賞
2009年6月	厚生労働省「仕事と育児の両立支援に積極的に取り組む企業」に認定（認定マーク：くるみん）



復職支援交流会



たっちっちハウス



◎女性の採用数・役職者数〔株〕デンソー

年度		2010年度	2011年度	2012年度
採用	事務系総合職	16名 (34%)	11名 (20.8%)	12名 (23.1%)
	技術系総合職	5名 (1.8%)	9名 (3.2%)	15名 (6.2%)
	生産現場などの技能職	71名 (31.7%)	61名 (29.0%)	43名 (27.7%)
	実務職	54名	35名	38名
役職者数	班長以上	191名 (1.0%)	214名 (1.2%)	249名 (1.3%)

【注】 表中の（％）は、各職種の新採用数における女性の割合。

◎育児・介護休職取得者数〔株〕デンソー

		2010年度	2011年度	2012年度
育児休職	女性	231名	215名	228名
	男性	13名	12名	13名
介護休職	女性	2名	5名	3名
	男性	4名	3名	4名
育児のための時短	女性	127名	221名	231名
	男性	2名	0名	1名

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

社長メッセージ
デンソーのCSR
企業行動宣言と行動指針
2012年度の実績と今後の課題
コーポレートガバナンス
2012年度ハイライト&ローライト
コンプライアンス
リスク管理
情報セキュリティ
デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

お客様への責任
社員への責任
株主・投資家様への責任
取引先様への責任
地域社会・国際社会への責任

環境報告

環境経営
地球温暖化防止
資源循環
化学物質への対応
社会との連携

CSRヒストリー

CSRの源流
CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

◎育児支援

		出産	小学校入学	小学校卒業
育児休職	法律	1歳6ヵ月まで		小学校卒業までの継続サポート
	現在	通算3年		
短時間勤務 (6時間/日)	法律	3歳に達するまで		小学校卒業までの継続サポート
	現在	通算4年		
時間外労働 (残業)免除	法律	3歳に達するまで		
	現在			
時間外労働制限 24時間/月 150時間/年	法律			小学校卒業までの継続サポート
	現在			
子の 看護休暇	法律	子1人：年5日 子2人以上：年10日		年5日（子の人数不問）
	現在	子1人：年5日 子2人以上：年10日		

◎介護支援

介護休職 ^{【注】}	法律	93日
	現在	通算1年
介護休暇	法律	要介護の対象家族がいる者に対し、特別休暇を付与 要介護者1人：年5日 要介護者2人：年10日
	現在	法律要件どおり

【注】改定なし

高年者の活躍支援

(株)デンソーでは、高年者の豊かな経験と能力の発揮、および本人の働きがいの支援に向けて、様々な活動に取り組んでいます。

活躍機会の創出

定年後の活躍の場として、下記の制度を導入しています。

制度	開始時期	制度概要
キャリアアソシエイト制度	2006年度	全社員を対象とする定年後再雇用制度。 多様な就労希望に応えるため、短時間・短日数勤務も導入。 【注】高年齢者雇用安定法の改正を踏まえ、2013年より希望者全員を再雇用する制度へ見直しを実施。
シニアチャレンジ制度		社外での就労機会を提供。

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

- 社長メッセージ
- デンソーのCSR
- 企業行動宣言と行動指針
- 2012年度の実績と今後の課題
- コーポレートガバナンス
- 2012年度ハイライト&ローライト
- コンプライアンス
- リスク管理
- 情報セキュリティ
- デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

- お客様への責任
- 社員への責任
- 株主・投資家様への責任
- 取引先様への責任
- 地域社会・国際社会への責任

環境報告

- 環境経営
- 地球温暖化防止
- 資源循環
- 化学物質への対応
- 社会との連携

CSRヒストリー

- CSRの源流
- CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

キャリア形成

早いタイミングで将来の生き方・働き方を考える機会の提供と、希望進路の実現に向けて計画的に準備を進めるための仕組みを導入しています。下記施策を有機的に結びつけ、高齢者の活躍促進につなげていきます。

制度	開始時期	制度概要
キャリア・ライフマネジメント研修	2011年度	今後の人生設計・めざす活躍像を自主的に考える。
キャリアカウンセラー面談	2011年度	自分の今後のキャリア設計等について専門家と相談する。
キャリア話し合い制度	2011年度	将来の活躍に向けた計画的な準備に取り組めるよう上司と継続的に話し合う

また、社員の専門性や実績などを目に見える形で処遇し、社員のモチベーション向上や専門性強化を図っています。

制度	開始時期	制度概要
認定プロフェSSIONナル制度	2010年度	極めて高い専門性・実績を持ち、今後も事業拡大への貢献ができ、後進の目標となる人材を認定する制度。 対象：課長格以上の技術系（技師） 技能系（工師）の社員。 【注】2012年度は2名が認定。（認定者総数：13名）

障がい者雇用の促進

（株）デンソーでは、1978年に障がい者の定期採用を開始し、以降、雇用・職域の拡大、教育・研修や施設整備に積極的に取り組んでいます。現在、人事部の専任者が採用から入社後支援までを一貫して担当するとともに、人事部・各製作所人事部門に障がい者支援チームを設置し、入社後支援に向けてさまざまな取り組みを行っています。



（株）デンソー太陽

◎最近の主な取り組み〔（株）デンソー〕

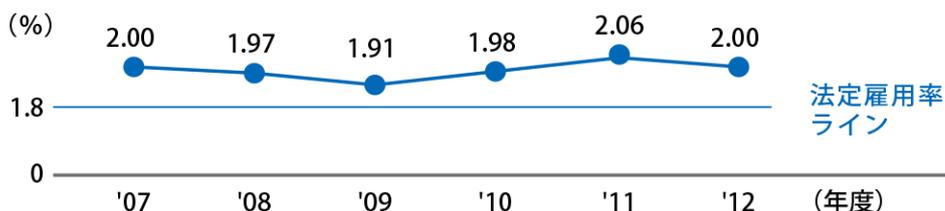
開始時期	取り組み
2010年度	・聴覚・知的障がいを持つ社員向けの相談窓口の設置 ・障がいを持つ新入社員向けのフォロー面談の定例化
2012年度	・社内で手話のできる社員が聴覚障がいを持つ社員をサポートする「手話サポート制度」の導入 ・各製作所にて障がい者を部下に持つ上司との意見交換会の実施。

また、特例子会社【注1】である「デンソー太陽」を1984年に設立し、主に自動車用コンビネーションメータを生産しています。ここでは、バリアフリーの徹底や障がいにあわせた設備導入などにより、障がい者による自立した生産活動につなげています。

（株）デンソーでは「2015年までに障がい者雇用率2.1%」の目標を掲げており、2012年度の実績は2.00%、551名が正社員として勤務しています（デンソー太陽（株）を含む）。

【注1】特例子会社 障がい者の雇用促進を目的に設立された子会社

◎障がい者雇用率の推移〔（株）デンソー〕



注) 特例子会社 デンソー太陽(株)を含む

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

社長メッセージ
デンソーのCSR
企業行動宣言と行動指針
2012年度の実績と今後の課題
コーポレートガバナンス
2012年度ハイライト&ローライト
コンプライアンス
リスク管理
情報セキュリティ
デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

お客様への責任
社員への責任
株主・投資家様への責任
取引先様への責任
地域社会・国際社会への責任

環境報告

環境経営
地球温暖化防止
資源循環
化学物質への対応
社会との連携

CSRヒストリー

CSRの源流
CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

「社員満足」向上への取り組み

全社運動会の開催

(株)デンソーでは、職場の一体感を醸成する全社規模のイベントとして、2011年に「全社運動会」を24年ぶりに復活開催しました。これは、地区予選を勝ち抜いた代表チームが対戦し、全社決勝大会でNo.1を競い合うもので、2012年度は予選から決勝まで、のべ約1万4千人が参加しました。2013年度も継続し、10月下旬に開催する予定です。



全社運動会



I love DENSOプロジェクト

(株)デンソーでは2011年から2012年に社員から愛される会社をめざして、「I love DENSOプロジェクト」を展開しました。これは、社員一人ひとりが会社を見つめ直し、誇りと愛着を持って、楽しく元気に働ける会社を実現するための活動です。

以下、実施したイベントをご紹介します。

デンソーCMアイデアコンテスト

社員が考え、つくったCMアイデア作品は、どれもデンソーらしいものになりました。社員投票で選ばれたグランプリ作品と4つの優秀作品をご覧ください。

▶ デンソーCMアイデアコンテスト (http://www.denso.co.jp/ja/csr/sociality_report/employee/es/1st_stage/index.html)

デンソーPhotoコンテスト

"デンソーの魅力"をテーマに、社員から写真とその思いを募集しました。社員投票および審査の結果、選ばれた12点の優秀作品（グランプリ含む）をご覧ください。

▶ デンソーPhotoコンテスト (http://www.denso.co.jp/ja/csr/sociality_report/employee/es/2nd_stage/index.html)

社員の意識調査

(株)デンソーでは、社員の仕事に対する意欲や上司・職場に対する満足度などを把握し、管理者にフィードバックすることにより、職場の自律的改善を促すとともに人事施策の検討にも活用しています。

具体的には、定期的な全社員を対象に、やる気の向上・阻害要因を職場別に調査する「モチベーション・サーベイ」を実施しています。2009年のサーベイでは、リーマンショック以降の急激な環境変化を踏まえた社員の意識変化も確認しました。

また、ITを活用した簡易的な「職場力アンケート」を半年ごとに行っています。これは管理者が部下の業務状況や能力を把握し、今後の仕事の配分・育成・コミュニケーションに繋げていくために約30項目を設問化し、定量的に職場の強み・弱みを評価してフィードバックするものです。また、職場力が高いマネジメント事例の横展開、職場力が低い部署への個別サポートなどを実施し、全社の職場力向上を図っています。

福利厚生

(株)デンソーでは、多様化する福利厚生ニーズに応えるため、2007年から選択型福利厚生制度「デンソーカフェテリアプラン」を採用しています。これは会社から社員（常勤嘱託を含む）にあらかじめポイントを付与し、用意された多種多様なメニュー（旅行・食事・介護など）の中から、ポイントの範囲内で会社から補助を受けられるものです。このほか、保養所・独身寮などの施設、財産形成支援制度やグループ保険制度なども設け、社員の生活の充実を支援しています。

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

社長メッセージ
デンソーのCSR
企業行動宣言と行動指針
2012年度の実績と今後の課題
コーポレートガバナンス
2012年度ハイライト&ローライト
コンプライアンス
リスク管理
情報セキュリティ
デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

お客様への責任
社員への責任
株主・投資家様への責任
取引先様への責任
地域社会・国際社会への責任

環境報告

環境経営
地球温暖化防止
資源循環
化学物質への対応
社会との連携

CSR歴史

CSRの源流
CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

安全衛生の推進

安全基本理念と推進体制

(株)デンソーは、1969年に「安全基本理念」を制定し、その中で「安全で働きやすい職場づくりこそ、人間尊重と高生産性を両立させ得る最善策」という方針を明文化。同時に、「デンソー安全衛生環境基準（通称DAS）」を定め、中央安全委員会（委員長：担当副社長、副委員長：労働組合代表）のもと、事業グループ、職場、グループ会社ごとに委員会を設置し、管理者・産業医・労働組合が一体となって安全衛生の継続的な向上に取り組んでいます。

1.安全衛生環境基本理念

人は働くことによって生命を失うことはもとより、健康・身体機能を損なうことがあってはならない。

1. 安全で働きやすい職場づくりこそ、人間尊重と高生産性を両立させ得る最善策であることを徹底する。
2. 国内外のすべての事業活動において、地球環境の保全、生態系や資源保護に配慮すると共に、環境保全を通じ、地域社会との共生に努める。
3. これらの活動は、各機能、各職制および職場の一人ひとりが創意と工夫を結集し、全員参加で行う。

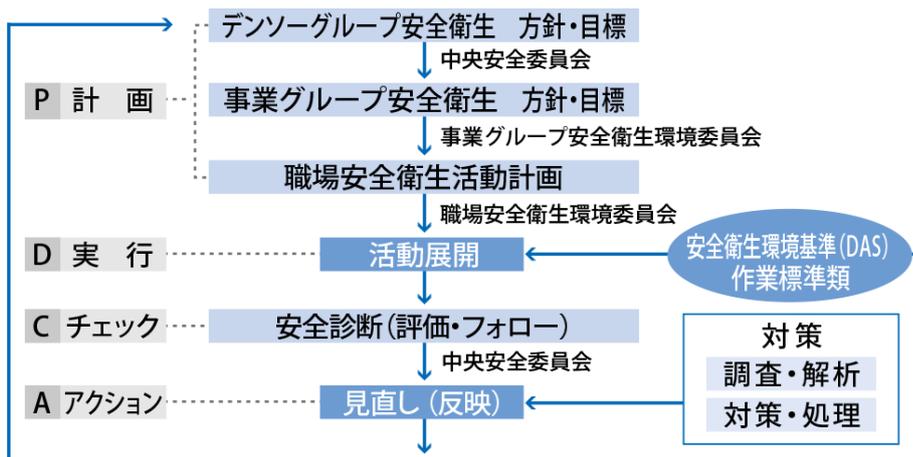
2.基本理念実践のための行動指針

1. 安全・健康は事業活動を行っていく上での前提条件であり、一人ひとりが「安全最優先」で行動することを徹底する。
2. 法令、会社規程及びDASを順守する。
3. 安全衛生環境マネジメントシステムを確実に運用し、安全で働きやすい職場の維持・向上、並びに環境保全への取り組みを継続的に進める。
4. 環境保全活動には、技術開発、工場運営並びに社員一人ひとりの行動にわたり"環境との調和ある成長・豊かな循環型社会の構築"に貢献するように取り組む。
5. 地域のより良い未来づくりのために、社会の共感を得られる活動を、独自に又は地域社会と協力して取り組む。
6. 「品質と安全のデンソー」をモットーに、一人ひとりの創意と工夫を活かした改善活動など、「ゼロ災害・事故」を目指して、全員参加による安全衛生環境活動を積極的に進める。

労働安全衛生マネジメント

デンソーグループでは国内外の「労働安全衛生マネジメントシステム（OSHMS）規格」を参考にPDCAサイクルを運用しています。また、定期的に「グループ安全会議」を開催し、方針・施策の検討や改善課題の進捗状況などを討議しています。なお、2012年度までに海外グループ30社が英国規格協会の定めたOHSAS18001を認証取得しています。

◎デンソー労働安全衛生マネジメントシステム



社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

- 社長メッセージ
- デンソーのCSR
- 企業行動宣言と行動指針
- 2012年度の実績と今後の課題
- コーポレートガバナンス
- 2012年度ハイライト&ローライト
- コンプライアンス
- リスク管理
- 情報セキュリティ
- デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

- お客様への責任
- 社員への責任
- 株主・投資家様への責任
- 取引先様への責任
- 地域社会・国際社会への責任

環境報告

- 環境経営
- 地球温暖化防止
- 資源循環
- 化学物質への対応
- 社会との連携

CSRヒストリー

- CSRの源流
- CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

2012年度の活動実績

2012年度は、「グローバルな連携を密にした重大災害防止PDCAの強化」を重点方針に掲げ、グループ会社を含む重大災害リスクの顕在化・対策の強化と自発的に安全行動ができる人・職場づくりに向けた安全感性向上活動に取り組んできました。

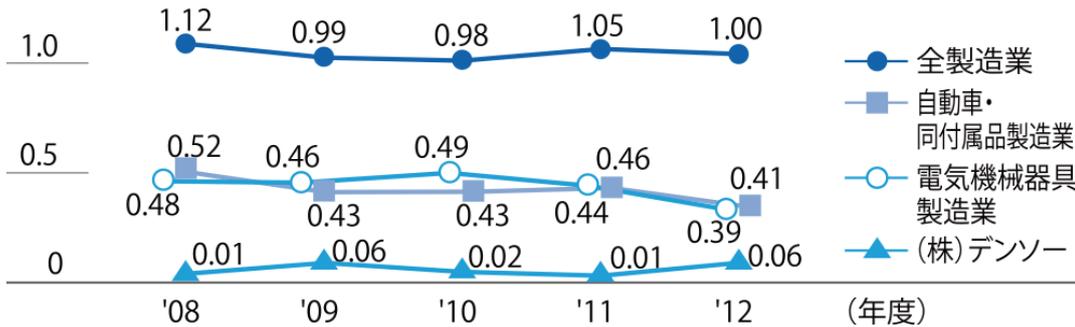
2013年度は「重大災害防止対策」の完遂と「自分の身を自分で守れる」人づくりの推進を重点に、顕在化した重大災害リスクに対する低減対策のやりきりに加え、プレス機械など高リスク設備・作業のリスク再評価と改善に取り組めます。また、安全感性向上活動では、事例集の発行・配布による職場活動の見直し・充実と活動の活性化を図ります。

◎管理項目と実績

(2012年度)

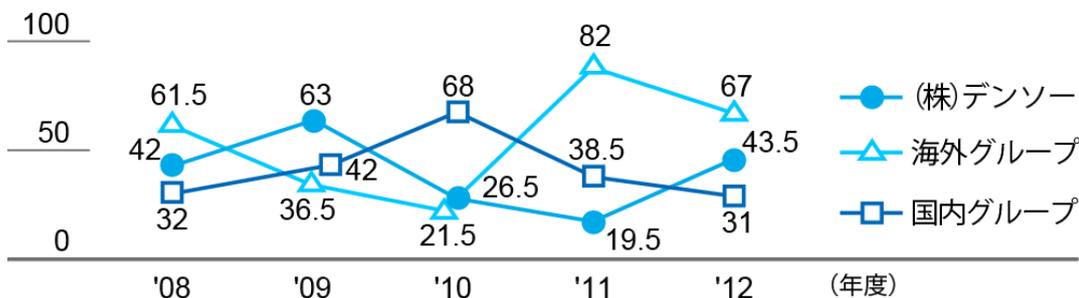
管理項目	(株)デンソー			国内グループ			海外グループ		
	目標	実績	評価	目標	実績	評価	目標	実績	評価
安全点 (件数)	60	43.5 (16)	○	60	31 (7)	○	84	67 (16)	○
休業 度数率	0.05	0.03	○	0.06	0.06	○	0.10	0.06	○
[連結]目標:0.08 実績:0.05 評価:○									

◎労働災害発生率 (休業度数率)



[休業度数率=休業災害件数÷延べ労働時間×100万]

◎安全点 (災害の大きさや種類に応じて点数化したもので低いほど良好)



社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

社長メッセージ
 デンソーのCSR
 企業行動宣言と行動指針
 2012年度の実績と今後の課題
 コーポレートガバナンス
 2012年度ハイライト&ローライト
 コンプライアンス
 リスク管理
 情報セキュリティ
 デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

お客様への責任
 社員への責任
 株主・投資家様への責任
 取引先様への責任
 地域社会・国際社会への責任

環境報告

環境経営
 地球温暖化防止
 資源循環
 化学物質への対応
 社会との連携

CSRヒストリー

CSRの源流
 CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

社員の健康づくり

基本的な考え方

デンソーグループでは「企業行動宣言」の中で「個々人が生き生きと働けるよう努める」と社員への責任を明文化し、事業活動を展開する各国・地域の法律や文化・歴史を尊重した適切な健康管理に注力しています。特に社員の心身両面にわたるきめ細かなケアが求められている日本では、「予防・啓発、相談・早期発見、治療・復帰」に至る一連の体系のもと、メンタルヘルス、生活習慣病の予防など関係部門と健康管理スタッフが一体となって心身両面の健康づくりに取り組んでいます。

◎社員の健康づくり〔株〕デンソー

		2010年	2011年	2012年
健康診断受診率		100%	100%	100%
CSRサーベイ:精神疲労度【注1】		47%	51%	42%
メンタルヘルス 研修受講者	管理職	1,806名 (33回)	1,110名 (24回)	520名 (18回)
	一般社員	343名 (18回)	590名 (15回)	494名 (8回)
メタボ予防・改善教育受講		1,082名	2,089名	2,035名
ヘルスアップ活動参加者		2,515名	2,413名	2,772名

【注1】CSRサーベイ:精神疲労度

社員1,000名を対象にしたCSRに関するアンケート。職業生活に関して精神的な疲労を感じている人の割合。

メンタルヘルス

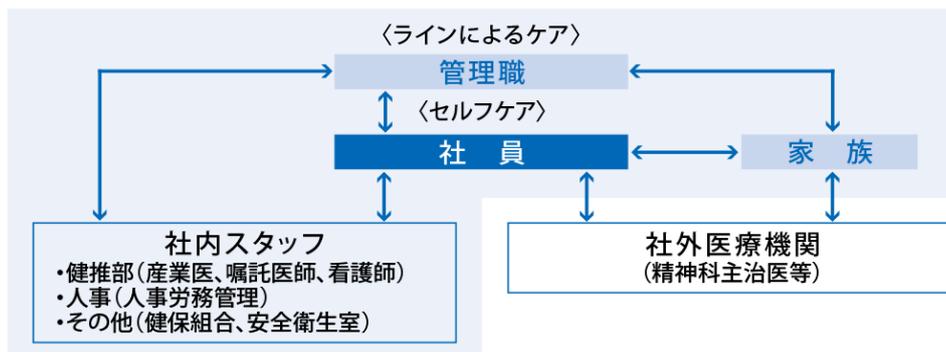
(株)デンソーでは、ストレスによる心身障害の予防には、風通しの良い職場づくりが重要との方針から、面談制度やコミュニケーション向上の支援策などを進めるとともに、全製作所の「こころの相談室」では、専任の医療スタッフが常時対応し、職場と綿密に連携した支援を推進しています。

また、2006年度に導入した職場復帰支援制度も年ごとにサポート体制を充実し、退職後の社員が円滑に職場復帰できるよう配慮しています。

2012年度は、日本生産性本部メンタルヘルス研究所による「心の健康診断」を前年度に続いて実施し、1,200名が受診して本人や職場が助言を受けました。これにより、2008年度から開始した「心の健康診断」を全社員が受診したことになります。

海外グループ会社では欧米拠点を中心に「EAP（社外機関を活用した従業員支援プログラム）」を導入し、心身のケアに努めています。教育啓発活動は、イントラネットなどを活用した啓発や社員各層を対象としたメンタルヘルス教育・研修を継続的に行っています。

◎メンタルヘルスケア体制



社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

社長メッセージ
 デンソーのCSR
 企業行動宣言と行動指針
 2012年度の実績と今後の課題
 コーポレートガバナンス
 2012年度ハイライト&ローライト
 コンプライアンス
 リスク管理
 情報セキュリティ
 デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

お客様への責任
 社員への責任
 株主・投資家様への責任
 取引先様への責任
 地域社会・国際社会への責任

環境報告

環境経営
 地球温暖化防止
 資源循環
 化学物質への対応
 社会との連携

CSRヒストリー

CSRの源流
 CSR年表

CSR情報の編集方針

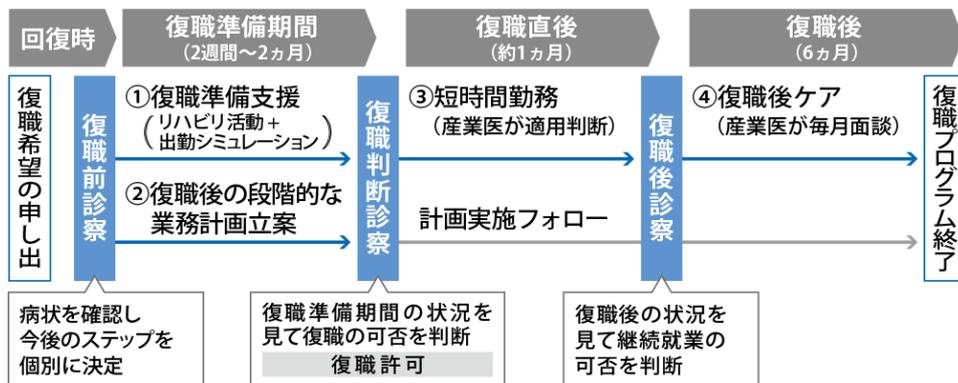
経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

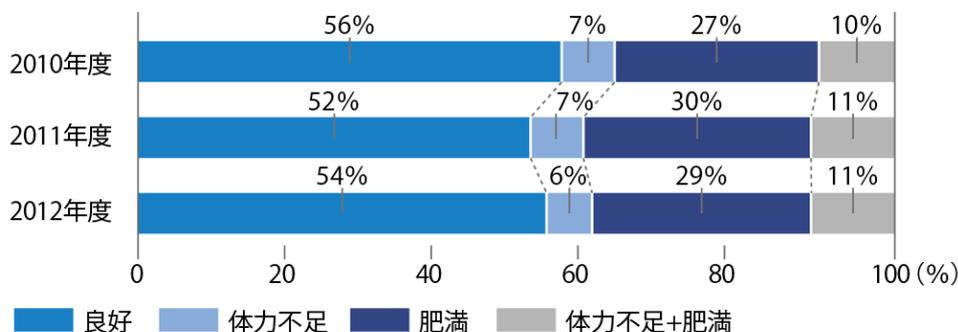
◎メンタル職場復帰支援制度



ヘルスアップ活動

(株)デンソーでは、増加傾向にある生活習慣病（高脂血症・高血圧・糖尿病）の予防対策として、食事・生活習慣の改善に向けた集合教育・個人別指導を行っています。また、メタボリック症候群・内臓脂肪型肥満の抑制と健康体力の維持・増進のための「ヘルスアップ活動」を全職種に展開しています。

◎体力・肥満の状況 [(株)デンソー]



多面的な健康づくりプログラム

(株)デンソー・デンソー健康保険組合・(株)デンソーウェルの3者が「DO！ヘルシーライフ推進委員会」を結成し、家族とともに参加できる肥満・疾病予防や運動習慣などのプログラムを企画・提供しています。

また、毎月1日を「禁煙デー」とし、ポスター掲示や社内放送などで積極的に禁煙を呼びかけています。特に2011年度には全社横断的な喫煙対策プロジェクトを立ち上げ、喫煙環境・職場・個人の3方向からのアプローチにより、健康障害リスクの低減と受動喫煙防止に労使一体で取り組んでいます。



「禁煙デー」ポスター



体力づくり教室

◎主なプログラム [(株)デンソー]

(2012年度)

名称	内容	参加者
体力づくり教室	エアロビクス・ヨガなど	2,146名
スマイルウォーク	万歩計による自主活動	632名
健康づくり教室	生活習慣改善コース (6カ月)	724名
禁煙支援	通信型禁煙支援 (3カ月) など	634名

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

- 社長メッセージ
- デンソーのCSR
- 企業行動宣言と行動指針
- 2012年度の実績と今後の課題
- コーポレートガバナンス
- 2012年度/ハイライト&ローライト
- コンプライアンス
- リスク管理
- 情報セキュリティ
- デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

- お客様への責任
- 社員への責任
- 株主・投資家様への責任
- 取引先様への責任
- 地域社会・国際社会への責任

環境報告

- 環境経営
- 地球温暖化防止
- 資源循環
- 化学物質への対応
- 社会との連携

CSRヒストリー

- CSRの源流
- CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

株主・投資家様への責任

基本的な考え方

デンソーグループは、「企業行動宣言」の中で「長期安定的な成長を通じて企業価値の向上をめざすこと、事業・財務情報の適時・適切な開示と対話を通じて経営の透明性を高めること」を株主・投資家の皆様への責任として明文化しています。この方針に基づき、経営戦略や財務情報などの企業情報を適時性・公平性・正確性・継続性を重視して発信しています。また、株主総会・ホームページなどを通じて双方向の良好なコミュニケーションを図るIR（インベスター・リレーションズ）活動を展開しています。

情報開示とIR活動

IR情報の開示は、公平性と透明性を期すため、法定開示基準の順守はもちろん、原則として日本語版・英語版を同時期に作成し、国内外で情報のタイムラグが生じないように努めています。

また、ホームページで四半期ごとに財務情報を開示するとともに、投資機会促進のため機関投資家・アナリストの方々に説明会を開催しています。毎年6月に開催する定時株主総会は、ホームページで動画配信を行うとともに、総会を活用した工場見学会も開催し、情報開示の充実に努めています。



定時株主総会（2013年6月）

◎IR活動内容

対象者	IR活動
国内機関投資家 証券アナリスト	四半期ごとの決算説明会、個別訪問／個別取材、スモールミーティング、アナニュアルレポートの発行
海外機関投資家	個別訪問／個別取材、電話会議、証券会社主催カンファレンス参加 主要モーターショーIRカンファレンス参加、アナニュアルレポートの発行
個人株主・投資家	工場見学会（株主総会終了後） 事業報告書の発行

配当政策と株式の状況

配当方針は、連結業績・配当性向などを総合的に勘案しながら、1株当たりの配当金額の増額に努めています。同時に、厳しい事業環境が続く中であらゆる支出を絞り込みつつ、必要な投資・開発のための適切な内部留保を確保した上で適切な還元水準に努めています。

2012年度は、これまでの業績推移と経営環境を踏まえ、年間で前年より18円増の64円とし、今後も配当性向30%をめざしてまいります。

◎株式保有者の分布情報

(2013年3月末現在)



外部機関からの評価

デンソーグループは、「社会的責任投資（SRI【注1】）」において、「DJSI【注2】」のAsia Pacific Index、欧州の代表的指標のひとつ「ESI【注3】」にも連続選定されるなど高い評価を受けています。

【注1】 SRI Socially Responsible Investing

【注2】 DJSI Dow Jones Sustainability Indexes

米国ダウ・ジョーンズ社とスイスの調査会社SAM社が選定する指標で、大手企業約2,500社から上位約10%の企業を選定。「Asia Pacific Index」ではアジア・太平洋地域の主要企業約600社を対象にSRI調査が実施され、12年度は154社（うち日本企業は74社）が選定された。

≫ DJSI(<http://www.sustainability-indices.com/index.jsp>)

【注3】 ESI Ethibel Sustainability Index

ベルギーの非営利団体エティベル社が、世界の主要企業約1,500社の中から社会的責任の取り組みを評価し約200社を選定。

≫ ESI(http://forumethibel.org/content/home_ja.html)

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

社長メッセージ

デンソーのCSR

企業行動宣言と行動指針

2012年度の実績と今後の課題

コーポレートガバナンス

2012年度ハイライト&ローライト

コンプライアンス

リスク管理

情報セキュリティ

デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

お客様への責任

社員への責任

株主・投資家様への責任

取引先様への責任

地域社会・国際社会への責任

環境報告

環境経営

地球温暖化防止

資源循環

化学物質への対応

社会との連携

CSRヒストリー

CSRの源流

CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRIに関する外部評価

用語集

第三者意見

関連情報

▶ 株主・投資家情報(<http://www.denso.co.jp/ja/investors/index.html>)

取引先様への責任

取引先様のうち、仕入先様との取り組みについて紹介します。

基本的な考え方

デンソーグループでは、35の国・地域で事業展開するグローバル企業として部品・原材料・設備の最適調達をめざし、約5,000社の仕入先様から年間2.0兆円規模の調達（現地調達率約70%）を行っています。活動にあたっては「自由・公正・透明な取引」を基本に5つの方針を定め、国籍・企業規模・実績にかかわらず公平に参入機会を提供する「オープン・ドア・ポリシー」、対等なパートナーとして仕入先様との相互発展、下請法など各国・地域の法令順守などを明文化しています。基本方針は全グループ会社で共有し、ホームページ（日本語・英語）で公開するとともに取引開始までの手順・窓口もご案内しています。

◎調達における基本的な考え方

- (1) オープン・ドア・ポリシー
- (2) 相互信頼に基づく相互発展
- (3) 環境に配慮した「グリーン調達」の推進
- (4) “良き企業市民”をめざした現地調達の推進
- (5) 法規順守と機密保持の徹底

推進体制と評価の仕組み

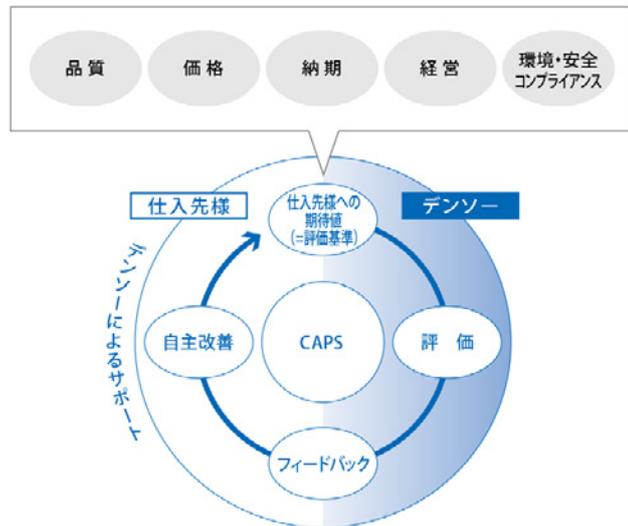
（株）デンソーでは、毎年、主要仕入先様約300社を対象に「仕入先総会」を開催して調達方針を説明しています。グローバル競争の中で相互成長を図るため「仕入先評価制度（CAPS【注1】）」を設定し、（株）デンソーおよび国内グループの生産会社で運用。優良な仕入先様を表彰するなど、パートナーシップの強化に努めています。また、米州・欧州・豪亜・中国のグループ生産会社でもCAPSを運用し、各国・地域の特性を勘案しながら定着・浸透を図っています。

なお、2009年1月、仕入先様に対する「One-Policy」「One-Voice」の具現化と双方向コミュニケーションの活性化を目的に「調達グループ」を新設し、調達機能を統合。さらに、2010年7月に、調達グループを組織改編し（業種軸調達体制の拡充等）、「仕入先支援室（2012年1月より調達技術室に改称）」を新設。事業グループごとに分散していた仕入先様への支援機能を集約してサポート体制の強化を図りました。

【注1】 CAPS

Constitution Assessment Program for Suppliers

◎CAPSの仕組みと運用



サプライチェーンでのCSR推進

CSR調達の考え方

多国籍企業には、社会的影響力の大きさから自社はもちろん仕入先様に対しても、法令順守、人権・労働、環境、企業倫理などに配慮した企業行動を促す施策が期待されています。このようにサプライチェーン全体で社会的な責任を実践する「CSR調達」の推進こそ、社会から信頼・共感される企業をめざすデンソーグループの使命と考えています。

そこで、（株）デンソーでは部品、原材料、設備購入を含む全仕入先様に、下記事項を依頼しました。

- (1) 「企業行動宣言」への同意
- (2) CSR窓口担当者の配置
- (3) 「コンプライアンス・人権擁護・環境保全・職場安全など社会的責任の順守」を盛り込んだ「取引基本契約書」の再締結（2008年3月までに全仕入先様と再締結）

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

社長メッセージ
 デンソーのCSR
 企業行動宣言と行動指針
 2012年度の実績と今後の課題
 コーポレートガバナンス
 2012年度ハイライト&ローライト
 コンプライアンス
 リスク管理
 情報セキュリティ
 デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

お客様への責任
 社員への責任
 株主・投資家様への責任
[取引先様への責任](#)
 地域社会・国際社会への責任

環境報告

環境経営
 地球温暖化防止
 資源循環
 化学物質への対応
 社会との連携

CSRヒストリー

CSRの源流
 CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

これまでの展開

(株)デンソーでは、2009年度から仕入先様との協働によるCSR活動をさらに強化するとともに、業界団体（日本自動車工業会・日本自動車部品工業会）やお客様の要請内容を集約・一本化し、仕入先様が効率的にCSR活動を推進いただけるよう下記の取り組みを行いました。

- (1) 「仕入先様向けCSRガイドライン」の新規策定
- (2) 「活動手引き」の紹介
- (3) 「自己診断シート」の提供（2010年度に従来版を改訂） など

これらの内容については、2010年4月から順次「仕入先様向け説明会」を開催し、2011年3月までに国内および海外（北米・南米・欧州・豪亜・中国・韓国）ともにCSR関連ツールの展開を完了しています。
なお、仕入先様には、さらにその仕入先様（デンソーグループにとっての二次仕入先様）へご展開いただくように要請しています。

また、診断結果を仕入先様に順次フィードバックし、各社で強み・弱みを把握いただき、その上で社内外の専門家を講師とする勉強会（コンプライアンス、知的財産の保護、労働時間管理など）を開催するなどして、仕入先様の改善活動をサポートしています。今後は、自己診断・点検・改善のサイクル定着に向け、仕入先様と一体となって継続的なレベルアップを図ります。

仕入先様CSRガイドライン（日本語版、英語版）PDF

- ▶ 仕入先様CSRガイドライン【日本語】(PDF:4.0MB) 
[http://www.denso.co.jp/ja/csr/sociality_report/supplier/files/Supplier_CSR_guidelines\(japanese\).pdf](http://www.denso.co.jp/ja/csr/sociality_report/supplier/files/Supplier_CSR_guidelines(japanese).pdf)
- ▶ Supplier CSR guidelines【English】(PDF:2.0MB) 
[http://www.denso.co.jp/ja/csr/sociality_report/supplier/files/Supplier_CSR_guidelines\(English\).pdf](http://www.denso.co.jp/ja/csr/sociality_report/supplier/files/Supplier_CSR_guidelines(English).pdf)

◎「仕入先様向けCSRガイドライン」の主な内容

- (1) 安全・品質
- (2) 人権・労働
- (3) 環境
- (4) コンプライアンス
- (5) 情報開示
- (6) リスクマネジメント
- (7) 社会貢献
- (8) 皆様の仕入先様への展開

◎CSR調達のための展開ツール

ツール	概要
CSRガイドライン	(株)デンソーの取り組みの考え方や仕入先様の順守事項を明文化
手引き	ガイドライン順守に向けて、重点分野（コンプライアンス、人権・労働など）について、何をどのように取り組むべきかを具体的に解説
自己診断シート	重点分野について現状の取り組み状況の自己診断が可能

◎CSR調達の展開状況と今後の計画

狙い	実施事項	日本		海外
		(株)デンソー 一次仕入先様【注】	国内グループ会社 一次仕入先様	海外グループ会社 一次仕入先様
周知	CSRガイドラインを配布	2010年 4月完了	2010年 6月完了	2011年 3月完了
強み・弱みを見える化	手引き・診断シートを配布し自己診断	430社 展開完了	300社 展開完了	300社 展開完了
	診断シートを回収・分析・フィードバック	フィードバック済	フィードバック済	展開中
改善	勉強会（講演など）開催	適宜実施中		
点検	デンソー担当者が訪問しエビデンスに基づきチェック	適宜実施中		

【注】二次仕入先様は、一次取引先様から自主的に展開いただく。

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

社長メッセージ
デンソーのCSR
企業行動宣言と行動指針
2012年度の実績と今後の課題
コーポレートガバナンス
2012年度ハイライト&ローライト
コンプライアンス
リスク管理
情報セキュリティ
デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

お客様への責任
社員への責任
株主・投資家様への責任
[取引先様への責任](#)
地域社会・国際社会への責任

環境報告

環境経営
地球温暖化防止
資源循環
化学物質への対応
社会との連携

CSRヒストリー

CSRの源流
CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

仕入先様との交流および支援活動

仕入先様と交流を深める施策の一環として、調達方針や各事業部の取り組み内容の情報提供を行う「仕入先総会」「事業動向説明会」などを実施しています。

◎仕入先表彰(2012年度)

2013年度仕入先総会(5月20日)において、優良仕入先様の表彰(表彰仕入先数:39社)を行うとともに、情報共有の場として各社の受賞内容を紹介する展示ブースを設けました。

また、2012年度は「みんなで東北を応援しよう!」をテーマに募金や東北物産展、国内デンソーグループ社員で結成されたフラガールによる復興支援活動の紹介などがあり、仕入先総会を通じて多くのつながりが生まれました。



会場に設けられた東北物産展



仕入先表彰式

【受賞仕入先様の声】

住友軽金属工業 山内社長様

熱交換機のアルミ材料開発をメインに共同で開発に取り組んできました。今回の受賞はうれしく、また誇りに思っています。今後もグローバルな視点でお役に立てる会社にしていきたいです。



Burgmaier Metalltechnik Schick CEO様

2002年から切削、ダイカスト製品を中心に部品の取引がスタートし、今回海外優良仕入先賞を受賞することができ、本当に光栄です。取引を通じて多くのことを学んでおり、今後も良きパートナーとしての関係を継続していきたいと思っています。



関連情報

▶ 調達情報 (<http://www.denso.co.jp/ja/aboutdenso/purcha/act/>)

グリーン調達ガイドライン

「デンソーエコビジョン2015」に基づく環境負荷物質の継続的な削減に向け、「グリーン調達ガイドライン」を設けています。これに基づき、仕入先様に下記事項を要請しています。

- (1) 環境マネジメントシステムの構築
- (2) 環境負荷物質の管理と削減
- (3) 生産段階での環境改善への取り組み
- (4) ライフサイクルアセスメント対応
- (5) 物流に関わるCO₂排出量、梱包・包装資材の低減

調達部門の自由・公正・透明な取引の実践活動

(株)デンソーでは、調達部門自らも「自由・公正・透明な取引」を点検・検証する仕組みの強化に取り組んでいます。考え方や行動規範が明記された「社員行動指針」「バイヤーのビジネスマナー」を調達に関わる全社員に配布し、仕入先様には内部通報制度の活用を呼びかけてきました。

また、2012年4月には取引における順守事項を明確化した「コンプライアンスカード」を仕入先様と社内調達部門に配布して、共有することにより、社内外に対しコンプライアンスの再徹底を図っています。

関連情報

▶ 調達組織と主要調達品目 (<http://www.denso.co.jp/ja/aboutdenso/purcha/item/>)

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

社長メッセージ
デンソーのCSR
企業行動宣言と行動指針
2012年度の実績と今後の課題
コーポレートガバナンス
2012年度ハイライト&ローライト
コンプライアンス
リスク管理
情報セキュリティ
デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

お客様への責任
社員への責任
株主・投資家様への責任
取引先様への責任
地域社会・国際社会への責任

環境報告

環境経営
地球温暖化防止
資源循環
化学物質への対応
社会との連携

CSRヒストリー

CSRの源流
CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

基本的な考え方

デンソーグループは、社会との調和ある成長をめざし、企業行動全般にわたって、環境保全、安心・安全の向上に率先して努めています。

そして、地域社会・国際社会への責任に対する取り組み強化に向けて、地球温暖化防止、生物多様性の保全に加え、従来より活動を続けてきた「交通安全」を2013年度からデンソーグループ社会貢献活動の重点分野として明示。社会と経済の両立に貢献するよう、社員一人ひとりの行動に反映して取り組んでいます。

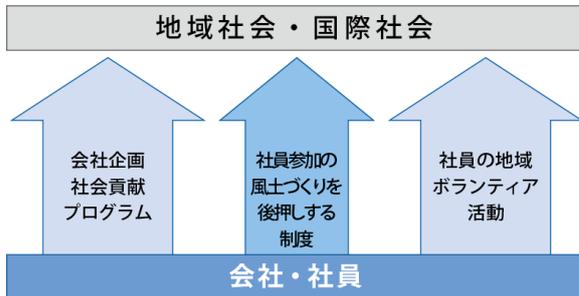
デンソーグループ社会貢献活動の重点分野

デンソーグループは事業活動を行う地域で、地域社会の課題解決に繋がる以下の重点分野の社会貢献活動を通じて地域で愛される会社を目指します。

1. 環境との共生
2. 交通安全
3. 人づくり（青少年育成、障がい者福祉）

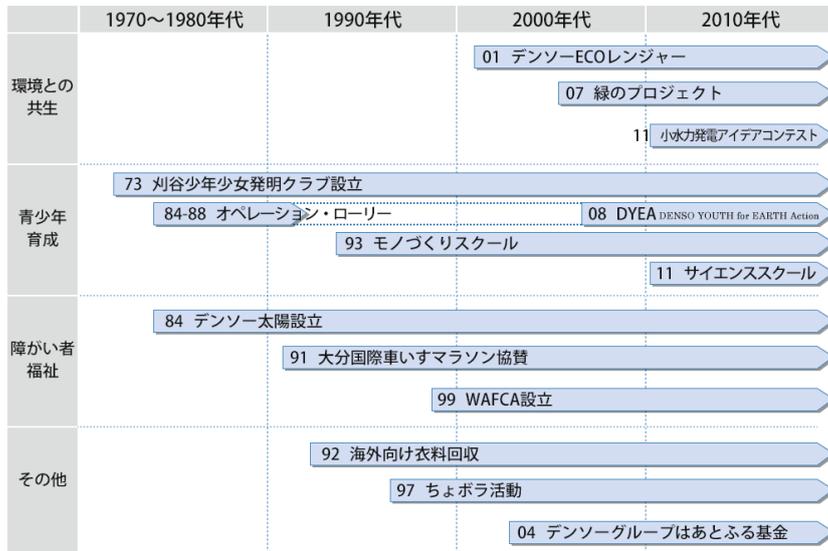
<デンソー社会貢献活動の構成イメージ>

- 私たちは、「デンソーらしさ」を取り込んだ社会貢献活動の推進を通じて、地域社会から信頼・共感される会社づくりに取り組みます。
- 私たちは、社員の地域ボランティア活動サポートを通じて、社員と地域社会のつながりを応援します。



デンソーグループ社会貢献活動の歴史

デンソーグループは地域社会への感謝の気持ちを大切に、さまざまな社会貢献活動を行ってきました。ある時は子どもたちの成長を応援する取り組みを、ある時は障がいを持つ人たちに寄り添いながら、デンソーらしい社会貢献を模索し実践してきました。



社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

- 社長メッセージ
- デンソーのCSR
- 企業行動宣言と行動指針
- 2012年度の実績と今後の課題
- コーポレートガバナンス
- 2012年度ハイライト&ローライト
- コンプライアンス
- リスク管理
- 情報セキュリティ
- デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

- お客様への責任
- 社員への責任
- 株主・投資家様への責任
- 取引先様への責任
- [地域社会・国際社会への責任](#)

環境報告

- 環境経営
- 地球温暖化防止
- 資源循環
- 化学物質への対応
- 社会との連携

CSRヒストリー

- CSRの源流
- CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRIに関する外部評価

用語集

第三者意見

デンソーらしさを発揮できる独自の活動を推進

環境との共生

デンソーは社会貢献活動の分野でも環境保全活動を通じて環境経営を推進してきました。私たちの暮らす環境は未来の子どもたちからの借り物であり、社員の一人ひとりが地域社会の将来を考えるきっかけの一つとなるよう、これからも様々な環境共生プログラムを支援していきます。



デンソーECOレンジャー21、参上！

「デンソーECOレンジャー21」は2001年から始まった環境教育プログラムです。毎回、様々な専門家を招き、子どもたちに環境保全の大切さを理解してもらえよう、現場を体験して考える機会をつくっています。2012年までに2,400名の子どもたちが参加しました。



小水力発電アイデアコンテスト

2011年から始まった最も新しい環境共生と青少年育成のプログラムです。東海・北陸地方の高等専門学校9校が、水路から直接水を取り込む小水力発電のアイデアを競います。各校とも電気・機械・建築の学生たちが学科の枠を超えて連携できるプログラムです。

交通安全

デンソーグループでは、生命を守るための安心・安全に関わる技術開発やモノづくりを追求するとともに、自動車産業に携わる企業として、社会的弱者が安心して暮らせるよう交通安全の取り組みに力を注いでいます。

(株)デンソーでは、1970年に社員全員が参画する「交通安全友の会」を設立し、社員の相互啓発による交通安全意識の高揚に取り組み、交通事故抑止に努めています。また、本社や事業所が集中する愛知県刈谷市の地元警察署と協働し、危険箇所を示した「刈谷市交通安全マップ」を作成しています。これは社有車に装着したドライブレコーダーから急ブレーキが多く踏まれたポイント情報を抽出して警察署の事故データと照合し、注意すべき箇所を示したものです。マップには交差点などの写真も掲載して危険箇所を分かりやすく明示し、警察署・市役所等を通して刈谷市内の小中学校等に配布・掲示し、活用いただいています。

◎主な取り組み [(株)デンソー]

区分	項目	内容
啓発	職場小集団ミーティング	事務局発信の交通安全・交通事故ニュース等を活用した職場ミーティング
	出退勤ルートの危険箇所点検・指導	各自の「ひやりマップ」を基に、上司が危険箇所・行動を避ける出退勤ルート・事故回避のポイントを確認・指導
	再発防止活動	事故発生時、各職場で「なぜなぜ追及（真因掘下げ）」による再発防止対策
	交通安全期間中の取組み	役員メッセージを全社放送・重大事故発生部署の手記展開・自販機カッブ・PC立上時のポップアップ画面等で啓発
	社有車危険運転への注意・指導	ドライブレコーダーに記録された危険・違反運転に対し注意・指導
立哨	交通事故ゼロの日立哨	事業所ごとにゼロが付く日等に街頭立哨
	役員参加の特別立哨	年2回(夏・年末)、会長以下役員が参加して街頭立哨を各拠点で実施
教育	新入社員実車体験教育	全員を対象に自動車学校で脇見運転・急制動等の実車体験と運転適性検査
	管理者講習	マネジメント職と班長・係長を対象に社外講師による管理者の役割・責任等を学習
	ドライビングクリニック(事故発生者研修)	加害人身事故を発生させた当事者と上司を対象に、当事者のドライブレコーダーのデータを基にした再発防止教育

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

社長メッセージ
デンソーのCSR
企業行動宣言と行動指針
2012年度の実績と今後の課題
コーポレートガバナンス
2012年度ハイライト&ローライト
コンプライアンス
リスク管理
情報セキュリティ
デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

お客様への責任
社員への責任
株主・投資家様への責任
取引先様への責任
地域社会・国際社会への責任

環境報告

環境経営
地球温暖化防止
資源循環
化学物質への対応
社会との連携

CSRヒストリー

CSRの源流
CSR年表

CSR情報の編集方針

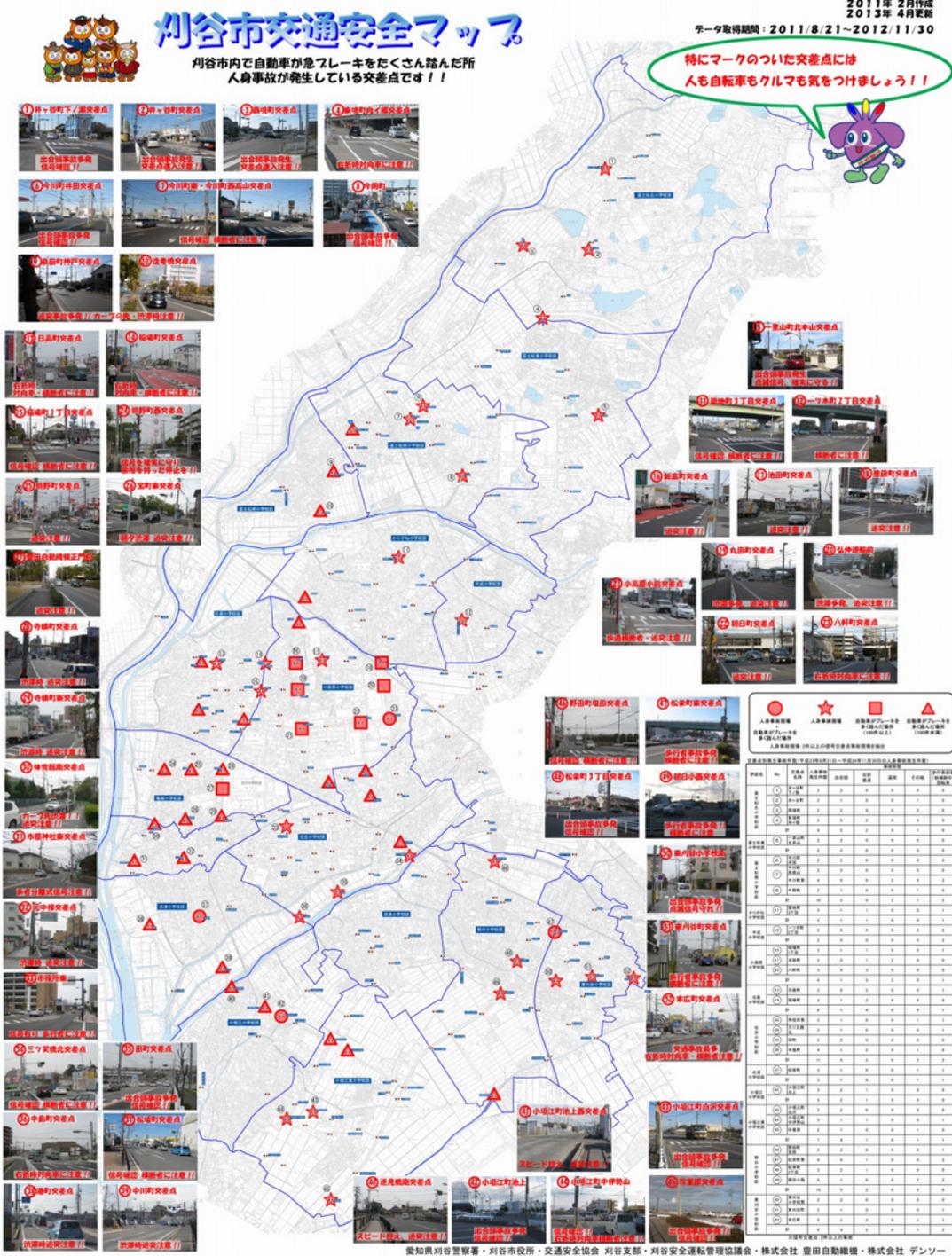
経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

◎「刈谷市交通安全マップ」



人づくり

青少年育成

デンソーグループは創業初期からいち早く青少年の育成に取り組んできました。社業では会社設立5年後の1954年に技能者養成所を立ち上げ、地域社会に対しても刈谷少年少女発明クラブの支援などを通じて、将来の技術立国・日本を担う地域の子どもの育成を積極的に支援してきました。



刈谷少年少女発明クラブの活動支援

(株)デンソーは指導員の派遣や施設の提供など積極的な支援を続け、これまでに5,000人を超える子どもたちの創造性育成を応援してきました。



育て！理科好き少年少女たち

(株)デンソーは「デンソーサイエンススクール」を開催しています。地域の小学校に社員やOBが出向き、電磁石とモータを使った実験授業を行っています。

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

- 社長メッセージ
- デンソーのCSR
- 企業行動宣言と行動指針
- 2012年度の実績と今後の課題
- コーポレートガバナンス
- 2012年度ハイライト&ローライト
- コンプライアンス
- リスク管理
- 情報セキュリティ
- デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

- お客様への責任
- 社員への責任
- 株主・投資家様への責任
- 取引先様への責任
- 地域社会・国際社会への責任

環境報告

- 環境経営
- 地球温暖化防止
- 資源循環
- 化学物質への対応
- 社会との連携

CSRヒストリー

- CSRの源流
- CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

障がい者福祉

健常者が何気なく暮らす日常生活の中には、障がい者の行動を妨げるバリアーが数多くあります。デンソーグループでは、障がい者福祉の考え方を庇護より自立支援に重点を置き、「デンソー太陽(株)」を設立以来、彼らの自立を促す支援活動に力を注いでいます。



デンソー太陽の設立

デンソー太陽(株)は、モノづくりを通じて障がい者の自立をサポートする目的で、1984年、デンソーと社会福祉法人太陽の家(大分市)の協同出資で設立されました。

職場は障がい者が無理なく安全に作業できるよう様々な工夫が施されています。



アジア車いす交流センター(WAFCA)の支援

アジア諸国には貧困のため車いすを買えず学校に通えない子どもたちが数多くいます。(株)デンソーはこれを少しでも改善しようと、1999年に創立50周年記念事業として、NPO「WAFCA(Wheelchairs And Friendship Center of Asia: アジア車いす交流センター)」を設立し、タイを中心に車いすの寄贈活動を行っています。

社員のボランティア活動支援

2004年に設立された「デンソーグループはあとふる基金」は、会員登録した社員の給与から毎月100円以上を天引き・積み立て、様々な社会貢献活動に拠出する仕組みです。1年に2回、会員から推薦された福祉団体や環境保全団体に、また2011年から東日本大震災で被災した団体への寄付も開始しています。

「デンソーグループはあとふるポイント制度」は、2006年に開始した制度で、ボランティア活動に応じて会社からポイントが発行され、貯めたポイントで様々な商品と交換できます。当初のエコ商品だけの交換を2010年から授産施設の商品にも拡大し、2011年からは東日本支援商品も対象に加えました。

ボランティア活動で1回、ポイントと商品の交換でまたポイントが加わる独自の仕組みで、社会貢献の輪が拡大しています。

◎社会貢献活動の拠出内訳

活動費の内訳	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
福祉	1億3,647万円 (14%)	1億6,039万円 (14.8%)	1億3,532万円 (15.1%)	1億3,243万円 (11.3%)
青少年育成	1億4,622万円 (15%)	2億1,418万円 (19.8%)	1億2,104万円 (13.5%)	1億2,357万円 (10.5%)
環境共生	6,824万円 (7%)	1億7,726万円 (16.4%)	9,395万円 (10.5%)	9,120万円 (7.7%)
文化芸術	1億8,521万円 (19%)	6,043万円 (5.6%)	1億5,684万円 (17.5%)	1億5,893万円 (13.5%)
地域社会 その他	4億3,867万円 (45%)	4億7,050万円 (43.4%) 【注1】	3億9,078万円 (43.5%)	6億7,028万円 (57%)
合計	9億7,481万円	10億8,276万円	8億9,792万円	11億7,641万円

【注1】 4億7,050万円 (43.4%)

東日本大震災義捐金 会社拠出分1.2億円を含む

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

社長メッセージ
デンソーのCSR
企業行動宣言と行動指針
2012年度の実績と今後の課題
コーポレートガバナンス
2012年度ハイライト&ローライト
コンプライアンス
リスク管理
情報セキュリティ
デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

お客様への責任
社員への責任
株主・投資家様への責任
取引先様への責任
[地域社会・国際社会への責任](#)

環境報告

環境経営
地球温暖化防止
資源循環
化学物質への対応
社会との連携

CSRヒストリー

CSRの源流
CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

◎活動への参加状況

	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
はあとふるポイント利用者(旧 DECOボン)	約10,000名	約12,000名	約14,000名	約18,000名
ハートフルまつり参加者(家族・市民含む) (旧 DECOスクール)	1,990名	2,035名	1,564名	2,574名
スマイルゆうネット登録者	2,770名	3,027名	3,120名	3,283名
はあとふる基金会員	5,378名	5,763名	6,297名	6,912名
マッチングギフト申請数	153件	164件	148件	139件
社員ボランティア活動表彰社長表彰	4名	4名	2名	4名
社員ボランティア活動表彰 ベストハートフル賞	—	9名	5名	6名

◎はあとふる基金からの支援

	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
NPO等への寄付	22件 1,050万円	21件 770万円	23件 1,130万円	29件 844万円
自然災害義捐金	4件 110万円	4件 190万円	3件 60万円	1件 30万円
東日本大震災被災地支援	—	—	6件 800万円	14件 871万円
社員参加プログラム助成 (旧 DECOボン助成)	8団体 80万円	8団体 80万円	8団体 80万円	4団体 40万円

東日本大震災の継続的な復興支援活動

デンソーグループでは、東日本大震災の発生直後から募金活動を開始し、ボランティア派遣や援助物資の提供などグループを挙げて復興支援に取り組んできました。そして、継続的な復興支援策の一環として、2011年度から「はあとふる基金」の積立額の半額を震災で孤児となった児童の生活・就学および障がい者施設を中心に10年間にわたって拠出していきます。

また、2011年12月には、社員食堂での昼食を通じて日常的に社会貢献できる仕組みとして、1食あたり10円が自動的に「はあとふる基金」への寄付金となる「ハートフルメニュー」を導入し、被災地孤児支援に全額を寄付しています。



昼休みにベルマークの仕分けをする
ボランティアメンバー



東日本大震災の継続的な
復興支援活動

現地にはなかなか行けないが、愛知県で復興支援に役立つ活動ができないか——ベルマークが被災した東北の小学校の備品購入に充当できることを知ったボランティア仲間が収集活動を開始。石巻市の小学校が校庭の大時計復旧を願っていることを知って奮闘し、2013年3月に大時計の寄贈にこぎつめました。

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

社長メッセージ
デンソーのCSR
企業行動宣言と行動指針
2012年度の実績と今後の課題
コーポレートガバナンス
2012年度ハイライト&ローライト
コンプライアンス
リスク管理
情報セキュリティ
デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

お客様への責任
社員への責任
株主・投資家様への責任
取引先様への責任
地域社会・国際社会への責任

環境報告

環境経営
地球温暖化防止
資源循環
化学物質への対応
社会との連携

CSRヒストリー

CSRの源流
CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

デンソーグループハートフルデー

地域社会には、それぞれ固有の社会的な課題があり、その解決に向けて社員一人ひとりが積極的に行動することが企業市民としての責務です。

デンソーの国内外のグループ会社も、地域の課題解決に向けた貢献活動を積極的に行っています。

▶ デンソーグループハートフルデー(http://www.denso.co.jp/ja/csr/social/social/heartful_day/)



小学生向けモーター作り教室（アスモ）



水源の森を守る活動(デンソーユニティサービス)



構内への巣箱設置活動/DMUK（英国）



マングローブ植林と清掃活動/DNMY（マレーシア）



社会的弱者作成商品購入会/DNHA（インド）



子どもたちにおもちゃ寄贈/DNAZ（ブラジル）

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

社長メッセージ
デンソーのCSR
企業行動宣言と行動指針
2012年度の実績と今後の課題
コーポレートガバナンス
2012年度ハイライト&ローライト
コンプライアンス
リスク管理
情報セキュリティ
デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

お客様への責任
社員への責任
株主・投資家様への責任
取引先様への責任
地域社会・国際社会への責任

環境報告

環境経営
地球温暖化防止
資源循環
化学物質への対応
社会との連携

CSRヒストリー

CSRの源流
CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

関連情報

- ▶ ニュースリリース(環境・社会貢献)(<http://www.denso.co.jp/ja/news/newsreleases/environment/index.html>)
- ▶ NPO法人アジア車いす交流センター(WAFCA)(<http://www.http://wafca.jp/>)

環境報告

環境負荷が少なく、社会に必要とされるクルマづくりに貢献します。

環境経営

デンソーグループは、「人と地球にやさしいクルマ」の実現を通じて「先進的なクルマ社会の創造」に貢献できる企業グループをめざしています。

資源循環

ライフサイクルの最上流に位置する設計段階において、製品環境指標「ファクターデルタ」を活用して、資源効率の向上倍率を追求しています。

社会との連携

デンソーグループでは業種の枠を超えた対外連携や情報発信による環境行動を「エコフレンドリー」と位置付け、第5次環境行動計画に年度目標を設定して取り組んでいます。

地球温暖化防止

エンジンマネジメントシステム、カーエアコン・安全装置などの車載システム同士を連携させた制御を通じて、より高度な「燃費向上と省電力化」の推進に取り組んでいます。

化学物質への対応

デンソーグループでは、「製品のライフサイクル全体で有害な化学物質の使用をできるだけ少なくする」という基本方針に沿った製品づくりと管理体制の強化に努めています。

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

社長メッセージ
デンソーのCSR
企業行動宣言と行動指針
2012年度の実績と今後の課題
コーポレートガバナンス
2012年度ハイライト&ローライト
コンプライアンス
リスク管理
情報セキュリティ
デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

お客様への責任
社員への責任
株主・投資家様への責任
取引先様への責任
地域社会・国際社会への責任

環境報告

環境経営
地球温暖化防止
資源循環
化学物質への対応
社会との連携

CSRヒストリー

CSRの源流
CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

デンソーがめざす姿

デンソーグループは、「人と地球にやさしいクルマ」の実現を通じて「先進的なクルマ社会の創造」に貢献できる企業グループをめざしています。そのために、製品・生産にとどまらず事業活動のあらゆる分野で環境負荷を削減すると同時に、世界でトップクラスの環境効率や高い資源生産性を追求しています。あわせて、環境保全活動を通じて経済価値を創出する「環境経営」を推進しています。

2005年には、「デンソーエコビジョン2015」を策定・公表。そこに示した環境目標は、京都議定書および関連団体が掲げる環境負荷低減目標に基づくとともに、IPCC【注1】が2007年に提唱した「2015年までに温室効果ガスの排出を減少に転じ、2050年までに2000年比で半減すべき」との内容にも合致します。

【注1】 IPCC

気候変動に関する政府間パネル

デンソーエコビジョン

デンソーエコビジョンについて紹介します。

製品環境マネジメント

デンソー製品の環境影響度最小化に向けた、エコプロダクトの取り組みなどを紹介します。

生産環境マネジメント

生産活動における環境負荷削減に向けたデンソーグループの取り組みなどを紹介します。

ISO14001への対応

デンソーの環境保全活動に対する環境監査の結果やその対応などを紹介します。

環境リスクマネジメント

デンソーグループの環境リスクに対する活動などを紹介します。

環境教育

デンソーグループにおける環境教育活動を紹介します。

環境会計

デンソーの環境会計結果を紹介します。

環境会計ガイドライン

デンソーグループの環境会計に対する考え方を紹介します。

環境負荷の全容

デンソーの事業活動における投入資源と排出環境負荷の状況を紹介します。

第5次環境行動計画／2012年度実績

デンソーグループの環境行動計画および2012年度の実績を紹介します。

環境保全活動ムービー

デンソーグループが行っている環境保全活動を動画で紹介しています。

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

社長メッセージ
デンソーのCSR
企業行動宣言と行動指針
2012年度の実績と今後の課題
コーポレートガバナンス
2012年度ハイライト&ローライト
コンプライアンス
リスク管理
情報セキュリティ
デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

お客様への責任
社員への責任
株主・投資家様への責任
取引先様への責任
地域社会・国際社会への責任

環境報告

環境経営
地球温暖化防止
資源循環
化学物質への対応
社会との連携

CSRヒストリー

CSRの源流
CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

基本的な考え方

「デンソーエコビジョン2015」では、温暖化防止、資源循環（省資源）、環境負荷物質の管理・削減（汚染予防）を全事業活動で重点的に推進し、「2015年長期環境目標」と「2015年環境行動計画（第5次）」を設定。グループ各社で共有するとともに、PDCAサイクル【注1】に基づく検証・見直しを繰り返しながら、取り組んでいます。

【注1】PDCAサイクル

Plan（計画）・Do（実行）・Check（点検）・Action（改善）を繰り返すマネジメント手法。

◎デンソーエコビジョン2015



デンソーエコビジョン2015環境方針（要約）

1. グローバルな視点からデンソーグループの総習・総力を結集し、環境経営の強化に努める。（エコマネジメント）
2. 製品の製造、市場での使用、廃棄に至るすべての段階において、トータルな視点で、環境を重視した開発・設計、生産活動を行う。（エコプロダクツ、エコファクトリー）
3. 業種などの枠を超えた対外連携ならびに情報発信に積極的に取り組むとともに、すべてのステークホルダーとのコミュニケーションに努める。（エコフレンドリー）

エコビジョン2015

2010年環境行動計画（第4次） → 2015年環境行動計画（第5次）

= 基本計画

2005

2010

2012

2015

第5次環境行動計画

「第5次環境行動計画」（2011年度～2015年度）には新興国での環境対応強化・施策充実を盛り込むなど、「低炭素・循環型・自然共生」をキーワードに、環境技術・製品の研究開発や世界規模での環境負荷物質の低減など、さらなる強化を図ります。そして、「2050年までに2000年比で温室効果ガス半減」など国際社会がめざす姿の実現に貢献するため、多様な分野で環境活動を拡充していきます。

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

社長メッセージ
デンソーのCSR
企業行動宣言と行動指針
2012年度の実績と今後の課題
コーポレートガバナンス
2012年度ハイライト&ローライト
コンプライアンス
リスク管理
情報セキュリティ
デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

お客様への責任
社員への責任
株主・投資家様への責任
取引先様への責任
地域社会・国際社会への責任

環境報告

環境経営
地球温暖化防止
資源循環
化学物質への対応
社会との連携

CSRヒストリー

CSRの源流
CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

2015年環境行動計画（第5次）（要約）

1.環境経営の拡充（エコマネジメント）

- 1) 連結環境マネジメントの推進
- 2) 全事業領域での温室効果ガス削減マネジメント
- 3) グローバルな化学物質管理の強化
- 4) グローバルな環境リスク管理の強化
- 5) 全生産事業所での環境保全マネジメントの強化
- 6) ビジネスパートナーとの連携パートナーシップの強化

2.環境と性能向上の両立をめざした開発・設計（エコプロダクツ）

- 7) トップランナーの燃費性能に貢献する新技術・新製品開発の推進
- 8) クリーンエネルギー車への搭載部品の開発の推進
- 9) エネルギー多様化に向けた新技術開発の推進
- 10) カーエアコンの温暖化対策の推進
- 11) マイクログリッド関連技術開発の推進
- 12) 資源有効利用・リサイクル技術開発の推進
- 13) 製品含有負荷物質の削減
- 14) 設計・開発段階での環境アセスメントの展開
- 15) 藻類を用いたバイオ燃料の研究開発等、持続可能な社会の実現に寄与する取り組み

3.グローバルな生産環境負荷の着実な削減（エコファクトリー）

- 16) 生産・物流活動におけるCO₂削減
- 17) 生産活動における温室効果ガス削減
- 18) 循環型社会への資源有効利用の推進
- 19) 地域ニーズに応じた取り組み
- 20) 生産活動における環境負荷物質削減

4. 環境行動に関する対外連携と情報発信の充実（エコフレンドリー）

- 21) 夢と活気にあふれた持続可能な社会づくりへの貢献
- 22) 生物多様性保全への取り組み
- 23) 環境教育の充実
- 24) 積極的な情報発信と双方向コミュニケーションの充実と協働
- 25) 道路交通部門での貢献と啓発活動

◇ 2015年環境行動計画（第5次）の詳細（PDF:239KB） 

http://www.denso.co.jp/ja/csr/environment_report/management/files/eco_vision2015.pdf

推進体制

デンソーグループは、1992年12月に「環境委員会」を設置。副社長・専務を委員長に経営幹部・海外の地域統括責任者・グループ会社の環境経営責任者が出席し、年2回、方針の策定・活動の進捗状況の検証・課題や解決策の検討を行っています。2007年度から重点的な課題への対応強化のため、化学物質に関わる「REACH^{【注2】}対応プロジェクト」、温暖化に関わる「CO₂特別プロジェクト」を発足。その後2012年度に完了解散し、2013年度からは組織を変更して下記の体制で推進を加速しています。

また、2012年度から中間期（9月開催）の環境委員会は製作所で開催し、「環境現地視察」を実施。委員長・グループ長・センター長・役員が先頭に立って現地・現物を見聞し、議論を通して環境活動の推進・活性化を図っています。

【注2】 REACH

Registration, Evaluation, Authorization and Restriction of Chemicalsの略。
EU域内の生産者・輸入者が上市する全化学物質（年間1トン以上）の登録・評価を義務付ける法律。

◎環境委員会（2012年9月 安城製作所で開催）



環境委員会



動力センター（エネJIT）



排水処理場



環境功労者表彰

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

社長メッセージ
デンソーのCSR
企業行動宣言と行動指針
2012年度の実績と今後の課題
コーポレートガバナンス
2012年度ハイライト&ローライト
コンプライアンス
リスク管理
情報セキュリティ
デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

お客様への責任
社員への責任
株主・投資家様への責任
取引先様への責任
地域社会・国際社会への責任

環境報告

環境経営
地球温暖化防止
資源循環
化学物質への対応
社会との連携

CSRヒストリー

CSRの源流
CSR年表

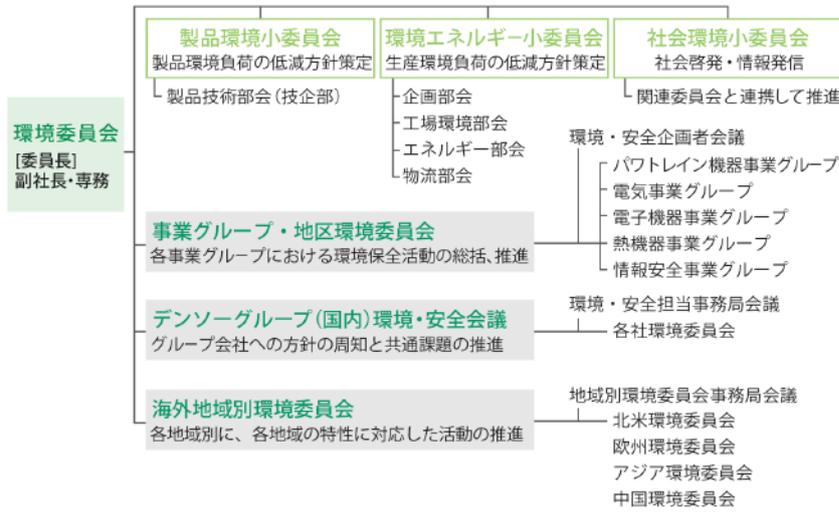
CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見



連結環境マネジメントの推進

デンソーグループでは、連結対象会社【注3】で環境方針・指針を共有し、連結環境マネジメントを展開しています。連結各社は「環境行動5カ年・年度計画」を策定し、2012年度は中国の規制強化を受け、事前の環境リスク最小化に向けた環境順法監査を行いました。

【重点課題】

- (1) 新法・改正など法規制の把握・対応力の強化
- (2) 状況を認識しながら改善未着手の事例全廃

【注3】 連結対象会社

デンソーの連結環境マネジメント対象会社は、新規設立・参入から一定期間経過していない場合などは対象外としています。従って財務上の連結対象会社数とは異なります。

デンソーグループで方針・指針を共有

- 基本方針・行動指針の共有
- 行動計画の策定と展開
- ISO14001 認証取得
- 環境委員会組織
- 環境情報共有システム
- 環境会計

共通して取り組む7項目

1. 廃棄物の削減
2. 工場環境廃棄物の低減
3. 地球温暖化の防止 (CO₂削減)
4. 環境管理システム (ISO14001) の構築
5. 製品環境事前評価の実施
6. グリーン調達の実施
7. 物流の合理化

連結環境マネジメントシステムの構築状況

1996年にデンソー池田工場がISO14001を認証取得したのを皮切りに、2003年までに世界の主要生産拠点で取得を完了。さらに、2010年10月、統制強化と効率化を目的に、国内12事業所の環境マネジメントシステムについて一つにまとめ、統合認証を取得しました。

また、グループ会社でも積極的に取得を推進し、2012年度までに環境管理連結子会社168社（国内62社、海外106社）のうち154社（国内62社、海外92社）が認証取得し、構築を完了しています。

今後も統合マネジメントシステムのもと、全社の環境活動および環境コンプライアンスの強化を図っていきます。

グリーンパートナーシップを構築

仕入先様には「グリーン調達ガイドライン」を指針に、環境保全の進んだ工場で製造された、環境負荷の少ない原材料・部品・製品の納入を要請しています。これによりデンソー製品のライフサイクル全体の環境負荷低減や仕入先企業およびデンソーグループ相互の資源・エネルギーの有効活用を図っています。

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

- 社長メッセージ
- デンソーのCSR
- 企業行動宣言と行動指針
- 2012年度の実績と今後の課題
- コーポレートガバナンス
- 2012年度ハイライト&ローライト
- コンプライアンス
- リスク管理
- 情報セキュリティ
- デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

- お客様への責任
- 社員への責任
- 株主・投資家様への責任
- 取引先様への責任
- 地域社会・国際社会への責任

環境報告

- 環境経営
- 地球温暖化防止
- 資源循環
- 化学物質への対応
- 社会との連携

CSRヒストリー

- CSRの源流
- CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

関連情報

▶ 調達情報 <http://www.denso.co.jp/ja/aboutdenso/purcha/index.html>

製品環境マネジメント

環境配慮と製品機能の効率向上

(株)デンソーは、環境面から見た「先進的なクルマ社会」とは「環境に配慮したやさしさ」と「クルマ本来の性能を享受するうれしさ」を高度に両立させた製品開発と考えています。その実現に向け、クルマの一生を通じて環境負荷の低減を図ると同時に、機能（安全性・操作性・走行性・快適性など）の向上を追求しています。

具体例としては、

(1) ハイブリッドシステム、エンジンマネジメントシステム、アイドルストップシステムなど車両の燃費向上に寄与する製品開発

(2) カーナビなど社会インフラと協調して燃費向上に資するテレマティクス【注1】製品の開発などです。

これらすべてのデンソー製品がめざすのは、温室効果ガス排出・資源消費・化学物質排出のリスクを最小化し、快適・利便の質を高めた新たな価値の創造です。この考え方は、1992年の地球サミットで提唱された「環境効率の追求」に基づいています。

【注1】 Telematics

自動車などの移動体に通信システムを組み合わせ、リアルタイムに情報サービスを提供すること。Telecommunication（通信）とInformation（情報科学）との造語。

ライフサイクルを見通した製品開発手法

(株)デンソーは製品の環境影響の最小化に向け、製品環境マネジメントシステムに基づき、企画・開発・設計段階で事前評価する「製品EMS」を1995年度から運用しています。現在では、これを発展させ、製品価値と環境負荷のバランスを「製品環境指標（ファクターデルタ）」で把握・運用しています。これは製品ごとにファクターデルタで目標値を設定【P】し、ライフサイクルにおける環境配慮・負荷の把握を行いつつ設計し【D】、目標達成度合いを設計の節目である品質保証会議でチェックし【C】、次期開発に反映【A】させる仕組みです。

◎自動車部品ライフサイクルの環境影響



ファクターデルタの運用

基準製品に対する新製品の環境効率の向上倍率を「ファクター」と呼びます。(株)デンソーは、2005～2008年にかけて一般社団法人日本自動車部品工業会と連携し、自動車部品のファクター算出法を構築して「製品環境指標ガイドライン」を策定しました。この指標は自動車部品の一生を通じたプラス側面（製品価値）と日本の環境基本法に基づいた「地球温暖化・資源枯渇・環境負荷物質の排出」に関するマイナス側面とを関連付けて算出するものです。

また2012年度には、部品工業会と連携して非常に複雑な自動車部品業界のサプライチェーンにおける製造段階の環境負荷量を効率的に算出するための「JAPIA LCI算出ガイドライン」の策定及び算出ツールを開発しました。これを上記指標と組み合わせることにより、さらに的確な評価が可能になります。

(株)デンソーでは、上記指標を「ファクターデルタ」として2007年から運用を開始。機能を向上させながら温室効果ガス・資源・環境負荷物質の削減を促進する手段として順次展開を始めています。

2012年度は、10点（累計60点）の新製品のファクターを算出し、環境改善がどの程度進んだのかを「見える化」して、改善の方向性を示しました。今後は、製品の改善率をわかりやすく表示する「エコ製品グリーンプロダクト認定制度」の実現をめざします。

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

社長メッセージ
デンソーのCSR
企業行動宣言と行動指針
2012年度の実績と今後の課題
コーポレートガバナンス
2012年度ハイライト&ローライト
コンプライアンス
リスク管理
情報セキュリティ
デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

お客様への責任
社員への責任
株主・投資家様への責任
取引先様への責任
地域社会・国際社会への責任

環境報告

環境経営
地球温暖化防止
資源循環
化学物質への対応
社会との連携

CSRヒストリー

CSRの源流
CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

◎ファクターデルタの算出法

$$\begin{aligned}
 & \text{環境効率} = \frac{\text{製品価値(プラスの側面)}}{\text{環境負荷(マイナスの側面)}} \\
 & \downarrow \text{従来製品等との先進性をファクター(倍率)で表現} \\
 & \text{製品環境指標「ファクターデルタ」} = \frac{\text{新製品の環境効率}}{\text{従来製品の環境効率}} \\
 & \frac{\text{新製品の環境効率}}{\text{従来製品の環境効率}} = \frac{\text{新製品の価値}}{\text{従来製品の価値}} \div \frac{\text{新製品の負荷}}{\text{従来製品の負荷}} = \frac{\text{製品価値倍率}}{\text{環境負荷倍率}}
 \end{aligned}$$

【注】指標算出には、多くの人々が納得できる客観性が求められます。そこで考え方の基本として、1990年代から各国の研究者や世界経済人会議(WBCSD)などが提唱した「ファクター」という概念を参考にしました。これは製品やサービスの「環境効率」を導き出し、その向上倍率によって環境配慮を前向きに評価するポジティブな指標の求め方です。

◎ファクターデルタの活用による環境性の向上

製品主要機能の概要	環境性の向上	価値向上	環境への影響
小型ハイブリッド車用モータコイル 	温暖化 1.3 資源枯渇 1.5 環境負荷物質 1.8	新形状コイル、新規絶縁構造及び巻線構造の採用によるハイブリッドエンジン小型化への貢献	小型・軽量化
ディーゼルエンジン用燃料噴射装置 	温暖化 2.1 資源枯渇 1.8 環境負荷物質 3.0	圧力センサを組み合わせることで、燃料噴射量のばらつきを補正	燃費向上・排ガス浄化
車間距離検知用新型ミリ波レーダ 	温暖化 2.3 資源枯渇 2.3 環境負荷物質 2.2	前方車の検知距離の拡大(1.35倍)	構成部品統合化による小型・軽量化
歩行者衝突検知センサ 	温暖化 1.6 資源枯渇 4.5 環境負荷物質 2.2	圧力センサと中空構造体とを組み合わせることで、従来の加速度センサ方式よりも高精度な衝突検知が可能	従来、加速度センサを数個使用していた構成を圧力センサ2個とした

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

- 社長メッセージ
- デンソーのCSR
- 企業行動宣言と行動指針
- 2012年度の実績と今後の課題
- コーポレートガバナンス
- 2012年度ハイライト&ローライト
- コンプライアンス
- リスク管理
- 情報セキュリティ
- デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

- お客様への責任
- 社員への責任
- 株主・投資家様への責任
- 取引先様への責任
- 地域社会・国際社会への責任

環境報告

- 環境経営
- 地球温暖化防止
- 資源循環
- 化学物質への対応
- 社会との連携

CSRヒストリー

- CSRの源流
- CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

生産環境マネジメント

環境負荷削減の取り組み

工場での環境負荷の削減はデンソー独自の手法で地球温暖化対策、資源ロス低減、化学物質の削減に努めてきました。特に地球温暖化対策では、省エネ推進とエネルギー転換を、また長期対策として化石燃料使用量の低減と再生可能エネルギー源への転換促進が重要と考えています。

この考えに基づき、デンソーグループでは、消費量に応じた事業部への課金（直課制度）、エネルギーを必要な時に必要なだけ供給する「エネJIT」【注1】活動を展開しています。

また、環境ガバナンスの視点から、世界の生産拠点の環境データを迅速に集計できる「D-EPC【注2】」を構築し、マネジメントツールとして活用しています。

【注1】エネJIT：エネルギージャスト・イン・タイム（Energy Just In Time）

【注2】D-EPC：Denso-Environmental Performance Communicator

エコファクトリーへの進化

2006年に、めざすべき持続可能な工場として「エコファクトリー構想」を策定し、グループ各社に展開しました。この評価ガイドラインを活用して各国・各地域の工場の強み・弱みを明確に把握し、継続的なレベル向上につなげていきます。

この活動は、2007年8月に増設した大安製作所（三重県）、2009年4月に稼働を開始したデンソーエレクトロニクス（DNEL）をモデル工場に指定し、スタートしました。今後は、この2工場を試金石に課題を抽出しつつ、世界の各拠点のエコファクトリー化を具現化していきます。

◎エコファクトリー構想

(1) 順法・環境リスク最小化



- 放流前水質確認
- 雨水管理システム（油水分離槽、検知センサ）
- 定期モニタリング、データ管理システム（DECS）
- 排水自主基準（有害物：法×1/5等）

(2) 環境パフォーマンス向上



- ゼロエミッション
- エコビジョン目標
- 全員参加、環境に強い人づくり
- パフォーマンスの“見える化”

(3) 地域・自然との共生



- 地域の緑資産となる森づくり
- 地域懇談会
- 地域開放型環境施設

基本的考え

① 順法・環境リスク最小化

② 環境パフォーマンス向上

③ 地域・自然との共生

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

社長メッセージ
デンソーのCSR
企業行動宣言と行動指針
2012年度の実績と今後の課題
コーポレートガバナンス
2012年度ハイライト&ローライト
コンプライアンス
リスク管理
情報セキュリティ
デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

お客様への責任
社員への責任
株主・投資家様への責任
取引先様への責任
地域社会・国際社会への責任

環境報告

環境経営
地球温暖化防止
資源循環
化学物質への対応
社会との連携

CSRヒストリー

CSRの源流
CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

◎評価ガイドライン



目、パフォーマンス

項目	2011年実績	2012年目標	2012年実績	2013年目標	2013年実績	2014年目標	2014年実績	2015年目標	2015年実績
売上高	1,200億	1,250億	1,250億	1,300億	1,300億	1,350億	1,350億	1,400億	1,400億
営業利益	100億	110億	110億	120億	120億	130億	130億	140億	140億
経常利益	100億	110億	110億	120億	120億	130億	130億	140億	140億
純利益	80億	90億	90億	100億	100億	110億	110億	120億	120億

目、共生圏

項目	2011年実績	2012年目標	2012年実績	2013年目標	2013年実績	2014年目標	2014年実績	2015年目標	2015年実績
対工場CO2削減率	0.001%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%
対工場CO2削減率	0.001%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%
対工場CO2削減率	0.001%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

- 社長メッセージ
- デンソーのCSR
- 企業行動宣言と行動指針
- 2012年度の実績と今後の課題
- コーポレートガバナンス
- 2012年度ハイライト&ローライト
- コンプライアンス
- リスク管理
- 情報セキュリティ
- デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

- お客様への責任
- 社員への責任
- 株主・投資家様への責任
- 取引先様への責任
- 地域社会・国際社会への責任

環境報告

- 環境経営
- 地球温暖化防止
- 資源循環
- 化学物質への対応
- 社会との連携

CSRヒストリー

- CSRの源流
- CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

海外グループ会社の取り組み

DNBR（ブラジル）「エコロジー・環境保護賞」受賞

2012年6月、DNBR（ブラジル）がクリチバ市より「エコロジー・環境保護賞」を受賞しました。この賞は2011年から2012年にかけての省エネ活動等による持続可能な都市への貢献を評価されたものです。

DNBRは今後も持続可能な社会へ向け、積極的に環境活動を推進していきます。



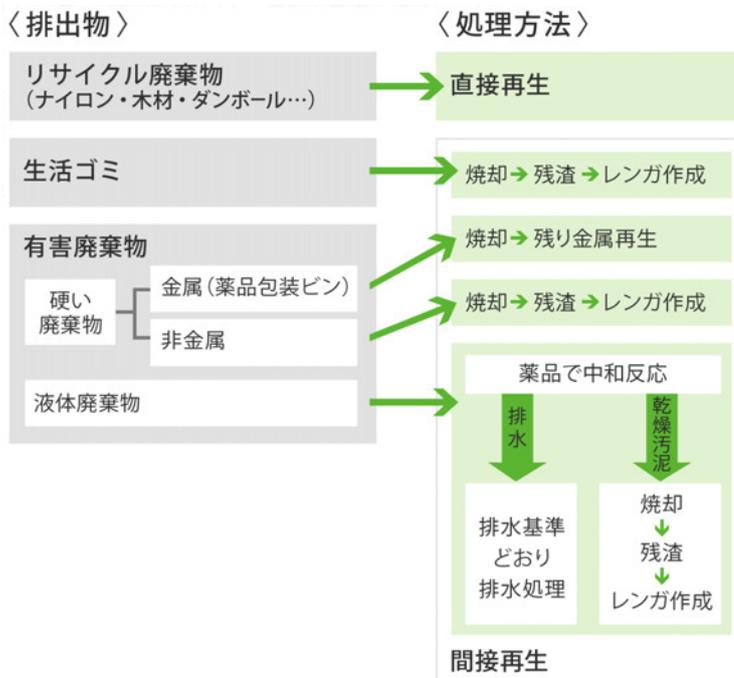
「エコロジー・環境保護賞」を受賞したDNBR

DMVN（ベトナム）ゼロエミッション達成

2012年3月、DMVNがゼロエミ活動の目標を達成しました。

DMVNは、リサイクル廃棄物・生活ゴミ・有害廃棄物の分別を徹底した活動を推進し、2011年4月から埋立て廃棄物をゼロにする活動を進め、目標を達成しました。今後も引き続き、ゼロエミッションの維持向上に取り組んでいきます。

◎DMVNのゼロエミ活動



環境リスクへの対応

デンソーグループは、各国・地域の環境法規制より厳しい「デンソー安全環境管理基準（DAS）」を設定・運用し、事業所の立地条件や事業内容から想定される環境リスク（環境事故・汚染・法令違反など）を特定して、未然防止とリスク最小化に取り組んでいます。

特に環境規制・賠償責任の厳格化に伴い、自主基準を超える排水・排出ガス、油濁、化学物質の漏えい、土壌・地下水汚染、騒音・悪臭、廃棄物処理・リサイクル違反に関わる規制・規程の順守を再確認するとともに、産業特殊ガス（特定高圧ガスや半導体材料ガス）や化学物質・薬品の運用管理規程を再整備し、社員や地域の災害・事故防止に努めています。

また、近隣からの苦情については、（1）異常を発生させない（2）万一発生させた場合は被害の最小化と確実な情報開示を基本に、日常点検・監視測定とともに、毎年、緊急時対応訓練を行っています。

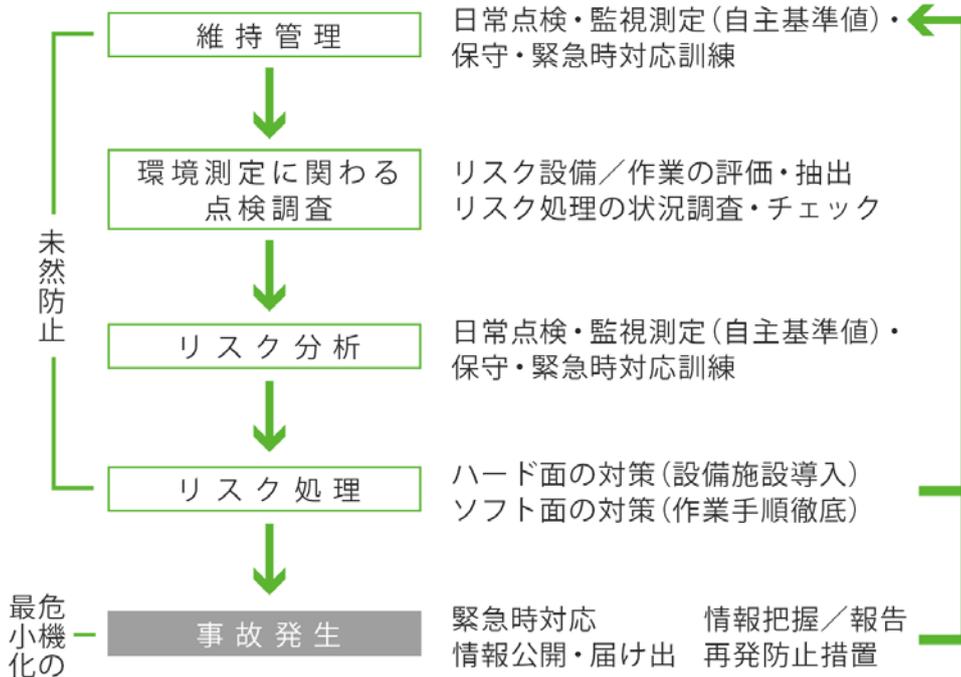


海外拠点ASGZ [中国] の監査



緊急時対応訓練

◎環境リスク管理体制



社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

- 社長メッセージ
- デンソーのCSR
- 企業行動宣言と行動指針
- 2012年度の実績と今後の課題
- コーポレートガバナンス
- 2012年度ハイライト&ローライト
- コンプライアンス
- リスク管理
- 情報セキュリティ
- デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

- お客様への責任
- 社員への責任
- 株主・投資家様への責任
- 取引先様への責任
- 地域社会・国際社会への責任

環境報告

- 環境経営
- 地球温暖化防止
- 資源循環
- 化学物質への対応
- 社会との連携

CSRヒストリー

- CSRの源流
- CSR年表

CSR情報の編集方針

- 経済性報告
- グループ会社/CSRに関する外部評価
- 用語集
- 第三者意見

2012年度の活動

デンソーグループでは、環境監査・パトロールなどのグローバルQC診断に、グループ生産会社同士による「相互環境監査」を組み入れ、総合的なリスク低減を図っています。

2012年度は、グローバルQC診断に連動した第3ステップとして34社を対象とする相互環境監査を行い、是正措置を完了しています。

なお、国内外とも罰金・料金はなく、環境に関する訴訟はありませんでした。

◎環境事故・苦情など

(件)

区分	(株)デンソー	国内グループ	海外グループ
法令違反	0	0	0
罰金・訴訟	0	0	0
事故	0	0	0
苦情	0	0	0

◎グループ相互環境監査・改善活動の展開



ISO14001環境監査

環境マネジメントシステムのPDCAサイクルの中で、継続的な活動改善や環境データの信頼性を点検するのが、内部監査と外部審査です。デンソーでは、内部監査で約400項目を点検する自己監査とともに、事業所が互いにチェックする監査により精度の向上を図っています。

また、監査時にベストプラクティス（優秀事例）を抽出し、事例を社内イントラネットで共有して活動のレベルアップにつなげています。

◎ISO14001環境監査結果 [(株)デンソー]

監査対象 (12事業所)	件数	
外部審査	不適合 (軽微な指摘)	0件
	観察事項	12件
内部監査	改善指導	6件
	改善アドバイス	78件
内部監査員 (延べ人数)	59名	

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

社長メッセージ
デンソーのCSR
企業行動宣言と行動指針
2012年度の実績と今後の課題
コーポレートガバナンス
2012年度ハイライト&ローライト
コンプライアンス
リスク管理
情報セキュリティ
デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

お客様への責任
社員への責任
株主・投資家様への責任
取引先様への責任
地域社会・国際社会への責任

環境報告

環境経営
地球温暖化防止
資源循環
化学物質への対応
社会との連携

CSRヒストリー

CSRの源流
CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

土壌・地下水の浄化・保全

土壌・地下水の汚染防止は、企業の社会的責任と環境リスクマネジメントの視点から積極的な対応が求められます。

(株)デンソーは1980年代から有害物質の使用履歴をもとに全工場・事業所を対象に調査を行い、1991年に「土壌・地下水汚染防止マニュアル」を策定し、1995年度にグループでの塩素系有機溶剤の使用を全廃しました。さらに、基本方針およびリスク管理標準を制定し、2004年度～2006年度にグローバル連結会社の全事業用地（非生産拠点も含む）の土地履歴を調査しました。

その過程で、1998年に4事業所で環境基準値を超える有機塩素系物質が検出され、継続して浄化作業を行っています。さらに法規制が強化される中で、VOCおよび重金属汚染についても2001年度に再調査を開始。基準値を超えた箇所については直ちに浄化作業を開始し、現在、土壌浄化を終え、地下水の浄化を継続しています。なお、測定結果と進捗状況は自治体・地域懇談会で説明・報告しています。

◎トリクロロエチレン測定値

環境基準値：0.03以下

事業所	事業所内地下水での濃度 (mg/リットル)	現在の状況
本社	0.002未満～1.037	浄化中
池田工場	0.002未満～0.983	浄化中
安城製作所	0.002未満～0.124	浄化中
西尾製作所	0.002未満～1.053	浄化中

【注】記載の事業所・工場以外では検出されていません。

PCB廃棄物の早期処理

絶縁油や熱媒体に広く使われていたPCB（ポリ塩化ビフェニル）は、残留性有機汚染物質として2001年にストックホルム条約で製造・使用・保管物の廃棄・排出削減が定められ、日本でもPCB特別措置法の施行により保管・届出が義務付けられました。(株)デンソーでは、1974年から法に基づき保管してきましたが、2006年から高圧コンデンサの処理専門会社での適正処理を開始し、2012年度までに全154台中145台の処理を完了しました。残存分についても、処理専門会社と連携し、PCB廃棄物の早期処理に取り組んでいます。

今後の取り組み

(株)デンソーやグループ会社の主要拠点が集中する愛知・三重・静岡県は、発生が想定される東海・東南海・南海地震の震源域に近いことから、連動地震を前提とする環境リスクマネジメントを推進してきました。しかし、東日本大震災で経験した巨大津波・液状化現象などに対する備えは十分ではありません。今後、多様なリスクを想定し、環境リスクマネジメント体制のさらなる強化を図っていきます。

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

社長メッセージ

デンソーのCSR

企業行動宣言と行動指針

2012年度の実績と今後の課題

コーポレートガバナンス

2012年度ハイライト&ローライト

コンプライアンス

リスク管理

情報セキュリティ

デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

お客様への責任

社員への責任

株主・投資家様への責任

取引先様への責任

地域社会・国際社会への責任

環境報告

環境経営

地球温暖化防止

資源循環

化学物質への対応

社会との連携

CSRヒストリー

CSRの源流

CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

環境教育

環境人材の育成

全員参加の環境経営を推進するには、社員一人ひとりが「地球市民」として高い意識を持ち、実践することが重要です。デンソーグループは、この認識のもと階層・職能別環境研修、開発担当者の「環境技術基礎研修」、内部監査員を育成する「専門研修」を行っています。また、即効性ある活動に結びつける狙いから、(株)デンソーでは環境改善で成果を上げている好事例部署を訪問する「現地現物」の横展開を図るカリキュラムを基本としています。

さらに、環境改善活動を家庭や地域にも拡大するため、6月に社員の家族や地域住民の方々を対象にした環境行事・イベントを開催。地球規模の環境問題から身のまわりの課題までわかりやすく説明しています。

◎環境教育受講者〔(株)デンソー〕

対象	延べ人数(名)
新入社員・期間社員登用	1,123
技術系・技能系中堅社員	2,110
係長・班長	1,697
課長(技術系)	96
課長・部長・工場長などの管理職	397

・研修時間/延べ8,824時間 ・受講者数/延べ5,423名

◎環境教育体系

(階層別)



社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

社長メッセージ
デンソーのCSR
企業行動宣言と行動指針
2012年度の実績と今後の課題
コーポレートガバナンス
2012年度ハイライト&ローライト
コンプライアンス
リスク管理
情報セキュリティ
デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

お客様への責任
社員への責任
株主・投資家様への責任
取引先様への責任
地域社会・国際社会への責任

環境報告

環境経営
地球温暖化防止
資源循環
化学物質への対応
社会との連携

CSRヒストリー

CSRの源流
CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

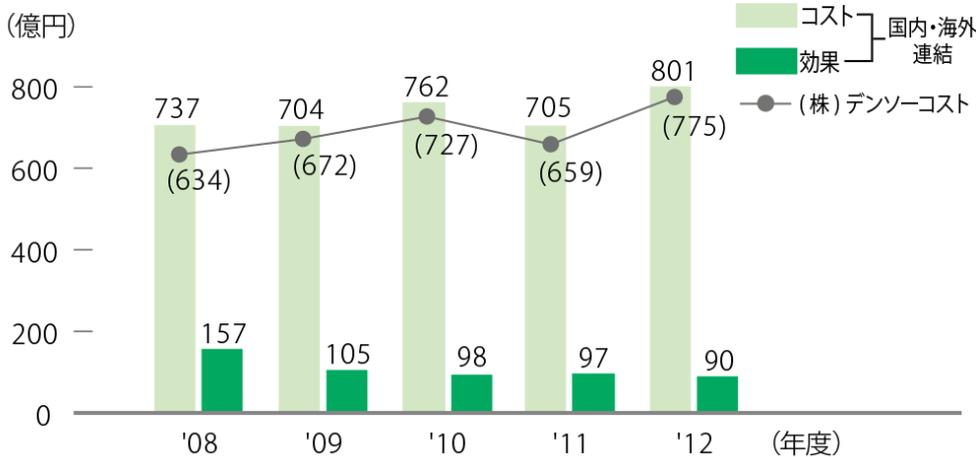
環境会計の活用

(株)デンソーは、環境省が定めるガイドラインに準拠した環境会計を1999年から運用しています。以来、環境経営の状況を把握・情報開示するための「コーポレート環境会計」や達成状況を確認するための「セグメント環境会計」などを活用し、環境行動計画の策定や施策の選定に役立てています。環境経営の質的向上を追求するには、環境負荷削減を利益創出に結びつける仕組みが重要と考え、今後も環境会計の有効な活用方法を検討していきます。

2012年度の実績

2012年度は環境保全対応の製品開発におけるコスト（人件費含む）で、前年比約96億円の増加となりました。

◎環境会計（保全コスト・保全効果額）



関連情報

- ▶ 環境会計ガイドライン
http://www.denso.co.jp/ja/csr/environment_report/management/guideline/index.html

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

- 社長メッセージ
- デンソーのCSR
- 企業行動宣言と行動指針
- 2012年度の実績と今後の課題
- コーポレートガバナンス
- 2012年度ハイライト&ローライト
- コンプライアンス
- リスク管理
- 情報セキュリティ
- デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

- お客様への責任
- 社員への責任
- 株主・投資家様への責任
- 取引先様への責任
- 地域社会・国際社会への責任

環境報告

- 環境経営
- 地球温暖化防止
- 資源循環
- 化学物質への対応
- 社会との連携

CSRヒストリー

- CSRの源流
- CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

策定：2002年1月20日

環境庁(現在の環境省)「環境会計ガイドブック」のガイドラインに沿って算出しています。

デンソーグループの環境会計に対する考え方

1.狙い 活動基本

1. 経営管理指標として適正な精度と継続性が確保できるしくみとする
2. 環境対応重点活動を中心に、効率的・効果的に集計・フォローする
3. できるところから集計に着手する

2.目的

内部的	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境負荷の低減 2. 効果的な環境投資とコスト削減 	<ul style="list-style-type: none"> ● 環境活動の経済的効果を評価し、経営判断の質を向上 ● コスト意識高揚によりコスト削減活動を推進 ● 社員の環境活動推進のモチベーション向上
外部的	情報開示による透明性向上	利害関係者に環境活動の経済性を示す(情報発信)

3.取り組み方針

1. 環境庁(現在の環境省)「環境会計ガイドブック」のガイドラインに沿った算出を実施する
2. 経営管理への活用を第一優先し、併せて外部的な情報開示を図る
環境保全コストは、投資(設備)および経費(人件費、ランニングコスト等費用)
3. 効果についてはまず実質効果とし、推定効果等は、できるものから順次取り入れる
効果の数値指標は、金額および物量
なお、実質効果とは、費用対効果の差し引き残り額ではなく、単なる収益とする

4.効果

1. 現在コストの削減(活動におけるコスト低減)
2. 将来コストの削減(環境リスクの回避)
3. エコファンド、SRI(社会的責任投資)の効果
4. 製品売上への貢献(環境配慮型製品)
5. 企業イメージのアップ(社会評価の向上)
6. 標準化による企業間比較

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

社長メッセージ
デンソーのCSR
企業行動宣言と行動指針
2012年度の実績と今後の課題
コーポレートガバナンス
2012年度ハイライト&ローライト
コンプライアンス
リスク管理
情報セキュリティ
デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

お客様への責任
社員への責任
株主・投資家様への責任
取引先様への責任
地域社会・国際社会への責任

環境報告

環境経営
地球温暖化防止
資源循環
化学物質への対応
社会との連携

CSRヒストリー

CSRの源流
CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

環境会計算出基本

1. 主な基本原則

1. 環境事業収支や環境負荷低減を図った製品の事業収支を含める
2. 環境負荷低減を主な目的とする活動範囲とする
3. 設備投資は、実施した年度に全額集計する
4. 効果は確実な根拠に基づき算出されたものに限定する

【注】 保全コスト算出適用 算出は、すべて当該年度

【注】 設備は減価償却は含めず当該年度に一括で計上

2. 保全コスト算出適用の考え方

- 事業活動における生産・非生産の公害防止や環境保全に役立つ設備
 1. 省資源・省エネ設備
 2. 公害防止の付帯設備
 3. 環境配慮製品の生産設備(寄与分を個別評価し按分換算)
 4. 環境配慮製品の研究設備(寄与分を個別評価し按分換算)
 5. 全生産設備(寄与分の按分換算)
- 開発設計・生産・物流管理に至るあらゆる部門で生じた環境保全費用
 1. 環境配慮製品の開発・設計部署
 2. 環境保全経費・人件費
 3. 環境委員会、マネジメントシステム等関係経費・人件費
 4. 環境配慮製品の研究費
 5. 全製品設計部署(寄与分の按分換算)

3. 効果算出適用の考え方

環境保全コストに対応した該当効果を把握し金額、物量効果のいずれか又は、両方を算出

実質効果

なお、実質効果とは、費用対効果の差し引き残り額ではなく単なる収益とする

1. 事業収益
2. 費用のコストダウン(節約)削減

推定効果

なお、推定効果は、下記のうち「客観性のある確実なもの」のみを取り入れる

1. 利益寄与(付加価値寄与、意識向上寄与、宣伝広告)
2. 偶発的リスク回避(修復回避、法規・法定)

関連情報

- ▶ 2012年度の環境会計(PDF:120KB)
http://www.denso.co.jp/ja/csr/environment_report/management/guideline/files/accounts2012.pdf

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

社長メッセージ
デンソーのCSR
企業行動宣言と行動指針
2012年度の実績と今後の課題
コーポレートガバナンス
2012年度ハイライト&ローライト
コンプライアンス
リスク管理
情報セキュリティ
デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

お客様への責任
社員への責任
株主・投資家様への責任
取引先様への責任
地域社会・国際社会への責任

環境報告

環境経営
地球温暖化防止
資源循環
化学物質への対応
社会との連携

CSRヒストリー

CSRの源流
CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

環境負荷の全容

事業活動における投入資源と排出環境負荷

デンソーは、資源・エネルギーの投入量（インプット）と排出量（アウトプット）を定量的に把握することで、総合的・効率的な環境負荷低減活動に活用しています。

INPUT

資源・エネルギー投入量

■エネルギー	34,784,608GJ (+12%)
■電力	2,281,636MWh (+9%)
■A重油	2,645kl (+4%)
■灯油	1,780kl (—)
■軽油	1,163kl (—)
■プロパン	5,288t (—)
■都市ガス	184,484千m ³ (+4%)
■天然ガス	83,975千m ³ (—)
■LNG	10,260t (+26%)
■化学物質	1,607t (—)
■水	12,090,729t (+3%)
●原材料	61万t (+14%)
●金属材料	53万t (+13%)
●非金属材料	8万t (+16%)
■事務系資材(コピー紙)	646t (+2%)
●輸送燃料	2,522kl (+37%)
●包装材	2.3万t (+21%)



OUTPUT

環境負荷物質排出量

■温室効果ガス	139万t-CO ₂ (+5%)
■CO ₂	136万t-CO ₂ (+5%)
■5ガス*	2.9万t-CO ₂ (+4%)
※CO ₂ 以外の温室効果ガス	
●大気への排出ガス	465t (-4%)
●SOx	6t (—)
●NOx	425t (-1%)
●ばいじん	33t (+5%)
■化学物質	209t (+7%)
■トルエン・キシレン	67t (+5%)
●その他	147t (+13%)
■水系への排出	
■排水	1,045万t (+8%)
■BOD	49t (+28%)
■COD	110t (-14%)
■窒素	76t (+1%)
■りん	2t (—)
■廃棄物	18万t (+1%)
●CO ₂ 排出	3.4万t-CO ₂ (-1%)

凡例 ●(株)デンソーおよび国内グループ集計 ■(株)デンソーおよび国内・海外グループの集計

【注】対前年比については、対象グループ会社数の変更により再集計し掲載しています。

【注】(—)については法規制変更や設備変更などにより、バウンダリーが異なるため、対前年比は掲載していません。

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

社長メッセージ
デンソーのCSR
企業行動宣言と行動指針
2012年度の実績と今後の課題
コーポレートガバナンス
2012年度ハイライト&ローライト
コンプライアンス
リスク管理
情報セキュリティ
デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

お客様への責任
社員への責任
株主・投資家様への責任
取引先様への責任
地域社会・国際社会への責任

環境報告

環境経営
地球温暖化防止
資源循環
化学物質への対応
社会との連携

CSRヒストリー

CSRの源流
CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

2012年度の実績

デンソーグループでは「デンソーエコビジョン2015」の実現に向け、「第5次環境行動計画」（2011年度～2015年度）を設定し、グループ全165社が目標達成に取り組みました。2012年度は、生産量が増加する中で、環境調和型製品の開発、生産・物流での効率化を推進し、全25項目の目標を達成しました。また、「第5次環境行動計画」で設定した「地球環境に貢献する製品の開発強化」「企業行動全般にわたるCO₂の把握と削減」「グループ連結での環境負荷の着実な削減」「連結環境マネジメントの強化」を重点とする全活動目標を達成しました。

主要取組事項	第5次環境行動計画 (2011年度～2015年度)			評価	2013年度目標
	2015年度目標	2012年度計画	2012年度実績		
環境調和型製品の開発 化学物質の削減・全廃 設計・開発段階での環境アセスメント	車両排出CO ₂ 低減技術（平均燃費向上）等をめざした事業製品の開発と製品化	自動車メーカーとの協力による各国・地域の燃費・排出ガス規制および自主目標に対応した新技術・新製品開発	燃費向上に寄与するハイブリッド車向けエネルギーマネジメント構築、電力制御部品の技術開発およびハイブリッド用モータジェネレータ、電池パック等製品化	○	自動車メーカーとの協力による各国・地域の燃費・排出ガス規制および自主目標に対応した新技術・新製品開発
	特定臭素系難燃剤の切替推進およびフタル酸系可塑性物質の新規製品でのフリー化促進	規制情報の先取り・影響分析の推進 規制物質の確実な切替推進	REACH規制の予備登録等の体制整備完了 フタル酸系可塑性剤の切替推進	○	法規制への涉外活動による情報の先取り・影響分析の推進 規制物質の確実な切替推進
	デンソー主導による日本自動車部品工業会における標準LCA手法の確立と展開	デンソー主導による日本自動車部品工業会における標準LCA手法の確立と展開	新規製品の開発設計において製品環境指標による目標設定および評価を実施	○	デンソー主導による日本自動車部品工業会における標準LCA手法の確立と展開
地球温暖化防止	エネルギー起源CO ₂ 排出量削減 連結：原単位10年比93以下 単独：原単位90年比35以下	生産技術の革新やエネルギーJIT（ジャスト・イン・タイム：エア、水、蒸気・アイドルストップ）、実験棟省エネ展開	連結：原単位10年比96以下に対し95 単独：原単位90年比40以下に対し36 排出量90年比93以下に対し87（08-12年平均）	○	生産技術の革新やエネルギーJIT（ジャスト・イン・タイム）拡大と省エネ技術開発 単独：原単位90年比36以下
	温室効果ガス排出量削減 排出量03年比50以下	半導体製造用ガスの代替、回収・除害処理などにより削減	排出量03年比50以下に対し48	○	半導体製造用ガスの代替により削減 排出量03年比50以下
	製品物流に伴うCO ₂ 排出削減 連結：原単位10年比99以下 単独：原単位06年比91以下	輸送改善、エコドライブによるグローバルな削減 荷量に応じた便数調整、顧客近隣での生産等	単独：原単位06年比94以下に対し84	○	輸送改善、エコドライブによるグローバルな削減、荷量に応じた便数調整、顧客近隣での生産等 単独：原単位06年比84以下

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

社長メッセージ
デンソーのCSR
企業行動宣言と行動指針
2012年度の実績と今後の課題
コーポレートガバナンス
2012年度ハイライト&ローライト
コンプライアンス
リスク管理
情報セキュリティ
デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

お客様への責任
社員への責任
株主・投資家様への責任
取引先様への責任
地域社会・国際社会への責任

環境報告

環境経営
地球温暖化防止
資源循環
化学物質への対応
社会との連携

CSRヒストリー

CSRの源流
CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

主要取組事項		第5次環境行動計画 (2011年度～2015年度)			評価	2013年度目標
		2015年度目標	2012年度計画	2012年度実績		
環境負担物質管理	大気・水域へのPRTR等排出量の削減	国内：排出量00年比65以下 単独：排出量00年比60以下 海外：原単位10年比85以下 (VOC、PRTR等物質とも含む)	使用量の最適化、回収・再利用、材料代替などによる排出量の削減	使用量の最適化、回収・再利用、材料代替などによる排出量の削減 国内：排出量00年比65以下に対し53 単独：排出量00年比60以下に対し52 海外：原単位10年比94以下に対し91	○	使用量の最適化、回収・再利用、材料代替などによる排出量の削減 国内：排出量00年比65以下 単独：排出量00年比60以下 海外：原単位10年比91以下
	VOC排出量の削減					
資源の有効活用	排出物削減 (廃棄物削減)	排出物： 国内：原単位03年比73以下 単独：原単位03年比56以下 海外：12年比91以下 廃棄物： 海外：原則ゼロエミッション推進	資源ロスの最小化をめざした排出物削減のグローバル推進	排出物： 国内：原単位03年比75以下に対し64 単独：原単位03年比58以下に対し55 廃棄物： 海外：原則ゼロエミッション推進	○	資源ロスの最小化をめざした排出物削減のグローバル推進 埋立廃棄物ゼロの継続 排出物： 国内：原単位03年比74以下 単独：原単位03年比57以下 海外：原単位12年比97以下
	水使用量削減	海外：各国・地域のニーズの高い取り組み 海外：原単位10年比90以下	各国・地域のニーズの高い取組設定と個別に目標を設定して推進	各国・地域のニーズの高い取組アイテム設定と個別に目標を設定して推進 使用量削減の推進 海外：原単位10年比96以下に対し94	○	各国・各地域のニーズによる水使用量の世界トップレベルの削減等 海外：原単位10年比94以下
	物流の梱包資材の削減	連結：原単位10年比99以下 単独：原単位06年比91以下	包装仕様のスリム化、リターナブル容器の拡大など包装資材購入量の削減	包装資材共通化、リターナブル化 単独：原単位06年比94以下に対し92	○	包装仕様のスリム化、リターナブル容器の拡大など包装資材購入量の削減 充填率向上活動の継続、リターナブルの拡大等 単独：原単位06年比92以下

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

社長メッセージ
デンソーのCSR
企業行動宣言と行動指針
2012年度の実績と今後の課題
コーポレートガバナンス
2012年度ハイライト&ローライト
コンプライアンス
リスク管理
情報セキュリティ
デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

お客様への責任
社員への責任
株主・投資家様への責任
取引先様への責任
地域社会・国際社会への責任

環境報告

環境経営
地球温暖化防止
資源循環
化学物質への対応
社会との連携

CSRヒストリー

CSRの源流
CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

地球温暖化防止

技術開発・商品化過程や生産活動、あるいは社員行動などにおいて、地球温暖化防止に向けた活動を推進しています。

製品でのCO₂排出抑制への貢献

デンソー製品のCO₂排出抑制に向けた考え方・活動を紹介します。

2012年度の活動実績

デンソーの2012年度活動実績を紹介します。

エコファクトリー計画でのCO₂排出抑制

エコファクトリー計画によるCO₂排出抑制のほか、サービス・物流・社員行動におけるCO₂排出抑制に向けた取り組みを紹介します。

生産でのCO₂排出抑制への貢献

デンソーグループの生産活動におけるCO₂排出抑制に向けた考え方・活動を紹介します。

重点活動

コージェネレーションによる自家発電やエネルギーJIT活動などの重点活動について紹介します。

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

社長メッセージ
デンソーのCSR
企業行動宣言と行動指針
2012年度の実績と今後の課題
コーポレートガバナンス
2012年度ハイライト&ローライト
コンプライアンス
リスク管理
情報セキュリティ
デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

お客様への責任
社員への責任
株主・投資家様への責任
取引先様への責任
地域社会・国際社会への責任

環境報告

環境経営
地球温暖化防止
資源循環
化学物質への対応
社会との連携

CSRヒストリー

CSRの源流
CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

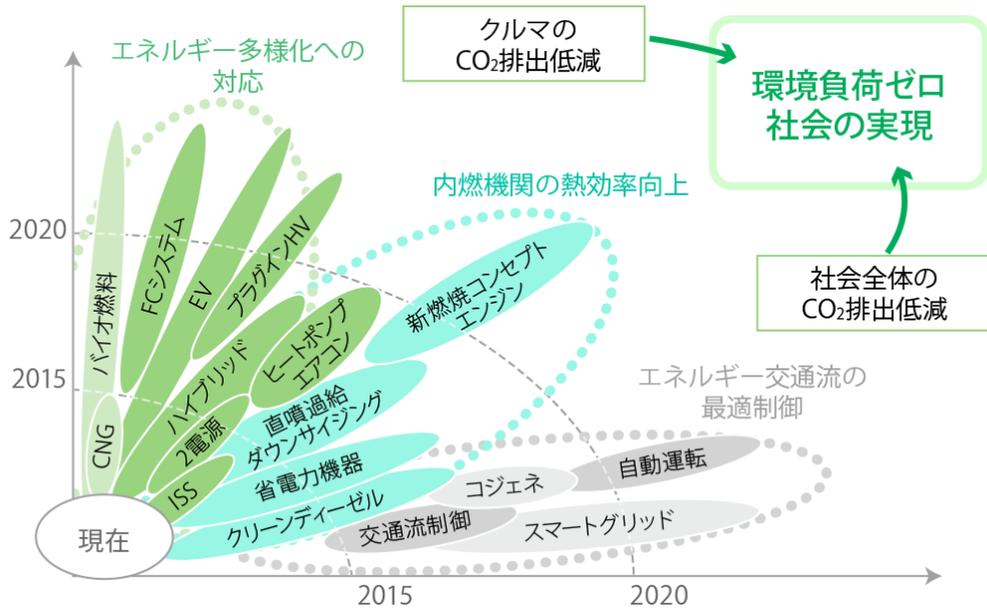
製品でのCO₂排出抑制への貢献

基本的な考え方

自動車のライフサイクルにおけるCO₂排出量は、使用段階が最も多いことから、自動車部品が地球温暖化抑制に寄与するには、軽量化や燃焼効率の改善などによる「燃費の向上」が重要です。その中で、(株)デンソーが関わる製品分野では、エンジンマネジメントシステム、カーエアコン・安全装置などの車載システム同士を連携させた制御を通じて、より高度な「燃費向上と省電力化」の推進に取り組んでいます。

また、エネルギー損失を減らす「燃費向上・省電力化」の観点にとどまらず、クルマから放出される熱エネルギーや減速時に失われる運動エネルギーを回収・再利用する「回生利用」といった、エネルギーを効率的に使うエネルギーマネジメントの取り組みも進めています。

◎CO₂排出抑制マネジメント

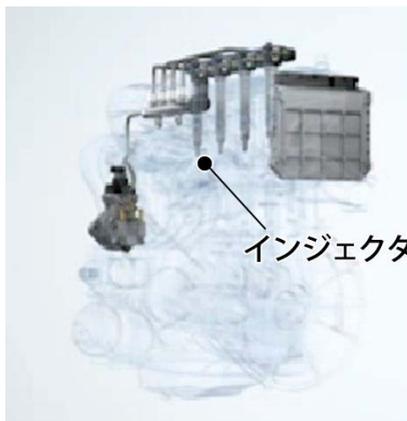


2012年度の活動

デンソーは、地球温暖化防止に寄与するテーマとして「電動化、燃費改善・CO₂削減」を重視し、技術開発・商品化を進めています。

燃費・出力向上に貢献する「i-ART (Intelligent Accuracy Refinement Technology)」

クリーンディーゼルエンジンである「コモンレールシステム」の基幹製品です。従来のシングル圧力センサ式とは異なり、燃料を噴射する各インジェクタ内部に搭載されたセンサが噴射圧をリアルタイムで測定することによって、インジェクタごとに燃料噴射の量やタイミングをより緻密に制御する世界初の技術です。i-ARTにより、PM(粒子状物質)やNOx(窒素酸化物)を低減し、燃費・出力向上に貢献すると同時に、後処理コストも低減します。



コモンレールシステムとインジェクタ



i-ART

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

社長メッセージ
デンソーのCSR
企業行動宣言と行動指針
2012年度の実績と今後の課題
コーポレートガバナンス
2012年度ハイライト&ローライト
コンプライアンス
リスク管理
情報セキュリティ
デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

お客様への責任
社員への責任
株主・投資家様への責任
取引先様への責任
地域社会・国際社会への責任

環境報告

環境経営
地球温暖化防止
資源循環
化学物質への対応
社会との連携

CSRヒストリー

CSRの源流
CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

関連情報

- ▶ ディーゼルエンジン コモンレールシステム
<https://www.denso.co.jp/ja/products/oem/ptrain/diesel/index.html>
- ▶ デンソーディーゼルテクノロジー
http://www.denso.co.jp/ja/products/oem/ptrain/diesel/diesel_tech/technology.html

燃費向上に寄与する「アイドルストップ機構向け電池パック」

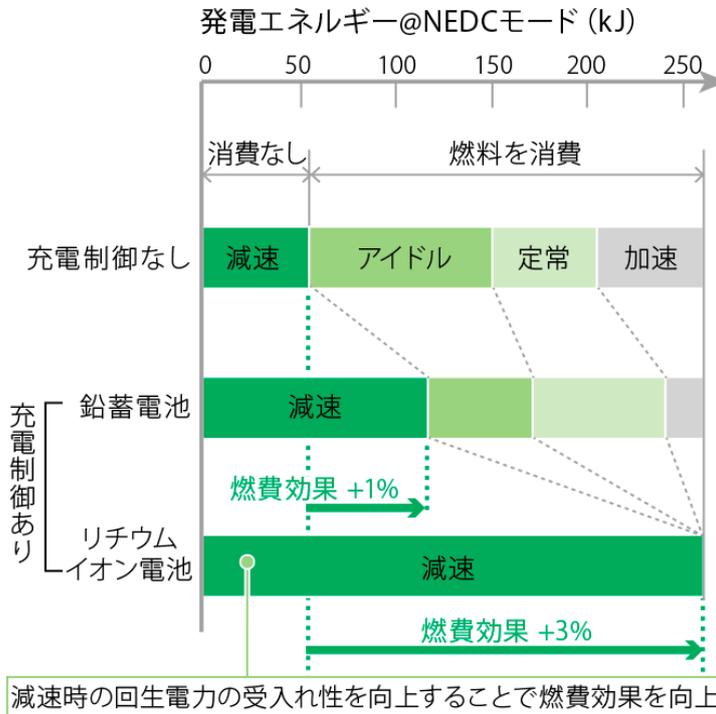
アイドルストップシステムに車両減速時のエネルギー回生を組み合わせることで、より燃費向上が図れます。デンソーは、エネルギー回生を効果的に行うため、従来の鉛電池と高性能リチウムイオン電池を組み合わせる電池パックを開発しました。

この電池パックは、車両側の指示によって回生電力を充電するとともに、カーナビゲーション、オーディオなどの機器へ安定して電力を供給します。また、走行中に充電した回生電力を車両側の指示に基づいて各電気部品に供給でき、オルタネータ（発電機）による発電を抑制することで燃料消費を抑えます。鉛バッテリーだけのシステムと比較して、より多くの回生電力の活用にご貢献します。



アイドルストップ機構向け電池パック

◎効果



関連情報

- ▶ アイドルストップシステム用製品 (PDF:6.29MB)
http://www.denso.co.jp/ja/news/event/tradeshows/2012/files/eco12_stop_start_system.pdf

快適性と燃費向上を両立した「蓄冷エバポレータ」

アイドルストップの際にエンジンが停止した状態でも車室内の温度上昇を抑制する新型エバポレータ「蓄冷エバポレータ(Cold Storage Evaporator : 以下、CSエバポレータ)」を開発しました。

このCSエバポレータは、熱交換部分に蓄冷材を備え、エアコン作動時に冷気を貯めておくことで、アイドルストップによるエンジン停止時にも車室内に冷気を供給。車室内の温度上昇を抑制して快適性を維持しつつ燃費向上にも貢献します。



蓄冷エバポレータ

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

社長メッセージ
デンソーのCSR
企業行動宣言と行動指針
2012年度の実績と今後の課題
コーポレートガバナンス
2012年度ハイライト&ローライト
コンプライアンス
リスク管理
情報セキュリティ
デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

お客様への責任
社員への責任
株主・投資家様への責任
取引先様への責任
地域社会・国際社会への責任

環境報告

環境経営
地球温暖化防止
資源循環
化学物質への対応
社会との連携

CSRヒストリー

CSRの源流
CSR年表

CSR情報の編集方針

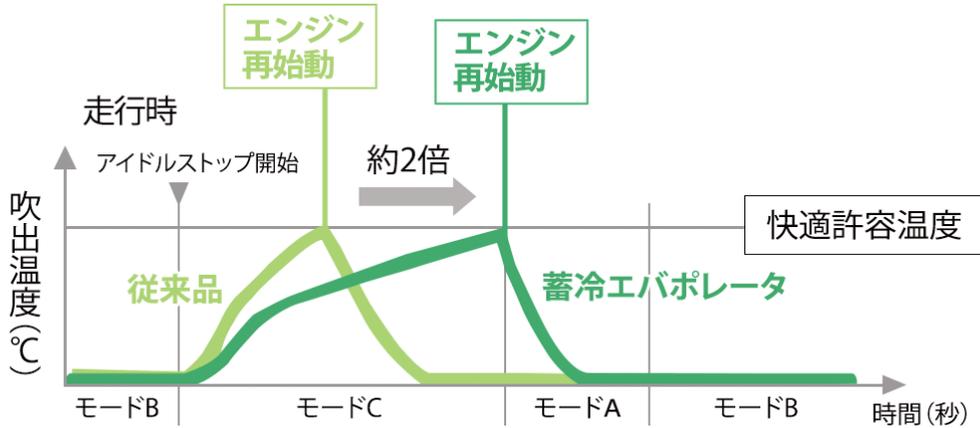
経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

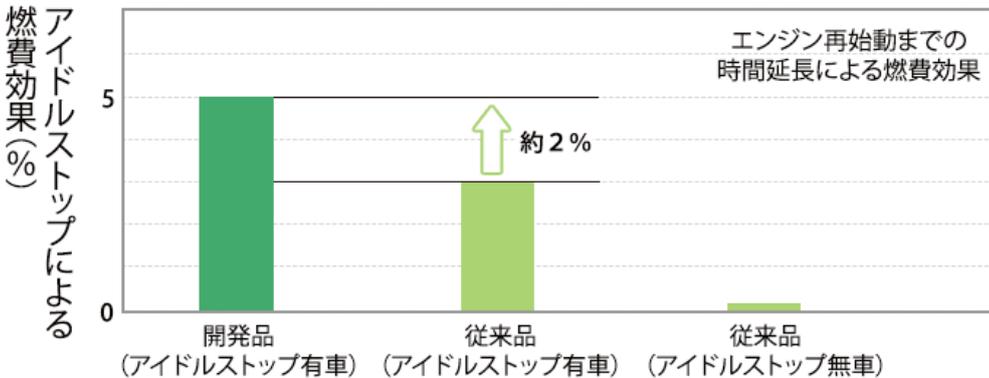
用語集

第三者意見

◎快適性：快適性保持時間を約2倍に延長



◎燃費：約2%の向上



【注】走行条件により効果は異なる

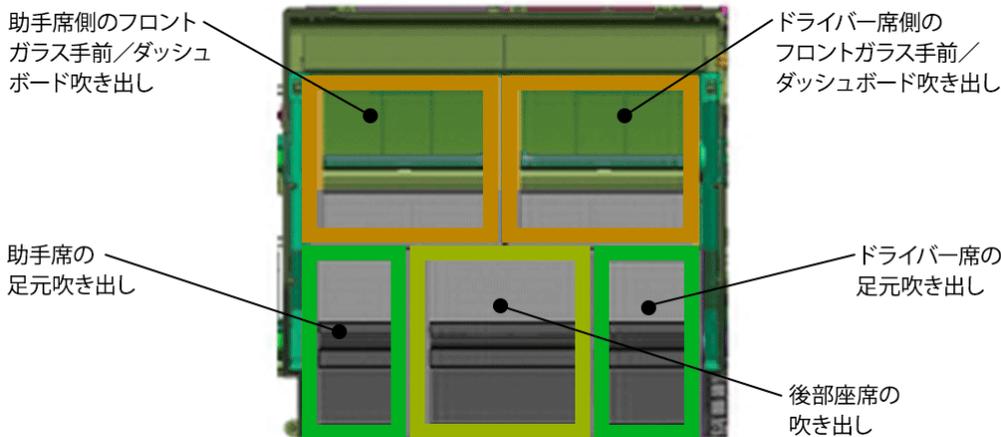
ドライバー席だけの空調が可能「新型カーエアコンシステム」

車室内をドライバー席・助手席・後部座席の3ゾーンに分け、乗員がドライバー席だけの場合には、ドライバー席だけを空調できるカーエアコンシステムを世界で初めて開発。ドライバー席だけを空調する場合、従来のカーエアコンに比べ、使用するエネルギーを通常で約2割削減（当社実車テストに基づく数値）することが可能です。この新型システムによって快適性と燃費向上の両立を実現し、トヨタ新型レクサスGSの一部モデルに搭載されています。



ドライバー席だけの空調が可能なカーエアコンシステム

◎エアコンユニット内の区分（右ハンドルの場合）



関連情報

- ▶ ニュースリリース
<http://www.denso.co.jp/ja/news/newsreleases/2012/120424-01.html>

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソールの事業概要

CSRマネジメント

- 社長メッセージ
- デンソールのCSR
- 企業行動宣言と行動指針
- 2012年度の実績と今後の課題
- コーポレートガバナンス
- 2012年度ハイライト&ローライト
- コンプライアンス
- リスク管理
- 情報セキュリティ
- デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

- お客様への責任
- 社員への責任
- 株主・投資家様への責任
- 取引先様への責任
- 地域社会・国際社会への責任

環境報告

- 環境経営
- 地球温暖化防止
- 資源循環
- 化学物質への対応
- 社会との連携

CSRヒストリー

- CSRの源流
- CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

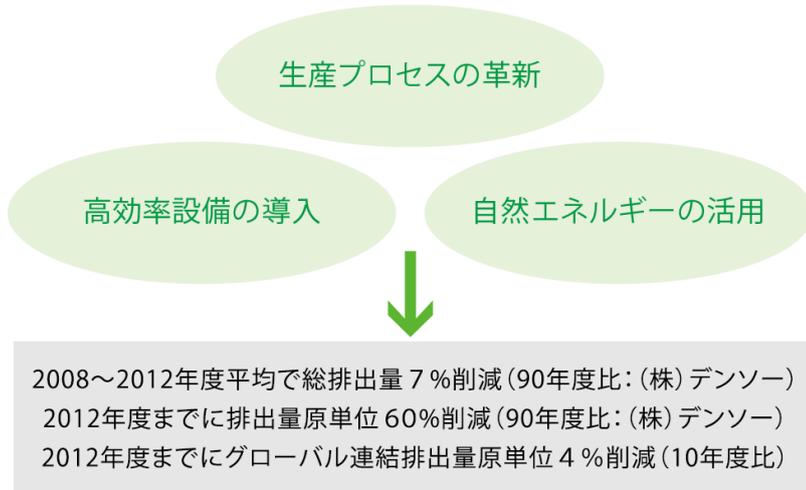
第三者意見

基本的な考え方

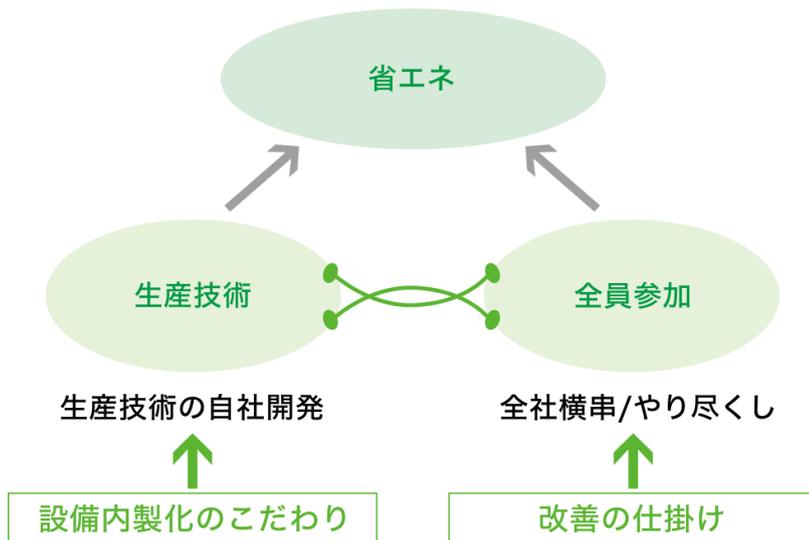
デンソーグループが生産活動で排出する主な温室効果ガスのうち、エネルギー消費によるCO2排出が82%を占めています。そのため、「エコファクトリー構想」の中で、サプライチェーン全体での温室効果ガスの排出削減を最重要課題に位置づけ、グループを挙げて省エネ活動を推進しています。省エネルギー活動の特徴は次の2点です。

- (1) 「生産技術の自社開発」による設備の省エネ化の推進（ハード面）
- (2) その設備の工夫を全員参加で進める「やり尽くし/全社横断的活動」（ソフト面）

◎生産工程におけるCO2排出抑制の取り組み



◎デンソー流 省エネルギー活動



推進体制

2008年に省エネを環境の最優先課題と位置付け、役員直轄組織として環境委員会に「CO2特別プロジェクト室」を設置。社内およびグループ会社のCO2削減長期方針・企画とCO2管理、省エネ予算の統括管理と投資案件の決定、生産工程・設備の省エネ技術開発の指導を担っています。そして、下部組織として3部会を置き、活動を推進しています。

3部会

- エネルギー部会（工場・実験・オフィス部門など全社で省エネ改善やり尽くし）
- エネルギー技術部会（省エネ設備の自社開発）
- 渉外部会（省エネの技術・仕組みやコージェネの有効性を社内外へ訴求）

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

社長メッセージ
 デンソーのCSR
 企業行動宣言と行動指針
 2012年度の実績と今後の課題
 コーポレートガバナンス
 2012年度ハイライト&ローライト
 コンプライアンス
 リスク管理
 情報セキュリティ
 デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

お客様への責任
 社員への責任
 株主・投資家様への責任
 取引先様への責任
 地域社会・国際社会への責任

環境報告

環境経営
 地球温暖化防止
 資源循環
 化学物質への対応
 社会との連携

CSRヒストリー

CSRの源流
 CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

2012年度の活動実績

CO₂排出量

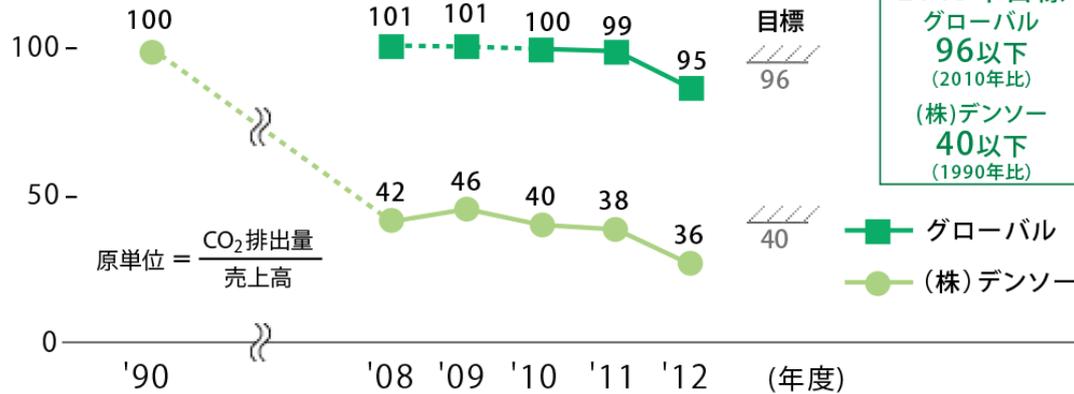
(株)デンソーは2012年度までにCO₂排出量を1990年度比7%削減(2008~2012年度平均)、原単位を1990年度比60%削減、国内外グループを含むグローバル生産排出量の原単位を2010年度比4%削減という目標を設定しています。

また、所属する(社)日本自動車部品工業会でも「2008年~2012年の平均CO₂排出量を1990年度比7%削減」という自主目標を掲げています。

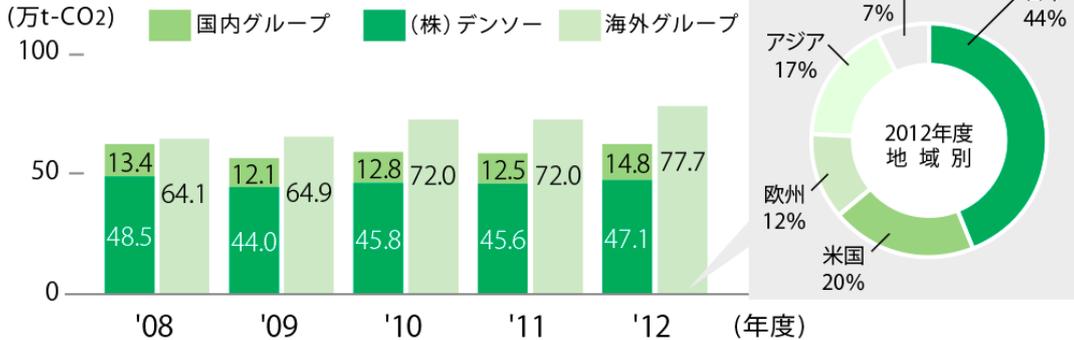
(株)デンソーは目標達成に向け、生産プロセスの革新、高効率設備の導入、自然エネルギーの活用を中心に、事業所および各社ごとに省エネルギー計画を策定し、取り組みを進めました。この結果、2012年度のCO₂排出量は89(1990年比)、2008年~2012年度平均で1990年比13%削減と京都議定書に対応した長期CO₂削減目標を達成しました。また、原単位は36(1990年比)、グローバルでは原単位5%削減(2010年度比)となり、共に目標を達成しました。

◎デンソーのCO₂排出量原単位

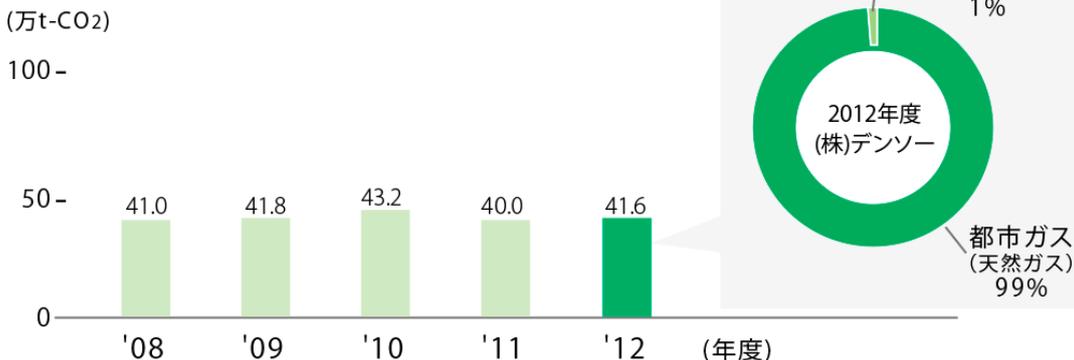
(指数)



◎デンソーのCO₂排出量推移



◎「スコープ1」のCO₂排出量



社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

- 社長メッセージ
- デンソーのCSR
- 企業行動宣言と行動指針
- 2012年度の実績と今後の課題
- コーポレートガバナンス
- 2012年度ハイライト&ローライト
- コンプライアンス
- リスク管理
- 情報セキュリティ
- デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

- お客様への責任
- 社員への責任
- 株主・投資家様への責任
- 取引先様への責任
- 地域社会・国際社会への責任

環境報告

- 環境経営
- 地球温暖化防止
- 資源循環
- 化学物質への対応
- 社会との連携

CSRヒストリー

- CSRの源流
- CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

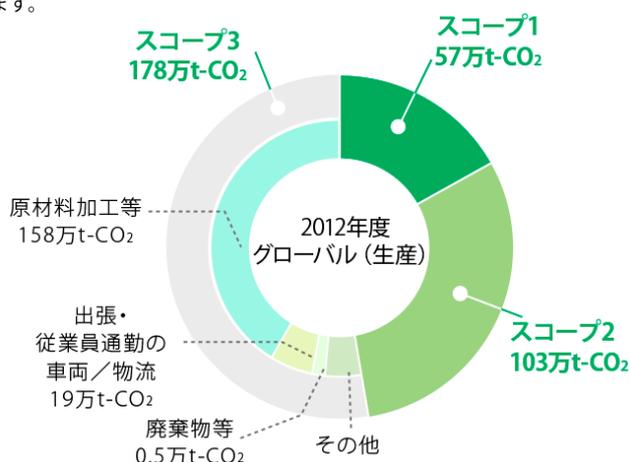
グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

◎バリューチェーン全体の総量割合

バリューチェーン全体のCO₂排出量の算定・報告に関する国際的なガイドライン「GHGプロトコルスコープ3区分基準」による割合を表わしています。



【注】温室効果ガスのスコープ(排出範囲)のうち、ガソリンや重油の燃焼など自社で直接的に排出するものを「スコープ1」、電気の使用による発電用の間接的排出などを「スコープ2」、原料調達・製造・廃棄・流通・営業活動など自社外関連活動からの間接排出を「スコープ3」と区分。また、スコープ1、スコープ2は、非生産分野の事業所拠点を含めた集計値とする。

デンソーの温室効果ガス排出量の集計における基本的な考え方

京都議定書で定める温室効果ガスのCO₂と5ガス(エネルギー系)とPFC、HFC、SF₆、N₂O、CH₄(非エネルギー系)を合計。CO₂換算係数は、地域別排出係数を使用し、国内は下記表、海外は各地域の公表値を使用しています。なお、本報告書での換算では、コージェネのCO₂削減効果は火力平均で換算して、その効果を排出量に反映しています。5ガスの排出量は、2006年度からは「地球温暖化対策の推進に関する法律」のマニュアルに基づいて算出しています。

◎CO₂排出量算出に用いたCO₂換算係数

電力	0.2966kg-CO ₂ /kWh
A重油	2.7093kg-CO ₂ /L
灯油	2.4907kg-CO ₂ /L
プロパン	3.0404kg-CO ₂ /kg
都市ガス	2.2702kg-CO ₂ /m ³

【注】CO₂換算係数の出典：(社)日本自動車部品工業会

CO₂以外の温室効果ガス(5ガス)の削減

2015年度までの削減目標を50%削減と設定し、新規設置生産ラインへの無害化装置の設置および無害化装置設置ライン稼働率の向上を推進しています。

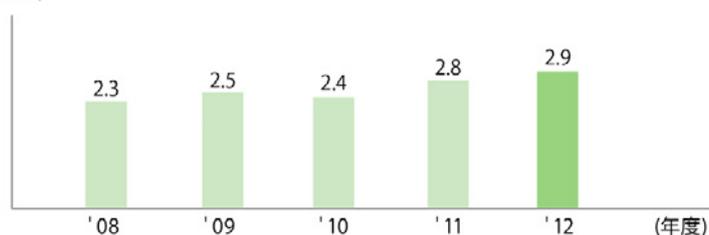
冷暖房実験作業においては、試験冷媒の回収率向上を図り、2012年度の排出量2万9,000 t-CO₂とエコビジョン目標を達成しました。

◎温室効果ガス排出の内訳(エネルギー起源CO₂を除く) [(株)デンソー]



◎5ガスCO₂排出総量

(万t-CO₂)



社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

社長メッセージ
デンソーのCSR
企業行動宣言と行動指針
2012年度の実績と今後の課題
コーポレートガバナンス
2012年度ハイライト&ローライト
コンプライアンス
リスク管理
情報セキュリティ
デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

お客様への責任
社員への責任
株主・投資家様への責任
取引先様への責任
地域社会・国際社会への責任

環境報告

環境経営
地球温暖化防止
資源循環
化学物質への対応
社会との連携

CSR歴史

CSRの源流
CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

重点活動

省エネ活動

デンソーグループは、エネルギー損失を限りなくゼロに近づけることが重要と考え、特にエネルギー使用量の約60%を占める電力の削減に注力しています。その基本は、生産ラインごとのエネルギー消費量の“見える化”や活動進捗の点数化などで課題を顕在化し、改善策をやり尽くすことです。

(株)デンソーでは、2001年に設置した「省エネ加工研究会(現:省エネ技術部会)」が長期的なCO₂削減の技術開発(30テーマ)に取り組んでいます。

2003年からは設備・工程でのあらゆるムダ(搬送・動作、在庫等)を徹底的に排除する

CS3(Compact,Slim,Simple,Speed)活動に取り組み、「CO₂排出量50%削減」などの実績をあげ、現在は「1/n活動」としてさらにレベルアップした取り組みを展開しています。

また、国内外のグループ会社では、省エネ診断・エネルギー消費の見える化を通じて全員参加の改善をやり尽くす「パーフェクトエネルギー工場(PEF)活動」(115事例)を水平展開しています。

◎CO₂排出削減に向けた施策

仕組み	<ul style="list-style-type: none"> デンソーエコファクトリー構想 国内外グループに「グローバルPEF」の展開
削減施策【注1】	<ul style="list-style-type: none"> パーフェクトエネルギー工場(PEF)活動 ～全員参加で省エネ施策の完全やり尽くし活動～ エネルギーJIT ～必要なときに必要なだけエネルギーを使う～
	<ul style="list-style-type: none"> 省エネ加工技術の開発

【注1】削減施策関連URL

関連情報

- ▶ デンソー、省エネ大賞(省エネ事例部門)で経済産業大臣賞を受賞
<http://www.denso.co.jp/ja/news/newsreleases/2012/120125-01.html>
- ▶ 第8回新機械振興賞・経済産業大臣賞を受賞-省エネ小型低圧ダイカストシステム
<http://www.denso.co.jp/ja/news/newsreleases/2010/101214-01.html>

◎設備・工程改善の考え方



高効率設備の導入

(株)デンソーは、CO₂排出量の少ない都市ガスを燃料に発電と排熱利用ができる「コージェネレーション設備」が、省エネ推進にきわめて有効な手段と考え、国内工場に積極的に導入してきました。現在、(株)デンソーの自家発電比率は40%(総発電量:515百万kWh)に達し、15基によるCO₂削減効果は年間15万トン-CO₂と見込まれています。コージェネ設備は、分散型電源として停電時などにも有効なことから、今後も効率的な運用に努めていきます。



大安製作所コージェネレーション設備

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

- 社長メッセージ
- デンソーのCSR
- 企業行動宣言と行動指針
- 2012年度の実績と今後の課題
- コーポレートガバナンス
- 2012年度ハイライト&ローライト
- コンプライアンス
- リスク管理
- 情報セキュリティ
- デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

- お客様への責任
- 社員への責任
- 株主・投資家様への責任
- 取引先様への責任
- 地域社会・国際社会への責任

環境報告

- 環境経営
- 地球温暖化防止
- 資源循環
- 化学物質への対応
- 社会との連携

CSRヒストリー

- CSRの源流
- CSR年表

CSR情報の編集方針

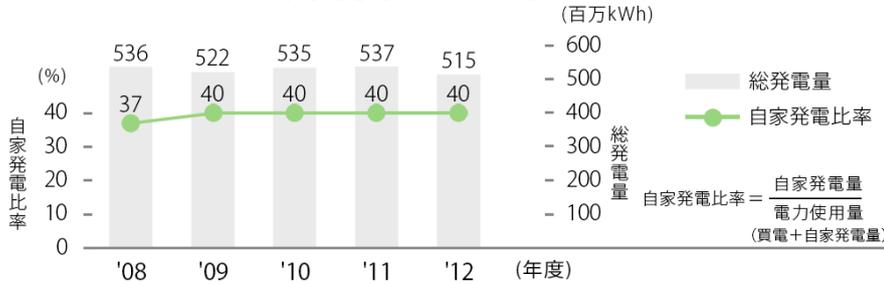
経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

◎コージェネレーションによる自家発電 [(株) デンソー]



エネルギーのJIT (ジャスト・イン・タイム) 活動

デンソーグループでは「製造用エネルギーは固定化されたインフラではなく、自在に使いこなすべき部品のひとつ」という視点のもと、必要な時に必要なだけエネルギーを使用・供給する体制の確立に取り組んでいます。これが『エネルギーJIT (ジャスト・イン・タイム) 活動』です。

この活動は、2009年度に生産量の変動に強い省エネ体制に向け、製造部・生産技術部・工機部・施設部・デンソーファシリティーズが共同で構想し、エネルギーを供給する「供給JIT」、エネルギーを使用する「生産JIT」の両面から最適化を進めています。

供給JIT

エネルギー供給部門では、製造部から送信された圧縮エアの注文情報「エネカンバン」に基づき、各工程への圧縮エアの最適化を図っています。

パソコン画面には、供給不要な設備・時間が明示され、1日の使用予測量も把握でき、供給効率がベストになる空圧機の組み合わせが可能となりました。

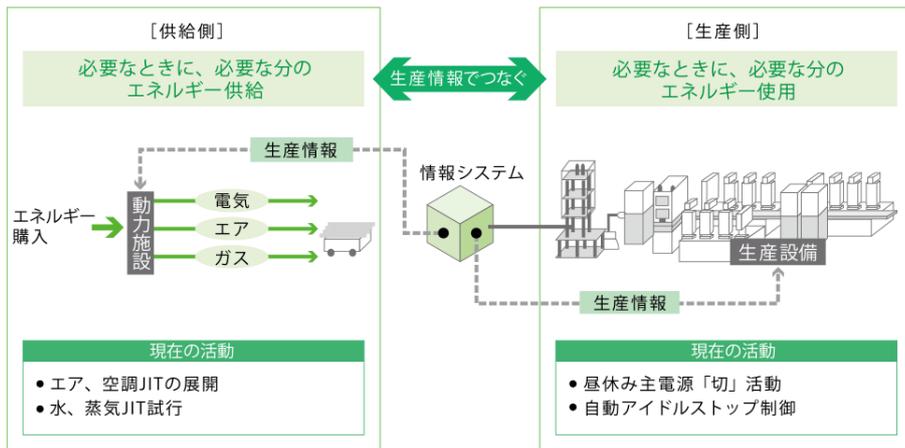
供給JITでは、この圧縮エアのJIT活動をモデルに、現在は空調・蒸気・水とすべての供給エネルギーのJIT化をめざして全社展開しています。

生産JIT

生産ラインでは、製品が流動しない時は設備自体が自動的に消費電力をセーブする「設備のアイドルストップ化」を行い、現在は、この機能を標準化して新規導入設備への浸透を図っています。

◎エネルギーJIT構想

着眼点：製造用エネルギーは、インフラではなく、部品



平成24年度「省エネ大賞」で省エネルギーセンター会長賞を受賞

(株)デンソーは、平成24年度「省エネ大賞」(省エネ事例部門)で「省エネルギーセンター会長賞」を受賞しました。この賞は一般財団法人省エネルギーセンターが主催し、企業・自治体などの優れた省エネ活動や技術開発による先進的な省エネ製品などを表彰するもので、平成23年度に続き2年連続の受賞となりました。

今回の受賞は、機能品製造部における「核となる人材(省エネリーダー)の育成」と「エアだけで制御できる安価で手軽且つ調整が簡単なバルス(間欠)ブロー開発」など、製造部一丸となった取り組みが評価されたものです。



表彰式 (2013年1月)



社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

- 社長メッセージ
- デンソーのCSR
- 企業行動宣言と行動指針
- 2012年度の実績と今後の課題
- コーポレートガバナンス
- 2012年度ハイライト&ローライト
- コンプライアンス
- リスク管理
- 情報セキュリティ
- デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

- お客様への責任
- 社員への責任
- 株主・投資家様への責任
- 取引先様への責任
- 地域社会・国際社会への責任

環境報告

- 環境経営
- 地球温暖化防止
- 資源循環
- 化学物質への対応
- 社会との連携

CSRヒストリー

- CSRの源流
- CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

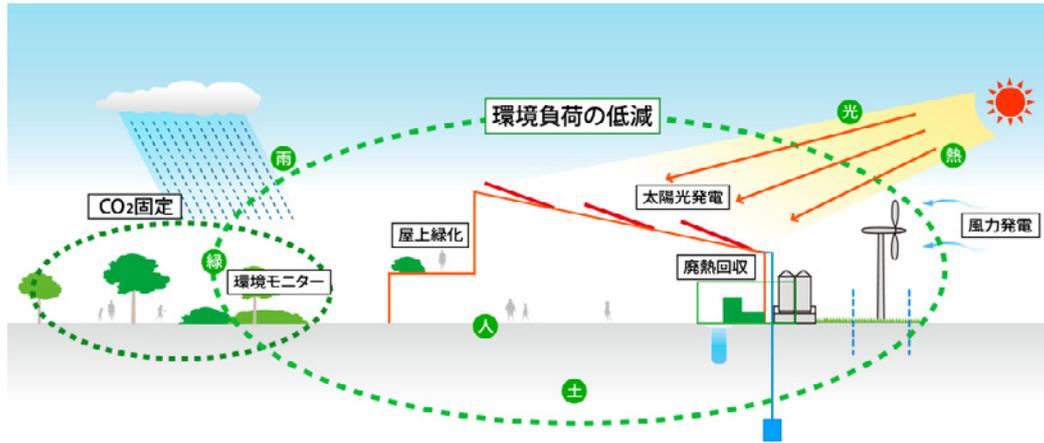
エコファクトリー計画でのCO2排出抑制

全工場のエコファクトリー化においても、CO2排出抑制を最重要課題と位置づけ、モデル工場を設定して、設備の新設・改造に着手しています。例えば、大安製作所（三重県）では、工場増設にあたり焼成炉の排熱利用、圧縮エアから駆動モータによる電動化、省エネ達成状況の表示のほか、太陽光・風力発電での充電を可能にした電気自動車も導入しています。

さらに2008年度から、生産量が変動しても排出原単位を悪化させないよう生産が停止する休憩時にはエアコンなどを完全休止させたり、省エネパトロールを実施するなどの取り組みを一段と強化しました。

また、2009年4月に稼働を開始した電子部品を生産する（株）デンソーエレクトロニクス（DNEL）では、雪を大量に貯蔵して夏の冷房に利用するなど、地域特性を活かした省エネシステムを導入しています。

◎CO2排出抑制に貢献するエコファクトリー



◎自然エネルギー活用事例(デンソーエレクトロニクス)

北海道・千歳という地域特性を活かしてデンソーグループ初の雪冷房設備を導入

貯雪庫	鉄骨造 床面積 161.5m ² 高さ 7m(中央部) 貯蔵量 327t (674m ³)
利用期間	6～9月 (550～580時間/年)
省エネ効果	1,390L/年 (原油換算) (CO2換算で3.68 t-CO2/年)



社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

- 社長メッセージ
- デンソーのCSR
- 企業行動宣言と行動指針
- 2012年度の実績と今後の課題
- コーポレートガバナンス
- 2012年度ハイライト&ローライト
- コンプライアンス
- リスク管理
- 情報セキュリティ
- デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

- お客様への責任
- 社員への責任
- 株主・投資家様への責任
- 取引先様への責任
- 地域社会・国際社会への責任

環境報告

- 環境経営
- 地球温暖化防止
- 資源循環
- 化学物質への対応
- 社会との連携

CSRヒストリー

- CSRの源流
- CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

社員のエコライフ活動の促進

デンソーでは、約13万人の社員一人ひとりの環境行動が温暖化防止の大きな推進力になると考え、エコライフ実践への啓発と基盤整備に努めています。

その指針として、第5次環境行動計画に、4つの重要取組項目を設定。日本では、2006年11月から開始した（株）デンソー本社地区のシャトルバスの運行（パーク＆ライド）、緑化活動の推進とともに、エコポイント制度「はあとふるポイント」を連動させて積極的な参加を促しています。

◎重要取組項目

- (1) 社有車のクリーンエネルギー車・低公害車化の拡大
- (2) パーク＆ライドなどの通勤方法の改善促進
- (3) エコドライブの啓発・普及
- (4) 工場周辺の緑化活動の推進

◎社有車のクリーンエネルギー車・低公害車の割合 [（株）デンソー]



サービス店でのCO₂排出抑制

デンソー製品の修理や再生品（リビルト）・環境配慮製品の販売を行うサービス店では、（株）デンソーが認定する「エコサービスステーション」として、事務所・修理工場の電気使用の省エネ活動に積極的に取り組んでいます。

そのさらなる推進に向け、2008年度から修理・取付と製品販売におけるCO₂削減効果を数値表示する“見える化”を展開し、グループ一丸となり取り組みへの意識を高めています。

◎エコステーション業務のCO₂削減効果

対象		CO ₂ 削減効果 (デンソー、国交省などの情報により試算)			
修理・再生品	オルタネータ/スタータ	新品・再生品	8.2kg-CO ₂ /台	取上台数 29万台	3,542t-CO ₂ 削減
	噴射ポンプ		22kg-CO ₂ /台	2.5万台	
	コンプレッサ		8.3kg-CO ₂ /台	7.0万台	
エコ商品販売	デジタルタコグラフ	年間削減効果	231kg-CO ₂ /台	1.2万台	4,668t-CO ₂ 削減
	ETC		11kg-CO ₂ /台	17万台	

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

社長メッセージ
デンソーのCSR
企業行動宣言と行動指針
2012年度の実績と今後の課題
コーポレートガバナンス
2012年度ハイライト&ローライト
コンプライアンス
リスク管理
情報セキュリティ
デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

お客様への責任
社員への責任
株主・投資家様への責任
取引先様への責任
地域社会・国際社会への責任

環境報告

環境経営
地球温暖化防止
資源循環
化学物質への対応
社会との連携

CSRヒストリー

CSRの源流
CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

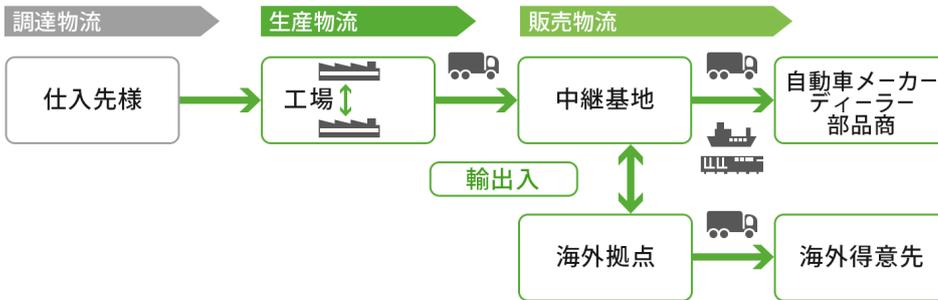
物流におけるCO₂排出の削減

(株)デンソーでは、1日平均約2.0万m³の製品を出荷し、トラック・鉄道・船舶により国内外の納入先に輸送しています。デンソーは物流業務を子会社の(株)デンソーロジテムに委託していますが、特定荷主のCO₂削減推進を社会的な責務と考え、同社と連携して取り組みを推進しています。具体的には、下記を実施しています。

- (1) 積載率の向上
- (2) モーダルシフト（東北地域等への鉄道・船舶便への転換）
- (3) 最適ルートによる省エネ輸送
- (4) 納入先様への直送
- (5) 中継地倉庫間の物流の効率化
- (6) エコタイヤの導入推進支援
- (7) 燃費向上ツールの導入支援など

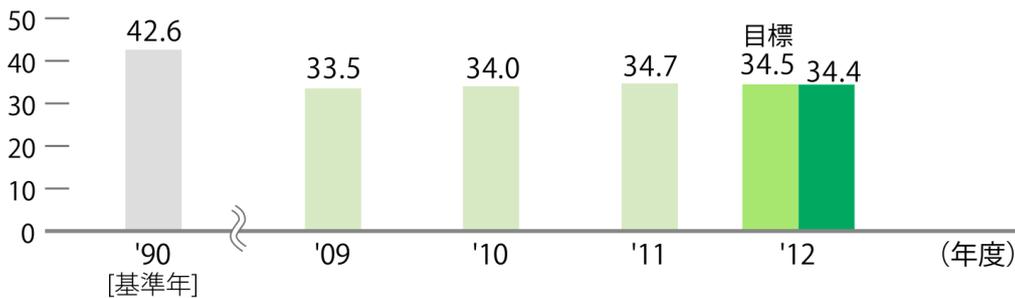
2012年度は、前年に発生した東日本大震災による生産の激減から大きく生産が回復し、効率的な輸送トラックの便数調整が図れました。加えて、2011年10月に稼働を開始したデンソー東日本の物流拠点機能が加わり、納入先への輸送距離の短縮化などが図れました。この結果、総排出量は3万4,400トン-CO₂と前年より削減でき、年度目標を達成しました。

◎デンソーの物流



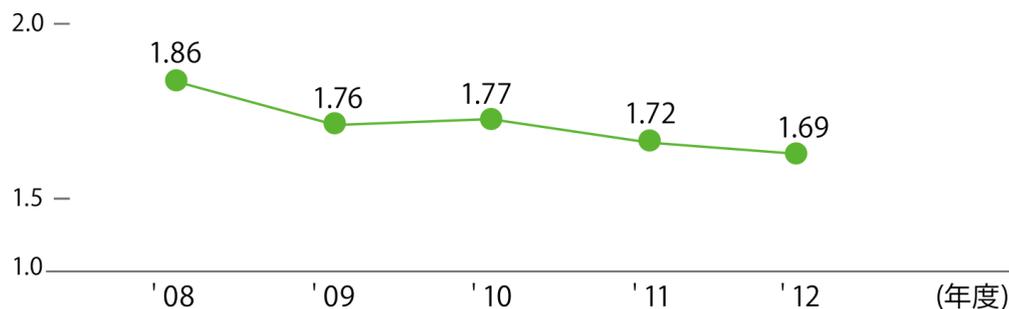
◎物流CO₂排出量 [(株)デンソー]

(千t-CO₂)



◎物流CO₂量 (t-CO₂)/物的生産売上げ (億円)

原単位



社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

社長メッセージ
 デンソーのCSR
 企業行動宣言と行動指針
 2012年度の実績と今後の課題
 コーポレートガバナンス
 2012年度ハイライト&ローライト
 コンプライアンス
 リスク管理
 情報セキュリティ
 デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

お客様への責任
 社員への責任
 株主・投資家様への責任
 取引先様への責任
 地域社会・国際社会への責任

環境報告

環境経営
 地球温暖化防止
 資源循環
 化学物質への対応
 社会との連携

CSRヒストリー

CSRの源流
 CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

製品での資源有効利用

基本的な考え方

デンソーグループでは、資源の有効利用に向けて、第5次環境行動計画で下記を重点取り組み項目に設定しています。特にライフサイクルの最上流に位置する設計段階において、製品環境指標「ファクターデルタ」を活用し、資源効率の向上倍率を追求しています。

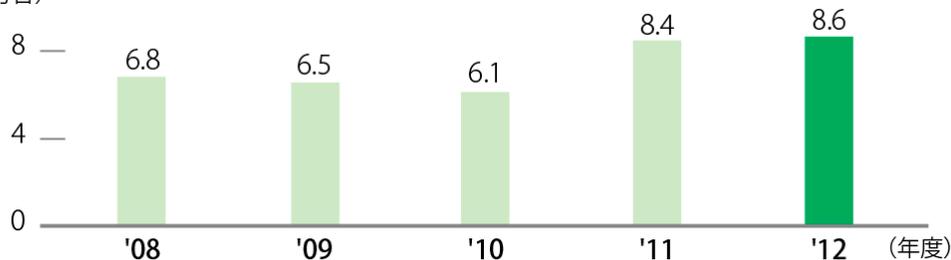
- (1) 小型軽量化による使用材料の削減（開発段階）
- (2) 製品のリビルト再生による長寿命化（使用段階）
- (3) 分解の容易性・リサイクルしやすい材料の開発・リサイクル可能率の算定（開発段階）
- (4) 製品のライフサイクルを通じた資源循環

グループでリビルト事業による資源再生を拡大

デンソーグループでは、使用済み製品の回収・リサイクルのシステム構築は、実効性と効率性の両立を図ることが重要と考えています。同時に、環境負荷の最小化を図るため、リサイクルの優先順位を「製品再生（リビルト）⇒部品リユース⇒マテリアルリサイクル」と位置づけ、リビルト事業の拡大に力を注いでいます。

使用済み自動車から取り外したオルタネータ（発電機）やスタータには、ブラシやベアリングなどの磨耗部品を交換して整備すれば、十分に機能するものが多数あります。そこで、日本では（株）デンソーリマニ（愛知県安城市）が、これらを回収・再生し、新製品と同等の性能検査により品質保証して出荷しています。現在、欧米・中国地域でもグループ会社が同様のリビルト事業を展開し、再生品の流通量を拡大しています。

◎デンソーリマニのリビルト製品の再生台数
（万台）



関連情報

▶ デンソーリマニ <http://www.densoiremani.co.jp/ja/index.html>

生産での資源有効利用

基本的な考え方

デンソーグループでは、資源生産性の最大化に向け「循環型社会に向けた資源有効利用の推進」を重点課題に、ゼロエミッション（埋立廃棄物ゼロ）を推進しています。

また、「2012年までに（株）デンソーの排出原単位を2003年度比42%減、国内生産会社は25%減、海外生産会社は推進のための仕組みづくり」を目標に掲げ、省資源に配慮した加工法や廃材の出にくい製品設計により主資材（金属・樹脂）・副資材（油脂・薬液）の排出物の発生抑制に取り組み、目標を達成しました。

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

社長メッセージ
デンソーのCSR
企業行動宣言と行動指針
2012年度の実績と今後の課題
コーポレートガバナンス
2012年度ハイライト&ローライト
コンプライアンス
リスク管理
情報セキュリティ
デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

お客様への責任
社員への責任
株主・投資家様への責任
取引先様への責任
地域社会・国際社会への責任

環境報告

環境経営
地球温暖化防止
資源循環
化学物質への対応
社会との連携

CSRヒストリー

CSRの源流
CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

2012年度の実績

廃棄物のゼロエミッションと排出物削減

(株)デンソーおよび国内グループ20社は、2003年度までにゼロエミッションを達成・維持し、残る海外拠点のうち2012年度は主要45拠点中25拠点が達成・維持しています。

さらに、国内の廃棄物処理事業者の監査制度を設け、適正処理の徹底を図っています。

一方、廃棄物の発生を抑える取り組みでは、歩留まり向上やランナー【注1】残留素材の再利用による金属・樹脂廃材の発生抑制、加工油の長寿命化や廃液処理薬品の低減に注力。

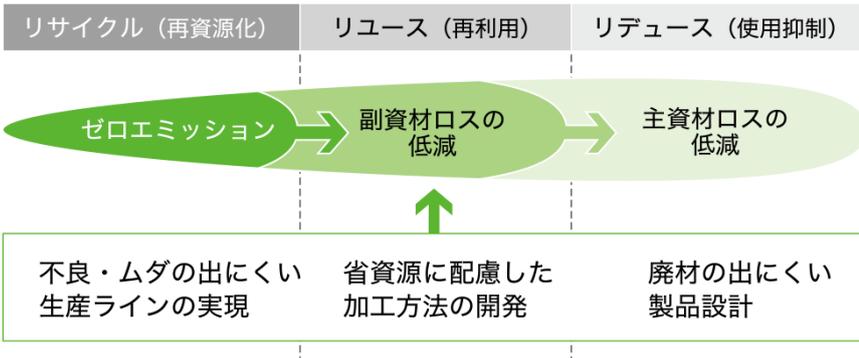
排出物の実績は、原単位5.04以下の目標に対し、4.33と目標を上まわりました。

【注1】ランナー

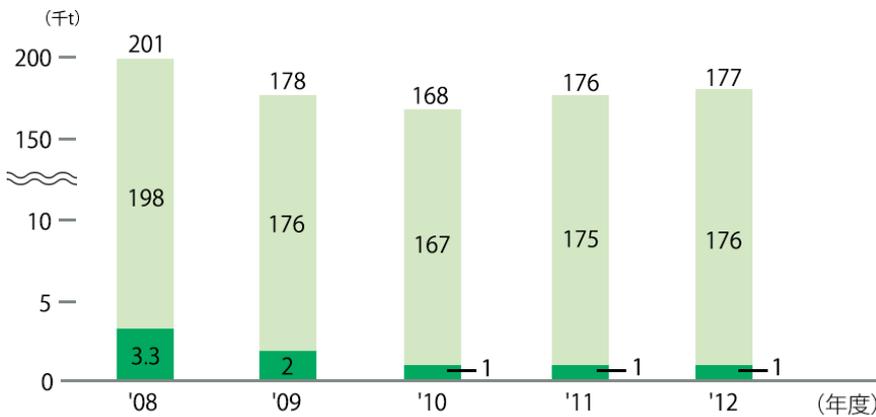
成形機のノズルから金型の製品形状部分にたどり着くまでの樹脂や金属の素材の通り道。

◎ゼロエミッションと排出物削減活動の位置づけ

3Rで廃材発生の低減

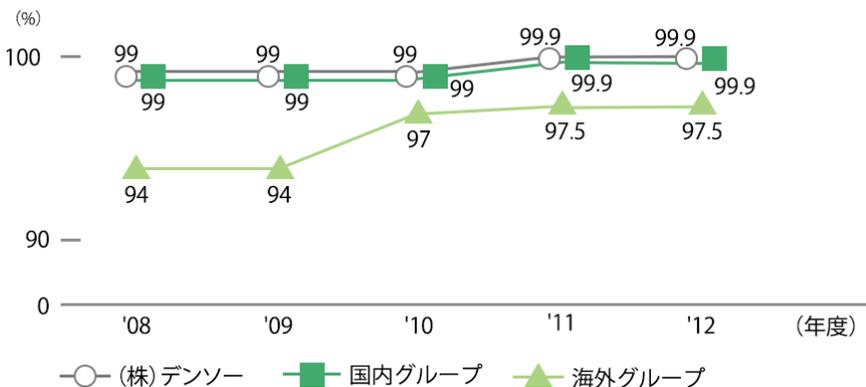


◎リサイクル量と廃棄物処理量



廃棄物発生量 ———— リサイクル量
■ 廃棄処分量 (焼却+直接埋立)

◎再資源化率の推移



社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

社長メッセージ
 デンソーのCSR
 企業行動宣言と行動指針
 2012年度の実績と今後の課題
 コーポレートガバナンス
 2012年度ハイライト&ローライト
 コンプライアンス
 リスク管理
 情報セキュリティ
 デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

お客様への責任
 社員への責任
 株主・投資家様への責任
 取引先様への責任
 地域社会・国際社会への責任

環境報告

環境経営
 地球温暖化防止
 資源循環
 化学物質への対応
 社会との連携

CSRヒストリー

CSRの源流
 CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

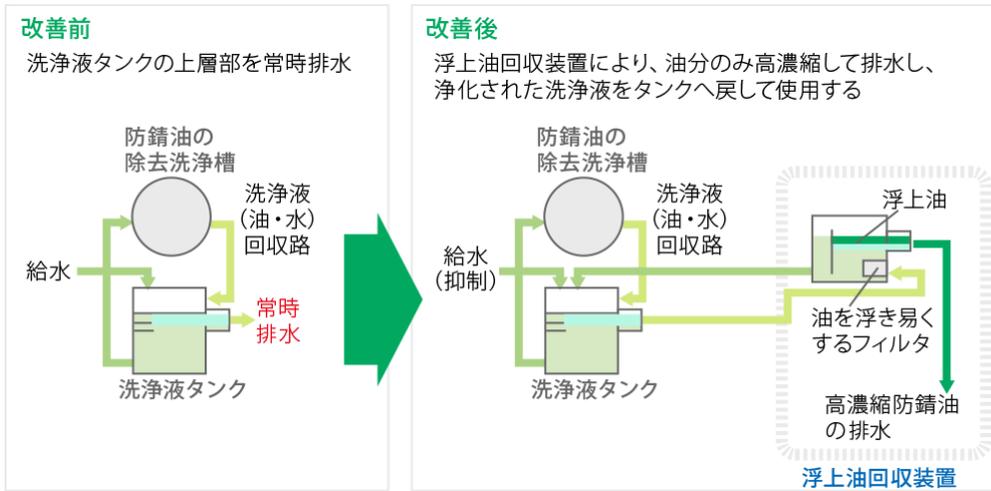
グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

資源有効利用の事例－浮上油回収装置の設置による洗浄液の寿命延長

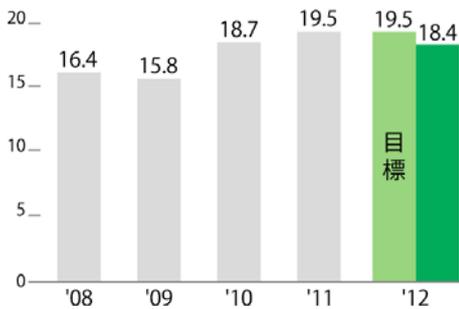
高い清浄度を求められる製品は、組み立て前に仕入れ部品に付着した防錆油を洗浄します。この時に使った洗浄液は、油含有量の増加（劣化）に伴い、ヘドロの発生および付着の恐れがあることから、洗浄タンクの上層液は廃液として常時排出していました。これを浮上油の回収装置の設置によって、油成分だけを高濃縮して排出することが可能となり、洗浄液の寿命を延長でき、常時排水の必要がなくなり、廃液量を大幅に抑制しました。



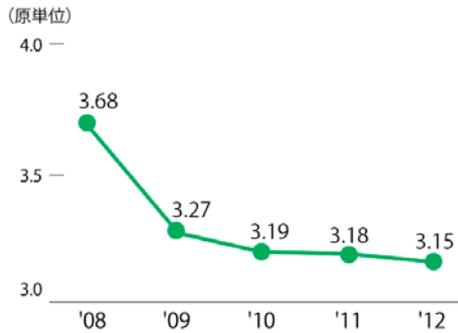
物流における包装材の削減

(株)デンソーでは包装の簡素化や3Rを考慮したリターンブル化を推進しています。具体的には、各製品構造に合わせて縮小・軽量化した緩衝内材の削減や軽量化、段ボールから樹脂製「通い箱」への変更と小型化、段ボールパレットから樹脂製シートへの転換、工場間輸送でのリユース包装など多岐にわたり、これらを継続的に推進しています。2012年度は資材使用量は1万8,400トン削減でき、原単位の年度目標も達成しました。

◎梱包資材使用量（千 t）



◎資材使用量（t）/物的生産売上げ（億円）



水使用量の削減

デンソーグループは、環境行動計画に水資源の有効利用と使用量の最小化をめざす方針を策定し、影響が大きな取水源を把握。地域別ガイドラインを設定して使用量削減目標を定めています。

そして、日頃から節水や循環利用に努めるとともに、放流する水質は法律より厳しい自主基準を設定し、水質・水温を管理して排水しています。

2012年度の水使用量は、(株)デンソーの生産工程での「脱脂におけるアルカリイオン洗浄でのクローズド化」、DMUK (英国) での「雨水の生活系使用水への利用」、DNHA・DNIN (インド) での「雨水の緑化散水利用」、DMGZ (中国) での「生活排水の浄化処理後の緑化散水・中水利用」などの活動の結果、前年度比3%増の1,209万トンとなりました。

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

社長メッセージ
デンソーのCSR
企業行動宣言と行動指針
2012年度の実績と今後の課題
コーポレートガバナンス
2012年度ハイライト&ローライト
コンプライアンス
リスク管理
情報セキュリティ
デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

お客様への責任
社員への責任
株主・投資家様への責任
取引先様への責任
地域社会・国際社会への責任

環境報告

環境経営
地球温暖化防止
資源循環
化学物質への対応
社会との連携

CSRヒストリー

CSRの源流
CSR年表

CSR情報の編集方針

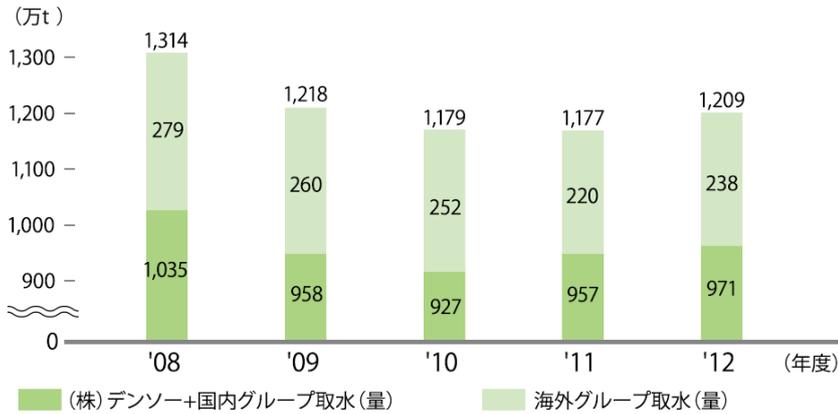
経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

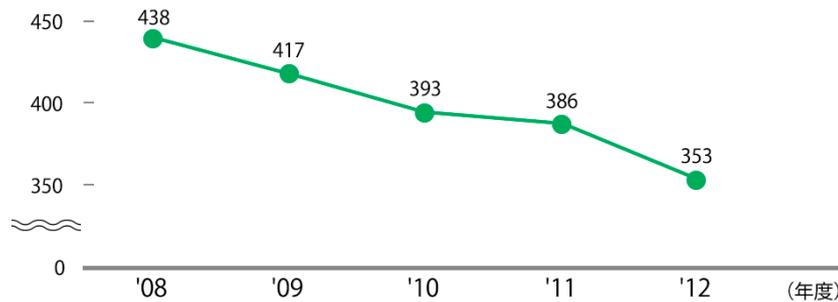
用語集

第三者意見

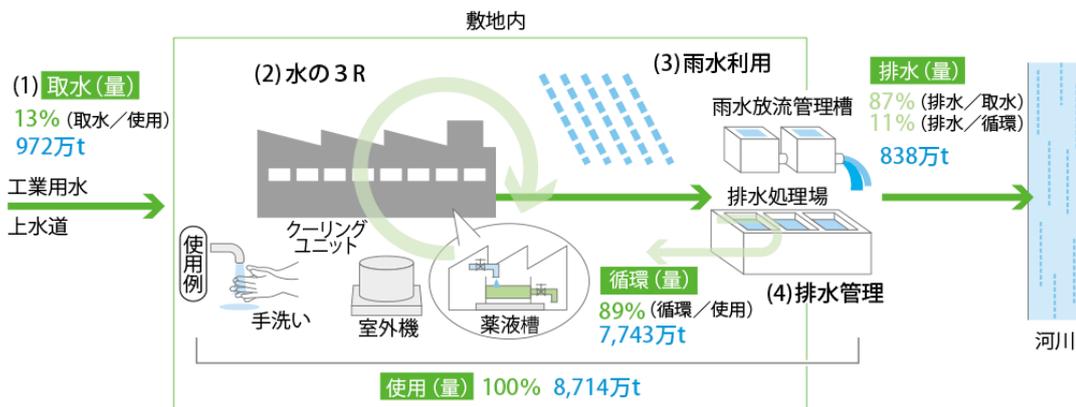
◎水使用量



◎水使用量 (原単位) (株)デンソー+国内グループ



◎主な取り組み



(1) 取水量の削減

製造工程では部品洗浄や冷却用にも多くの水を使用することから、各工場では工業用取水量の削減目標を設定し、水の再利用・循環利用技術を導入して有効活用に取り組んでいます。

(2) 「水の3R」の徹底

設備機器の選定では、水の使用量をできる限り少なく (Reduce)、使い終わった水は繰り返し使う (Reuse)、または処理して再利用 (Recycle) を基本に、「水の3R」を徹底しています。

(3) 雨水の有効利用

降水量の多い日本ではもちろん、海外の製造拠点も含め、雨水をタンクに貯めて緑地帯への散水や空調機械の冷却水として利用しています。

(4) クローズドループ化による排水管理・リスク低減

排水処理工程では、法律より厳しい自主基準を設けて排水の品質管理を徹底。濃度レベルに応じた系統別処理を施し、水の再利用化と高レベルの水質管理によるクローズドループ化を推進しています。工場からの生活系排水は、嫌気性微生物を利用した排水処理システムにより、好気性微生物に比べて発生汚泥を1/3、必要な電力量を1/2に抑え、発生するメタンガスも燃料として有効利用しています。

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

社長メッセージ
デンソーのCSR
企業行動宣言と行動指針
2012年度の実績と今後の課題
コーポレートガバナンス
2012年度ハイライト&ローライト
コンプライアンス
リスク管理
情報セキュリティ
デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

お客様への責任
社員への責任
株主・投資家様への責任
取引先様への責任
地域社会・国際社会への責任

環境報告

環境経営
地球温暖化防止
資源循環
化学物質への対応
社会との連携

CSRヒストリー

CSRの源流
CSR年表

CSR情報の編集方針

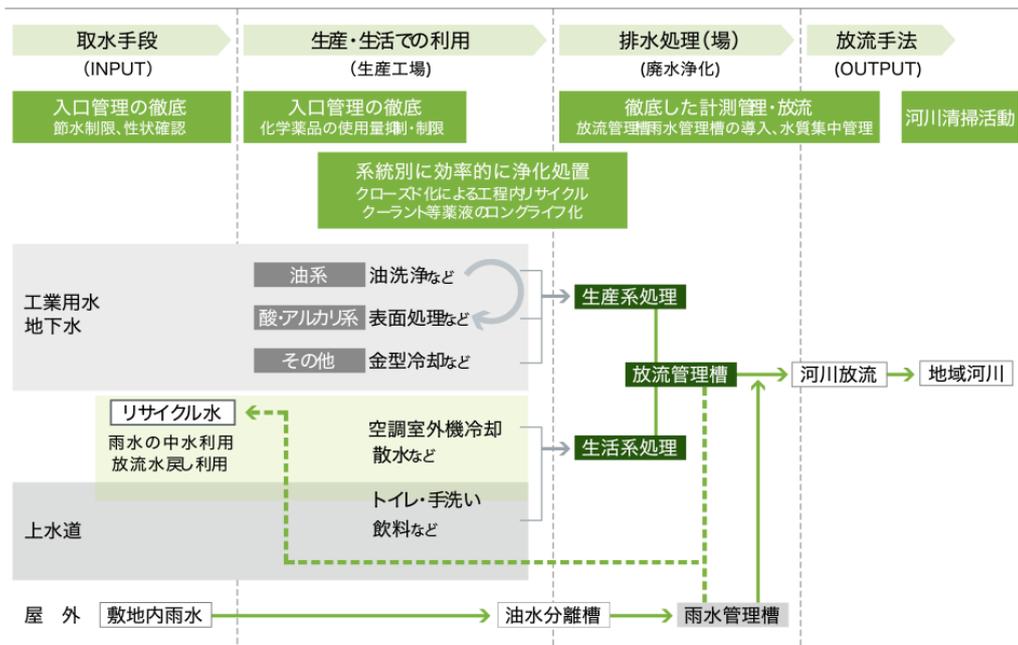
経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

◎ (株) デンソーの水質源管理システム



◎取水により影響を受ける主要水系

地域	主要水系	
日本 (株) デンソー 国内グループ	木曾川水系 (愛知県)	
	矢作川水系 (愛知県)	
	天竜川・豊川水系 (愛知・静岡県)	
	千曲川・梓川水系 (長野県)	
	遠賀川水系 (福岡県)	
	利根川水系 (茨城・埼玉県)	
	支笏湖 (北海道)	
	高梁川水系 (岡山県)	
	員弁・鈴鹿川水系 (三重県)	
	網走川水系 (北海道)	
	海外 グループ	Rouge River (USA)
Kalamazoo River (USA)		
Hiwassee River (USA)		
Tennessee River (USA)		
Ohio River (USA)		
Mississippi River (USA)		
Detroit River (USA)		
Colorado River (USA)		
Sacramento River (USA)		
Bravo River (Mexico)		
Pesqueria River (Mexico)		
Speed River (Canada)		
Grand River (Canada)		
欧州		Trent River (UK)
		Humber River (UK)
		Gaja River (Hungary)
		Danube River (Hungary)
アジア		Hindon River (India)
		Yamuna River (India)
		Bangpakong River (Thailand)
		Chaophraya River (Thailand)
中国		長江
		渤海
		東江河
	大沽河	
	珠河	
	老通陽運河	

社会から信頼・共感される企業をめざして

■ デンソーの事業概要

■ CSRマネジメント

- 社長メッセージ
- デンソーのCSR
- 企業行動宣言と行動指針
- 2012年度の実績と今後の課題
- コーポレートガバナンス
- 2012年度ハイライト&ローライト
- コンプライアンス
- リスク管理
- 情報セキュリティ
- デンソーグループ 情報開示方針

■ 社会性報告

- お客様への責任
- 社員への責任
- 株主・投資家様への責任
- 取引先様への責任
- 地域社会・国際社会への責任

■ 環境報告

- 環境経営
- 地球温暖化防止
- 資源循環
- 化学物質への対応
- 社会との連携

■ CSRヒストリー

- CSRの源流
- CSR年表

■ CSR情報の編集方針

■ 経済性報告

■ グループ会社/CSRに関する外部評価

■ 用語集

■ 第三者意見

化学物質への対応

製品での化学物質の管理・削減

基本的な考え方

デンソーグループでは、「製品のライフサイクル全体で有害な化学物質の使用をできるだけ少なくする」という基本方針に沿った製品づくりと管理体制の強化に努めています。

特に2000年に発効した「ELV（廃車）指令【注1】」を機に、2008年までに「鉛・水銀・カドミウム・六価クロム」の4物質の全廃（適用除外品【注2】を除く）を推進するとともに、欧州で発効した化学物質規則「REACH【注3】」への対応も進めています。

【注1】 ELV（廃車）指令

ELV指令（End-of-Life Vehicles）。使用済み自動車に関する欧州連合の規定で、2000年10月発効。2003年7月以降販売の新車に含まれる有害な化学物質を順次、原則使用禁止。

【注2】 適用除外品 同等の性能を確保する代替物質・方法がない場合は適用除外。

【注3】 REACH Registration, Evaluation, Authorisation and Restriction of Chemicalsの略（化学物質の登録、評価、認可、制限に関する法律）

◎法規制・業界・デンソーの取り組み



2012年度の実績

鉛フリー化への対応

鉛規制対応の強化策として、2009年半ばに欧州ELV（廃車）指令の付属書が改正されたことに伴い、今まで無期限で適用除外だった「高融点はんだ、ガラス、セラミック、金属合金（鉄鋼・アルミニウム・銅）の中の鉛」等についても、運用期限を切られる動きが発生したため、デンソーグループでは着実に対応すべく、代替品の適用評価等を推進しています。

REACH規則への対応

デンソーグループでは、EU域内の生産事業所やグループ会社が扱う物質・混合物について、材料などを供給するサプライチェーン各社の予備登録を確認し、次のステップとして、2009年からサプライチェーン各社による本登録を進めています。

また、製品・部品中の高懸念物質（SVHC【注1】）の含有情報の伝達等については、社内システム（MACAS【注2】）を活用して対応を進めています。

さらに、2011年からREACH規則の高懸念物質（SVHC）の増加に対応すべく、（社）日本自動車部品工業会（部工会）、（社）日本自動車工業会（自工会）の協力を得て、高懸念物質（SVHC）に指定される前の早い段階から、これらの物質の自動車部品への影響を分析し、タイムリーに対応する活動を推進しています。

なお、（株）デンソーはこれまで、部工会を通じ、自工会の協力を得て、関連業界との情報交換を進めてきましたが、引き続き着実な対応を推進していきます。

【注1】 SVHC Substance of Very High Concernの略。内分泌かく乱物質など約1,500種類の物質がリストアップ候補とされている。

【注2】 MACAS Material Chemical Assessment Systemの略。MACASは、製品・部品を構成する材料と成分に関するデータを管理するデンソーの社内システム。

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

社長メッセージ
デンソーのCSR
企業行動宣言と行動指針
2012年度の実績と今後の課題
コーポレートガバナンス
2012年度ハイライト&ローライト
コンプライアンス
リスク管理
情報セキュリティ
デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

お客様への責任
社員への責任
株主・投資家様への責任
取引先様への責任
地域社会・国際社会への責任

環境報告

環境経営
地球温暖化防止
資源循環
化学物質への対応
社会との連携

CSRヒストリー

CSRの源流
CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

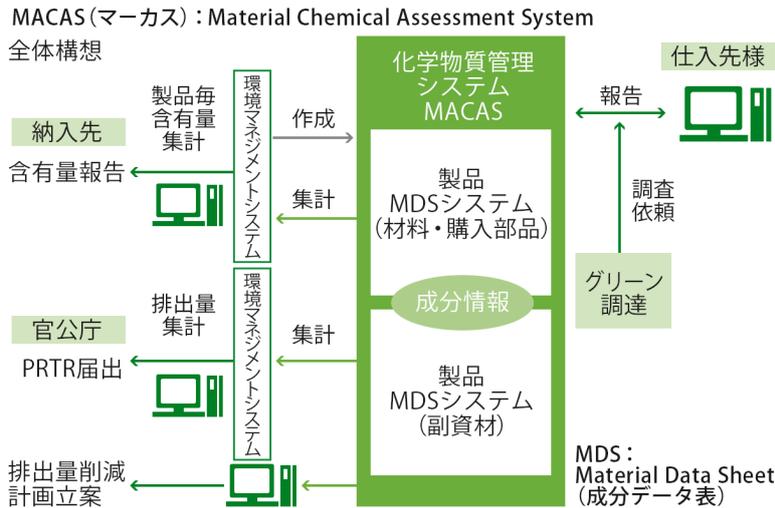
生産での化学物質の管理・削減

基本的な考え方

デンソーグループでは工場では扱う化学物質を「禁止・削減・管理」の各レベルに分類し、2001年度から製品に使用する全化学物質を独自の管理システム「MACAS」で一元管理。代替技術の開発と同時に使用量・排出量を継続的に削減しています。管理システムでは、健康へのリスクや環境影響度に応じて重み付けを行い、影響の大きな物質を重点的に削減しています。

また、環境リスクを未然防止するためグループで統一基準を設け、外部環境への浸透・流出防止の徹底や情報開示に努め、地域社会に向けた化学物質および環境に関するコミュニケーションの充実に注力しています。

◎化学物質管理システム



2012年度の実績

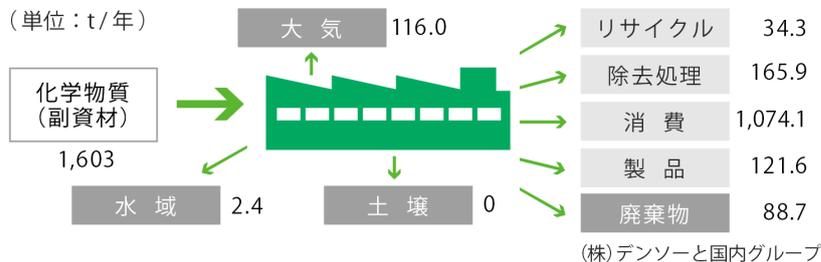
PRTRへの対応

2010年までに(株)デンソーは1998年比75%削減の目標を達成しました。

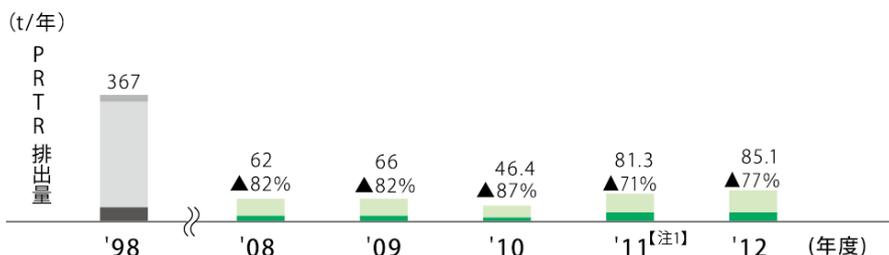
なお、2010年度までは過去のエコビジョンの目標設定に対して集計し、トレンド表示してきましたが、2011年度からは新たな第5次エコビジョンに移行したことから、排出係数や指定物質の見直し、集計バウンダリーなどを変更・改善したデータで算出しています。

【注】 PRTR(Pollutant Release and Transfer Register) 化学物質排出移動量届出制度

◎PRTR対象物質の排出量



◎PRTR対象物質削減状況 [(株)デンソー]



【注1】 指定物質の見直し等

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

社長メッセージ
 デンソーのCSR
 企業行動宣言と行動指針
 2012年度の実績と今後の課題
 コーポレートガバナンス
 2012年度ハイライト&ローライト
 コンプライアンス
 リスク管理
 情報セキュリティ
 デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

お客様への責任
 社員への責任
 株主・投資家様への責任
 取引先様への責任
 地域社会・国際社会への責任

環境報告

環境経営
 地球温暖化防止
 資源循環
 化学物質への対応
 社会との連携

CSRヒストリー

CSRの源流
 CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

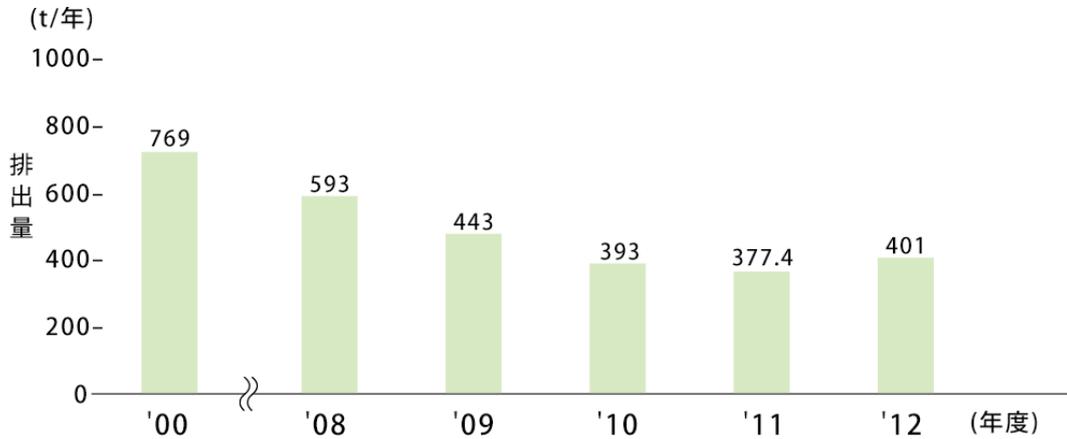
第三者意見

VOCの削減

VOC（揮発性有機化合物）排出量は、2012年までに（株）デンソーは2003年比40%削減、海外グループ会社は各国・各地域のトップクラスという目標を設定して取り組みを進めています。

従来のVOC回収・除害装置に加え、2012年度は設備の密閉化、放出における工程・管理改善、回収再利用、水系塗料への代替化を展開し、48%削減（2000年度比）しました。現在は、洗浄液、フラックス溶剤を低VOC剤へ切り替え、さらにラインの統廃合による「やり尽くし改善」を推進しています。

◎VOC排出量の推移〔（株）デンソー〕



オゾン層破壊物質の削減

特定フロンと呼ばれるクロロフルオロカーボン（CFC）は、成層圏のオゾン層破壊物質として1989年7月にモントリオール議定書に基づく国際規制が始まり、1995年末に製造禁止となり、消費量も段階的に減少しています。

デンソーグループでは、国際規制に先立つ1988年に「フロン規制対応専門委員会」を設置し、カーエアコンの冷媒とともに工場における電子部品洗浄や機械部品加工工程で使用していた特定フロンの削減活動を展開しました。その結果、カーエアコン冷媒は1995年末までに代替フロンHFC-134aに切り替えを完了し、製造工程の特定フロンも1995年8月までに全廃しています。

「デンソーグループ調達ガイドライン」でオゾン層破壊物質等の購入・使用の禁止物質を定め、サプライチェーンに対しても使用しないようお願いしています。

この間、デンソーグループはカーエアコンのトップメーカーとして業界でのリーダーシップを発揮しながら、行政の取り組みにも積極的に協力し、フロン対策に貢献しています。

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

社長メッセージ
デンソーのCSR
企業行動宣言と行動指針
2012年度の実績と今後の課題
コーポレートガバナンス
2012年度ハイライト&ローライト
コンプライアンス
リスク管理
情報セキュリティ
デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

お客様への責任
社員への責任
株主・投資家様への責任
取引先様への責任
地域社会・国際社会への責任

環境報告

環境経営
地球温暖化防止
資源循環
化学物質への対応
社会との連携

CSRヒストリー

CSRの源流
CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

社会との連携

事業活動における環境負荷軽減だけでなく、対外的な連携や情報発信による環境活動も推進しています。

環境コミュニケーション

デンソーグループが行っている対外連携・情報発信による環境行動「エコフレンドリー」を紹介します。

生物多様性の取り組み

デンソーグループの生態系の維持・保全活動を紹介します。

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

社長メッセージ
デンソーのCSR
企業行動宣言と行動指針
2012年度の実績と今後の課題
コーポレートガバナンス
2012年度ハイライト&ローライト
コンプライアンス
リスク管理
情報セキュリティ
デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

お客様への責任
社員への責任
株主・投資家様への責任
取引先様への責任
地域社会・国際社会への責任

環境報告

環境経営
地球温暖化防止
資源循環
化学物質への対応
社会との連携

CSRヒストリー

CSRの源流
CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

基本的な考え方

デンソーグループでは業種の枠を超えた対外連携や情報発信による環境行動を「エコフレンドリー」と位置付け、第5次環境行動計画に年度目標を設定して取り組んでいます。重点取り組みは、下記5点です。

- (1) 従業員へのエコライフの推奨（地球温暖化防止）
- (2) 積極的な情報発信とステークホルダーとの双方向コミュニケーションの充実
- (3) 環境教育の充実
- (4) 環境社会貢献の充実
- (5) 持続可能な社会の実現に向けた対外連携の促進（関係団体との連携や生物多様性保全活動など）

情報発信と対外連携

CSR情報の開示

デンソーグループでは、1999年（当時は環境報告書）以来、CSRに関する情報開示を拡充しています。また、海外グループ会社にも情報発信を推奨し、DMHU（ハンガリー：2001年～）、DNBA（スペイン：2005年～）、DMUK（英国：2006年～）が継続的にCSRレポートを発行しています。

エコプロダクツへの出展

デンソーグループは、環境取り組みへの理解と多くの人々との交流を図る機会として環境展示会に積極的に出展しています。日本では、2012年12月の「エコプロダクツ2012」（東京）などで、環境配慮型の製品や技術展示、体験型イベントなどを開催。また、デトロイト、北京など各国で開催されるモーターショー、ウィーンでのITS展でも先進的な環境技術の紹介を行っています。



エコプロダクツ2012



デトロイトモーターショー

環境月間にイベント開催

6月の環境月間に合わせ、本社および周辺地域で社員・家族や地域住民の方々を対象に、環境への関心を高めていただくイベントを開催しています。

ハートフルまつり（2012年7月開催）

◎自然エネルギーを考えよう！



手づくりのハイブリッドカーを眺める参加者
環境系モノづくりコーナー「ハイブリッドカー」で、
動く仕組みを確かめてみよう

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

社長メッセージ
デンソーのCSR
企業行動宣言と行動指針
2012年度の実績と今後の課題
コーポレートガバナンス
2012年度ハイライト&ローライト
コンプライアンス
リスク管理
情報セキュリティ
デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

お客様への責任
社員への責任
株主・投資家様への責任
取引先様への責任
地域社会・国際社会への責任

環境報告

環境経営
地球温暖化防止
資源循環
化学物質への対応
社会との連携

CSRヒストリー

CSRの源流
CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

◎東日本を応援！



東日本に想いを込めてメッセージを記入する参加者
エネルギー節約の同時発信も兼ねて、オリジナルうちわを贈ろう

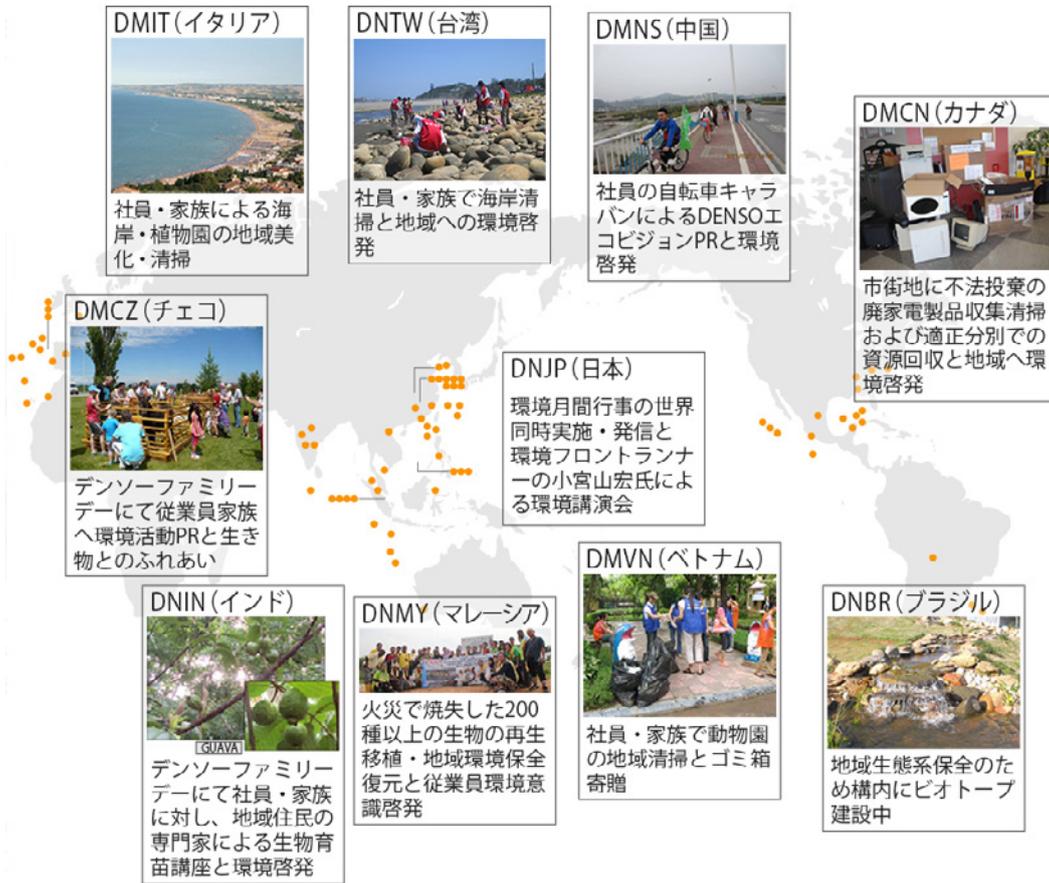
◎デンソーと関わりのあるNPO約40団体がブースを出展



東廃油キャンドルづくりを紹介する皆さん
各ブースでは環境に配慮したモノづくり、地産材料を使ったおいしい弁当販売などを実施

グローバルに環境イベントを開催

2012年度より、グローバルに環境イベントを開催し、環境意識の高い人づくりを後押ししています。



関係団体との連携促進

(株)デンソーは、環境保全・社会的公平性・経済成長の調和をめざし世界30カ国・約150社のトップが参加する「WBCSD (持続的発展のための世界経済人協議会)」に、自動車部品業界を代表するメンバーとして2000年から参加しています。また、中部地方の主要企業約260社が参画する任意団体「環境パートナーシップ・CLUB (略称：EPOC)」の設立メンバーとして2000年から参画。低炭素社会を検討する分科会のリーダー会社として、環境配慮設計や省エネルギーの先進的な取り組みを検討する分科会を通じて普及などに努めてきました。2012年度からは、循環型社会を検討する分科会のリーダー会社として連携促進に努めています。



World Business Council for Sustainable Development



社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

- 社長メッセージ
- デンソーのCSR
- 企業行動宣言と行動指針
- 2012年度の実績と今後の課題
- コーポレートガバナンス
- 2012年度ハイライト&ローライト
- コンプライアンス
- リスク管理
- 情報セキュリティ
- デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

- お客様への責任
- 社員への責任
- 株主・投資家様への責任
- 取引先様への責任
- 地域社会・国際社会への責任

環境報告

- 環境経営
- 地球温暖化防止
- 資源循環
- 化学物質への対応
- 社会との連携

CSRヒストリー

- CSRの源流
- CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

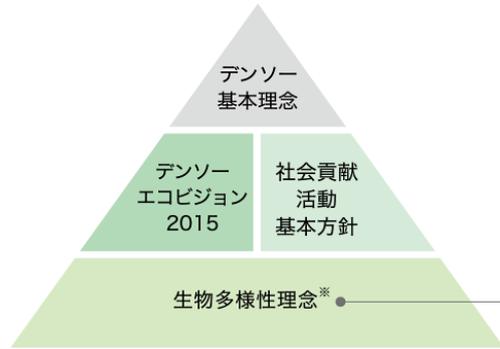
第三者意見

生物多様性の取り組み

基本的な考え方

デンソーグループは、事業活動による環境負荷を減らすだけでなく、各地域で可能な限り創業当時の生態系を維持・保全していくことがグローバル企業の使命と認識し、「デンソーエコビジョン2015」に生物多様性保全に関する方針を組み入れ、日本経団連生物多様性宣言ガイドラインに沿った活動や環境NPO・地域住民の方々との協働による取り組みを続けています。

◎デンソーにおける生物多様性の位置づけ



※生物多様性に関する条約を参考に検討

地球温暖化、生物多様性の危機などの地球環境問題の解決に向け、持続可能な地球・社会の実現と豊かな地域社会の発展をめざす。
そして、技術開発・工場運営ならびに社員一人ひとりの行動により生物多様性の保全と自然資源の持続可能な利用を両立させた本業の推進をする。

〈基本原則・ありたい姿〉

- 絶滅危惧種・希少生物への影響軽減（現状保全）
- 創業当時の生態系維持・保全（工場周辺）
- リスク極小化での開発（新工場設置時）
- 持続可能な森林の保全・再生
- 環境の次世代リーダーの養成

〈生物多様性の主な取り組み事項〉

取組事項	目的
①エネルギー起源（工場）CO ₂ ・水資源抑制	地球温暖化抑制・絶滅種増加の抑制・生物種への環境影響抑制
②環境アセスメントの実施	工場新設などにおける生物多様性に対する影響の可能性・環境影響の評価、土壌汚染・地下水浄化
③燃費向上・排出ガス低減	地球温暖化抑制・生物種への環境影響抑制
④生物資源の均衡のとれた持続可能な有効利用	製品原料として天然材料起源の資材使用量の削減・代替転換
⑤善明・高棚・大安製作所にビオトープ設置	里山保全・復元、絶滅危惧種・希少生物の保護、地球温暖化抑制
⑥工場周辺の生態系調査	絶滅危惧種・希少生物の保全
⑦デンソー緑のプロジェクト	里山維持・保全、植林
⑧日本経団連、自然保護協議会との連携	植林（新興国への寄付活動）
⑨DENSO YOUTH for EARTH（新・地球人プロジェクト）、ECOレンジャー21	人づくり（環境改善に資する考え・技術の醸成）
⑩ブルーバードの保護（米国）、カキツバタ群生地・ゲンジボタルの里などの保全	絶滅危惧種・希少生物の保全

〈デンソー独自の取り組み視点〉

- 壊さない[工場運営]**
 - 原材料採取段階で
 - ・生態系を保護する
 - 生産・加工・輸送・販売段階で
 - ・立地・施工は適切にする
 - ・水の取得・排水処理は適切にする
 - ・廃棄物処理を適切にする
 - サービス提供・使用段階で
 - ・エネルギー効率を適切にする
 - ・長期利用・再利用する
 - 廃棄・処理段階で
 - ・再利用性を高くする
- 活かす[技術開発]**
 - 生物の機能・力から学ぶ
 - ・新しい素材・製品として
 - ・有機的・工学的な機能として
- 既存原材料を最大活用する
- 守る[社員行動]**
 - 貴重な生態系を守る
 - 里山を手入れする
 - ・自社の事業を続けるために
 - ・壊れたものを復元する

2012年度の活動

本業を通じた取り組み

（株）デンソーは、植物由来樹脂のラジエータタンクの製品化、微細藻の光合成を活用したバイオ燃料研究の拡大など、資源採取に伴う環境破壊を抑制するため、生物多様性に十分に配慮した生物資源を活用した代替燃料・原材料の開発に注力しています。

また、製品に使う原材料の調達では、生物や自然との共生・保護に努める金属・化学メーカーからの購入を推進し、アルミダイカスト素材なども新材料ではなくリサイクル材の優先利用を図っています。

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

- 社長メッセージ
- デンソーのCSR
- 企業行動宣言と行動指針
- 2012年度の実績と今後の課題
- コーポレートガバナンス
- 2012年度ハイライト&ローライト
- コンプライアンス
- リスク管理
- 情報セキュリティ
- デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

- お客様への責任
- 社員への責任
- 株主・投資家様への責任
- 取引先様への責任
- 地域社会・国際社会への責任

環境報告

- 環境経営
- 地球温暖化防止
- 資源循環
- 化学物質への対応
- 社会との連携

CSRヒストリー

- CSRの源流
- CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

地域固有の生態系・希少な生物の保護

国内外の工場では、各地域固有の生物多様性を保全するためのモニタリング調査や野鳥保護区域の設置など地域特性に応じた活動を展開しています。

(1) エコガーデン (DMUK：イギリス)

2011年9月、DMUK (イギリス) がエコガーデンを開園しました。

このエコガーデンは、地域の人々へ環境活動の場を提供し、地域学生が製作した鳥の巣箱を設置したり、多様な野生動物と接するなど、社員にとっても憩いの場となっています。

また、地元の他企業に向けて生物多様性イベント「BESST【注1】」を開催するなど、積極的に紹介しています。

DMUKは、今後もこうした環境活動を継続していきます。

【注1】 BESST

Business Environmental Support Scheme for Telford



地域学生による巣箱設置



苗木の植樹

(2) ワイルドフラワーガーデン (DMMI：米国ミシガン州)

1998年に「野生保護委員会」を設置し、事業所内のワイルドフラワーガーデン (約400㎡) で貴重な植物やヒタキ科のブルーバードの繁殖用巣箱を設けるなどの活動を続けています。



ワイルドフラワーガーデン



ブルーバードのひな鳥



ガーデンのメンテナンス



ガーデンに咲く花

(3) ビオトープによる生態系復元 (日本)

善明製作所では、1998年に絶滅危惧種の淡水魚ウシモツゴが発見されたのを機にビオトープ (約3,000㎡) を整備し、カルガモが飛来する里山の生態系をつくりだしています。また、2004年に地元の小学生と協力してつくった高棚製作所のビオトープ (1,500㎡) では、メダカの飼育や地元のタカナタチョウを呼び戻す取り組みを行っています。大安製作所では、人工の浮島で生育するツルヨシで池の水を浄化し、魚のすみやすい環境をつくっています。

(4) アカウミガメの保護活動 (豊橋製作所：愛知県)

豊橋製作所では、2007年からNPO法人「表浜ネットワーク」と協働で、絶滅が心配されているアカウミガメの産卵地である表浜海浜海岸 (愛知県豊橋市) の環境保全に取り組んでいます。この活動では、小学生を対象とする体験型環境教育プログラム「デンソーECOレンジャー21」活動の一環として、また地域住民の方々と社員による海岸保全活動を通じて、清掃や産卵場所を守るための垣根づくりなどを行っています。



カメの産卵を助けるための垣根づくり



絶滅が心配されるアカウミガメ

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

社長メッセージ
デンソーのCSR
企業行動宣言と行動指針
2012年度の実績と今後の課題
コーポレートガバナンス
2012年度ハイライト&ローライト
コンプライアンス
リスク管理
情報セキュリティ
デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

お客様への責任
社員への責任
株主・投資家様への責任
取引先様への責任
地域社会・国際社会への責任

環境報告

環境経営
地球温暖化防止
資源循環
化学物質への対応
社会との連携

CSRヒストリー

CSRの源流
CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

◎事業所周辺地域に生息が確認されている主な希少生物〔(株)デンソー〕

事業所	敷地面積	生物名	カテゴリー
善明製作所 (愛知県西尾市)	32万㎡	ウシモツゴ (淡水魚)	[EN: 絶滅危惧種] (環境省指定)
大安製作所 (三重県員弁市)	85.5万㎡	アブラボテ (淡水魚)	[VU: 絶滅危急種] 【注1】 (三重県指定ほか)
網走テストセンター (北海道網走市)	548万㎡	エゾサンショウウオ (両生類)	[LP: 地域個体群] [N: 留意種] (北海道指定)
		ベニバナシャクヤク (種子植物)	[VU: 絶滅危惧II類] (環境省)

【注1】 VU: 絶滅危急種

絶滅に向けて進行しているとみなされる種。

(5) デンソー緑のプロジェクト

デンソーグループでは、多様な生物が生息する生態系の復元・保全と地域の方々
に親しまれる緑づくりを目的に、2006年から地域社会と協働で「デンソー緑の
プロジェクト」を推進しています。活動は、事業所周辺（製品を作るフィールド）
の緑化、高速道路周辺（製品が使われるフィールド）の緑化の2本柱で、社
員・家族・NPO・地域住民が一体となって、植樹・間伐・枝打ちなどの活動を続け
ています。

2013年3月までに計29回の活動を行い、地域住民・(株)デンソーおよびグルー
プ会社社員とその家族による約4,700人のボランティアが参加し、約10,000本の
苗木を植えました。

さらに2010年度から、緑に包まれた工場・オフィスをめざし、社員参加型の手
作り緑化である"グリーンオアシスづくり"の活動を本社および各製作所で展開し
ています。

2012年には「デンソーグループグリーンカーテンコンテスト」を開催し、参加
チームの一つであるデンソー善明製作所が、この取り組みによって愛知県が実施
した「2012年度あいち緑のカーテンコンテスト」で最優秀賞(事業所部門)を受賞
しました。

◎2012年度活動[愛知県]

場所	規模	内容
刈谷ハイウェイ オアシス (11月24日)	参加数 140名 植樹数 360本	● アジサイ植樹 ● 森での環境教育、草刈
善明製作所 (11月10日)	参加数 140名 植樹数 500本	● のり面でのウツギ等植樹
西尾製作所 (3月17日)	参加数 150名 植樹数 1,400本	● のり面での日本原産アジサイの植樹



<西尾事例>
日本原産アジサイの植樹
【注】写真は「四季咲きヒメアジサイ」



<本社事例>
社員が実生(みしょう)をオフィス等で
育て、構内等へ移植していく循環型
緑化

社会から信頼・共感される企業を
めざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

- 社長メッセージ
- デンソーのCSR
- 企業行動宣言と行動指針
- 2012年度の実績と今後の課題
- コーポレートガバナンス
- 2012年度ハイライト&ローライト
- コンプライアンス
- リスク管理
- 情報セキュリティ
- デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

- お客様への責任
- 社員への責任
- 株主・投資家様への責任
- 取引先様への責任
- 地域社会・国際社会への責任

環境報告

- 環境経営
- 地球温暖化防止
- 資源循環
- 化学物質への対応
- 社会との連携

CSRヒストリー

- CSRの源流
- CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

CSR年表

社会活動の歴史

- 1954年 ■ 技能者養成所（デンソー工業学園の前身）を設置
- 1956年 ■ 社是制定
- 1961年 ■ デミング賞実施賞受賞
- 1963年 ■ 技能五輪（国際職業訓練競技大会）に初参加
- 1964年 ■ 職場労使懇談会を制度化
■ QCサークル活動導入
- 1977年 ■ 技能五輪国際大会で初の金メダル獲得
- 1978年 ■ 聴覚障がい者の定期採用開始
- 1980年 ■ 海外拠点のQCサークル活動導入
- 1984年 ■ 障がい者の福祉工場デンソー太陽（株）設立
■ オペレーション・ローリーへの協賛（青少年育成）開始（～88年）
- 1986年 ■ 技術研修センター開設
- 1987年 ■ 工業技術短期大学校開設
- 1990年 ■ 社会貢献活動委員会を設置
■ フレックスタイム制度導入
- 1991年 ■ 企業行動の基本指針を制定
- 1992年 ■ デンソーカップサッカー（青少年育成）開始
■ 大分国際車いすマラソンへの協賛開始
- 1994年 ■ デンソー基本理念を制定
■ 品質管理委員会をCS向上委員会に改編
■ ボランティア支援センター設立
- 1997年 ■ DENSO VISION 2005を制定
■ 自動車関連の全事業部でQS9000/ISO9001の認証を取得
■ 社会貢献の基本方針策定
■ 少年少女発明クラブ支援開始
■ 企業倫理委員会を設置
- 1998年 ■ 企業行動についての指針を制定
■ 人事制度改革ACTIVE 21 スタート
■ 企業倫理相談窓口設置
■ デンソーハートフルクラブ発足
- 1999年 ■ NPO法人アジア車いす交流センター（WAFCA）設立
■ 全米グループ会社を対象としたコンプライアンス・プログラム導入開始
- 2001年 ■ 北米デンソー財団を設立
■ ECOレンジャー21、モノづくりフェスタ開始
■ デンソー人事理念制定
- 2002年 ■ モノづくりDENSO-WAYを制定
■ 企業行動についての指針を改定
■ CSR（企業の社会的責任）ワーキンググループ設置
- 2003年 ■ リスク管理会議を設置
■ 内部通報制度を制定
■ NPOサポートネットワークプログラム開始
- 2004年 ■ DENSO VISION 2015を制定
■ 常務役員制度を導入
■ デンソーグループ・ハートフルデーを創設
■ アピリンピック（障がい者技能競技大会）に初参加し、出場選手が金メダル獲得
■ ボランティア活動表彰と「はあとふる基金」を新設



高度な品質管理の証
「デミング賞実施賞」
(1961年)



青少年のための
オペレーション・ローリー
(1980年代)



社会的弱者の傷んだ住宅補修
ボランティア（DIAM、米国）



大分国際車いすマラソン大会
に協賛

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

- 社長メッセージ
- デンソーのCSR
- 企業行動宣言と行動指針
- 2012年度の実績と今後の課題
- コーポレートガバナンス
- 2012年度ハイライト&ローライト
- コンプライアンス
- リスク管理
- 情報セキュリティ
- デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

- お客様への責任
- 社員への責任
- 株主・投資家様への責任
- 取引先様への責任
- 地域社会・国際社会への責任

環境報告

- 環境経営
- 地球温暖化防止
- 資源循環
- 化学物質への対応
- 社会との連携

CSRヒストリー

- CSRの源流
- CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

- 2005年
 - CSR推進室を設置
 - 21世紀初の方博「愛・地球博」に参画
 - 技能五輪国際大会で7連覇（ポリメカニクス部門）
 - 期間社員から正社員への登用制度を開始
 - デンソートレーニングアカデミー（タイ）開設
 - 災害時の社員安否確認システム導入

- 2006年
 - デンソーグループ企業倫理ホットライン設置
 - 「デンソーグループ企業行動宣言」発表、「デンソーグループ社員行動指針」策定
 - 第1回グローバルダイアログ（タイ）開催
 - デンソー独自のエコポイント制度「DECOポン」運用開始

- 2007年
 - 人事部内にダイバーシティグループ設置
 - トヨタグループとの共同託児所「たっちっちハウス」運用開始
 - WAFCA北京で車いす生産開始

- 2008年
 - 青少年育成グローバルプログラム「DENSO YOUTH for EARTH Action」開始
 - 一次仕入先様とCSR推進を盛り込んだ取引基本契約書の再締結を完了
 - デンソー太陽が自動車用メータ生産2,000万台突破
 - 第2回グローバルダイアログin欧州（ハンガリー）開催

- 2009年
 - ハートフルクラブ他ボランティア活動促進制度の社員参加率26%（25%目標達成）
 - 厚生労働省「仕事と育児の両立支援に積極的に取り組む企業」に認定

- 2010年
 - 新・人事施策を導入し、世界共通の教育体系・人材管理プロセス整備
 - CSR調達の対象を二次仕入先様に拡大
 - 国際連携によるパキスタン大洪水の被災障がい者支援
 - 第3回グローバルダイアログin中国開催

- 2011年
 - 東日本大震災の復興支援活動（義捐金・物資・ボランティア・住宅・就職など）にグループを挙げて注力
 - 小水力発電活用アイデアコンテストへの協賛開始
 - タイ大洪水の被災者に義捐金
 - ボランティア功労者厚生労働大臣賞を受賞
 - 10年間、東日本大震災遺児・孤児の就学と障がい者施設の支援決定

- 2012年
 - 世界各地域での独占禁止法順守体制の強化
 - 東海・東南海・南海3連動地震を想定した事業継続計画を策定
 - 第1回「デンソーハートフルまつり」開催
 - 厚生労働省「キャリア支援企業表彰」受賞

- 2013年
 - 「デンソーグループ2020年 長期方針」策定・発表
 - あらゆる分野で「交通事故ゼロ」への取り組みを強化



デンソートレーニングアカデミー（タイ）



たっちっちハウスの保育風景



青少年グローバル育成プログラム



東日本大震災の被災地で復旧作業にあたる社員



デンソーハートフルまつり



グローバルカンファレンスで長期方針を共有

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

- 社長メッセージ
- デンソーのCSR
- 企業行動宣言と行動指針
- 2012年度の実績と今後の課題
- コーポレートガバナンス
- 2012年度ハイライト&ローライト
- コンプライアンス
- リスク管理
- 情報セキュリティ
- デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

- お客様への責任
- 社員への責任
- 株主・投資家様への責任
- 取引先様への責任
- 地域社会・国際社会への責任

環境報告

- 環境経営
- 地球温暖化防止
- 資源循環
- 化学物質への対応
- 社会との連携

CSRヒストリー

- CSRの源流
- CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

CSR年表

環境活動の歴史

- 1950年 ■ 電気自動車を開発
- 1970年 ■ 日本自動車部品総合研究所を設立
■ 安全衛生公害部を設置、安全衛生環境基準（DAS）を制定
- 1971年 ■ 安全衛生公害部を安全衛生環境部に改称
- 1974年 ■ 経営資源活用会議（廃棄物低減と省エネ推進）を設置
- 1975年 ■ 電子制御式ガソリン噴射装置（排出ガス浄化、燃費向上）開発
■ デンソープラグワイドU（排出ガス浄化）開発
- 1977年 ■ O₂センサ（排出ガス浄化）開発
- 1979年 ■ エネルギー委員会を設置
- 1980年 ■ モノリス担体（排出ガス浄化）開発
- 1982年 ■ 新規使用材料の有害性事前評価システム
■ ディーゼル向け分配型燃料噴射システム（排出ガス浄化、燃費向上）開発
- 1985年 ■ アンチロックブレーキングシステム（安全性）開発
- 1988年 ■ フロン規制対応専門委員会を設置
- 1989年 ■ エアバッグセンシングシステム（安全性）開発
- 1991年 ■ リサイクル委員会を設置
■ コージェネレーション導入（西尾製作所）
- 1992年 ■ 環境委員会を設置
- 1993年 ■ デンソー環境行動指針・計画を制定
- 1995年 ■ オゾン層破壊物質全廃（代替フロン除く）
■ 世界初の電子制御式コモンレールシステム実用化
■ 走行安全制御システム（VSC）用ECU（安全性）開発
■ 地球環境大賞受賞
- 1996年 ■ 第二次環境行動計画を制定
■ ISO14001認証取得開始
- 1998年 ■ 国内全事業所ISO14001認証取得完了
- 1999年 ■ 環境報告書を初発行
- 2000年 ■ ゼロ・エミッション初達成（安城・北九州製作所）
■ デンソーグループグリーン調達ガイドラインを策定
■ デンソーエコビジョン2005を策定
■ デンソー海外地域別環境委員会を設置
- 2001年 ■ 世界初の自然冷媒（CO₂）ヒートポンプ式給湯機「エコキュート」（オゾン層保護・省エネ）を開発
■ グループ環境会計ガイドラインを策定
■ 環境指標エコ・インジケータ導入
■ 国内全14事業所がゼロエミッション達成
- 2002年 ■ 環境懇談会を初開催
■ 世界初のフロンフリーカーエアコン（オゾン層保護）開発
- 2003年 ■ グループ67社ISO14001認証取得完了
■ 簡易型EMS「エコステージ」共同立上げ
■ 国内グループ会社18社がゼロエミッション達成
■ プリクラッシュ・セーフティシステム（ミリ波レーダ）など（安全性）開発



電気自動車「デンソー号」
(1950年)



1970年代の排出ガス分析



排水処理設備の異常処置訓練
(1990年代)



デンソー環境委員会

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

社長メッセージ
デンソーのCSR
企業行動宣言と行動指針
2012年度の実績と今後の課題
コーポレートガバナンス
2012年度ハイライト&ローライト
コンプライアンス
リスク管理
情報セキュリティ
デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

お客様への責任
社員への責任
株主・投資家様への責任
取引先様への責任
地域社会・国際社会への責任

環境報告

環境経営
地球温暖化防止
資源循環
化学物質への対応
社会との連携

CSRヒストリー

CSRの源流
CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

- 2004年
 - DMHU（ハンガリー）が「EU環境大賞」を受賞
 - 世界初の水銀を使わないディスチャージヘッドランプを共同開発
 - DNTW（台湾）が「中華人民国企業環境保護賞」を受賞
 - 自社製オルタネータによる風力発電を開始
 - 省燃費の新型バスクーラーシステム開発
 - 省エネ型エジェクタサイクルが「21世紀発明奨励賞」
 - 世界初「鉛を使わない圧電材料」を開発
 - 圧縮エアのプロワ化で平成16年度「省エネルギー優秀事例全国大会」で経済産業大臣賞
- 2005年
 - ハイブリッド車向け電動エアコンシステム開発
 - 世界最小・最軽量のオルタネータ開発
 - 「デンソーエコビジョン2015」発表
- 2006年
 - エジェクタサイクルが2006年「気候保全賞」（米国）
 - 世界初の電動VCT開発
 - 「デンソー緑のプロジェクト」活動開始
 - 藻を原料とするバイオ燃料共同プロジェクト発足
- 2007年
 - 製品環境指標「ファクターデルタ」運用開始
 - 世界初の両面冷却積層構造によるパワー素子（ハイブリッド車専用部品）を開発・製品化
 - 外部電源式アイドルストップ暖房装置を開発
 - DNMY（マレーシア）のCO₂削減対策が国連のクリーン開発メカニズム（CDM）に承認
- 2008年
 - 環境委員会にCO₂特別プロジェクトを設置
 - エンジンECUを手のひらサイズに小型化
 - コンパクトカー向け超小型カーエアコン開発
 - アイドリングストップ用新型スタータ開発
- 2009年
 - 2000気圧ピエゾ式共通レールシステム開発
 - エネルギーのジャストインタイム（JIT）活動開始
 - エジェクタ搭載のカーエアコンシステム開発
 - 植物由来の樹脂製ラジエータタンクを製品化
- 2010年
 - 省エネ大賞（組織部門）で経済産業大臣賞
 - CO₂ヒートポンプが全国発明賞「恩賜発明賞」
 - ハイブリッドバス用電動式クーラー開発
 - 新アクションプラン「2015年環境行動計画」公表
 - インド向け省資源・省エネ型熱交換器を開発
- 2011年
 - 世界最軽量クラス（40%軽量化）の四輪車用スタータ開発
 - 自然エネルギー活用のHEMS実証施設を建設
 - 緑に囲まれた工場・オフィスをめざしたグリーンオアシスづくり開始
- 2012年
 - エネルギーJIT活動などが評価され「省エネ大賞」経済産業大臣賞を受賞
 - ガソリンエンジン向け小型・高性能EGRクーラーを開発
 - 従来比40%の小型・軽量化を実現した新型ラジエータを開発
 - アイドルストップシステムの燃費向上に寄与する電池パック開発
 - HEMSと連携したEV用相互電力供給システム開発
 - ドライバー席のみ空調可能なカーエアコンシステム開発
- 2013年
 - クリーンディーゼルの開発普及に対し
技術功労賞（日本機械学会）
技術貢献賞（自動車技術会）
 - 最大2500気圧の噴射気圧共通レールシステム開発



DMHU（ハンガリー）が「EU環境大賞」に



世界最小・最軽量のオルタネータ



微細藻を使ったバイオ燃料化の研究



植物由来の樹脂製ラジエータタンク



CO₂新型エコキュート



家庭のエネルギー需給を賢く統合管理するHEMSを共同開発



「省エネ大賞」経済産業大臣賞



共通レールシステムの基幹制御部品「i-ART」

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

- 社長メッセージ
- デンソーのCSR
- 企業行動宣言と行動指針
- 2012年度の実績と今後の課題
- コーポレートガバナンス
- 2012年度ハイライト&ローライト
- コンプライアンス
- リスク管理
- 情報セキュリティ
- デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

- お客様への責任
- 社員への責任
- 株主・投資家様への責任
- 取引先様への責任
- 地域社会・国際社会への責任

環境報告

- 環境経営
- 地球温暖化防止
- 資源循環
- 化学物質への対応
- 社会との連携

CSRヒストリー

- CSRの源流
- CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

CSRの源流 お客様

品質のデンソー

「充分な商品テストを行うにあらざれば、真価を世に問うべからず」という創業者豊田佐吉の言葉が引き継がれ、安全で快適なクルマづくりが自動車産業に携わる者としての原点となります。

初代社長の林虎雄は「私たちの仕事は、人の命に直接関わる仕事です。もし自動車が事故を起こすと、人の命が危険にさらされます。私たちには満足のいく万全なレベルの品質を保証する部品をつくる責任があります」と、基本的な心得を説きつづけました。

この考えは、ロバート・ボッシュ社（独）との提携による技術の向上、品質を組織的に管理するTQM（全社品質管理手法）を確立した証となる「デミング賞」受賞に結びつき、「品質のデンソー」と評される高度な品質保証体制の礎となりました。



1950年代の生産技術課

CSRの源流 社員

モノづくりは人づくり

優れた技能者を育てるには優れた指導者と環境、そして長い時間が必要であり、企業風土として定着するには、技の向上を喜びとして実感できる制度が不可欠です。

デンソーは、人材育成こそ未来への最大の投資として、創業間もない1954年に「技能者養成所」（デンソー工業学園の前身）を設立しました。そして、世界最高の技能競技「技能五輪」への挑戦、独創的な製品開発、基幹技術の自社開発・自社製造を通じて、不可能と言われた数々の技術革新を成し遂げてきました。モノづくりの前に人づくり有り—この考えに基づく“デンソー流モノづくり”の遺伝子は、今も社員一人ひとりに脈々と息づいています。



技能者養成所（1955年頃）

安全のデンソー

当社は「安全で働きやすい職場づくりこそ、人間尊重と高生産性を両立させる最善策」という安全理念のもと、安全衛生管理に力を注いできました。ところが、69年9月、安城製作所のダイカスト工場で爆発事故が発生し、6名の社員が犠牲となりました。当社では直ちに対策本部を設置し、負傷者の救護加療、被害者家族への対応、原因究明と設備の復旧に全力を傾けました。

そして、「再びこのような事故を起こさない」という決意を含め、その年の10月に“安全のデンソー”を標語として制定すると共に、全職場での一斉点検・対策をもとに、翌年には「デンソー安全衛生環境基準（DAS）」を制定しました。

その後もDASは災害発生時の対策や新技術導入時の安全要件を追加し充実を図りながら、今日では「労働安全・衛生管理・環境保全」を支える基盤となっています。



1969年の職場風景

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

社長メッセージ
デンソーのCSR
企業行動宣言と行動指針
2012年度の実績と今後の課題
コーポレートガバナンス
2012年度ハイライト&ローライト
コンプライアンス
リスク管理
情報セキュリティ
デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

お客様への責任
社員への責任
株主・投資家様への責任
取引先様への責任
地域社会・国際社会への責任

環境報告

環境経営
地球温暖化防止
資源循環
化学物質への対応
社会との連携

CSRヒストリー

CSRの源流
CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

CSRの源流 株主・投資家様

企業価値の向上

1949年、トヨタ自動車工業（現：トヨタ自動車）から独立して「日本電装」（資本金1,500万円）が創立された時、電装品・ラジエータ部門で生じていた累積赤字1億4000万円相当を、同社からの借入金として設定し、返済義務を負いました。しかも、緊縮財政による不況下で資金調達は当初から困難を極めました。

それが50年に朝鮮戦争が勃発すると状況が一変。米国から日本へ大量の物資が発注されて特需景気となり、当社の業績は飛躍的に拡大し、累積赤字を解消するとともに増資を重ね、53年に東京証券市場に上場を果たします。

しかし、経営陣は設立時の苦勞を忘れず、「デンソー信用金庫」と評されるほどの堅実・健全経営に徹し、財務基盤を強化しつつ生産設備の近代化や技術開発に力を注ぎました。そして、グローバル企業に成長した今日でも、「長期安定的な成長を通じて企業価値の向上をめざすこと、事業・財務情報の適時・適切な開示と対話を通じて経営の透明性を高めること」を株主・投資家の皆様への責任として「企業行動宣言」の中で明文化しています。



「日本電装」創立当時の本館

CSRの源流 仕入先様

相互信頼に基づく相互発展

1955年、仕入先様の中で「切削部会」「プレス部会」という業種別グループが結成され、大量生産への対応、高品質・低コスト、納期短縮をめざして研鑽を重ねました。59年には2つの部会が統合し「電装協力会」（後にデンソー飛翔会）が発足。当社も加盟企業に対し、設備近代化資金の融資、生産管理の講習会、技能工教育など支援を惜しみませんでした。そこには、苦勞を分かち合いながら共に成長する「相互発展」の精神が息づき、やがて訪れる日本のモータリゼーションを支える原動力となりました。

デンソーがグローバル企業に成長し、調達活動が世界中に拡大した現在でも、仕入先様を対等なパートナーとして相互発展をめざす考え方は揺るぎなく、公平に参入機会を提供する「オープン・ドア・ポリシー」とともに、デンソーの調達活動を支える基盤となっています。



仕入先様の優秀な改善提案を表彰（1987年）

CSRの源流 地域社会・国際社会

地球市民の一員として

社会貢献活動において象徴的な出来事として1984年の「オペレーション・ローリー」への協賛が挙げられます。これは英国の冒険家W・ローリー卿の功績を記念し、世界の若者が帆船に乗って3カ月で地球を一周しながら生態系調査や奉仕活動を行う国際プログラムです。

（株）デンソーがグローバル企業としての社会的責任を自覚したこのイベントには、5年間で110人の日本の若者が参加し見聞を広めました。その後、社会貢献委員会を設置して独自の活動を展開する中で、次代を担う青少年育成は重要な位置を占めています。



オペレーション・ローリーに参加した若者たち

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

社長メッセージ
デンソーのCSR
企業行動宣言と行動指針
2012年度の実績と今後の課題
コーポレートガバナンス
2012年度ハイライト&ローライト
コンプライアンス
リスク管理
情報セキュリティ
デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

お客様への責任
社員への責任
株主・投資家様への責任
取引先様への責任
地域社会・国際社会への責任

環境報告

環境経営
地球温暖化防止
資源循環
化学物質への対応
社会との連携

CSRヒストリー

CSRの源流
CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

バリアフリー社会をめざして

1978年から聴覚障がい者を定期採用し、職場環境の整備を進めていた頃、愛知県内で「社会福祉法人太陽の家」（大分県）を誘致する運動が起きました。その協力要請を受けた当社は、障がいを持つ人に働く場を提供し、社会への道を開くという主旨に共感。84年、共同出資による特例子会社「デンソー太陽（株）」（愛知県蒲郡市）を設立し、軽自動車用メータの製造を委託します。ただ、障がいの度合いも多様な社員が連携し、高品質の製品を安定して生産するのは容易ではありません。

ところが、彼らは当社の指導員も驚くほどの熱心さで技術を習得し、自らの創意でハンディキャップを補う治工具や設備を考案して短期間で生産を軌道に乗せたのです。

やがてデンソー太陽（株）は、軽自動車用メータのトップ企業となり、2008年には累計生産2,000万台を達成しました。

彼らの頑張りや、当社のバリアフリー社会への取り組みを加速させる契機ともなり、1999年のNPO法人アジア車いす交流センター（WAFCO）の設立をはじめ、大分国際車いすマラソン大会の支援にもつながっています。



障がいの度合いに応じた補助設備で作業を効率化
(1998年当時の作業風景)

CSRの源流 環境

エコカーの原点

深刻なガソリン不足が続く1950年、物資不足と厳しい資金繰りの中で、総力を結集して自社開発したのが電気自動車「デンソー号」です。電池とシャシー以外は自社製で、6人乗り、最高速度43km/h、1充電195kmの走行性能は、木炭車が往来する戦後の東京で異彩を放ちました。

ところが、発売まもなく、朝鮮戦争の特需による大量の部品受注、ガソリンの輸入緩和、鉛価格の高騰が重なり、生産は50台で打ち切られました。しかし、電気自動車の開発で培ったチャレンジ精神と技術は、後にバッテリー式フォークリフトの開発に活かされ、さらに近年の電気自動車やハイブリッド車の基幹部品の開発・製造にも継承され、デンソーの「エコプロダクツ（環境配慮製品）」として大きく花開いています。



電気自動車「デンソー号」

環境経営とエコファクトリー

デンソーが1960年代に国内外の工場建設にあたって事業運営の第一原則としたのが「各地域の環境基準の順守」「地域社会への配慮」です。そして、日本での公害対策基本法や水質汚濁防止法の施行に先立って全工場の再点検を開始。72年には「デンソー安全衛生基準（DAS）」に環境保全を組み入れ、設備・管理面で法律や条例より厳しい社内基準を設けて環境マネジメントの基盤を整備しました。

80年代に入ると環境問題は地域の公害対策から地球規模の課題へ拡大し、全工場水質・土壌・大気汚染の防止、フロン廃止によるオゾン層保護などに注力しました。90年代には地球温暖化防止が最重要課題となり、工場ではCO₂排出量の削減に総力を挙げて取り組みました。設備ごとのエネルギー消費の見える化、エネルギー消費量に応じた部門ごとの課金制度、省エネ専門チームによる診断・改善、自社技術による設備の省エネ化、全員参加によるやり尽くし……。それは「デンソー基本理念」（94年制定）に掲げた環境経営の実践であり、「環境のトップランナー」にふさわしいエコファクトリー実現への第一歩でもありました。



環境保全への取り組みを本格化させた1970年代初めの生産風景

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

社長メッセージ
デンソーのCSR
企業行動宣言と行動指針
2012年度の実績と今後の課題
コーポレートガバナンス
2012年度ハイライト&ローライト
コンプライアンス
リスク管理
情報セキュリティ
デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

お客様への責任
社員への責任
株主・投資家様への責任
取引先様への責任
地域社会・国際社会への責任

環境報告

環境経営
地球温暖化防止
資源循環
化学物質への対応
社会との連携

CSRヒストリー

CSRの源流
CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

CSR情報の編集方針

内容の選定（重要性・網羅性）

- 下記のガイドライン、SRI（社会的責任投資）に関するアンケート、ステークホルダーダイアログにおけるご意見・ご提言を参考に重要項目を選定しました。
- 各章の基本的な考え方は、各活動を理解いただくうえで大切な情報であるため、2008年度から引き続き再掲載しています。

報告書対象範囲

対象組織

デンソーグループ／（株）デンソーおよび国内・海外グループ（連結対象会社183社）、一部項目は個々に対象範囲を記載。

対象期間

2012年度（2012年4月1日～2013年3月31日）、内容の理解を助けるため一部で過去の取り組みや直近の活動も記載しています。

参考としたガイドライン

- 「GRI サステナビリティ・レポート・ガイドライン第3版（G3）」
- 環境省「環境報告ガイドライン2012年度版」

【注】GRIガイドライン対照表は、CSRレポートのサイトに掲載しています。

- 経済性報告の詳細については、Webサイト「株主・投資家情報(<http://www.denso.co.jp/ja/investors/index.html>)」からアニュアルレポート、有価証券報告書をご覧ください。

理解の容易性（明瞭性・比較可能性）

- 経済産業省「ステークホルダー重視によるレポート・ガイドライン2001」を参考に、CSRに関心の高い方を主たる読者と想定しています。
- データは比較容易性に配慮し、経年変化を基本に掲載しています。
- 2012年度で比較可能性に大きな影響を与える変化は特にありません。
- デンソー独自の用語、各分野の専門用語は、「用語集」で解説しています。

信頼性

- 2012年度のCSRに関わるポジティブ情報およびネガティブ情報を一覧化し、「CSRハイライト&ローライト」としてご紹介しています。
- 活動内容およびデータを検証・保証する「第三者保証」については、手法が世界的な基準として未確立と判断して、実施を見送りました。ただし、継続して「第三者意見」および専門家によるダイアログでご意見をいただき、活動の透明性・信頼性を高める配慮を行っています。

発行責任者：取締役社長 加藤宣明

編集責任者：常務役員 伊藤健一郎

発行時期：2013年8月（次回2014年8月予定／前回2012年8月）

◎本レポートに関するお問い合わせ先

経営企画部CSR推進室

TEL:0566-25-5575

◎デンソーに関する「ご意見・ご要望」

お客様相談センター

0120-087-413(フリーダイヤル)

受付時間：9時～12時 13時～17時（月曜日から金曜日、長期連休を除く）

Eメールによるお問い合わせ <https://www.denso.co.jp/ja/contactus/environment/index.html>

関連情報

▶ 会社概要 (<http://www.denso.co.jp/ja/aboutdenso/corporate/profile/index.html>)

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

社長メッセージ

デンソーのCSR

企業行動宣言と行動指針

2012年度の実績と今後の課題

コーポレートガバナンス

2012年度ハイライト&ローライト

コンプライアンス

リスク管理

情報セキュリティ

デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

お客様への責任

社員への責任

株主・投資家様への責任

取引先様への責任

地域社会・国際社会への責任

環境報告

環境経営

地球温暖化防止

資源循環

化学物質への対応

社会との連携

CSRヒストリー

CSRの源流

CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

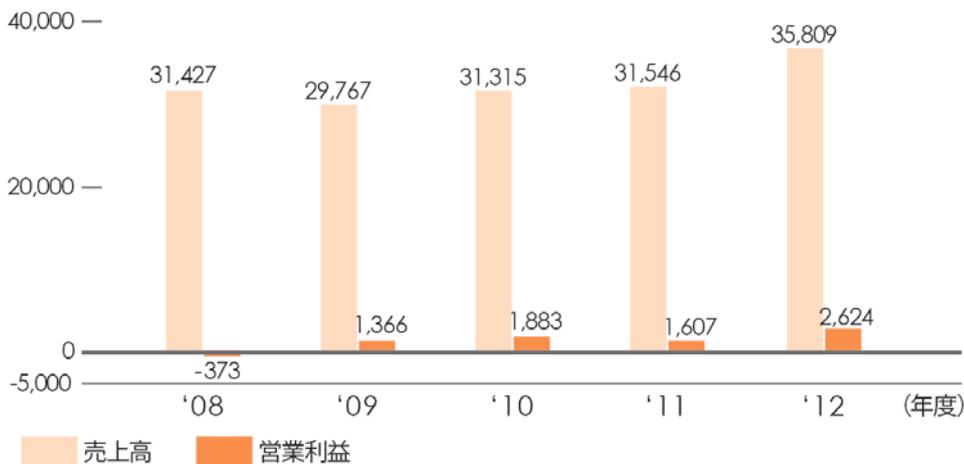
第三者意見

2013年3月31日現在

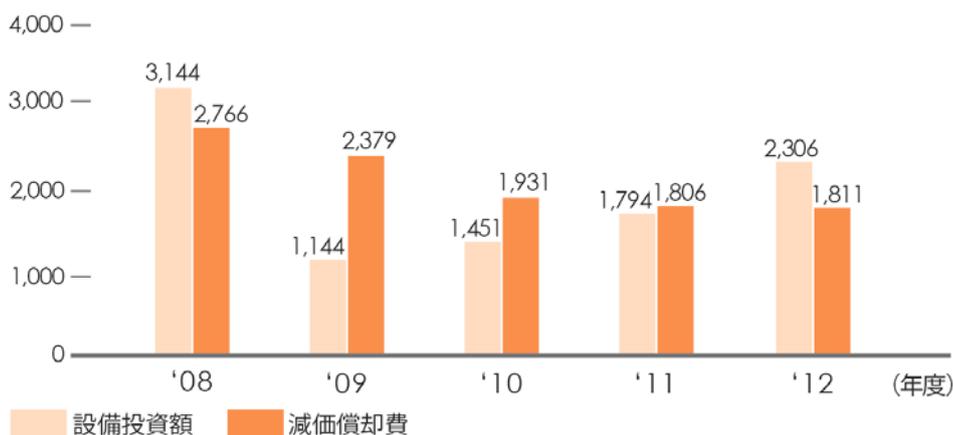
資本金	1,874億円
従業員	13万2,276名（前期比+5.0%）
連結子会社	183社（日本62、北米28、欧州34、豪亜53、その他6）
持分法適用関連会社	32社（日本13、北米4、欧州2、豪亜11、その他2）
売上高	3兆5,809億円（連結：前期比+13.5%）
経常利益	2,960億円（連結：前期比+63.8%）
設備投資額	2,306億円（前期比+28.5%）
研究開発費	3,355億円（前期比+12.4%）
売上原価	3兆0,076億円（前期比+10.6%）
海外売上高比率	49.5%（前期比+1.5%）
支払法人税	532億円（前期比+10.5%）
内部留保額【注1】	1,414億円（前期比+175.1%）

【注1】内部留保額 当期純利益から配当金を除いた金額。

◎売上高・営業利益推移
(億円)



◎設備投資額・減価償却費推移
(億円)



社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソールの事業概要

CSRマネジメント

社長メッセージ
デンソールのCSR
企業行動宣言と行動指針
2012年度の実績と今後の課題
コーポレートガバナンス
2012年度ハイライト&ローライト
コンプライアンス
リスク管理
情報セキュリティ
デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

お客様への責任
社員への責任
株主・投資家様への責任
取引先様への責任
地域社会・国際社会への責任

環境報告

環境経営
地球温暖化防止
資源循環
化学物質への対応
社会との連携

CSRヒストリー

CSRの源流
CSR年表

CSR情報の編集方針

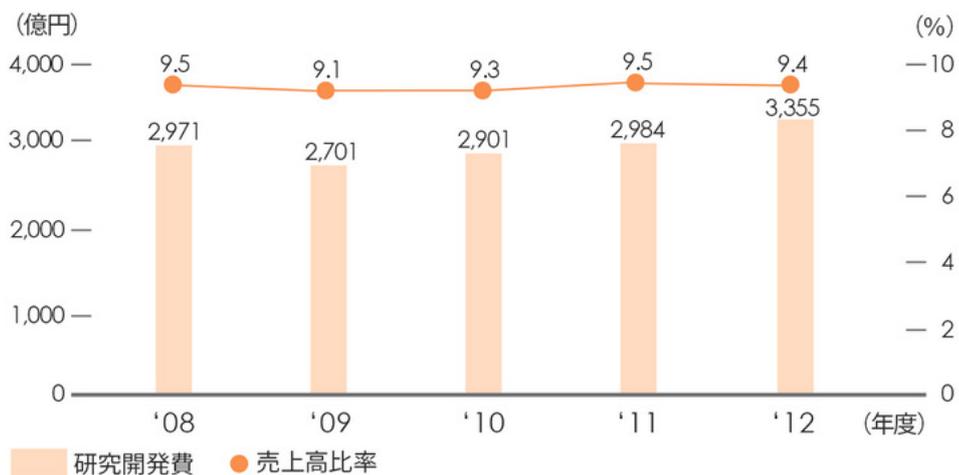
経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

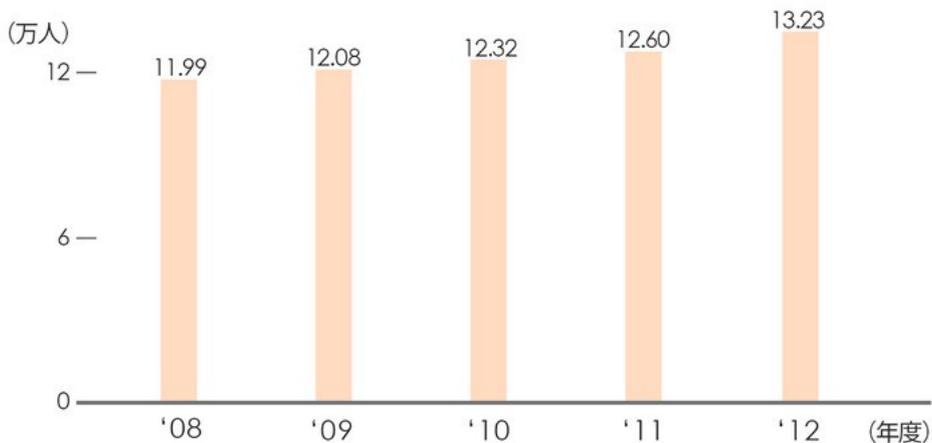
用語集

第三者意見

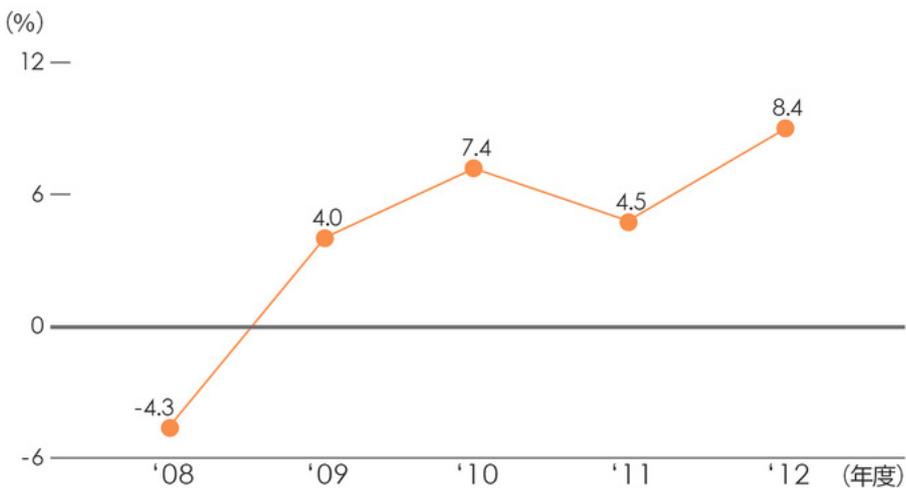
◎研究開発費推移



◎従業員数推移



◎自己資本利益率 (ROE)



社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

- 社長メッセージ
- デンソーのCSR
- 企業行動宣言と行動指針
- 2012年度の実績と今後の課題
- コーポレートガバナンス
- 2012年度ハイライト&ローライト
- コンプライアンス
- リスク管理
- 情報セキュリティ
- デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

- お客様への責任
- 社員への責任
- 株主・投資家様への責任
- 取引先様への責任
- 地域社会・国際社会への責任

環境報告

- 環境経営
- 地球温暖化防止
- 資源循環
- 化学物質への対応
- 社会との連携

CSRヒストリー

- CSRの源流
- CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

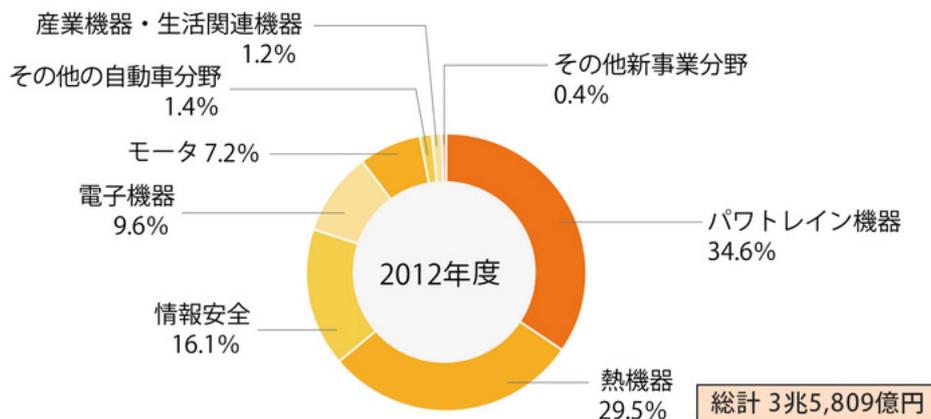
グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

◎製品別売上構成比

製品別売上高[連結] (2012年4月～2013年3月)



関連情報

▶ 経済性情報の詳細 (<http://www.denso.co.jp/ja/investors/>)

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

- 社長メッセージ
- デンソーのCSR
- 企業行動宣言と行動指針
- 2012年度の実績と今後の課題
- コーポレートガバナンス
- 2012年度ハイライト&ローライト
- コンプライアンス
- リスク管理
- 情報セキュリティ
- デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

- お客様への責任
- 社員への責任
- 株主・投資家様への責任
- 取引先様への責任
- 地域社会・国際社会への責任

環境報告

- 環境経営
- 地球温暖化防止
- 資源循環
- 化学物質への対応
- 社会との連携

CSRヒストリー

- CSRの源流
- CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

グループ会社／CSRに関する外部評価

海外グループ会社一覧（2013年6月末現在）【注1】

◎(株)デンソーまたは地域統括会社出資会社

国または地域	現地法人名 (略称)	日本語名
アメリカ	DIAM	DENSO INTERNATIONAL AMERICA, INC.
	DPAM	DENSO PRODUCTS AND SERVICES AMERICAS, INC.
	DMMI	DENSO MANUFACTURING MICHIGAN, INC.
	DMTN	DENSO MANUFACTURING TENNESSEE, INC.
	DMAT	DENSO MANUFACTURING ATHENS TENNESSEE, INC.
	MACI	MICHIGAN AUTOMOTIVE COMPRESSOR, INC.
	TBDN	TBDN TENNESSEE COMPANY
	AFCO	ASSOCIATED FUEL PUMP SYSTEMS CORPORATION
	DWAM	DENSO WIRELESS SYSTEMS AMERICA, INC.
	DMAR	DENSO MANUFACTURING ARKANSAS, INC.
	TACG	TD AUTOMOTIVE COMPRESSOR GEORGIA, LLC
	DRAM	DENSO REINSURANCE AMERICA, INC.
	ANAM	ASMO NORTH AMERICA LLC.
	AMI	ASMO MANUFACTURING, INC.
	ANC	ASMO NORTH CAROLINA, INC.
	ADI	ASMO DETROIT, INC.
	GNC	ASMO GREENVILLE OF NORTH CAROLINA, INC.
	KYDA	KYOSAN DENKI AMERICA, INC.
	KDMK	KYOSAN DENSO MANUFACTURING KENTUCKY, LLC
	S.P.C	SYSTEM PRODUCTS CORPORATION
SPARC	SYSTEM PRODUCTS ARKANSAS COMPANY	
ASMI	DENSO AIR SYSTEMS MICHIGAN, INC.	
NWBA	NWB USA, INC.	
カナダ	DMCN	DENSO MANUFACTURING CANADA, INC.
	DSCN	DENSO SALES CANADA, INC.
メキシコ	DNMX	DENSO MEXICO S.A. DE C.V.
	ASMX	DENSO AIR SYSTEMS DE MEXICO S.A. DE C.V.
ブラジル	DNBR	DENSO DO BRASIL LTDA.
	DNAZ	DENSO INDUSTRIAL DA AMAZONIA LTDA.
	DMBR	DENSO MAQUINAS ROTANTES DO BRASIL LTDA.
	DTBR	DENSO SISTEMAS TERMICOS DO BRASIL LTDA.
	PECVAL	PECVAL INDUSTRIA LTDA.
アルゼンチン	DNAR	DENSO MANUFACTURING ARGENTINA S.A.
オランダ	DIEU	DENSO INTERNATIONAL EUROPE B.V.
	DNEU	DENSO EUROPE B.V.
	DFHO	DENSO FINANCE HOLLAND B.V.
イギリス	DIUK	DENSO INTERNATIONAL UK LTD.
	DSUK	DENSO SALES UK LTD.
	DNMN	DENSO MARSTON LTD.
	DMUK	DENSO MANUFACTURING UK LTD.
	SI-UK	SHIMIZU INDUSTRY UK LTD.
ドイツ	DNDE	DENSO AUTOMOTIVE Deutschland GmbH
	TDDK	TD Deutsche Klimakompressor GmbH
スペイン	DNBA	DENSO BARCELONA S.A.
	DTSP	DENSO SISTEMAS TERMICOS ESPANA S.A.
イタリア	DSIT	DENSO SALES ITALIA S.R.L.
	DNTS	DENSO THERMAL SYSTEMS S.p.A.
	DMIT	DENSO MANUFACTURING ITALIA S.p.A.
	CTR	CTR S.R.L.
フランス	DSFR	DENSO SALES FRANCE S.A.R.L.
ハンガリー	DMHU	DENSO MANUFACTURING HUNGARY LTD.
スウェーデン	DSSE	DENSO SALES SWEDEN AB
ポーランド	DTPO	DENSO THERMAL SYSTEMS POLSKA Sp.zo.o
	DNPO	DENSO POLAND Sp.zo.o
ベルギー	DSBE	DENSO SALES BELGIUM N.V.
	TBMECA	TBMECA Poland Sp.zo.o
ポルトガル	J.DEUS	JOAO DE DEUS & FILHOS S.A. 【注2】
チェコ	DMCZ	DENSO MANUFACTURING CZECH S.r.o.
	ACZ	ASMO CZECH S.r.o.
	LIPLASTEC	LIPLASTEC S.r.o
トルコ	ASCZ	DENSO AIR SYSTEMS CZECH S.r.o.
	DNTR	DENSO OTOMOTIV PARCALARI SANAYI ANONIM SIRKET
ロシア	DSRU	DENSO SALES RUS LLC.
南アフリカ	SMITHS	Smiths Manufacturing (Pty) Limited
サウジアラビア	DNJM	DENSO ABDUL LATIF JAMEEL CO.,LTD.
モロッコ	DTMO	DENSO THERMAL SYSTEMS MOROCCO S.A.R.L.
UAE	DSMN	DENSO SALES MIDDLE EAST & NORTH AFRICA FZE. (FZE=Free Zone Establishment)

【注1】 海外グループ会社一覧（2013年6月末現在）

(株)デンソーまたは地域統括会社出資会社、およびデンソー国内子会社の出資会社を含む。

【注2】 JOAO DE DEUS & FILHOS S.A.

他にJ.DEUSの子会社6社あり。

国または地域	現地法人名 (略称)	日本語名
オーストラリア	DNAU	DENSO AUTOMOTIVE SYSTEMS AUSTRALIA PTY. LTD.
	DIAU	DENSO INTERNATIONAL AUSTRALIA PTY. LTD.
シンガポール	DIAS	DENSO INTERNATIONAL ASIA PTE. LTD.
	DIAT	DENSO INTERNATIONAL ASIA CO.,LTD.
タイ	DNTH	DENSO (THAILAND) CO.,LTD.
	DTTH	DENSO TOOL & DIE (THAILAND) CO.,LTD.
	SDM	SIAM DENSO MANUFACTURING CO.,LTD.
	TBFS	TOYOTA BOSHOKU FILTRATION SYSTEM (THAILAND) CO.,LTD.
	DSTH	DENSO SALES (THAILAND) CO.,LTD.
	ADTH	ANDEN (THAILAND) CO., LTD.
	SKD	SIAM KYOSAN DENSO CO.,LTD.
	ASTH	AIR SYSTEMS (THAILAND) CO., LTD.
	DNIA	PT. DENSO INDONESIA
	DSIA	PT. DENSO SALES INDONESIA
インドネシア	TACI	PT. TD AUTOMOTIVE COMPRESSOR INDONESIA
	AINE	PT.ASMO INDONESIA
韓国	HDI	P.T.HAMADEN INDONESIA MANUFACTURING
	DNPE	デンソー豊星電子株式会社 DENSO PS ELECTRONICS CORPORATION
カンボジア	DSKR	デンソー・セールス・コリア株式会社 DENSO SALES KOREA CORPORATION
	DNPS	デンソー豊星株式会社 DENSO PS CORPORATION
マレーシア	KWB	韓国ワイパー株式会社 KOREA WIPER BLADE CO.,LTD.
	DNKH	DENSO CAMBODIA CO.,LTD.
インド	DNMY	DENSO (MALAYSIA) SDN. BHD.
	NWBM	NIIPPON WIPER BLADE (M) SDN. BHD.
中国	DIIN	DENSO INTERNATIONAL INDIA PVT. LTD.
	DNIN	DENSO INDIA LTD.
	DNHA	DENSO HARYANA PVT. LTD.
	DNKI	DENSO KIRLOSKAR INDUSTRIES PVT. LTD.
	DTPU	DENSO THERMAL SYSTEMS PUNE PVT. LTD.
	DSEC	DENSO SUBROS THERMAL ENGINEERING CENTRE INDIA LIMITED
	DPIN	DENSO PRICOL INDIA LIMITED
	DICH	電装 (中国) 投資有限公司 DENSO (CHINA) INVESTMENT CO.,LTD.
	YSD	烟台首鋼電装有限公司 YANTAI SHOUGANG DENSO CO.,LTD.
	TDS	天津電装電機有限公司 TIANJIN DENSO ENGINE ELECTRICAL PRODUCTS CO.,LTD.
GCDN	鞏誠電装 (重慶) 有限公司 GONGCHENG DENSO (CHONGQING) CO.,LTD.	
TDE	天津電装電子有限公司 TIANJIN DENSO ELECTRONICS CO.,LTD.	
TDA	天津電装空調有限公司 TIANJIN DENSO AIR-CONDITIONER CO., LTD.	
DNS5	電装 (上海) 信息技術有限公司 DENSO SOFTWARE SHANGHAI CO., LTD.	
DMGZ	廣州電装有限公司 GUANGZHOU DENSO CO.,LTD.	
SDFI	上海電装燃油噴射有限公司 SHANGHAI DENSO FUEL INJECTION CO.,LTD.	
TFDA	天津富興電装空調有限公司 TIANJIN FAWER DENSO AIR-CONDITIONER CO., LTD.	
TTB	天津豐田紡織汽車部件有限公司 TIANJIN TOYOTA BOSHOKU AUTOMOTIVE PARTS CO., LTD.	
DMNS	電装 (広州南沙) 有限公司 DENSO (GUANGZHOU NANSHA) CO.,LTD.	
JWCH	日聯汽車零件貿易 (天津) 有限公司 J-WORKS PARTS SALES (TIANJIN) CO.,LTD.	
DMTT	電装 (天津) 空調部件有限公司 DENSO (TIANJIN) THERMAL PRODUCTS CO., LTD.	
DMWX	無錫電装汽車部件有限公司 WUXI DENSO AUTOMOTIVE PRODUCTS CO.,LTD.	
TBFC	佛山豐田紡織汽車部件有限公司 TOYOTA BOSHOKU FOSHAN CO., LTD.	
DMTI	電装 (天津) 汽車導航系統有限公司 DENSO TIANJIN ITS CO., LTD.	
TACK	豊田工業電装空調圧縮機 (昆山) 有限公司 TD Automotive Compressor Kunshan, Co.,Ltd.	
TPE	天津豊星電子有限公司 TIANJIN POONG SUNG ELECTRONICS CO.,LTD.	
DMCF	電装 (常州) 燃油噴射系統有限公司 DENSO (CHANGZHOU) FUEL INJECTION SYSTEM CO.,LTD.	
DMYJ	揚州杰信電装空調有限公司 YANGZHOU JIEXIN DENSO AIR-CONDITIONER CO.,LTD.	
TAMC	天津阿斯莫汽車電機有限公司 TIANJIN ASMO AUTOMOTIVE SMALL MOTOR CO., LTD.	
AGU	阿斯莫 (廣州) 微電機有限公司 ASMO GUANGZHOU SMALL MOTOR CO., LTD.	
AHX	阿斯莫 (杭州蕭山) 微電機有限公司 ASMO HANGZHOU XIAOSHAN SMALL MOTOR CO., LTD.	
TSK	天津志水膠粘塑料有限公司 TIANJIN SHIMIZU PENG YENG PLASTICS CO., LTD.	
ASTJ	天津電装空調電器有限公司 DENSO AIR SYSTEMS TIANJIN CORPORATION	
台湾	DNTW	台灣電線股份有限公司 DENSO TAIWAN CORP.
フィリピン	PAC	PHILIPPINE AUTO COMPONENTS, INC.
	DTPH	DENSO TECHNO PHILIPPINES, INC.
ベトナム	DMVN	DENSO MANUFACTURING VIETNAM CO.,LTD.
	HDVN	HAMADEN VIETNAM CO., LTD.

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

社長メッセージ

デンソーのCSR

企業行動宣言と行動指針

2012年度の実績と今後の課題

コーポレートガバナンス

2012年度ハイライト&ローライト

コンプライアンス

リスク管理

情報セキュリティ

デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

お客様への責任

社員への責任

株主・投資家様への責任

取引先様への責任

地域社会・国際社会への責任

環境報告

環境経営

地球温暖化防止

資源循環

化学物質への対応

社会との連携

CSRヒストリー

CSRの源流

CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社／CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

国内グループ会社一覧 (2013年6月末現在)

◎連結子会社 (62社)

会社名	会社名
アスモ(株)	(株)アイビックス
アンデン(株)	(株)スリーディー
浜名湖電装(株)	(株)デンソーEMCエンジニアリングサービス
大信精機(株)	(株)デンソーITソリューションズ
京三電機(株)	(株)デンソーアイティラボラトリ
GAC(株)	(株)デンソー網走テストセンター
(株)朝日製作所	(株)デンソーウェーブ
三共ラヂエーター(株)	(株)デンソーウェル
シミズ工業(株)	(株)デンソーエスアイ
(株)テクマ	(株)デンソーエムテック
(株)デンソー岩手	(株)デンソー技研センター
(株)デンソーエアシステムズ	(株)デンソークリエイト
(株)デンソーエレクトロニクス	(株)デンソーコミュニケーションズ
デンソーエレックス(株)	(株)デンソー財経センター
(株)デンソー勝山	(株)デンソーセイビ
デンソー機工(株)	デンソーテクノ(株)
(株)デンソー北九州製作所	(株)デンソーパワートレインテクノロジー
デンソー太陽(株)	(株)デンソーファシリティーズ
デンソートリム(株)	(株)デンソー郵船トラベル
(株)デンソー東日本	(株)デンソーユニティサービス
(株)デンソープレアス	(株)デンソーロジテム
(株)デンソーリマニ	(株)日本自動車部品総合研究所
日本ワイパブレード(株)	(株)モバイルメディアネット
マルコンデンソー(株)	(株)デンソーセールス
	(株)デンソーサービス沖縄
	宮崎アスモ(株)
	有限会社アビネス
	有限会社サブ
	(株)ハマデン・ピー・エス
	京三テックス(株)
	有限会社京三サービス
	(株)オタリGAC
	(株)GACヒューマン
	(株)システックスジャパン
	モルテック(株)
	(株)デンソーエアシステムズ豊科
	(株)デンソーエアシステムズ八坂
	(株)デンソーサービス西埼玉

◎持分法適用関連会社 (13社)

会社名	会社名
(株)Advanced Driver Information Technology	(株)TDモバイル
(株)アドヴィックス	伊藤精工(株)
(株)ジーエスエレクトック	ジェコー(株)
東名ブレージング(株)	神星工業(株)
(株)Sohwa & Sophia Technologies <small>【注3】</small>	(株)タッチケア
津田工業(株)	(株)ニッパ
(株)ユネクス	

【注3】(株)Sohwa & Sophia Technologies

2013年4月1日社名変更旧(株)ソーワコーポレーション

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

社長メッセージ
デンソーのCSR
企業行動宣言と行動指針
2012年度の実績と今後の課題
コーポレートガバナンス
2012年度/ハイライト&ローライト
コンプライアンス
リスク管理
情報セキュリティ
デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

お客様への責任
社員への責任
株主・投資家様への責任
取引先様への責任
地域社会・国際社会への責任

環境報告

環境経営
地球温暖化防止
資源循環
化学物質への対応
社会との連携

CSRヒストリー

CSRの源流
CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

CSRに関する外部評価

社外評価名	主催社	12年度	11年度	10年度	09年度	08年度
CSR企業ランキング200	東洋経済新報社	8位/300社	6位/300社	8位/200社	5位/200社	8位/200社
環境経営度ランキング	日本経済新聞社	3位/438社 (製造業)	10位/449社 (製造業)	8位/475社 (製造業)	12位/480社 (製造業)	6位/510社 (製造業)
ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・インデックス(DJSI)	ダウジョーンズ社 (アメリカ) SAMグループ (スイス)	13年連続	12年連続	11年連続	10年連続	継続採用
エティベル・サステナビリティ・インデックス	エティベル社 (ベルギー)	9年連続	8年連続	7年連続	6年連続	継続採用
モーニングスター社会的責任投資指数	パブリック リソースセンター、 モーニングスター (日本)	10年連続	9年連続	8年連続	7年連続	継続採用

あ行

アイドルストップシステム

燃料節約と排出ガス削減のため、信号待ちなどの停車時に、エンジン停止と再始動という一連の制御を特別な操作なしで自動的に行う機構。

圧縮エア

製品の水切り・異物の吹き飛ばしなどで強い力を得るため、大型コンプレッサで空気を圧縮してつくる高压エアのこと。圧力が低いエアはブロワ（扇風機のようなファン）で得る。

安全点（労働安全衛生）

災害評価のための独自指標で、災害の大きさと種類に応じて点数化したもの。災害発生に至った要因を未然防止の視点から作業面・設備面・管理面について評価し、点数を補正する。

エコ診断

デンソーにおける環境監査のこと。監査診断と同時に指導の徹底・情報共有・他部門への展開なども行うことから、一般的な監査よりも広義の意味で呼称している。

エネルギーJIT

エネルギーを「必要なものを必要な時に必要な量だけ」を使うという省エネルギーを徹底するための考え方。トヨタ生産方式のジャストインタイム（JIT）になぞらえたキーワード。デンソーでは物流はもちろん、製造・生産における電気エネルギーなどの効率化でJITを導入し、効果を上げている。

か行

環境会計

企業が環境保全費用やその効果を定量的に把握し、効率的に環境改善・環境経営を推進するための手法。ステークホルダーに説明責任を果たすための重要な情報・資料にもなる。環境省発行の「環境会計ガイドライン」に沿って算定・公表。

環境コンプライアンス

環境法令順守を意味し、環境条約や環境制度などの環境に関する社会的な取り決めを守ること。なお、法令や取り決めだけでなく、その背後にある精神まで守り実践することを指す。

技能五輪国際大会

満22歳以下の若手技能者を対象に、機械加工から家具・造園・美容・菓子など約40の職種で高度な技能を競う。職業訓練の振興と親善・交流を目的とし、国内大会での選抜を経て2年ごとに開催される。同様の目的で、障がいを持つ技能者を対象とする「国際アビリンピック」も開催されている。デンソーは技能五輪に1963年初参加し、1977年に初の金メダルを獲得。

クリーンエネルギー車

日本では、ハイブリッド車、天然ガス（CNG）、ディーゼル代替LPG、電気などを利用して走る自動車を指し、CO₂排出量削減・排出ガス浄化の観点から普及が拡大している。

減速（エネルギー）回生

減速時に発生する運動エネルギーで発電機を回し、電気エネルギーとして二次電池に蓄えてエネルギーを回収利用するシステム。減速時の発電でバッテリーを集中充電することで、アイドリング・加速・クルーズなどの走行条件下での発電抑制を可能にし、エンジン負荷が軽減して燃費が向上（CO₂低減）する。

原単位

生産効率や環境負荷を客観的に把握するため、製品（製造）の年間売上や単位生産量（1台当たり）などに対して、必要なエネルギー・CO₂・排出物などを示した指標。

国連グローバルコンパクト

国連が持続可能な社会の実現に向けて、世界の企業に提唱した国際的な枠組み。参加を表明した企業は、人権・労働・環境・腐敗防止の4分野における10原則を支持・実践する。2000年に発足。

コージェネレーション

ひとつの燃料源から複数のエネルギー（電気、熱など）を取り出すシステムで、熱電供給といわれる。デンソーでは都市ガスを使ってタービン・エンジンで発電し、その際に発生する熱で蒸気をつくり動力や冷暖房などに活用する。エネルギー効率が70～80%と高く、CO₂排出量も20～30%削減できる。

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

社長メッセージ
デンソーのCSR
企業行動宣言と行動指針
2012年度の実績と今後の課題
コーポレートガバナンス
2012年度ハイライト&ローライト
コンプライアンス
リスク管理
情報セキュリティ
デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

お客様への責任
社員への責任
株主・投資家様への責任
取引先様への責任
地域社会・国際社会への責任

環境報告

環境経営
地球温暖化防止
資源循環
化学物質への対応
社会との連携

CSRヒストリー

CSRの源流
CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

コーポレートガバナンス

企業の経営の監視・規律・その仕組みを指し、「企業統治」とも訳される。企業の不祥事を教訓に米国では1990年代に体制の整備が進み、その後、日本でも同様に企業運営の監督・監査の必要性が認識されるようになった。経済協力開発機構（OECD）では、1999年に「コーポレート・ガバナンス原則」を策定し（2004年改訂）、内部統制を構築する上で国際的な指針のひとつとなっている。

5ガス

二酸化炭素（CO₂）以外の温室効果ガスのうち、京都議定書で削減対象となっているメタン、一酸化二窒素、ハイドロフルオロカーボン、パーフルオロカーボン、六フッ化硫黄の5種類。

コンプライアンス

法令・規則および社会倫理を順守することで、CSR活動およびCSR経営の基盤を成すもの。コンプライアンスリーダーは、各職場における理解浸透・意識啓発の推進役。デンソーでは2006年度に職場ごとにCSRリーダーが兼任する形で1名を設置し、その後、グループ会社にも拡大した。北米の拠点では「コンプライアンス・オフィサー」が同様の役割を担っている。

さ行

サービス店

国内では1954年に指定サービスステーション制度を発足以来、デンソーと契約した約750の指定サービス店・特約店が、当社製品の点検・修理、補給部品の販売、カーエアコン冷媒のフロン回収などを行っている。海外では現地販売店・代理店が運営または提携する約4,000のサービス店が同様の業務を行っている。

3R

ごみの適正な処理方法を標語にした言葉。優先順位の高い順に、Reduce（減量）・Reuse（再使用）・Recycle（原料として再利用）の3つのRをいう。「スリーアール」とも「さんアール」とも読み、循環型社会づくりのキーワードとされる。

事業継続マネジメント

BCM（Business Continuity Management）またはBCP（-Plan）と略称されるリスク管理手法の一つ。企業が自然災害・大災害・テロ攻撃などの緊急事態に遭遇した時、事業資産の損害を最小にとどめ、中核事業の継続や早期復旧を可能とするため、平時に行うべき活動および緊急時の対応・手段を取り決めておく。

下請法

独占禁止法の特別法で「下請代金支払遅延等防止法」の略。下請取引の公正化と下請事業者の利益保護を目的に1956年に制定。2003年に改正され、2004年4月から適用。

社員・家族の安否確認（システム）

大地震が発生した際、社員が自身の安否をパソコンや電話などを通じて当システムに登録することで、対策本部メンバーや職場管理者が部下の安否を把握・確認できる。

重大災害

労働安全衛生活動における「死亡災害」のこと。

情報セキュリティマネジメントシステム（ISMS）

企業などの組織が情報を適切に管理し、機密を守るための包括的な仕組み。情報を扱う際の基本方針、具体的な計画、実施・運用、見直しの一連の流れを継続的に改善してリスク管理を行う。ISOが定めた国際規格もある。

少年少女発明クラブ

1974年、（社）発明協会が科学技術への夢を育み創造力豊かな人間形成を目的に設立した団体。デンソーは1997年から支援を開始し、愛知県刈谷市・西尾市・安城市、三重県いなべ市の各クラブの小学生を対象に、社員がボランティア講師としてモノづくりを通じた創造学習を実施。

職場力

室・課のマネジメント向上を目的とする調査の指標。上司・職場環境の実態について、半期に1回、事務・技術部門を中心にアンケート調査を行い、その結果が室長・課長にフィードバックされ、改善に活用される。

信頼性センター

2006年にデンソー本社一角に建設した研究開発施設。人工的に過酷な気象条件や悪路での評価試験や高度な解析を通じて、製品の信頼性評価および信頼性向上の研究を行っている。

ステークホルダーダイアログ

ステークホルダーは、企業活動に直接・間接的に影響を与える利害関係者。顧客（エンドユーザー・納入先・代理店・サービス店など）・株主・投資家・社員・仕入先・行政・NPO・NGO・一般市民などのほか、環境マネジメントでは地球そのものを重要なステークホルダーと位置付ける企業も多い。ダイアログは、良好な関係を築くための対話活動で、直接的な意見交換のほか説明会やアンケートなどを通じた意見収集も含まれる。

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

社長メッセージ
デンソーのCSR
企業行動宣言と行動指針
2012年度の実績と今後の課題
コーポレートガバナンス
2012年度ハイライト&ローライト
コンプライアンス
リスク管理
情報セキュリティ
デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

お客様への責任
社員への責任
株主・投資家様への責任
取引先様への責任
地域社会・国際社会への責任

環境報告

環境経営
地球温暖化防止
資源循環
化学物質への対応
社会との連携

CSRヒストリー

CSRの源流
CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

スマイルゆうネット

トヨタグループ企業9社が社員のボランティア活動促進を目的に運営しているボランティア情報サイト。

スマートグリッド

IT技術を使って発電状況や電力の使用状況を管理し、電力の需給バランスを最適に運用する。太陽光や風力など不安定な自然エネルギーを効率的に使えるシステムとして、活用が期待されている。

生物多様性

生物の様々な姿・形・生活様式などの変異性を総合的に示す概念。すべての生物は互いに影響を及ぼしながらバランスを保っているとの考え方から、生態系・種・遺伝子の多様性の保全が必要とされている。多くの種の絶滅が懸念される中で1992年の地球サミットで「生物多様性条約」が締結された。

世界人権宣言

1948年に国連総会で採択された「人権に関する世界宣言」。基本的人権の尊重を原則に、自由権や経済的・社会的権利などを規定し、世界の国々が達成できるよう努力することを目標としている。

絶滅危惧種

急激な環境変化・移入生物・乱獲などが原因で、種を維持できないほど個体数が減少して絶滅寸前となった動植物の種。国際自然保護連合は、これらの種を危機レベルごとに分類した「レッドリスト」を公表し、日本でも環境省や都道府県が「レッドデータブック」を作成して警鐘を鳴らしている。

ゼロエミッション

1994年に国連大学が提唱した考え方で、ある産業の廃棄物を別の産業の原料として活用し、社会全体での排出物（emission）をゼロにしようとするもの。埋立廃棄物、焼却処理廃棄物をゼロとする狭義の意味もあり、デンソーもこれに準じている。

た行

地域本社

地域統括会社（RHQ：Regional Headquarter）のこと。多国籍企業が世界をいくつかの地域（欧州・米州・アジアなど）に分け、地域単位で戦略の立案・遂行を行うため、地域本社が現地子会社の事業の統括・調整・支援を行う。

低炭素社会

地球温暖化の原因である温室効果ガスのうち、大きな割合を占める二酸化炭素の排出が少ない社会。究極的には、温室効果ガスの排出を自然が吸収できる量以内にとどめる（カーボン・ニュートラル）社会をめざす。産業や生活など全分野で、省エネルギー・低炭素エネルギーの推進や3Rの推進による資源生産性の向上などにより、二酸化炭素排出の最小化が求められる。

デンソーエコビジョン2015

2005年に策定した環境重視のグループ経営を示す中長期の指針。コミットメント、環境方針（エコマネジメント、エコプロダクツ、エコファクトリー、エコフレンドリー）を設定している。

デンソーECOレンジャー21

2001年、地域社会の要請に応え、次世代を担う小中学生を対象に開始した体験型環境教育プログラム。テーマごとに環境や地元の専門家を講師に招き、デンソー社員もボランティアとして運営に参加している。

デンソー安全衛生環境基準

通称：DAS。社員が安全衛生および環境保全上、守るべき事柄を定めた社内基準。社員就業規則にも、DASの順守とともに災害の防止・健康の増進・快適な職場環境の形成および社会環境の保全に努めることを義務付けている。

デンソーグループハートフルデー

世界各国・地域のグループ会社が任意の日を「ハートフルデー」と設定し、「Turn Compassion into Action（思いやりを行動に）」をスローガンに、社員参加による地域貢献に重点的に取り組む活動。2004年にデンソー創立55周年を契機に創設。

デンソー工業学園

（株）デンソーが運営する厚生労働省認定の企業内短期大学。1987年の開設だが源流は創業間もない1954年の「技能者養成所」にさかのぼる。社会人として処遇（手当・賞与・福利厚生など）を受けながら、訓練生という立場で学ぶ。2011年4月、デンソー工業技術短期大学校から校名変更。

デンソーハートフルクラブ

社員のボランティアグループとして1998年に発足。有志の社員による自主運営組織で、製作所ごとに組織化され、ボランティアイベントの企画・運営を行っている。

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

社長メッセージ
デンソーのCSR
企業行動宣言と行動指針
2012年度の実績と今後の課題
コーポレートガバナンス
2012年度ハイライト&ローライト
コンプライアンス
リスク管理
情報セキュリティ
デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

お客様への責任
社員への責任
株主・投資家様への責任
取引先様への責任
地域社会・国際社会への責任

環境報告

環境経営
地球温暖化防止
資源循環
化学物質への対応
社会との連携

CSRヒストリー

CSRの源流
CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

トリクロロエチレン

テトラクロロエチレンなどと共に有機塩素系溶剤の一種。無色透明の液体で、揮発性、不燃性、水に難溶。金属・機械等の脱脂洗浄に優れている反面、地下水汚染の原因物質になる。水質汚濁防止法、大気汚染防止法で排出が規制されている。

道場

デンソーの製作所・工場に設置されている技能訓練を主とする教育施設で、環境・保全・QC・匠技能など特定分野に精通した道場主（熟練者）が教育を行っている。

トレーニー

研修生・研修員のこと。グローバル人材の育成を目的に、海外拠点に社員を派遣し、実務経験を通じて多様な価値観や異なるビジネス習慣の中で、円滑に業務を遂行する能力を高める訓練が行われている。

は行

はあとふる基金制度

役員・社員の希望者から毎月の給与・賞与から100円単位で天引きし、基金として積み立てる制度。資金はNP O・ボランティア団体に寄付し、活動資金や自然災害義捐金として活用されている。2004年に創設。

はあとふるポイント

社員と家族の環境行動に対してポイントを付与し、貯まったポイントをエコ商品との交換や地域団体の環境保護活動の寄付に活用してもらう。2005年の「愛・地球博」における「EXPOエコマネー事業」をデンソー独自の取り組みとして制度化したもので、06年12月に運用開始。12年に「DECOボン」から「はあとふるポイント」に名称変更。

パーフェクトエネルギー活動（PEF）

生産効率を高めながら、あらゆる段階でエネルギー損失を限りなくゼロに近づける活動。エネルギー消費の見える化・最小化、全員参加、改善のやり尽くしが原動力。

バイオ燃料

生物体（バイオマス）の持つエネルギーを利用したアルコール燃料や合成ガス。主に原料となる植物の成長過程で大気中のCO₂を吸収するため、燃焼しても化石燃料（石油・石炭・天然ガスなど）のようにCO₂増加とならないとみなされる。

バリューチェーン

価値連鎖。企業活動を「調達-開発-製造-販売-サービス」などの各業務が、一連の流れの中で価値とコストを加えながら蓄積するものと捉え、連鎖的な活動によって顧客への“最終的な価値”が生み出されるという考え方。

パワトレイン

動力を車輪に伝える装置の総称。エンジン、クラッチ、トランスミッション（変速機）、プロペラシャフト、デファレンシャル・ギア、ドライブ・シャフト（アクスル）など。

ひやりマップ

毎日の生活の中で「クルマや人にぶつかりそうになった」など、ヒヤリとした交通危険箇所を集めて地図に示したものの。多くの情報を基に地図化することで危険箇所を発見し、交通事故の予防に役立てる。

フェアトレード

現在のグローバルな国際貿易の仕組みは、経済的・社会的に弱い立場の開発途上国の人々にとって、時に不公平で貧困を拡大させるという問題意識から、南北の経済格差を解消するために始まった運動。対話・透明性・敬意を基盤に、弱い立場の生産者・労働者により良い貿易条件を提示し、持続可能な発展をめざす。

プラグインハイブリッド車（PHV）

差込プラグでコンセントから直接バッテリーに充電できるハイブリッド車。ガソリンエンジン車の長距離航続性能を残しながら特性を電気自動車により近づけた。

ま行

見える化

情報・データ・課題・進捗などを指標・点数などにより客観的に数値化し、分かりやすく示すこと。デンソーは環境取り組みのPDCAサイクルの全段階で“見える化”を推進しているほか、技術・事務部門の業務改善でも手法を応用して継続的なレベル向上を図っている。

モーダルシフト

環境負荷のより少ない輸送手段に変更すること。一般的には、トラックによる多頻度な貨物輸送から鉄道や船舶による大量輸送に切り替え、エネルギー消費（CO₂排出）・窒素酸化物の排出・渋滞の発生などを抑制すること。

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

社長メッセージ
デンソーのCSR
企業行動宣言と行動指針
2012年度の実績と今後の課題
コーポレートガバナンス
2012年度ハイライト&ローライト
コンプライアンス
リスク管理
情報セキュリティ
デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

お客様への責任
社員への責任
株主・投資家様への責任
取引先様への責任
地域社会・国際社会への責任

環境報告

環境経営
地球温暖化防止
資源循環
化学物質への対応
社会との連携

CSRヒストリー

CSRの源流
CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

ら行

リスク対応ハンドブック

社員一人ひとりが様々なリスクの理解を深め、万一、リスクに遭遇した際に的確な対応ができるよう全社員が常時携帯する小冊子。火災・地震・交通事故など身近なリスクへの初動対応措置を記載している。

わ行

ワールド・カフェ

知識や知恵は、機能的な会議室の中で生まれるのではなく、人々がオープンに会話をを行い、自由にネットワークを築くことのできる『カフェ』のような空間でこそ創出されるという考え方に基く話し合いの手法。

アルファベット (A～Z)

CSR絵本『デンとソーのしあわせづくり』

デンソーのCSR活動を「モノづくり・環境保全・社員尊重・社会貢献」の分野で、分かりやすく絵本仕立てで紹介した冊子（09年度発行）。CSRレポートより入手可能。

CSRサーベイ

CSRに関する意識・理解などの社内浸透度を調べるアンケート調査。デンソーでは2006年に開始し、無作為で約1,000名の社員を抽出して行っている。

CSRリーダー

職場でのCSRに関する意識啓発の推進者。部単位で1名を配置し、国内・海外グループ会社にも配置している。

GRI

Global Reporting Initiativeの略称。企業・団体のサステナビリティ（持続可能性）報告の国際的なガイドラインの作成・普及を目的に1997年に設立された国際組織。

HEMS

Home Energy Management System（ホームエネルギー管理システム）の略。家庭におけるエネルギー管理を支援するシステム。住宅内のエネルギー消費機器をネットワークで接続し、稼動状況やエネルギー消費状況の監視、遠隔操作や自動制御などを可能にする。

IR

Investor Relationsの略。企業が株主や投資家に対し、投資判断に必要な情報を適時、公平に継続して提供する企業活動。企業はIR活動を通じて投資家と意見交換し、相互に理解を深めて信頼関係を構築。資本市場で正当な評価を得ることができる。

ITS

Intelligent Transport Systemsの略。高度道路交通システム。人と道路と自動車間で情報を受発信し、事故や渋滞、環境対策など様々な課題を解決する。

ISO/TS16949

品質マネジメントシステムの国際標準規格であるISO 9001に、自動車産業向けの固有要求事項を付加した規格。

LCA

Life Cycle Assessmentの略。原料の採掘から部品製造・組み立て・物流・使用・廃棄まで、製品やサービスのライフサイクル全体にわたって環境負荷を評価する手法。国際標準規格ISO14040/JIS Q 14040として規定されている。

NPO、NGO

NPOはNon Profit Organization（非営利組織）の略。NGOはNon Governmental Organization（非政府組織）の略。市民が営利を目的とせず自主的に社会課題に関わる点では両者とも同じだが、一般的に、国内で活動する組織をNPO、国境を越えて活動する組織をNGOと呼ぶ。

OECD多国籍企業行動指針

経済協力開発機構（OECD）加盟国やこれを支持する国が、多国籍企業に対して社会的責任を求める指針。法的拘束力はないが、人権、雇用・労使関係、環境、汚職防止、消費者保護、情報開示など企業倫理に関する国際的なガイドラインとして重視されている。

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

社長メッセージ
デンソーのCSR
企業行動宣言と行動指針
2012年度の実績と今後の課題
コーポレートガバナンス
2012年度ハイライト&ローライト
コンプライアンス
リスク管理
情報セキュリティ
デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

お客様への責任
社員への責任
株主・投資家様への責任
取引先様への責任
地域社会・国際社会への責任

環境報告

環境経営
地球温暖化防止
資源循環
化学物質への対応
社会との連携

CSRヒストリー

CSRの源流
CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

OHSAS18001（労働安全衛生）

労働安全衛生マネジメントシステム（Occupational Health & Safety Management System：OHSMS）の国際規格。英国規格協会が開発したBS8800規格をベースに約30カ国の審査登録機関・標準団体などが集まり1999年に発行。方針・計画・実施・評価・改善をPDCAサイクルでまわして労働安全衛生活動を推進する。

QCサークル活動

品質管理（Quality Control）の向上を目的とする小集団による改善活動。主に製造現場の職場単位でチームをつくり、工程から職場環境まで幅広いテーマでアイデアを出し合い、継続的な改善を行う。日本製品の高品質を支える原動力として世界的にも高く評価されている。

TQM

Total Quality Managementの略。総合的品質管理。顧客が満足する品質を備えた品物やサービスを適時・適切な価格で提供できるように企業の全組織を効果的・効率的に運営し、企業目的の達成に貢献する体系的な活動。

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

社長メッセージ
デンソーのCSR
企業行動宣言と行動指針
2012年度の実績と今後の課題
コーポレートガバナンス
2012年度ハイライト&ローライト
コンプライアンス
リスク管理
情報セキュリティ
デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

お客様への責任
社員への責任
株主・投資家様への責任
取引先様への責任
地域社会・国際社会への責任

環境報告

環境経営
地球温暖化防止
資源循環
化学物質への対応
社会との連携

CSRヒストリー

CSRの源流
CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見

デンソーCSRレポート2013に対する第三者意見



IIHOE [人と組織と地球のための国際研究所]
代表者

川北 秀人

IIHOE:「地球上のすべての生命にとって、民主的で調和的な発展のために」を目的に1994年に設立されたNPO。主な活動は市民団体・社会事業家のマネジメント支援だが、大手企業のCSR支援も多く手がける。

<http://blog.canpan.info/iihoe/>
(日本語のみ)

同社は、すでに06年度に策定されたグループ全体のCSR推進長期活動計画に基づき、広範な項目のすべてに数値目標を設け、進捗を明確に管理して次の課題を明らかにするマネジメント・サイクルを国内外に展開して確立している。それだけでも世界的に他社のモデルたりうる水準だが、さらに連結子会社183社と、国内外グループ会社の一次仕入先1,000社以上にも、CSRマネジメントの基盤づくりのガイドラインや手引きの配布と診断シートによる自己診断を完了しており、グループ内外でCSRが現場の日常のマネジメントに落とし込まれていることを高く評価したい。

現場の日常のマネジメントに落とし込むには、どれだけ広範に及んでも、対象とすべき項目に定量的な目標を定め、その進捗や課題を明確に把握（いわゆる「見える化」）する必要がある。それが実現し、開発や製造の現場から新たな取り組みが続々と生まれている点において、同社は世界的に傑出している。その背景にある「ボトムアップで現場主導の取り組みを促す風土」と、「やると決めたらやりきる文化」は、他社が学ぶべき同社の持続可能な成長の源泉である。

その典型例と言える省エネルギーへの取り組みは、「パーフェクトエネルギー工場（PEF）活動」、「エネルギーのジャスト・イン・タイム（JIT）」、「エネカンバン」と進化・展開を続け、全員参加と生産技術をも自社開発することにより、東日本大震災の影響で減産体制となった時期を経ても、原単位で09年比約30%減を達成し、電力料金削減とCO₂削減にも結び付いている。同社の最大の特長は、施設部門が主体的な役割を果たしていることであり、実験部門をも含む取り組みの広がり、省エネとは、技術開発や外部からの設備導入に頼るのではなく、すべての部署で、個々の従業員が自ら頭と体を動かして実践するものであることを実証し続けている。

さらに、顧客満足の上向のために、組み立てのスピードやコストへの要請もありながら、「修理する際に5万円相当以下に分解できる設計」を徹底している点も、評価に値する。

社会貢献活動の着実な進化も、特筆に値する。06年に発足したDECOポンは「はあとふるポイント」へと拡充され、役職員の4割以上にあたる1万8,000人が参加。中部地域の高等専門学校を対象とした「小水力発電アイデアコンテスト」も、同社の事業特性を生かしたプログラムであり、高く評価するとともに、東南アジアなど同社の海外拠点での展開を強く期待したい。また、再三の指摘ながら、南米やアジアなど、東海地域に多く集住する外国人子女を対象としたモノづくりリスクールを積極的に開催するなど、世界各地の人的多様性に配慮したものづくり人材の育成に貢献する基盤づくりを、ぜひ進めてほしい。

多様なマネジメント人材を育てる基盤整備については、グローバル共通の人事評価項目を設定し、海外グループ会社の拠点長ポストを担う現地社員数が30%に達し、障害者雇用率も2%を上回っている半面、育児・介護・看護のための休暇・短時間勤務制度の利用者は、まだ（株）デンソーの従業員の1%強にすぎない。今後は、家族を支えながら仕事し続ける環境の整備が進むとともに、世界各地で働くより多くの従業員が、自らの母語でデンソーの理念・価値観や実践を理解できるよう、上級管理職候補者層の交流や通達・広報物の多言語化がさらに進むことを期待したい。

今回のヒアリングでは、他社に先駆けて進めているがゆえに、中だるみや加速の減衰が感じられた部門もあったが、今年春に示された新たな長期方針を受けて、全部門が次の段階へのチャレンジを始めていることを感じた。今後の加速をさらに期待したい。

当意見は、本報告書の記載内容、および同社の環境・施設・調達・人事・健康推進・安全衛生・社会貢献およびCSRの担当者への個別ヒアリングに基づいて執筆しています。

編集後記

川北様には2003年発行の「環境社会報告書」から継続的に第三者意見を頂戴し、今回で11回目となります。2012年度は、これからデンソーグループが進むべき方向を示す「2020年長期方針」の策定を通じて、デンソーと社会との関わりを見つめ直す良い機会となりました。そのプロセスでは、有識者をはじめ取引先様・NPO/NGO・地域社会の方々など様々なステークホルダーから示唆に富んだご意見やご提案をいただきました。同時に、デンソーグループに寄せられる期待の大きさを再確認しました。トップは長期方針発表の席で「方針に込めた想いを全社員が共有し、私たち一人ひとりが社会に積極的に働きかけていくことが、世界の人人から共感していただくために不可欠です」と呼びかけました。そこには、今まで以上に多くのステークホルダーと対話や連携を深めながら、CSR活動をレベルアップしていこうという決意が感じられました。今後もCSRレポートが、その原動力の一つとなるよう進化させていきたいと考えています。皆様からの率直なご意見をお聞かせいただければ幸いです。

(株)デンソー 経営企画部CSR推進室

社会から信頼・共感される企業をめざして

デンソーの事業概要

CSRマネジメント

社長メッセージ
デンソーのCSR
企業行動宣言と行動指針
2012年度の実績と今後の課題
コーポレートガバナンス
2012年度ハイライト&ローライト
コンプライアンス
リスク管理
情報セキュリティ
デンソーグループ 情報開示方針

社会性報告

お客様への責任
社員への責任
株主・投資家様への責任
取引先様への責任
地域社会・国際社会への責任

環境報告

環境経営
地球温暖化防止
資源循環
化学物質への対応
社会との連携

CSRヒストリー

CSRの源流
CSR年表

CSR情報の編集方針

経済性報告

グループ会社/CSRに関する外部評価

用語集

第三者意見